

令和6年度版
(通巻第16号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University
of Health Sciences
2024

令和6年度版教育研究年報の発行にあたって

千葉県立保健医療大学は、2009年に千葉県立衛生短期大学と千葉県医療技術大学校を再編し、看護、栄養、歯科衛生、リハビリテーションの4学科からなる4年制の大学として開学いたしました。以来、健康長寿社会の創造に寄与できる保健医療専門職の育成に尽力するとともに、地域に根差した保健・医療・福祉の連携拠点として、県民の皆様の健康に貢献してまいりました。

近年、日本社会は「感染症の脅威」に加え、地震や気候変動に伴う「自然災害」、「人口減少」、「経済格差と貧困」など、多くの課題に直面しています。それに伴い、社会の価値観や産業構造も大きく変化しています。特に超高齢社会を迎えた日本では、医療や介護の需要が増加する一方で、地域医療を支える人材の不足が深刻な課題となっています。このような時代だからこそ、私たちは、デジタルトランスフォーメーション（DX）、人工知能（AI）、ロボット技術といった革新的な技術を保健医療分野に応用し、すべての人にやさしく、効率的な保健医療体制を築くことが求められています。

本学は、こうした社会の要請に応えるべく、大学改革を強力に推進しています。昨年度設置された「千葉県立保健医療大学の機能強化のための検討会」による最終報告に基づき、県では新時代に向けたキャンパスの統合・建て替え、言語聴覚士コースの設置を含む学部再編、大学院の新設、そして民間との連携強化や独立行政法人化を視野に入れて検討しています。これらの取り組みは、県民の皆様の健康長寿に貢献できる人材を育成し、地域社会の未来を支えるという、私たちの強い決意を示すものです。

この「教育研究年報」は、本学が開設された平成21年度末に第1号が刊行されて以来、各教員の研究活動や教育実績を記録し、今後のさらなる発展に資するための重要な媒体です。本年報には、この1年間における教職員の活動成果が凝縮されており、本学の教育研究活動の「今」を皆様にお伝えするものです。

今後も、千葉県立保健医療大学は、保健・医療・福祉の連携拠点として、人材育成、研究、社会貢献活動を通して、県民の皆様の健康に貢献してまいり所存です。皆様におかれましては、引き続きご支援ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年9月

学長 龍野 一郎

目 次

第 1 部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学運営組織図	5
II	年間記録（一年の歩み）	6
1.	令和 6 年度学事歴及び行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	8
3.	教授会の活動報告	10
4.	各種委員会等の活動報告	13
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	55
6.	事務局の活動	60
7.	FDの実施状況	60
IV	教育活動	63
1.	共通教育	63
2.	看護学科	63
3.	栄養学科	64
4.	歯科衛生学科	65
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	66
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	66
7.	学生による授業評価	67
8.	大学全体	68
V	学生の受け入れ状況	69
1.	学生の受け入れ方針	69
2.	年度当初の重点課題	70
3.	入学者選抜状況	70
4.	学生募集のための取り組み	72
5.	学生の在籍状況	72
6.	評価（成果および改善すべき事項）	73
7.	次年度の方策	73
VI	学生支援	74
1.	年度当初の重点課題等	74
2.	活動内容	74
3.	キャンパスハラスメント	75
4.	各学科・専攻の取り組み	75

5. 令和6年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	78
6. 評価（成果および改善すべき事項）	80
7. 次年度の方策	80
VII 社会連携・社会貢献	81
1. 社会との連携・協力に関する方針	81
2. 年度当初の重点課題	81
3. 活動内容	81
4. 評価（成果および改善すべき事項）	90
5. 次年度の方策	90
VIII 教育研究等環境	91
1. 年度当初の重点課題	91
2. 施設・設備の整備状況	91
3. 図書館の状況	91
4. 研究倫理を遵守するための措置	92
5. 評価（成果および改善事項）	92
6. 次年度の方策	92
IX 研究活動報告	93
1. 看護学科	93
2. 栄養学科	93
3. 歯科衛生学科	93
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	93
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	93
X 内部質保証のための取り組み	94
1. 年度当初の課題	94
2. 評価（成果および改善すべき事項）	94
3. 次年度の方策	94

第2部 教員の教育研究活動記録

・学 長	97
・看護学科	103
教 授 佐藤 紀子	105
教 授 河部 房子	109
教 授 石井 邦子	112
教 授 浅井 美千代	115
教 授 小宮 浩美	117
教 授 春日 広美	120
教 授 木内 千晶	123
教 授 市原 真穂	126
教 授 神田 みなみ	129
教 授 太和田 暁之	131
准教授 雨宮 有子	133
准教授 細谷 紀子	139

准教授	川城	由紀子	144
准教授	三枝	香代子	146
准教授	北川	良子	149
准教授	今井	宏美	151
准教授	田口	智恵美	154
准教授	金丸	友	157
准教授	西村	宣子	159
講 師	成	玉恵	162
講 師	川村	紀子	164
講 師	富樫	恵美子	166
講 師	加藤	隆子	168
講 師	大内	美穂子	170
講 師	佐伯	恭子	173
講 師	杉本	健太郎	175
講 師	栗田	和紀	177
講 師	大塚	知子	179
講 師	渡辺	健太郎	182
助 教	中山	静和	184
助 教	増田	恵美	186
助 教	坂本	明子	188
助 教	小林	雅美	190
助 教	竹中	奈々	192
助 教	臼井	智子	194
助 教	松浦	めぐみ	196
助 教	東辻	朝彦	198
助 教	小布施	未桂	200
助 教	仁井田	友紀	202
助 教	青木	綾香	204
・栄養学科			207
教 授	平岡	真実	209
教 授	菊池	裕	212
教 授	加瀬	政彦	214
教 授	細山田	康恵	216
教 授	谷内	洋子	219
教 授	橋本	和幸	223
准教授	荒井	裕介	225
准教授	金澤	匠	227
准教授	工藤	美奈子	229
准教授	広川	由子	232
講 師	鈴木	亜夕帆	235
講 師	渡辺	優奈	238
助 教	生魚	薫	241
助 教	田村	友峰子	243
助 教	田中	佑季	245
助 教	樋口	誉誌子	247
助 教	大津	佑太	248
・歯科衛生学科			251
教 授	酒巻	裕之	253

教 授	大川 由一	257
教 授	島田 美恵子	259
教 授	石川 裕子	262
教 授	鈴鹿 祐子	264
准教授	荒川 真	267
准教授	佐々木 みづほ	269
准教授	山村 有希子	272
講 師	佐久間 貴士	274
講 師	山中 紗都	276
講 師	松木 千紗	278
助 教	栗原 涼子	281
・リハビリテーション学科理学療法学専攻		283
教 授	堀本 佳誉	285
教 授	大谷 拓哉	288
教 授	金子 徹	290
准教授	室井 大佑	292
准教授	江戸 優裕	295
講 師	稲垣 武	299
助 教	坂崎 純太郎	303
・リハビリテーション学科作業療法学専攻		307
教 授	岡村 太郎	309
教 授	山本 達也	311
教 授	藤田 佳男	314
准教授	有川 真弓	317
准教授	松尾 真輔	320
講 師	成田 悠哉	323
講 師	須藤 崇行	326
助 教	清水 大輝	329

資料

資料 1	履修規程別表	331
資料 2	令和 6 年度非常勤講師一覧	379

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみで運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

(1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

(2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

(3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

(4) 県健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 思いやりの心や高い倫理観を基本とした保健医療サービスを提供できる力
- (2) 生きいきとしたコミュニケーション能力
- (3) 確かな実践力と新たな実践をつくりだす力
- (4) 自己理解と責任感を基盤としたしなやかな個別対応力
- (5) 他の専門職と自在に連携・協働する力
- (6) 地域社会や地域の健康づくりに貢献する力
- (7) 生涯にわたる自己研鑽力

(8) 国際的な視野を持ち保健医療の発展に寄与する力

なお、学部を目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は指導者のもと、以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の専門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

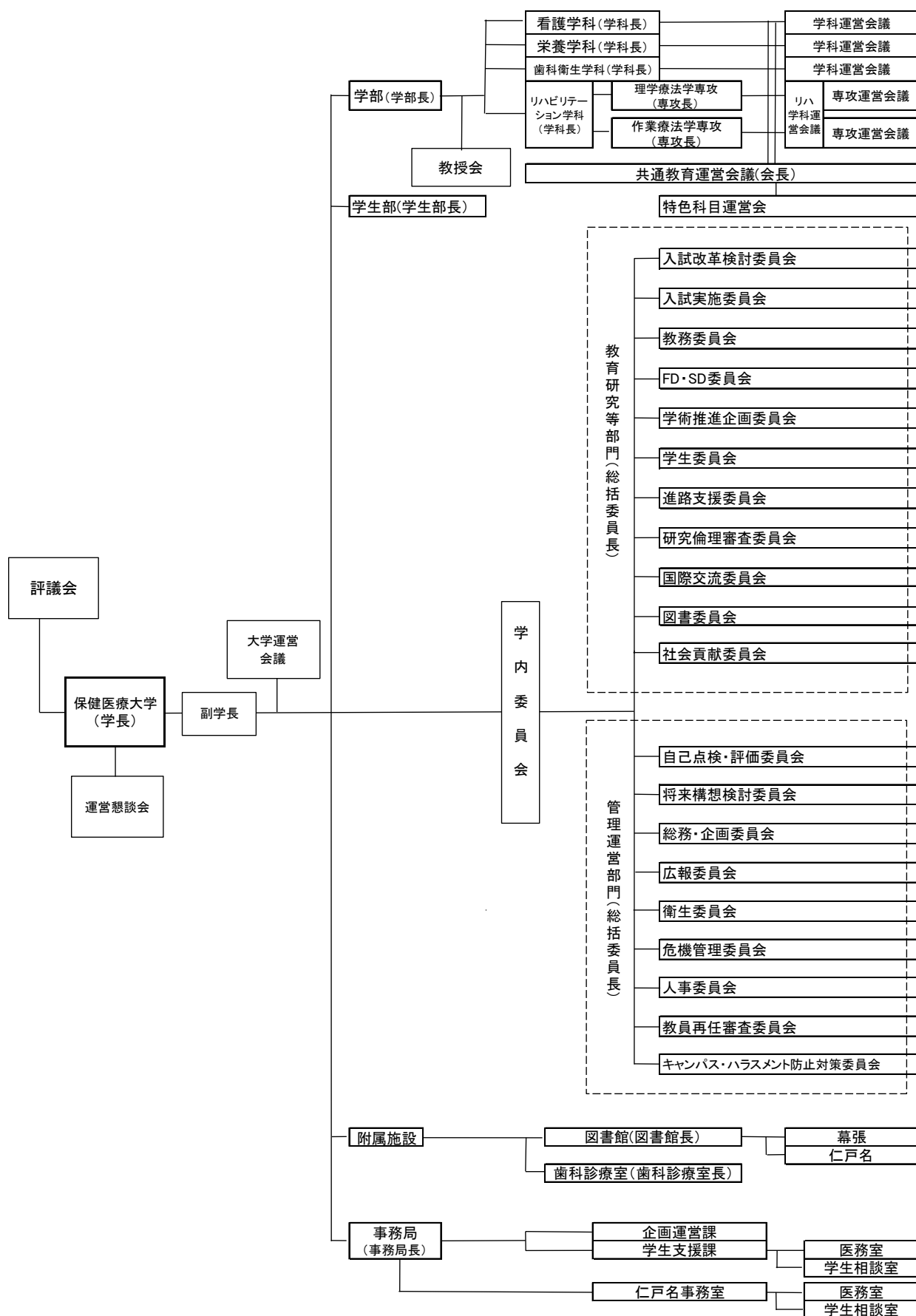
千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成 30 年 1 月 15 日改変, 同 4 月 1 日施行)

(令和 3 年 2 月 18 日改変, 同 4 月 1 日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図（令和2年4月1日～）



Ⅱ 年間記録（一年の歩み）

1. 令和6年度学事歴及び行事

行 事	日 程
在校生，編入生ガイダンス	4月2日(火)
入学式，新入生ガイダンス	4月3日(水)
前期授業期間	4月8日(月)～7月30日(火)
前期履修登録期間	4月8日(月)～4月16日(火)
オープンキャンパス	7月13日(土)，7月14日(日)
前期末試験	7月31日(水)～8月8日(木)
夏季休業	8月9日(金)～9月30日(月)
前期試験結果発表	8月21日(水)
後期授業期間	10月1日(火)～2月6日(木)
後期履修登録期間	10月1日(火)～10月7日(月)
公開講座	10月13日(日)
大学祭（いずみ祭）	10月13日(日)，10月14日(月)
開学記念日	10月28日(月)
特別選抜(推薦・社会人・編入学)入学試験	11月16日(土)
冬季休業	12月24日(火)～1月5日(日)
大学入学共通テスト	1月18日(土)，19日(日)
後期末試験	2月7日(金)～2月18日(火)
一般選抜試験	2月25日(火)
後期試験結果発表	2月26日(水)
卒業式	3月13日(木)
春季休業	3月22日(土)～3月31日(月)

2. 各学科定員等

1) 入学定員，収容定員，在籍者数（令和7年3月1日現在）

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健康科学部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	327人
	栄養学科	25人	100人	99人
	歯科衛生学科	25人	100人	102人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	196人 (96人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(100人)
合 計		180人	740人	724人

2) 履修規程別表 資料1参照，非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学学長
B	評議員名	前田 栄治・株式会社ちばぎん総合研究所代表取締役社長 小栗 一徳・公認会計士・税理士小栗事務所所長 宮内 孝久・神田外語大学学長 岡田 慎太郎・県健康福祉部長 大川 由一・保健医療大学副学長 佐藤 紀子・保健医療大学健康科学部長 江口 洋・保健医療大学事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
	・所掌事項の遂行.	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 9月3日	1 学長候補者選考を行う旨の公示について 2 学長候補者推薦依頼の公示について 3 学長候補者学内意向調査委員会の設置について 4 学長候補者の選考方法の細目について
2	令和6年 10月30日	1 学長候補者の選考について
3	令和7年 3月19日	1 千葉県立保健医療大学人事評価規程の改正について 2 学長の人事評価について 3 名誉教授の称号授与について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・現学長の龍野一郎氏の任期が令和7年3月31日までのため、次期学長選考を行った。候補者として推薦された龍野氏は学内の意向調査で98%という高い支持を受け、評議会で次期学長に適任として選考され、県知事に推薦された。 ・千葉県立保健医療大学の機能強化に向けた検討委員会が県に設置され、多くの評議員が参加し、建設的な議論が行われた。委員会の最終報告は令和7年度早々に公表される予定である。	
I	次年度の方策	
	・千葉県立保健医療大学の機能強化（大学院設置や定数、学科設置、再整備、独立法人化）に向けて、学内の体制整備を推し進める。 ・これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、学長の統括の下、PDCA サイクル稼働させ、千葉県の保健医療分野における課題解決に向かって、学部の教育・研究体制の改革を進める。	

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
B	構成員名	大川 由一・副学長（兼）管理運営部門群総括委員長 佐藤 紀子・学部長（兼）教育研究社会貢献等委員会部門群総括委員長 細山田 康恵・学生部長 石井 邦子・図書館長 河部 房子・看護学科長 平岡 真実・栄養学科長 酒巻 裕之・歯科衛生学科長（兼）歯科診療室長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長（兼）作業療法学専攻長 堀本 佳誉・リハビリテーション学科理学療法学専攻長 山本 達也・共通教育運営会議会長 江口 洋・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月22日	1 共通教育科目にかかる教員の後任人事について 2 令和7年度入学者選抜における理学療法学専攻の一般選抜の変更について 3 情報セキュリティポリシーの改正について 4 施設管理規程及び消防計画（幕張キャンパス）の改正について 5 千葉県立保健医療大学看護学科編入生の既習得単位として認定する科目に関する要 項」第2条第3項における別表2の修正について
2	令和6年 5月27日	1 共通教育科目にかかる教員の後任人事について
3	令和6年 6月24日	報告事項のみ
4	令和6年 7月29日	1 令和7年度当初予算申請について
5	令和6年 8月26日	1 キャンパス・ハラスメント相談にかかるフローチャート図及び相談員一覧表の変更 について
6	令和6年 9月30日	1 アセスメント・ポリシーの策定について 2 本学HPにおけるwebマガジンから発行される記事等の紹介について
7	令和6年 10月28日	1 報告事項のみ
8	令和6年 12月23日	1 千葉県立保健医療大学研究用微生物安全管理実施規則について
9	令和7年 1月27日	1 情報セキュリティポリシーの改正について 2 災害対応（危機対策）初動マニュアル2024（改訂版）について 3 令和7年度大学運営会議の日程について

10	令和7年 2月17日	1 学内組織図・内部質保証体系図の改正について 2 千葉県立保健医療大学キャンパス・ハラスメント規程の改正について 3 千葉県立保健医療大学人事評価規程の改正について 4 学内委員会規程の改正について
11	令和7年 2月27日から 3月6日まで (メール審議)	1 千葉県立保健医療大学学生規程の改正について
12	令和7年 3月24日	1 令和6年度重点施策評価結果について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・ポストコロナに移行して、遅れていた大学改革に必要な各種規則等の体制整備を行うことができた。 ・県立大学の機能強化に向けて（大学組織の改革，大学院設置，キャンパス統合・法人化等）について，学内で討議し，検討委員会に報告することができた。	
I	次年度の方策	
	・令和7年度も引き続き，PDCA サイクル稼働させ，これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて，新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数，学科設置，再整備，独立法人化）に向かって体制整備を進める。	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月 1 回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。令和 6 年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A 年度当初の重点課題			
・教員の任用，教育研究等にかかわる必要な審議について，引き続きペーパーレス化とリモート会議等の活用により円滑かつ効率的な会議運営を諮り，教授会構成員の負担軽減を目指す。			
B 会議記録			
	月日	主な議題	主な報告事項
1	令和 6 年 4 月 1 日	1 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の選考について 2 看護学科・成人看護：助教の資格審査結果について 3 リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の教員資格審査委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・国家試験合格状況について ・令和 5 年度卒業生分野別就職状況について
2	令和 6 年 4 月 5 日	1 既修得単位の認定について	
3	令和 6 年 5 月 13 日	1 看護学科・成人看護：助教の選考について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査結果について 3 リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の公募について	・大学運営会議報告 ・学長裁量研究費について ・令和 7 年度 入学者選抜要項について
4	令和 6 年 6 月 3 日	1 看護学科・基礎看護：助教の資格審査結果について 2 栄養学科：助教の資格審査結果について 3 歯科衛生学科：准教授の資格審査結果について 4 リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の資格審査結果について 5 歯科衛生学科：教授（歯科医師）の資格審査委員会の設置について 6 歯科衛生学科：教授（歯科衛生士）の資格審査委員会の設置について 7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・2023 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査の集計結果について
5	令和 6 年 7 月 1 日	1 看護学科・基礎看護：助教の選考について 2 栄養学科：助教の選考について 3 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の選考について 4 リハビリテーション学科作業療法学専攻：助教の選考について 5 歯科衛生学科：教授（歯科医師）の公募について 6 歯科衛生学科：教授（歯科衛生士）の公募について 7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募について 8 教員再任審査について 9 新カリキュラム改正の方針について	・大学運営会議報告 ・第 3 次カリキュラムの評価結果について
6	メール審議 令和 6 年 7 月 9 日～	1 歯科衛生学科：助手（臨時的任用職員）の教員資格審査委員会の設置について	

	7月17日		
7	令和6年 9月2日	1 歯科衛生学科：教授（歯科医師）の資格審査結果について 2 歯科衛生学科：教授（歯科衛生士）の資格審査結果について 3 リハビリテーション学科理学療法専攻：講師の資格審査結果について 4 歯科衛生学科・共通教育：教授の資格審査委員会の設置について 5 看護学科・基礎看護：助教の資格審査委員会の設置について 6 第4次カリキュラム改正案について	・教員資格審査委員会報告 ・大学運営会議報告 ・救急対応マニュアルについて
8	令和6年 10月7日	1 歯科衛生学科：教授（歯科医師）の選考について 2 歯科衛生学科：教授（歯科衛生士）の選考について 3 リハビリテーション学科理学療法専攻：講師の選考について 4 歯科衛生学科・共通教育：教授の公募について 5 看護学科・基礎看護：助教の公募について 6 栄養学科：助教の資格審査委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・令和7年度学校推薦型選抜・社会人特別選抜・編入学試験実施要領について ・放送大学単位互換協定に基づく令和6年度前期修得単位の認定について ・千葉県立保健医療大学アセスメントポリシーについて ・いずみ祭について
9	令和6年 11月11日	1 栄養学科：助教の公募について 2 学年暦について 3 次期学部長候補者選考に係る予備選挙管理委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・第2回評議会報告 ・県取組報告会について
10	令和6年 11月25日	1 特別選抜・3年次編入学合否判定	
11	令和6年 12月2日	1 歯科衛生学科・共通教育：教授の資格審査結果について 2 看護学科・基礎看護：助教の資格審査結果について 3 栄養学科：助教の資格審査結果について 4 教員再任審査について	・大学運営会議報告 ・千葉県立保健医療大学に係る機能強化検討会議について ・令和7年度前期科目等履修生等の募集について
12	令和7年 1月6日	1 名誉教授の推薦について 2 栄養学科：助教の選考について 3 次期学部長候補者の選考について 4 看護学科・基礎看護：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について 5 歯科衛生学科：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について 6 千葉県立保健医療大学履修規程の改正について	・大学運営会議報告 ・放送大学単位互換科目について
13	令和7年 2月3日	1 各学科・専攻長の選考に係る投票について 2 看護学科・母性看護・助産：助教の資格審査委員会の設置について 3 看護学科・母性看護・助産：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について 4 看護学科・基礎看護：助手（臨時的任用職員）	・大学運営会議報告 ・千葉県立保健医療大学に係る機能強化検討会議について ・令和7年度の執行部体制について ・令和7年度時間割について ・成績のオンライン公開について

		の資格審査委員会の設置について 5 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の資格審査委員会の設置について 6 研究データポリシーについて	・災害初動マニュアルの改訂について
14	令和7年 2月7日	1 一般選抜試験第一段階選抜について	
15	令和7年 2月28日	1 卒業判定について	
16	令和7年 3月3日	1 令和7年度教授会日程について 2 看護学科母性看護・助産：助教の公募について 3 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募について 4 看護学科・基礎看護：講師の資格審査委員会の設置について 5 看護学科・基礎看護：助教の資格審査委員会の設置について 6 看護学科・慢性期看護：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について 7 歯科衛生学科・共通教育（スポーツ科学）：教授の資格審査委員会の設置について 8 歯科衛生学科（歯科衛生士）：教授の資格審査委員会の設置について 9 歯科衛生学科（歯科医師）：准教授の資格審査委員会の設置について 10 リハビリテーション学科作業療法学専攻：教授の資格審査委員会の設置について 11 令和7年度一般選抜合否判定について	・教員資格審査委員会報告 ・大学運営会議報告 ・放送大学単位互換協定に基づく令和6年度後期修得単位の認定について ・情報セキュリティ運営要領について
17	令和7年 3月26日	1 進級判定について	・新年度ガイダンスについて ・令和7年度学内委員会名簿について
C	評価（成果および改善事項）		
	・教授会資料の電子化と事前通知およびリモート会議の活用により、円滑かつ効率的な会議運営と教授会構成員（教員、事務職員）の負担軽減が達成された。		
D	次年度の方策		
	・教員の任用、教育研究等にかかわる審議について、ペーパーレス化とリモート会議を継続して推進し、対面会との調和を図りながら円滑かつ効率的な会議運営を語る。		

4. 各種委員会等の活動報告

1) 特色科目運営会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育）
B	委員名	田口 智恵美・准教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 工藤 美奈子・准教授（栄養学科）
C	部会名と 部会員名	【体験ゼミナール】 部会長：島田 美恵子・教授（共通教育運営会議 歯科衛生学科） 部会員：加藤 隆子・講師（看護学科） 栗田 和紀・講師（看護学科） 広川 由子・准教授（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【千葉県の健康づくり】 部会長：荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 部会員：富樫 恵美子・講師（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 室井 大祐・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【専門職間の連携活動論】 部会長：工藤 美奈子・准教授（栄養学科） 部会員：大内 美穂子・講師（看護学科） 生魚 薫・助教（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【社会実習】 部会長：田口 智恵美・准教授（看護学科） 部会員：渡辺 優奈・講師（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
D	所掌事項	1 特色科目の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E	年度当初の重点課題	
・「社会実習」を開講し，科目の目標にそった委員会間の役割分担を構築する．「社会実習」について，学びの場を広げる長期的な指針を検討する		

F 会議記録（含む部会の開催）		
開催日		主な議題
1	令和6年 4月25日	① R6年度特色科目進捗状況の報告 ② 委員会活動達成目標案について（資料：活動達成状況点検・評価表） ③ 委員会活動経費について（資料：委員会経費に関する調査票）
2	令和6年 12月20日	① R6年度 特色科目進捗状況 ② 規程改正について ③ R7年度にむけて 科目責任者について ④ R7予算について ⑤ R6予算の執行状況について
3	令和7年 2月14日	① 委員会活動達成状況報告 ② 教育研究年報 ③ 重点施策達成状況 ④ R7年度 特色科目シラバスの確認
開催日		体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	令和6年 4月19日	① 活動計画 ② 予算案について ③ マナーについて ④ 教育説明会の方法
2	令和6年 10月1日	① R6年度振り返り評価 ② 閉講後の事務報告 ③ 報告書の作成について
3	令和6年 12月25日	① 報告書について ② R7年度にむけて
開催日		千葉県の健康づくり
1	令和6年 8月21日	① 教員用マニュアル（案）について ② 外部講師依頼について
2	令和6年 9月24日	① 学生用配布資料について ② ALS患者様ご自身によるご講義、およびその際使用する「分身ロボット」について開講後、予想される問題点について
3	令和6年 11月7日	「分身ロボット」動作テスト等
開催日		専門職間の連携活動論
1	令和6年 6月24日	① シラバスの確認 ② 昨年度の授業内容より・アンケート結果の確認 ③ 今年度の授業計画について ④ 今後の日程案と担当教員について ⑤ 今年度の予算執行計画および次年度予算案 ⑥ 依頼事項
2	令和6年 8月8日	① 履修予定学生数 ② チーム数と担当教員 ③ 特別講義 ④ 欠席者課題 ⑤ 実施要項および教員用資料 ⑥ 教員説明会 ⑦ 成績評価について ⑧ アンケートについて

		⑨ 次年度科目責任担当について
3	令和6年 10月18日	① チーム担当教員変更 ② 実施要項について ③ Teams チャンネルの作成について ④ 教員用資料 ⑤ 教員説明会 ⑥ 授業の告知と事前課題の提示 ⑦ 12月3日（火）午前の役割分担について ⑧ 今後のスケジュール
4	令和6年 12月12日	① 科目開催後の情報共有 ② アンケートについて ③ グループ発表報告会資料のアップ ④ 来年度への改善点 ⑤ 今後のスケジュール
開催日		社会実習（ボラティア活動）
1	令和6年 4月25日	① 年間スケジュール ② ガイダンスの振り返り ③ 全体講義 ④ 事前学習発表会案について ⑤ 記録用紙について ⑥ 今後のスケジュール
2	令和6年 7月31日	① 事前学習発表会について
3	令和6年 12月23日	① ボランティア活動状況 ② ボランティア活動報告会について ③ 令和7年度シラバスについて
4	令和7年 2月25日	① 令和7年度講義依頼状況 ② ボランティア活動報告会の振り返り ③ 成績評価について ④ 次年度担当者について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 8月9日	社会実習 事前学習報告会
2	令和6年 2月19日	社会実習 事後学習報告会
H	評価（成果および改善事項）	
・各特色科目の作業部会員と本運営会の構成員が兼任されるため、全体の様子は部分的ではあるが微妙に認識されている。 ・社会実習に関する運営会の目標（活動の場、履修者を増やす）は部会の巻張りにより達成している		
I	次年度の方策	
・社会実習以外の科目についても IPE の積み重ねに準じた明確な目標を提示した方がいい。 ・特色科目の作業部会員との協働により、各特色科目の位置づけおよび社会実習の充実が期待される		

2) 教育研究社会貢献委員会群

(1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	菊池 裕・教授（栄養学科） 藤田 佳男・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
B	委員名	浅井 美千代・教授（看護学科） 春日 広美・教授（看護学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科）（令和6年4月1日-令和6年9月30日） 酒巻 裕之・教授（栄養学科）（令和6年10月1日-令和7年3月31日） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 神田 みなみ・教授（看護学科） 橋本 和幸・教授（栄養学科）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 入試結果の分析・評価に関する事項 2 入試改革の検討に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1) 令和7年度一般選抜における大学入学共通テスト利用科目を変更 2) 一般選抜の大学入学共通テスト利用科目と旧教育課程による出題科目を調査して各学科・専攻の対応を決定 3) 令和5年度卒業の生各学科・専攻別 GPA, 退学者, 就職, 国家試験合格状況から現行の入試制度を評価 4) 面接試験の調査書等の閲覧方法や基準点の算出方法などから改善の必要性を検討 5) 看護学科の編入制度を含めて入学者選抜制度の現状を調査	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月12日	(1) 令和6年度委員会活動目標設定について審議 (2) 理学療法学専攻令和8年度入学者一般選抜試験の科目変更について審議
2	令和6年 6月21日	(1) 各学科・専攻別の GPA, 退学者, 就職, 国家試験について審議 (2) 各学科・専攻別の面接評価基準及び評価方法について審議
3	令和6年 9月12日	(1) 学校推薦型選抜推薦書の共通様式について審議 (2) 各学科・専攻別の GPA, 退学者, 就職, 国家試験について審議
4	令和6年 11月1日	(1) 学校推薦型選抜推薦書の共通様式について審議 (2) 各学科・専攻別の面接評価基準及び評価方法について審議 (3) 各学科・専攻別の GPA, 退学者, 就職, 国家試験について審議
5	令和7年 1月22日	(1) 各学科・専攻別の GPA, 退学者, 就職, 国家試験について審議 (2) 各学科・専攻別の面接評価基準及び評価方法について審議
6	令和7年 3月13日	(1) 一般選抜入試における出願書類について審議 (2) 通信制高校在学学生の出願資格について審議
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	1) 一般選抜の理学療法学専攻の大学入学共通テスト利用科目と配点を変更した。 2) 一般選抜の大学入学共通テスト「旧教育課程による出題科目」受験者への対応を公表した。 3) 平成24年度から令和2年度入学生の GPA, 留学者・休学者・退学者, 国家試験及び県内就職率等の情報に基づいた学生の特徴を調べ, 各学科・専攻ごとの評価をまとめた。 4) 調査書等の閲覧方法や基準点の算出方法をまとめ, アドミッション・ポリシーに沿っているのか各学科・専攻ごとに確認した。	

5) 編入制度について看護学科内で引き続き検討していくこととした。	
I	次年度の方策
・共通テストで実施された「情報」の結果を踏まえた高校，教育委員会及び文部科学省の対応を分析する。 ・他教科との選択や配点を含めた「情報」の設定に資するFD・SDを開催する。 ・一般選抜，特別選抜，社会人及び編入学試験受験者ごとのGPA，留年者・休学者・退学者，国家試験及び県内就職率等の情報を分析して評価する。	

(2) 入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	浅井 美千代・教授（看護学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
B	委員名	浅井 美千代・教授，今井 宏美・准教授（看護学科） 橋本 和幸・教授，金澤 匠准教授（栄養学科） 山村 有紀子・准教授，松木 千紗・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授，稲垣武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 宗行・講師，成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 栗田 和紀・講師（共通教育運営会議） 廣田 龍人・学生支援主事，田中 拓・学生支援主事（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 2 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む。） 3 入試問題等の作成・公表に関すること 4 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
1 公平・公正な入試の実施 2 アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成 3 出願誤りの再発防止策の検討・実施		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月15日	1 令和6年度の入試実施委員会の活動目標と活動計画について 2 令和6年度委員会年間スケジュールについて 3 令和7年度入試年間スケジュールについて 4 令和7年度入学者選抜要項について 5 編入学募集要項改正について
2	令和6年 5月7日	1 令和7年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 入学試験実施要領（特別選抜・編入学）案について 3 令和7年度入学者選抜要項について
3	令和6年 6月10日	1 令和7年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 入学試験実施要領（特別選抜・編入学）案について 3 次年度予算要求について
4	令和6年 7月8日	1 令和7年度学生募集要項（推薦入学・社会人・編入学）案について 2 入学試験実施要領（特別選抜・編入学）案について
5	令和6年 9月9日	1 入学試験実施要領（特別選抜・編入学）について 2 入学試験監督要領（特別選抜・編入学）案について 3 一般選抜の学生募集要項案について
6	令和6年 10月9日	1 令和8年度入学者選抜の入試日程について 2 特別選抜・編入学試験後のスケジュールについて

		3 入学試験監督要領（特別選抜・編入学）について 4 令和7年度学生募集要項（一般選抜）案について
7	令和6年 11月5日	1 入学試験実施要領（特別選抜・編入学）について 2 特別選抜・編入学試験アンケート結果について 3 令和7年度学生募集要項（一般選抜）案について 4 入学試験実施要領（一般選抜）案について
8	令和6年 12月9日	1 入学試験実施要領（一般選抜）案について 2 特別選抜・編入学試験アンケート結果について 3 令和7年度大学入学共通テストの人員配置について
9	令和7年 1月9日	1 入学試験実施要領（一般選抜）案について 2 令和7年度大学入学共通テストの実施について 3 委員会規程について
10	令和7年 2月10日	1 入学試験実施要領（一般）案について 2 入学試験監督要領（一般）案について 3 令和8年度入試日程について 4 学校推薦型選抜における通信制高等学校の取り扱いについて 5 入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表について 6 令和7年度大学入学共通テストアンケート結果について
11	令和7年 3月10日	1 令和8年度入学者選抜要項案について 2 令和7年度一般選抜試験の追加合格者について 3 一般選抜試験アンケート結果について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 11月8日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科 3年次編入学試験監督班説明会
2	令和6年 11月16日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科 3年次編入学試験
3	令和6年 12月13日	大学入学共通テスト学内全体説明会
4	令和7年 1月16日	大学入学共通テスト業務班別説明会
5	令和7年 1月18・19日	大学入学共通テスト
6	令和7年 2月19日	一般選抜試験監督班説明会
7	令和7年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
H	評価（成果および改善事項）	
1. 公平・公正な入試の実施 ・各入試の実施要領・監督要領を委員会で検討し、実施状況に即した具体的な内容に修正した。 ・特別選抜・編入学試験及び一般選抜試験前に、監督者を対象に事前説明会をWEBにて実施した。説明会後に質問を受け付けて疑問点を解消し、試験当日トラブルなく終了できた。 ・採点結果の自動計算シートを改良し、入力点検・集計の効率化を図ることができた。 ・大学入学共通テストを東都大学と共同で実施した。試験当日、不測の事態が生じたが受験生に不利のない対応をすることができた。監督者への事前説明内容や試験本部内の連携が課題となった。 ・試験後アンケート結果を委員会で共有し、問題点について対応策を検討し、次の入試で改善を図った。		

2. アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成	
・特別選抜・編入学試験，一般選抜試験における試験問題について，作問チームと校正チームを編成し，WEB による検討会議を各 3 回実施し，外部委託による事前点検結果と併せ，適切な問題を作成できた。	
3. 出題誤りの再発防止策の検討・実施	
・出題誤りの再発防止策として，外部委託による試験問題の事前点検を学校推薦型と一般選抜で実施した。加えて，校正者用問題点検リストを作成・運用し出題誤りの再発を防止できた。	
4. 出願に関する受験生対応	
・通信制高校に在籍する場合の出願資格，高等学校卒業後長期間経過している場合の出願書類など，多様な背景をもつ受験生からの出願資格・書類についての問い合わせが増加し，その都度検討しながら対応した。	
I	次年度の方策
通信制高校に在籍する場合の出願資・書類を検討し，選抜要項・募集要項に反映させる。入試業務で，試験当日の円滑な実施にかかわる業務についてのマニュアル化を優先して行う。大学入学共通テストが公平に運営されるよう，担当者への事前説明内容，担当者が連携しやすい環境や方法を検討する。	

(3) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 谷内 洋子・教授（栄養学科）
B	委員名	石井 邦子・教授，三枝 香代子・准教授，金丸 友・講師，大塚 知子・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授，鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授，鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授，室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授，須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田 みなみ・教授，広川 由子・准教授（共通教育運営会議） 伊藤 斐太・学生支援課（事務局）
C	部会名と 部会員名	【カリキュラム作成部会】 部会長 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 准教授，金丸 友・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 室井 大佑・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 広川 由子・准教授（共通教育運営会議） 伊藤 斐太・学生支援課（事務局） 【アセスメント・ポリシー作成作業部会】 部会長 神田 みなみ・教授（共通教育運営会議） 大塚 知子・講師（看護学科） 鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 伊藤 斐太・学生支援課（事務局）
D	所掌事項	1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項

		7 学籍の異動（入学，進級，休学，復学，転学，留学，退学，除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生，特別聴講学生，聴講生，研修生，研究生及び外国人留学生に関する事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1 新カリキュラム作成 2 アセスメントポリシーの作成 3 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）の推進	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月15日	1 令和6年度 教務委員会年間スケジュールについて 2 学生の休学及び退学について 3 新規実習施設の追加について 4 「千葉県立保健医療大学看護学科編入生の既習得単位として認定する科目に関する要項」第2条第3項における別表2の修正について 5 令和6年度 教務委員会活動達成状況点検・評価表について 6 令和6年度 前期授業評価アンケート実施について
2	令和6年 5月20日	1 学生の退学について【資料1-1】【資料1-2】 2 重点施策と教務委員会年度目標について【資料2】 3 令和6年度 前期末試験について【資料3】 4 履修登録の取消について
3	令和6年 6月17日	1 令和7年度 当初予算について 2 令和6年度 前期末試験について 3 令和6年度後期 教科書販売について 4 令和6年度後期 科目等履修生の募集について 5 第4次カリキュラムの作成について
4	令和6年 7月22日	1 学生の休学について 2 新規非常勤講師の任用につい 3 災害対応（危機対策）マニュアルについて 4 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請について 5 数理・データサイエンス・AI 教育についてのFDの開催について 6 GPA 制度に関する履修登録取消について
5	令和6年 8月19日	1 学生の復学について 2 令和6年度 前期末追再試験について 3 第4次カリキュラムについ 4 教務委員会FDについて
6	令和6年 9月17日	1 学生の休学・復学について 2 新規非常勤講師の任用について【共通教育科目】 3 新規実習施設の追加について 4 放送大学での単位修得について 5 千葉県立保健医療大学アセスメント・ポリシーについて 6 令和7年度学年暦について
7	令和6年 10月21日	1 学生の休学について 2 令和7年度 学年暦について 3 新規非常勤講師の担当科目追加につい 4 令和5年度大学教務委員会主催FDに関するアンケート調査結果について

8	令和6年 11月18日	1 学生の休学について 2 新規実習施設の追加について 3 令和7年度前期 科目等履修生・聴講生等の募集について 4 令和7年度 時間割について 5 学則・履修規程の改正について
9	令和6年 12月16日	1 学生の復学について 2 新規非常勤講師の任用につい 3 令和7年度 放送大学との単位互換科目について 4 令和6年度 後期末試験の日程について 5 令和7年度 シラバスについて 6 令和7年度 時間割について 7 令和7年度 ガイダンスについて
10	令和7年 1月20日	1 新規非常勤講師の任用について 2 専任教員の担当科目追加について 3 新規実習施設の登録について 4 令和7年度 時間割について 5 学生ハンドブックの記載事項について 6 自己健康管理ファイルの記載事項について 7 成績のオンライン公開について 8 令和7年度 教務委員会スケジュールについて
11	令和7年 2月27日	1 卒業判定について 2 学生の休学・復学について 3 新規非常勤講師の任用について 4 実習施設の追加・変更について 5 放送大学の単位認定について
12	令和7年 3月26日	1 進級判定について 2 学生の休学・復学について 3 新規非常勤講師の任用について 4 新規実習施設の追加について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	1. 新カリキュラム作成部会を立ち上げ、新カリキュラムを作成し、文部科学省への申請を行った。 2. アセスメントポリシー作成部会を立ち上げ、アセスメントポリシーを作成し、大学運営委員会で承認を受け、教授会で報告を終え、3月の評議会へ提出することとなった。 3. 3月28日にFD「医療系大学におけるアクティブ・ラーニング」 講師 昭和大学医学部医学教育学講座 泉美貴教授を実施した。 ・評価結果の理由と改善策 1～3について、目標どおり実施することが出来た。	
I	次年度の方策	
	1, 2に関しては、4年後をめどに評価を行い、改善の必要性を検討する必要がある。	

(4) FD・SD 委員会

A	委員長名	岡村 太郎・教授
B	委員名	山本 達也・教授(キャンパス・ハラスメント防止対策委員長) 菊池 裕・教授(入試改革検討委員長) 堀本 佳誉・教授(教務委員長) 太和田 暁之・教授(学術推進企画委員長) 細山田 康恵・教授(学生・進路支援委員長) 加瀬 政彦・教授(研究倫理審査委員長) 春日 広美・教授(危機管理委員長) 木内 千晶・教授(社会貢献委員長) 町田 昌実・企画運営課長(事務局) 美内 小夏・企画運営課(担当事務局)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学内のファカルティ・ディベロップメントとスタッフ・ディベロップメントの企画, 推進に関する事項 2 その他学長が付託した事項に関する事項 3 その他ファカルティ・ディベロップメントとスタッフ・ディベロップメントに関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1) 各 FD・SD における, 計画, 報告書などの周知できる情報の集約分散方法について実施 2) FD・SD マップを参照に実施 ①教育 (レベル1 程度) 科目を運営・評価するための基本的方法を理解する ・試験の作成(教務委員会担当確認) ・教育評価, 評価基準の作成など(教務委員会担当確認) ・教育倫理に関する理解を深める・教育倫理(担当委員会検討) ・自らの教育能力を省察できる(担当委員会検討) (レベル2 程度) 学生支援に関する実践能力を向上させる ・学生相談・学生支援(担当委員会検討 学生委員会確認) (レベル3) 教育経験の浅い教員に指導 ・教育に対する相談と対応など(担当委員会検討) ・自らの教育能力を省察できる(担当委員会検討) ・教育に FD・SD (定会含む) についての検討, 委員からの提案 ②研究 ・研究に FD・SD (定会含む) についての検討, 委員からの提案 ③社会貢献 ・社会貢献に FD・SD (定会含む) についての検討, 委員からの提案 ④管理・運営 (レベル1) 教員の説明能力を高める方法 ・プレゼンテーションの方法(担当委員会検討) (レベル2) 創造力を高める・問題解決技法など(担当委員会検討) ・コミュニケーション能力を高める ・能力やパーソナリティに応じた対応など(担当委員会検討) 管理運営に FD・SD (定会含む) についての検討, 委員からの提案 (レベル1) 大学の歴史, 理念, 組織, 国・県の理解を深める(学長)	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月22日	1. 本年度 FDSD 計画検討 2. 実施後のアンケート集計方法について 3. 教職員対象にした FDSD 計画予定(情報の集約と分散の方法)の提示について 4. その他

		予算管理について・次回以降の開催日程について
2	令和6年 6月21日	1. 教職員対象にした FDS計画予定（情報の集約と分散の方法）の提示について 2. 本年度 FDS計画検討（FDS マップ参照による） FDS の新しい目標課題と担当の再検討（保留としていた件） 毎年度実施予定（各委員会の毎年実施 FDS 設定検討） 3. その他
3	令和6年 9月6日	1. 各委員会における FDS 進行状況の報告 2. 今年度予算の報告と活用について ①予算執行状況の報告と今後の活用について ②学術推進企画委員会企画 FD への予算について 3. アンケート調査運用状況と今後の活用について 4. FDS の予定表の運用状況と今後の活用について 5. その他
4	令和6年 11月26日	1. 各委員会における FDS 進行状況の報告 2. 今年度予算の報告と活用について 3. アンケート調査運用状況と今後の活用について 4. その他
5	令和7年 3月15日	1. 各委員会における FD・SD 実施状況の報告 2. アンケート調査運用状況について 3. FD・SD 研修などの実施予定・状況の公表（予定表）について 4. 来年度への申し送り事項 5. その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 8月23日	「倫理とプロフェッショナルについて」中講義室，教員参加(FD・SD 委員会)40 名参加（内容について回答率，以下同様；やや満足+満足=80%）
2	令和6年 8月27日	「職場出前講座「飲酒運転根絶について」事務棟大会議室，教職員参加（事務局）22 名参加（やや満足+満足=80%）
3	令和6年 9月19日	「職場出前講座「千葉県職員倫理条例について」事務棟大会議室，教職員参加（事務局）22 名参加（やや満足+満足=100%）
4	令和6年 11月2日	発達障害の学生への対応について「発達障害と合理的配慮」大講義室（Teams11 名，対面 34 名参加），45 名参加（学生委員会）（やや満足+満足=100%）
5	令和6年 11月11日	「学問の自由」中講義室，40 名参加(学術推進企画委員会)（やや満足+満足=100%）
6	令和6年 11月28日	「オープンアクセス・オープンサイエンス」中講義室，36 名参加(学術推進企画委員会)（やや満足+満足=93%）
7	令和7年 2月3日	「令和6年度キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 FD・SD」図書館棟中講義室，教職員 52 名（キャンパス・ハラスメント防止対策委員会），（やや満足+満足=89%）
8	令和7年 2月19日	「交渉を中心としてコミュニケーションについて」中講義室，29 名参加(FD・SD 委員会)（やや満足+満足=97%）
9	令和7年 3月4日	「プレゼンテーションの方法」中講義室，35 名前後参加(FD・SD 委員会)（やや満足+満足=100%）
10	令和7年 3月6日	「数理・データサイエンス・AI 教育に関する FD」Web Teams 49 名参加(教務委員会)（やや満足+満足=92%）
11	令和7年 3月11日	「質的研究について」（学術推進企画委員会）

12	令和7年 3月18日	保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議に関する情報共有（学長・将来構想検討委員会委員会）
13	令和7年 3月18日	「社会貢献への理解を深める：さまざまな社会貢献の方法（地域連携）」（大講義室とオンデマンド）66名（社会貢献委員会）（やや満足+満足＝97%）
14	令和7年 3月22日	「学術推進企画委員会将来構想にかかる情報共有・意見交換」，62名（やや満足+満足＝100%） 参加ハイブリッド（社会貢献委員会）（やや満足+満足＝86%）
15	令和7年 3月23日～	「災害対応初動マニュアルFD」オンデマンドR7.3.23-実施中（危機管理委員会）
16	令和7年 3月28日	「医療系学部におけるアクティブラーニング」42名（教務委員会）（やや満足+満足＝100%）
H	評価（成果および改善事項）	
「目標」であるFD・SDマップを指針にそって，「活動計画」に対する「達成事項」ほぼ終了予定となっている．また，必要に応じて各委員会でFDSDを実施できた		
I	次年度の方策	
次年度あたらしく指針（FD・SDマップ）の見直しあるいは，マップにそって，計画を年度初めに各委員会の新メンバーで新たに検討・目標の合意，さらに必要不可欠なFD・SDの項目の選出・受講の促進について検討		

(5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	太和田 暁之・教授（看護学科・共通教育運営会議）
B	委員名	細谷 紀子・准教授（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科・共通教育運営会議） 広川 由子・准教授（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	【紀要編集部会】 部会長：荒川 真・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 部会員：市原 真穂・教授（看護学科） 細谷 紀子・准教授（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科） 広川 由子・准教授（栄養学科・共通教育運営会議） 松木 千紗・講師（歯科衛生学科） 江戸 優裕・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 成田 悠哉・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【学内共同研究審査部会】 部会長：大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員：太和田 暁之・教授（看護学科・共通教育運営会議） 川村 紀子・講師（看護学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科・共通教育運営会議） 広川 由子・准教授（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）

		山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議）
D	所掌事項	1 大学内の学術推進に関すること 2 学内共同研究等の募集及び審査等に関すること 3 外部資金の獲得に関すること 4 紀要の編集及び発行に関すること 5 その他学長が付託した事項に関すること 6 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・共同研究発表会を課題や研究についての交流の場として活用する具体的な方策，すなわち対象者・対象範囲，案内方法，発表会の運営方法，を検討する。 ・既存の外部資金獲得支援体制は継続運用する。学内研究者を対象としたアンケート調査を実施し，外部資金獲得に関する課題を把握，分析し，解決に向けた方策を検討する。 ・学術・研究活動の水準向上につながる FD の実施。シンクタンク機能や地域貢献活動に活用できる学内外の人的リソースのリスト化を行う。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月15日	1 本委員会の所掌事項，構成委員，令和6年度開催予定について 2 学内共同研究審査部会長，紀要編集部会長の選任について 3 2024年度「委員会活動達成状況点検・評価表」について 4 本委員会の経費について
2	令和6年 5月20日 (メール審議)	1 学内共同研究発表会の開催方法について 2 委員会重点施策の目標案について 3 ロバスト・ジャパンについて
3	令和6年 6月17日	1 第15回学内共同研究発表会の日程について 2 名誉教授の紀要投稿について
4	令和6年 7月22日	1 令和7年度研究費の配分について 2 本委員会の重点施策目標について 3 千葉県立保健医療大学紀要第16巻の編集方針について
5	8月休会	
6	令和6年 9月9日	1 外部資金獲得に関するアンケートについて 2 イブニングセミナーについて
7	令和6年 10月21日	1 2025年度学内共同研究費募集要項の検討について
8	令和6年 11月18日	1 千葉県立保健医療大学研究データポリシー案について 2 2025年度学内共同研究費募集要項の検討について
9	令和6年 12月16日	流会
10	令和7年 1月20日	1 令和7年度の科研費獲得支援について
11	令和7年 2月17日	1 委員会活動状況点検・評価表について
12	令和7年 3月17日	1 来年度の科研費獲得支援（ロバスト・ジャパン）の利用内容について 2 令和7年度学内共同研究費の採択について
	開催日	紀要編集部会の主な議題
1	令和6年 9月30日	1 紀要第16巻投稿予定論文確認 2 編集担当割り振り

2	令和6年 10月17日	1 査読依頼確認
3	令和6年 11月19日	1 掲載判定
4	令和7年 1月9日	1 掲載判定
	メール審議	第4回以降，掲載判定について随時メール審議
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和7年 2月27日	1 ヒアリング実施方法について
2	令和7年 3月4日～6日	ヒアリング実施 (ヒアリング実施以降，随時メール審議)
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和6年9月9 日～13日	第15回共同研究発表会（オンデマンド開催）
2	令和6年 11月11日	第1回イブニングセミナー 学問の自由について 講師：前川 喜平 氏（元・文部科学事務次官）
3	令和6年 11月28日	第2回イブニングセミナー 研究データ/成果物（論文）の登録と公開，機関リポジトリ，オープンアクセス（OA）・オープンサイエンス（OS）について 講師：佐藤 正恵 氏（千葉県済生会習志野病院図書室司書）
4	令和7年 1月21日	第3回イブニングセミナー 学術推進のためのAIやDXに関する学びについて 講師：上條 史記 助教（東京工科大学医療保健学部）
5	令和7年 3月31日	第4回イブニングセミナー 質的研究の考え方 講師：大谷 尚 特任教授（名古屋経済大学人間生活科学部）
H	評価（成果および改善事項）	

年度当初の重点課題

- ・学内共同研究発表会を交流の場として活用する具体的な方策の検討：共同研究発表会へ参加可能とする外部研究者等の検討および学内共同研究発表会運営に関する検討を行い，二重発表・二重投稿のリスクに配慮した改訂案が提出され，決定に基づき共同研究募集要項・共同研究発表会要綱を改訂した。
- ・学内研究者を対象とする外部資金獲得に関する意見聴取：全学教員を対象に「外部資金獲得に関するアンケート」を実施。アンケート回収率 72.5%(58/80)。「研究以外の業務の整理・削減」，「申請書添削などのサービス導入・継続」，「県費による研究費の柔軟化」，「事務手続きの簡素化」，「外部資金申請のインセンティブまたは必須化」の意見が寄せられ，次年度以後に実施可能な方策を検討した。
- ・学術・研究活動の水準向上につながるFDの実施：外部有識者を演者に招聘し講演会（イブニングセミナー）を開催した。第1回「学問の自由について」，第2回「学術論文の即時OA義務化について」，第3回「学術推進のためのAIやDXに関する学びについて」，第4回「質的研究の考え方」。

研究データポリシーの策定および機関リポジトリ設置準備

内閣府科学技術・イノベーション基本計画の要請に基づき R6 年度は研究データポリシー本文の策定を行った。機関リポジトリ WG と協業し同基本計画が要請している機関リポジトリ設置に向けた検討・準備を行った。

学内共同研究課題の募集と審査

問題なく実施された。

外部資金，特に科研費の獲得の推進

昨年度に引き続き外部の研究支援サービスを提供した。科研費計画調書の添削，科研費申請スケジュール管理，オンデマンドの科研費セミナーなどが提供され 12 名が利用した。

紀要の原稿募集と編集，発行

問題なく実施された。

I	次年度の方策
	・学内共同研究発表会を交流の場として活用するための外部公開の実施の検討 ・学内研究者を対象とする外部資金獲得に関する意見（アンケート）に基づき検討された方策の実施の検討 ・学術・研究活動の水準向上につながるFDの実施 ・内閣府科学技術・イノベーション基本計画の要請に基づく研究データポリシー解説の策定 ・内閣府科学技術・イノベーション基本計画の要請に基づく機関リポジトリ設置準備 ・学内共同研究課題の募集と審査 ・競争的外部資金（特に科研費）の獲得の推進， 研究支援サービスの継続 ・紀要の原稿募集と編集， 発行

(6) 学生委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科） 西村 宣子・准教授（看護学科）
B	委員名	市原 真穂・教授（看護学科） 太和田 暁之・教授（看護学科） 工藤 美奈子・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科） 松木 千紗・講師（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・学生ハンドブック「学生生活」に照らした学生支援を実施し，充実した学生生活が送れるようにサポートする． ・ホームカミングデイや同窓会/分科会活動の推進に務め，卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備できるように着手する	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月8日	① 令和6年度 学生支援計画について ② 日本学生支援機構奨学生の推薦について ③ 委員会目標について ④ その他
2	令和6年 5月20日	① 令和6年～10年度の重点施策について ② 学生の安否確認の方法について ③ 学生団体設立承認願について ④ その他
3	令和6年 6月10日	① キッチンカー・自販等のアンケートについて ② その他
4	令和6年 7月8日	① 令和6年度いずみ祭について ② 学生向け「防犯対策講話」について ③ 救急対応マニュアルについて

		④ その他
5	令和6年 9月9日	① いずみ祭の担当について ② 学生安否情報の FORMS について ③ 学生団体設立承認願について ④ その他
6	令和6年 10月21日	① FD について ② 令和7年度学生ハンドブックについて ③ 令和7年度自己健康管理ファイルについて ④ その他
7	令和6年 11月18日	① FD の質問事項について ② 学生向けの FD について ③ 令和7年度 学生ハンドブックについて ④ 令和7年度 自己健康管理ファイルについて ⑤ 令和7年度 健康診断・ワクチン接種計画について ⑥ 卒業時調査について ⑦ その他
8	令和6年 12月9日	① 令和6年度卒業式について ② 学生支援計画、委員会活動計画について ③ 学生向け FD の開催時期について ④ 規程の変更について ⑤ 新型コロナ枠シンの予防接種記録の提出について ⑥ 仁戸名キャンパスのお弁当注文について ⑦ その他
9	令和7年 2月10日	① 令和6年度卒業式の写真撮影について ② 4月8日新入生向け FD について ③ 委員会活動状況点検・活動表について ④ 重点施策の評価について ⑤ 次年度キッチンカーの希望曜日について ⑥ その他
10	令和7年 3月10日	① 令和6年度 学生支援計画・委員会活動計画について ② 令和7年度 DV 予防セミナーについて ③ その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 4月5日	健康診断
2	令和6年 4月15日～ 5月14日	学生セミナー 新入生対象「応急手当 WEB 講習 普通救命講習編」 ブラックバイトセミナー オンデマンド配信
3	令和6年 7月22日～30日	学生・教職員アンケート調査 キッチンカー・学内の売店と自動販売機等に関するアンケート Forms にて
4	令和6年 8月8日	学生向け講習会 千葉西警察から「防犯対策講話」
5	令和6年 8月8日～9月6日	学生向けセミナー 「デートDV」対策セミナー オンデマンド配信
6	令和6年 9月6日～30日	教員アンケート調査 「学生相談件数」前期分 Forms にて

7	令和6年 12月20日	教職員対象FD「発達障害の学生対応について」
8	令和7年 2月13日～29日	教員アンケート調査「学生相談件数」後期分 Formsにて
H	評価（成果および改善事項）	
① 学内整備：学内環境を点検し、事務局と連携して、WiFi環境やトイレの洋式化を少しずつ進めることができた。継続して、トイレの洋式化や教室の椅子・机の整備が必要。 ② 学生会：新入生歓迎会やサークルなどで、活動をサポートすることができた。学生会の役員が減少しているので、多くの学生に参加するように助言が必要。 ③ いずみ祭：企画から実施まで、全委員でサポート体制をとることができた。 ④ 自販機、キッチンカー：アンケート結果を反映し、学生さんからの要望にそえるように努めた。キッチンカーの利用者が増えるように検討が必要。 ⑤ 卒業式：式歌の練習をサポート、同窓会からの花の設置をすることができた ⑥ 学生対象セミナー：ブラックバイト、DV予防の動画を配信したが、視聴者が少ないので、今後検討が必要。 ⑦ 同窓会との連携：同窓会/分科会活動の推進に務めたが、教育支援等の体制整備はできなかった。今後、同窓会と話し合い、方向性を検討する必要がある、 ⑧ 学生からの相談内容の把握：昨年度のアンケート結果を踏まえ、対策の必要性を検討できた ⑨ 幕張キャンパス駐輪場の管理：駐車マナーの周知および必要に応じた駐輪場の整備を実施。 ⑩ 後援会との連携：加入者増加への支援を行い、後援会から頂いた備品の管理をすることができた。 ⑪ 教員向けFD開催：「学生支援のあり方、障害のある学生への支援等」についての講演を企画し、大変好評であった。 ⑫ 学生向け講演：「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係」の講演を企画したが、7名の参加しかおらず、次年度、開催時期を要検討。 ⑬ 新入生WEB講習：AEDの取り扱いの知識をつけていただくため、消防庁がインターネット上で公開している「応急手当 普通救命講習編」を受講させることができた。 上記①から⑬に関して、すべて実施することができたが、学生向けFDの企画に関しては、開催時期や学年を検討していく必要がある。また、卒業生へのリカレント教育は、同窓会と話し合い方向性を決めることが必要と考える。学生ハンドブックに記載されている学生支援は概ね実施できているが、学内の設備や売店・自販機に関しては、事務局で県との調整をしていただき、改善をお願いしたい。		
I	次年度の方策	
・学生向けFDを4月に新入生と2年生で実施するようにする。リカレント教育については、同窓会の役員の方と話し合い、本学の支援体制整備が必要と考える。 ・学内の設備や福利厚生については、学生や保護者からの意見を、事務局から県にあげていただき、学生がより良い環境で学生生活を送れるように継続して支援する必要がある。		

(7) 進路支援委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科） 川城 由紀子・准教授（看護学科）
B	委員名	山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学の実践に関する事 2 県内就職の推進に関する事 3 その他学長が付託した事項に関する事

		4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・今年度から講師を変更した第2回と第3回キャリアセミナーに関して、学生から概ね好評であったので、次年度以降も同様に実施していきたい。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月17日	① 令和6年度 委員会スケジュールについて ② 令和6年度 進路支援計画について ③ 令和6年度 委員会活動予算について ④ 令和6年度 第1回・2回キャリアセミナーについて ⑤ その他
2	令和6年 6月12日	① 次年度予算要求について ② その他
3	令和6年 8月7日	① 第1回・第2回キャリアセミナーについて ② キャリアセミナーアンケートについて ③ その他
4	令和6年 9月11日	① 進路希望調査及び求職票について ② 進路ガイドブックについて ③ その他
5	令和6年 11月6日	① 令和7年度 進路ガイドブックについて ② 第3回キャリアセミナーについて ③ 令和7年度 学生ハンドブックについて（進路支援に関すること） ④ 2024年度 卒業時調査について ⑤ その他
6	令和7年 1月8日	① 第3回キャリアセミナーについて ② 進路支援委員会の規程について ③ 活動達成状況点検・評価表について ④ その他
7	令和7年 3月21日	① 第3回キャリアセミナーの振り返り ② 令和7年度ジョブカフェ企画について ③ その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 6月19日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第1回「自己PR作成セミナー」
2	令和6年 8月8日	キャリアセミナー第1回 第1部「就活の進め方」について 第2部は学科専攻ごとに開催
3	令和6年 8月21日	キャリアセミナー第2回 「公務員業務説明会」
4	令和6年 9月25日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第2回「エントリーシート対策セミナー」
5	令和7年 2月26日	ジョブカフェ 就職支援セミナー 第3回「個人模擬面接セミナー」
6	令和7年 3月11日	キャリアセミナー第3回「就職活動に必要なマナーのツボ」 第1部 社会人としての必要なマナー こんな時どうする？～電話の受け方、面接のマナーなど～

H	評価（成果および改善事項）
	① 年度当初に作成した進路支援計画に沿い、全学及び各学科専攻で、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施できた。 ② 全学のキャリアセミナーは年3回実施し、各学科専攻におけるキャリアセミナーも実施することができた。すべての回のアンケート「参考になった」かの問いに対し、「とてもなった」「まあまあなった」とほぼ回答されており、好評な結果が得られた。 ③ ちば若者キャリアセンタージョブカフェ就職支援セミナーを年3回実施できた。少人数できめ細やかな指導を受けられ好評であった。 ④ ハローワークによる個別就職活動支援は、7月～8月にかけての利用が多かった。進路情報室の活用は、約180名であった。 上記①から④に関して、滞りなく実施することができた。全学キャリアセミナーおよびジョブカフェちばに参加した学生のアンケート結果は、概ね好評であった。学生さんが参加しやすい日程を調整し、多くの学生さんが参加できるように進めたい。
I	次年度の方策
	・国試の模擬試験については、各学科専攻の進路支援計画に基づき、継続して実施したい。 ・年3回のキャリアセミナー、ジョブカフェちばに関して、学生から概ね好評であったので、次年度以降も同様に実施したい。

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	加瀬 政彦・教授（栄養学科）
B	委員名	—学内委員— 小宮 浩美・教授（看護学科） 雨宮 有子・准教授（看護学科） 工藤 美奈子・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科）→10月から鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科）に変更 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 江口 洋・事務局長 —学外委員— 安村 勉・名誉教授（千葉大学法政経学部） 鎌田 浩二・准教授（千葉大学人文科学研究院） 竹内 治・弁護士（松本・山下総合法律事務所） 望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科） 島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）
C	部会名と部会員名	【動物実験研究倫理審査部会】 部会長：加瀬 政彦・教授（栄養学科） 部会員：細山田 康恵・教授（栄養学科） 栗田 和紀・助教（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科）
D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して、倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	・毎月の委員会での研究倫理審査申請に対する審査業務の着実な実行 ・今年度から開始した倫理審査の電子申請の定着 ・近年における政府の倫理指針の改訂に合わせた倫理審査過程を修正	

F 会議記録（含む部会の開催）		
開催日		主な議題
1	令和6年 4月10日	倫理審査申請案件の審査（10件：承認9件，条件付き承認1件）
2	令和6年 5月8日	倫理審査申請案件の審査（8件：承認2件，条件付き承認4件，保留2件）
3	令和6年 6月12日	倫理審査申請案件の審査（4件：条件付き承認1件，保留3件）
4	令和6年 7月10日	倫理審査申請案件の審査（10件：承認4件，条件付き承認4件，保留2件）
5	令和6年 9月11日	倫理審査申請案件の審査（8件：条件付き承認3件，保留5件）
6	令和6年 10月9日	倫理審査申請案件の審査（6件：承認1件，条件付き承認5件）
7	令和6年 11月13日	倫理審査申請案件の審査（3件：承認1件，条件付き承認2件）
8	令和6年 12月11日	倫理審査申請案件の審査（3件：保留3件）
9	令和7年 1月15日	倫理審査申請案件の審査（6件：条件付き承認4件，保留2件）
10	令和7年 2月12日	倫理審査申請案件の審査（13件：承認8件，条件付き承認2件，保留3件）
開催日		動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	令和6年 4月24日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
2	令和6年 5月9日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
3	令和6年 5月15日	倫理審査申請案件の審査（2件：承認2件）
4	令和6年 7月8日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
5	令和6年 9月20日	倫理審査申請案件の審査（1件：承認1件）
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和6年 4月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
2	令和6年 10月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
3	令和7年 3月14日	令和6年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H 評価（成果および改善事項）		
・研究倫理審査申請に対する審査業務を毎回十分な準備（各案件の事前チェックや担当者選任の事前通知や議題の確認，事務担当者とのコミュニケーションなど）をして着実に実行できた。 ・新たに本学ホームページを使用したオプトアウトによるインフォームドコンセント手続きを，そのための諸準備を経て，できるようにした。 ・電子申請を今年度はじめから開始したが，特に修正すべき大きなトラブルもなく実行できており，現時点ですべて		

の申請が電子申請になっている。 - 以下の倫理審査関連書類の新しい書式，1) 倫理審査申請書，2) 研究計画書，3) 説明文書，4) 研究終了・中止報告書，5) 研究経過報告書，を作成し学内公開した。 - 研究倫理審査委員会規程の一部改訂案を作成した。	
I	次年度の方策
- 現行の「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」が時代にそぐわない面が目だってきており，その取扱いの検討を要する。これはここ数年来の課題であり，特に現在進行中のデータの取り扱いに関する全学的な方針作成作業の結果と齟齬がないようにする。 - 本学教員の他学などへの転出時の，本学で行った研究で得たデータの取り扱いを検討する。 - 近年の倫理指針の改訂などに伴う倫理審査のあり方の変容を周知するためのFDの開催を検討する。 - オプトアウトの告知について，ホームページでの表示の仕方について見やすさなどを再検討し，必要があれば修正する。 - 電子申請について，現時点では学内委員に限定されている申請書類の電子ファイル化を学外委員にも適用可能か検討する。	

(9) 国際交流委員会

A	委員長名	谷内 洋子・教授
B	委員名	大谷 拓哉・教授（副委員長） 田口 智恵美・准教授 栞原 涼子・助教 岡村 太郎・教授 齋藤 勇輝・飯島 雄介（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項 6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
・国内外における国際交流活動を促進する。 ・多（異）文化交流を体得できる学びの機会提供に取り組む。・		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月11日	1. 令和6年度国際交流委員会活動目標と活動計画について 2. マヒドン大学学生との交流について 3. 学生対象のセミナー企画について 4. 令和6年度国際交流委員会予算について その他（次回委員会日程など）
2	令和6年 5月27日	1. マヒドン大学学生との交流イベントについて 2. 外国語による応急処置体験の日程について 3. アメリカ在住看護師による講演の日程について その他（今後のセミナー内容について）
3	令和6年 7月10日	1. 国際交流イベントについて（参加者人数の調整、当日行う内容の検討など） 2. 「海外で活躍する医療従事者による講演」について（開催方法など） 来年度委員会予算についての報告

4	令和6年 9月11日	1. マヒドン大学留学生との交流イベントについて振り返り 2. 「海外で活躍する医療従事者による講演」について（動画配信期間について） 3. 外国語による応急処置体験講習（R7.3 開催予定）について
5	令和6年 12月16日	1. 「海外で活躍する医療従事者による講演」について（配信中動画の視聴回数等） 2. 外国語による応急処置体験講習 3. 委員会規程について 4. 大学広報誌への記事掲載について（留学生交流会）
6	令和6年 12月19日 （神田外語大学 とのWeb会議）	1. 「第4回 外国語による応急処置体験講習」担当者について 2. 講習時間について 3. 募集人数と参加者数について 4. 講習の内容について 5. その他の準備について 6. 次回お打ち合わせ日程について
7	令和7年 2月19日 （神田外語大学 とのWeb会議）	1. 申込状況について 2. 昼食休憩のグループ分けについて 3. 修了証について 4. 「当日スケジュール及び連絡事項」について 5. 当日の受付について 6. 事後アンケートについて 7. 準備等について
8	令和7年 2月21日	1. 「第4回外国語による応急処置体験講習」：申し込み状況について 2. 「第4回外国語による応急処置体験講習」：前日・当日の準備について 3. 「第4回外国語による応急処置体験講習」：事後アンケート 4. その他：写真撮影、修了証について
9	令和7年 3月24日	1. 「第4回外国語による応急処置体験講習」：事後アンケート結果とふりかえり 2. 「海外で活躍する医療従事者による講演」について：事後アンケート結果とふりかえり 3. マレーシア国民大学学生との交流と施設（高齢者）訪問について 4. 来年度の活動計画について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
令和6年8月7日 （千葉大学西千葉 キャンパス） 14:30～16:00		EXCHANGE MEETING WITH マヒドン大学 千葉大学に短期語学留学中のタイ・マヒドン大学学生（6名）と本学学生（15名）との国際交流会を開催した。英語と日本語を交えての会話や学科紹介レクリエーションを通して、互いに異文化理解を深めることができた。グループに分かれてのフリートークでは、同年代の学生同士ということもあり、好きなアーティストやアニメの話などで大いに盛り上がり、約1時間半のイベント終了後もお互いに離れがたく、教室に残って交流している様子が見られ、参加学生からは、「言語の壁を低く感じるようになった」「勉学の意欲が高まった」などのコメントが寄せられ、有意義な国際交流会となった。この様子は本学広報誌に掲載された。 参加者：千葉県立保健医療大学15名・マヒドン大学留学生6名 教職員参加者：千葉県立保健医療大学7名・千葉大1名
（講演動画配信） 令和6年12月2日～ 令和7年1月6日		海外で活躍する医療従事者による講演 海外で活躍する医療従事者を講師に招き、アメリカの医療保険制度や各専門職の病院での実務、留学からキャリアアップについて講演いただいた。講師が海外在住のため、講演の様子は動画配信となったが、講師と学生有志とのweb対談という形式で、学生から直接講師へ質問する時間や意見交換する機会を設けることが出来た。学生からは「言語の壁を越えて医療の質を維持しようという工夫が印象に残った」「日本との違いを知って、より良い医療提供を行うために私たちにできることを考える良い機会となった」などのコメントが寄せられ、有

	意義な講演となった。 講師との対談参加学生：5名
令和7年3月8日 (幕張キャンパス・ B棟111・211) 9:30～15:40	第4回 外国語による応急処置体験講習 4回目を迎えた本講習は、両大学合わせて31名(定員30名)の学生参加応募があり、26名の学生が参加した。昨年度のセミナー事後アンケートでは、参加者より「両大学の交流が有意義であった」「もっと交流の時間があったら良かった」との声があがっていたことから、今年度は応急処置の際の英会話講義と手技の体験に加え、昼食時間も活用して、両大学の学生交流の時間を確保し、交流を通して互いに刺激を受け、成長の機会となった。 参加者：千葉県立保健医療大学13名・神田外語大学13名 教職員参加者：千葉県立保健医療大学12名・神田外語大学2名
H	評価(成果および改善事項)
	・昨年度の国際交流セミナー受講後アンケートにおいて、「実際に海外の方と交流する機会が欲しい」というコメントを踏まえて、今年度は多文化理解に加え、実際に海外の方と交流できる機会を学生に提供することを目標のひとつとした。初めての試みで、交流内容の検討にも苦労したが、委員のアイディアと献身的なサポートの下、タイの留学生との交流を実現することが出来た。今後も本学学生と留学生を含む海外の方と交流を持つことで、互いに多文化理解を深められるような機会を提供していきたい。 ・国際化が進むわが国において、社会の根幹を担う将来の保健医療専門職者である本学学生に、海外で活躍する医療従事者の講演を提供することにより、文化の違いから保険制度や働き方が日本と海外とでは異なること、キャリア形成の在り方について考えるひとつの機会となったと考える。今後は語学の習得という観点に加え、国際化が進むわが国の状況を鑑み、現下の国際情勢が学べるような講演会企画も検討したい。 ・神田外語大学と共催の「外国語による応急処置体験講習」は今年で第4回を迎え、令和6年度までの経験や反省を踏まえた講習構成、前年度を上回る学生参加者を達成することができた。参加学生からは、神田外語大学との交流イベントを増やして欲しいとの要望もあったことから、次年度は本講習以外にも共催できる企画を検討・実施していきたい。
I	次年度の方策
	・本学と神田外語大学の共催で行う「外国語による応急処置体験講習」は、次年度以降も継続開催する。また今年度取り組んだ、県内在住留学生(大学生)と本学学生との交流会イベントの企画・実施の継続、国際情勢が学べる講演会企画により、学生が多文化理解を深められるような機会を提供できるよう力を尽くす。

(10) 図書委員会

A	委員長名	石井 邦子・教授(看護学科) 図書館長
B	委員名	鈴木 亜夕帆・講師(栄養学科) 栞原 涼子・助教(歯科衛生学科) 稲垣 武・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 須藤 崇行・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 恵美子・教授(共通教育運営会議)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	・学生の図書館利用及び文献活用を推進する。 ・学生教育及び教員の研究活動に資する資料の収集・整備を継続する。 ・卒業生等の学外利用者の増加を図る。	

F 会議記録（含む部会の開催）		
開催日		主な議題
1	令和6年 4月18日	1 活動達成状況点検・評価表（2024年度）について 2 令和6年度の年間予定について 3 令和6年度委員会経費について 4 令和6年度定期購入図書について 5 令和6年度資料費予算配分について
2	令和6年 10月23日	1 2025年洋雑誌洋雑誌（冊子体）の更新について 2 2025年電子ジャーナル・データベースの更新について
3	令和6年 12月16日	1 図書委員会規程について 2 令和7年度図書館開館日の決め方について 3 全体調整予算の残額の使途及び配分方法について 4 役務費残額の使途及び配分方法について
4	令和4年 2月12日	1 令和6年度委員会活動評価について 2 令和7年度図書館開館カレンダー（案）について 3 令和7年度定期購読雑誌（案）について 4 仁戸名キャンパス図書館の除籍予定資料について
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	4月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	4月4日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）（全学科・専攻対象）
3	4月4日	図書館ガイダンス（幕張図書館見学）（看護学科2回，その他の学科・専攻各1回）
4	4月10日	図書館ガイダンス（仁戸名図書館見学）（理学療法学専攻2回，作業療法学専攻2回）
5	4月11日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）
6	6月6日	文献検索ガイダンス（作業療法学専攻3年生）
7	6月18日	文献検索ガイダンス（理学療法学専攻3年生）
8	6月末～ 3月末	文献検索ガイダンス（看護学科3年生）（オンデマンド動画配信）
9	9月～3月	文献検索セミナー「信頼できる医療系情報を探すには」（全学科3年生）（オンデマンド動画配信）
10	10月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
11	10月24日	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）
H 評価（成果および改善事項）		
- 卒業研究を控えた学生を対象に文献検索セミナーを1回，文献検索ガイダンスを5回実施した。 - 幕張図書館で1,479冊，仁戸名図書館で707冊の図書を新たに受け入れ，備品費予算のほぼ100%を執行した。		
I 次年度の方策		
- 学生が文献検索の情報を得る機会を増やすよう，全学共通のオンデマンド教材を作成する。 - 学科推薦図書の全体調整について，継続して評価する。また，推薦図書の貸し出し回数を確認し，推薦方法評価に活用する。		

(11) 社会貢献委員会

A	委員長名	木内 千晶・教授（看護学科）
B	委員名	渡辺 優奈・講師（栄養学科）
		鈴鹿 祐子・教授（歯科衛生学科）
		室井 大佑・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
		有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
		佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科）

C	部会名と部 会員名	なし
D	所掌事項	1. 公開講座の企画及び運営に関すること. 2. 教授会が付託した事項に関すること. 3. その他社会貢献活動に関すること.
E	年度当初の重点課題	
	1. 社会貢献に関する FD/SD を開催し、本学が果たす社会貢献の質向上に努める. 2. 研究成果を踏まえた公開講座を企画・実施する. 3. 県民の生活の場における健康づくりに資するほい大健康プログラムを企画・実施する.	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月24日	1. 活動達成状況点検・評価表（2024年度）について 2. 活動予定・役割分担について 3. 委員会経費について 4. 公開講座テーマ・方法・日程について 5. FD について 6. 大学ホームページ 研究・活動紹介（地域貢献）の更新について 7. ほい大健康プログラム報告書について 8. 公開講座報告書の発送について 9. 委員会業務の流れマニュアル作成について
2	令和6年 5月21日	1. 公開講座のチラシ・ポスターデザインについて 2. ほい大プログラムの日程について 3. FD について
3	令和6年 7月22日	1. 公開講座のポスターデザインについて 2. 公開講座の配布部数等チラシ・ポスターに係る仕様書について 3. 公開講座報告書の公表の方法について 4. ほい大健康プログラムについて
4	令和6年 9月24日	1. 公開講座の役割分担について 2. 公開講座参加者アンケートについて 3. 公開講座開催前司会者注意事項について 4. ほい大健康プログラムについて 5. 公開講座について 6. FD・SD について
5	令和7年 1月20日	1. ほい大健康プログラム幕張キャンパスの実施について 2. FD・SD について 3. 公開講座参加者アンケート結果について
6	令和7年 3月18日	1. 委員会活動状況報告書について 2. 委員の業務分担（スケジュールについて）の引継ぎについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 10月13日	公開講座（対面・オンライン ハイブリッド）メインテーマ「健康な未来へ」 ・リハビリテーション学科作業療法学専攻 有川真弓「子どもの健康な未来につながるあそびのススメ」 ・栄養学科 谷内洋子「若い世代からのヘルスケア～次世代につながる健康とプレコンセプションケアについて～」 ・歯科衛生学科 佐々木みづほ「お口と全身の関係～お口の衰えは『寝たきり』への第一歩！？～」 看護学科 木内千晶「健康な老後に向けて～開いてみよう人生会議～」

2	令和6年 10月12日	UR とのほい大健康プログラム 第1回 看護学科「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」 栄養学科「食事について考えてみましょう 知っておきたい栄養素の働き」
3	令和6年 11月2日	いすみ市とのほい大健康プログラム第1回 看護学科「よい「眠り」とは」 作業療法学専攻「余暇活動から健康づくり -楽しくエクササイズ体験-」
4	令和6年 11月9日	UR とのほい大健康プログラム 第2回 歯科衛生学科「定期的な歯科受診のメリット」 理学療法学専攻「健康状態を知ろう-運動から始める健康づくり-
5	令和6年 11月23日	いすみ市とのほい大健康プログラム第2回 栄養学科「健康的な食習慣を心がけよう 食事のバランスと減塩の工夫」 理学療法学専攻「ストップ！生活習慣病 自宅でもできる運動」
6	令和7年 1月25日	幕張キャンパスでのほい大健康プログラム第1回 歯科衛生学科「お口の老化（口腔機能の低下）を予防しよう！」 作業療法学専攻「認知能力を保つ生活の工夫」
7	令和7年 2月15日	幕張キャンパスでのほい大健康プログラム第2回 看護学科「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」 栄養学科「冬こそ油断大敵！-家庭で気をつけたい食中毒のポイント-
8	令和7年 3月18日	社会貢献委員会 FD 歯科衛生学科 島田美恵子「社会貢献への理解を深める：色々な社会貢献の方法（地域連携）」
H	評価（成果および改善事項）	
1. 社会貢献の地域連携について、学内教員に具体的な実践内容を講演いただき、理解を深めるFDを企画できた。 2. 公開講座のハイブリッド形式について概ね肯定的な意見であった。年1回開催の変更に伴い1講演あたりの時間は短縮されたが、それによる否定的な意見はなかった。 3. ほい大健康プログラムは社会実習履修学生およびボランティア学生の参加により、参加者と学生の双方に良い影響があった。		
I	次年度の方策	
・ 公開講座はスライド投影や音声に関するトラブルを回避しハイブリッド型を継続する。公演数は4学科2専攻の5講演にするか検討する。 ・ ほい大健康プログラムは参加者確保に努めていく。学生参加は社会実習とボランティアがあるため学生の協力体制を整備する。		

3) 管理運営部門委員会群

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	平岡 真実・教授（栄養学科）
B	委員名	佐藤 紀子・学部長 細山田 康恵・学生部長 石井 邦子・図書館長 酒巻 裕之・歯科診療室長（兼）歯科衛生学科長 河部 房子・看護学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 堀本 佳誉・理学療法学専攻科長 山本 達也・共通教育運営会議長 江口 洋・事務局長
C	部会名と 部会員名	【自己点検・評価実施推進部会】 部会長：江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 部会員：雨宮 有子・准教授（看護学科） 荒井 裕介・准教授（栄養学科）

		栞原 涼子・助教（歯科衛生学科） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 【認証評価部会】 部会長：石川 裕子・教授（歯科衛生学科）（9月まで） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）（10月～） 部会員：佐伯 恭子・講師（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）（9月まで） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科）（10月～） 土屋 智和・副主査（事務局企画運営課） 【教育研究年報作成部会】 部会長：金澤 匠・准教授（栄養学科） 部会員：成 玉恵・講師（看護学科） 中山 静和・助教（看護学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 土屋 智和・副主査（事務局企画運営課） 【IR部会】 部会長：佐久間 貴士・講師（広報委員会） 部会員：平岡 真実・教授（自己点検・評価委員会） 浅井 美千代・教授（入試改革検討委員会） 渡辺 優奈・講師（広報委員会） 室井 大佑・助教（教務・進路支援委員会） 松尾 真輔・講師（進路・学生・総務委員会） 土屋 智和・副主査（事務局企画運営課） 芳野 真美子・副主査（事務局学生支援課）
D	所掌事項	【自己点検・評価委員会】 1. 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項 2. 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 3. 自己点検・評価の実施に関する事項 4. 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項 5. 認証評価に関する事項 6. その他自己点検・評価に関する事項 【教育研究年報作成部会】 1. 教育研究年報に関する事項 【自己点検・評価実施推進部会】 1. 自己点検・評価の実施計画等の策定に関する事項 2. 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 3. 自己点検・評価の実施に関する事項 【認証評価部会】 1. 認証評価に関する事項 【IR部会】 1. 自己点検・評価に関する情報収集、蓄積と分析に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する 2 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を進める 3 IRの機能を促進する 4 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する	

F 会議記録（含む部会の開催）		
開催日		主な議題
1	令和6年 4月24日	・委員会活動目標について
2	令和6年 7月29日	・学内組織図の改正について
3	令和6年 12月23日	・規程改正について ・学内組織図・内部質保証体系図の改正について
4	令和7年 1月27日	・委員会の活動達成状況点検・評価表について ・学内組織図の改正 報告
5	令和7年 3月24日	・令和6年度委員会活動達成状況点検・評価報告書について ・認証評価の指摘事項への対応 進捗状況 報告 ・教育研究年報 活動記録集計 報告
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】
1	令和6年 12月4日～13日 (teams 内審議)	・令和6年度版教育研究年報の作成スケジュールと依頼用書類について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	令和7年 1月6日～9日 (teams 内審議)	・2022年認証評価時に指摘された「改善を要する点」と「進展が望まれる点」の今年度進捗状況の確認方法について
2	令和7年 2月14日～17日 (teams 内審議)	・今年度の各部署進捗状況に関する記載の修正について
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	令和6年 12月24日	・業務内容の確認と前年度からの改善点の反映 ・スケジュールと役割分担の検討
2	令和7年 2月18日 (メール審議)	・業務内容の最終確認 ・スケジュールや評価方法等の最終確認
3	令和7年 3月7日 (メール審議)	・「委員会活動達成状況点検・評価報告書」の最終確認
開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【IR部会】
1	令和6年 9月11日	・卒業生調査の実施状況及び同窓会名簿等の状況について
2	令和6年 12月13日 (Teams 開催)	・本学独自の卒業時調査について ・1年生調査と上級生調査について (IR コンソーシアム)
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H 評価（成果および改善事項）		
①・「委員会活動達成状況点検・評価報告書」令和5年度を学内・学外公開した。 ・令和6年度版は作成プロセスを改善済みかつ準備を整え、例年通り3月下旬に完成した。 ・令和5年度教育研究年報は予定通り12月に発行した。令和6年度年報の執筆依頼は2月におこなった。 ②・認証評価の評価報告書における9つの指摘事項について、改善に向けた取り組みの今年度の進捗状況を各担当部		

署に確認した。	
③・令和5年度卒業時調査結果を6月に報告した。今年度の調査は質問内容精査を終えてFormsで3月中旬までに実施した。	
・IRコンソーシアムの学生調査（1年生、4年生対象）を実施した。	
・卒業生調査結果を8月に学外公開した。	
・IR部会でINDEX作業を継続して実施した。	
・教育研究年報の学科・専攻の量的データ集約を、教育研究年報作成部会で昨年度に続き収集した。	
④・大学組織図および内部質保証システム体系図の改正をはかった。	
I	次年度の方策
①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。各委員会の所掌の確認や連携の検討を継続する。	
② 大学機関別認証評価の評価報告書における指摘事項への対応を進める。	
③ IRの機能の促進をはかり、分析データの公表にあたっては計画的に実施する。	
④ 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しを提言する。	

(2) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科長） 平岡 真実・教授（栄養学科長，自己点検・評価委員長）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（看護学科，学部長） 石井 邦子・教授（看護学科，図書館長） 細山田 康恵・教授（栄養学科，学生部長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，副学長，歯科診療室長） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻長，共通教育運営会議長） 江口 洋（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 キャンパス統合の検討に関する事項 2 大学院設置の検討に関する事項 3 公立大学法人化等の検討に関する事項 4 地域貢献の拠点づくりの検討に関する事項 5 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
① 千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する		
② 社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する		
③ 保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する		
④ 自律的な大学運営に向けた検討を行い，本学の方針を明確にする		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月22日	1 今年度の委員会活動目標について 2 重点施策の目標管理について
2	令和6年 5月27日	1 令和6年度重点施策目標・評価指標について
3	令和6年 8月26日	1 令和6年度 保健医療大学取り組み報告会プログラムについて
4	令和6年 10月7日	1 令和6年度 保健医療大学取り組み報告会プログラムについて 2 保健医療大学機能強化調査検討会議について

5	令和6年 10月29日	1 令和6年度 保健医療大学取り組み報告会プログラムについて 2 保健医療大学機能強化調査検討会議について
6	令和7年 1月27日	1 令和6年度重点施策評価について 2 委員会活動達成状況点検・評価表について 3 教員懇談会開催案について
7	令和7年 3月3日	1 令和6年度重点施策評価結果について 2 大学院設置に向けたスケジュールと今後の進め方について 3 情報共有会開催について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 11月7日	令和6年度 保健医療大学取組報告会 会場：千葉県庁本庁舎 11 階健康福祉部会議室 出席者：健康福祉部 16 名，保健医療大学 13 名 内容： 1 大学の概要及びこれまでの取組と成果 将来構想検討委員会委員長 河部 房子 2 主な取組の紹介 (1) 研究的取組 ・Covid-19 前後の特定健康診査・後期高齢者健康診査のデータ解析から導出された健康指標の現状と課題 ―自治体との協働から― リハビリテーション学科作業療法学専攻 成田 悠哉 (2) 専門職の質向上を図る取組 ・地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発 看護学科 木内 千晶 ・県健康福祉部との連携による歯科衛生士のリカレント教育の実践報告 歯科衛生学科長 酒巻 裕之 3 今後に向けて（意見交換）
2	令和7年 3月18日	将来構想にかかる情報共有・意見交換会 日時：令和7年3月18日（火）13：30～14：20 会場：本学大講義室 対象：全教職員 内容： 1) 趣旨説明 2) 保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議に関する情報共有 検討の概要について（龍野 一郎 学長） ①保医大が養成すべき人材像 ②教育内容と必要な組織等 ③立地および施設・設備，運営主体 ④機能強化の進め方 3) 質疑応答・意見交換
H	評価（成果および改善事項）	
・今年度より新たな重点施策に基づいた取組がスタートされた。重点施策の目標管理については、4 月に、今年度および今後 5 年間の目標について、関連委員会や学科専攻にて検討を依頼した。今年度の目標と評価指標については、点検のための体制を整備し、6 月の全学運営会議で承認された。達成状況についても委員会で検証し 3 月の運営会議で報告することができた。 ・今年度は「保医大の機能強化に向けた調査検討事業」が実施された。本事業の進捗について、検討会議への陪席により情報収集を行うと共に、学内ヒアリングや他大学の視察等、検討事業に関連した要請に適宜対応し、委員会の中でも情報共有をはかった。さらに、検討会議の経緯や検討内容に関する情報共有会を実施し、全教職員への情報提供を行った。		

毎年実施している県取組報告会において、本学の取組事業や研究結果に関する報告を行い、活発な意見交換ができた。報告会での意見交換を通して本学のシンクタンク機能としての役割を再度共有し、さらに現在進められている本学の機能強化に向けた検討事業における連携強化につなげるという点で意義があったといえる。	
I	次年度の方策
- 重点施策については、これまでと同様に、関連する委員会や学科専攻における重点施策推進にむけ、目標設定と評価が適切に進められるよう目標管理を行う。 「保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業」については、次年度10月を目処に基本方針が決定され、大学院設置や法人化に向けた具体的な準備が開始される。その進展にあわせて、委員会として検討が必要な事項については、事務局との連携をはかりながら検討を進める。あわせて教職員へのタイムリーな情報提供・意見集約に努め、適宜、教員懇談会などを開催する。 - 県への取組報告会は設置主体である県と大学間の意思疎通をはかる貴重な機会であり、大学の役割や意義を理解していただく上で継続的に実施していくことが重要である。大学の機能強化に向けた検討が進められている現在、より有意義な意見交換の場となるよう開催内容を検討する。	

(3) 総務・企画委員会

A	委員長名	山本 達也・教授（リハビリテーション学科 作業療法学専攻・共通教育運営会議）
B	委員名	北川 良子・准教授（看護学科） 荒井 裕介・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科）（令和6年4月1日～9月30日） 大川 由一・教授（歯科衛生学科・副学長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科 作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項 3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
① 優先順位に基づく学内環境（プロジェクター，教室の机・椅子，空調設備等）の整備		
② 令和7年度に向けた予算要求		
③ 整備計画に基づく学習環境設備の進捗状況の検証，教員および学生による継続的な評価		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月9日	1 令和6年度共同研究費の余りについて
2	令和6年 4月22日	1 令和6年度スケジュールについて 2 総務・企画委員会活動達成状況点検・評価表（2024年度）について 3 令和6年度全学整備用備品の優先順位について 4 令和7年度備品費・修繕費の当初予算要求について 5 施設管理規程及び消防計画（幕張キャンパス）の改正について
3	令和6年 5月27日	1 令和6年度以降の重点施策目標について 2 令和6年度机・椅子の整備について 3 令和6年度委員会経費について
4	令和6年 6月17日	1 令和7年度当初予算について

5	令和6年 7月22日	1 令和7年度当初予算について 2 カーテンのクリーニングについて
6	令和6年 9月13日	1 令和6年度10月以降の委員会日程表について
7	令和6年 11月18日	1 学内委員会規程の改正について
8	令和7年 2月10日	1 人事評価規程の改正について 2 学内委員会規程の改正について
9	令和7年 3月10日	1 教育・研究予算の配分について 2 令和7年度全学整備備品について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
〔達成事項〕 上記に掲げた活動計画については概ね達成されたと考えられる。特に図書館棟大講義室は授業だけでなく様々な説明会やセミナーでも使用されるため、大型スクリーンのプロジェクターが交換できたことの意義が大きいと考えられる。 〔評価結果の理由と改善策〕 毎年の卒業生アンケートで設備についての意見が多数あがり、整備途中のものも多数あるため、引き続き様々な設備の整備を行っていくことが重要である。		
I	次年度の方策	
未整備箇所について計画通り順次整備していくとともに、エアコンやプロジェクターの故障など突発的な事案で緊急で対処が必要な事柄は柔軟に対応していくことが重要である。		

(4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科）
B	委員名	今井 宏美・准教授，杉本 健太郎・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授，渡辺 優奈・講師（栄養学科） 酒巻 裕之・教授，佐々木 みづほ（歯科衛生学科） 稲垣 武・講師，（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 藤田 佳男・教授，（リハビリテーション学科 作業療法学専攻） 橋本 和幸・教授，佐久間 貴士・講師（共通教育会議） 土屋 智和，廣田 龍人（事務局担当）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 印刷物を活用した広報に関する事項（大学案内等入試広報を除く。） 2 ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3 その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月23日	1 目標について 2 委員会スケジュールについて 3 予算について

		4 オープンキャンパスについて 5 高校生を対象とした模擬授業&キャンパスツアー（仁戸名）開催について
2	令和6年 5月13日	1 重点施策について（資料） 2 オープンキャンパスについて 3 広報誌（令和7年度発行）ページ数について
3	令和6年 6月13日	1 重点施策について（資料） 2 オープンキャンパスについて 3 広報誌（令和7年度発行）ページ数について
4	令和6年 7月18日	（メール審議） 1 オープンキャンパス 2024 振返りにについて 2 本学 HP で web マガジンから発行される記事の紹介について
5	令和6年 9月9日	1 オープンキャンパスについて 2 大学案内の編集について 3 広報誌の編集について 4 ホームページ掲載スケジュールについて 5 パワーポイントのテンプレートについて 6 リハビリテーション学科 キャンパスツアー等について
6	令和6年 10月15日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について 3 ホームページ更新チャートについて
7	令和6年 11月18日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について 3 令和7年度オープンキャンパスの日程について
8	令和6年 12月16日	1 大学案内の編集について 2 令和7年度オープンキャンパスの日程について
9	令和7年 1月20日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について
10	令和7年 2月17日	1 大学案内の編集について 2 広報誌の編集について 3 委員会活動達成状況点検・評価表（2024年度）について
11	令和7年 2月21日	（メール審議） 1 重点施策年度目標に対する評価について
12	令和7年 3月10日	1 大学案内 2027 編集方針について 2 令和6年度発行広報誌編集について 3 令和7年度発行広報誌編集について 4 大学の広報活動に関するアンケート（新入生対象）について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 7月13, 14日	オープンキャンパス
H	評価（成果および改善事項）	
オープンキャンパス来場者は2日間で学科専攻の延参加者数は2,079名であった。家族連れの来校者があったこと、昨年度より参加者が増加した学科・専攻のブースがあったことから、目標を達成する来校者数であった。 SNS による本学の情報発信について、オープンキャンパスや公開講座などの行事、専攻の活動紹介などの情報発信は30件（2025年3月現在）の広報活動を行った。 受験情報サイトへの情報発信について、受験情報サイトの営利目的が明白で本学の有益となることが考えられにくいことから、受験情報サイトの活用は行わないことになった。		

ホームページを用いた大学の活動の広報について、教員の研究に関するインタビュー記事が掲載されたホームページを紹介するコーナーを設定したり、広報誌アーカイブを掲載したりして、ホームページの充実を図った。 ホームページ更新に係る所掌について、各所掌のガントチャートを作成し、スケジュールに沿った所掌を遂行したうえで、予定通りホームページを更新できるようにした、	
I	次年度の方策
来場者の予約時間や動線を再検討し、来場者の増加を図り、また待ち時間を少なくして過ごすことができるように工夫する。 ホームページの更新を継続する。 ホームページ更新に係る所掌の計画を明確にして、確実な更新ができるようなシステムを構築する。 大学案内、広報誌を編集・発行する。 「ゆめナビ」等の受験情報サイトに、大学の情報発信について検討する。	

(5) 情報システム委員会

A	委員長名	大川 由一・副学長（歯科衛生学科）
B	委員名	東辻 朝彦・助教（看護学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科/共通教育会議） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 町田 昌実・課長/水貝 朋子・課長，飯島 雄介・副主査 飯田 貴樹・主事（事務局担当）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 情報セキュリティポリシーに関する事項 2 教職員及び学生の情報リテラシー教育に関する事項 3 情報セキュリティに関する事項 4 学内情報システムに関する事項 5 その他情報システムに関する事項
E	年度当初の重点課題	
1) 情報セキュリティポリシーを運用し、必要に応じて見直し・改善を図る。 2) 学内ネットワーク，教員用PC等のメンテナンスおよびトラブルに対して組織的に取り組む。 3) 次期情報システムへの移行に向けた準備を進める。		
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月15日	1 委員会活動達成状況点検・評価表（2024年度）の目標及び目標達成のための具体的な活動計画について 2 情報システムに係る問い合わせ及びトラブルへの対応について 3 情報セキュリティポリシーの改正（案）について 4 Microsoft365 利用に係る多要素認証の導入について
2	令和6年 12月16日	1 学内のPC購入や学内システム接続に関する運用ルールについて 2 新システムの新機能の運用開始時期及びマニュアルについて 3 学生の成績情報利用について
3	令和7年 1月20日	1 セキュリティポリシーの改正について 2 実習依頼書への学生氏名の記載について
4	令和7年 2月21日	1 2024年度システム更改について 2 「学内情報ネットワーク紹介及び運用ルール」の資料について 3 「PCトラブルが起きたときは」の資料について 4 Microsoft Office のマニュアル等について

G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
1) 本学の情報セキュリティポリシーは、千葉県の「基本方針」及び「対策基準」に従うことになるため、これまでのセキュリティポリシー、運用規程、対策基準を新たな情報セキュリティ運用規程に集約化した。 2) 学内ネットワーク、教員用 PC 等のメンテナンスおよびトラブルに対しては、第 1 段階として、各学科専攻の委員がトラブル発生等の報告を受ける窓口となり、過去の事例や自身の知識等で解決可能な場合は即座に対応することとした。委員による解決が難しい場合は、第 2 段階として、情報システム委員会で共有し、他の委員や事務局と相談・共有の上、解決に向けて動くという体制を構築した。 3) 次期情報システムへの移行に向けて学内情報システム更改作業が令和 7 年 1 月末までに 5 回実施され、以下のとおり設備の更改を行い学内の PC 及びネットワーク環境の改善が図られた。また、「Microsoft365 A3」導入に伴うデスクトップ版 Office の教員、学生へのライセンスの付与が 1 月末までに終了し、教員に新たな PC が配布された。今後マニュアル配付を教員、学生向けに行う予定である。CampusPlan への外部アクセス（成績照会、履修登録）は、当初の予定より前倒し、今年度末に運用することとなった。 以上より、当初に掲げた 3 つの重点課題（情報セキュリティポリシーの改正、情報システムに係る問い合わせ及びトラブルへの対応、次期情報システムへの移行に向けた準備）は、概ね達成されたと考えられる。		
I	次年度の方策	
システムの新たな機能として、学生向け発行証明書（成績証明書等）のオンライン申請及びコンビニ発行が追加され、4 月からの運用が予定されている。今後、マニュアルの作成を含め、適切な管理・運営が必要となる。		

(6) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：龍野 一郎・学長
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（幕張衛生管理者・歯科衛生学科） 山本 達也・教授（仁戸名衛生管理者・リハビリテーション学科作業療法学専攻） 宗雪 正美先生（産業医・自由が丘クリニックソフィア院長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和 6 年 4 月 22 日～30 日	1 開催日程及び開催方式について 2 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について
2	令和 6 年 5 月 21 日～28 日	1 産業医による職場巡視日程について 2 メンタルヘルス講師派遣研修の実施について 3 その他報告（環境測定結果の日程変更、各種健康診断の通知等）
3	令和 6 年 6 月 26 日～7 月 3 日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 メンタルヘルスケア研修の結果報告について 3 作業環境測定結果について

4	令和6年 7月23日～31日	1 メンタルヘルスケアプランの策定について 2 熱中症の予防について 3 その他報告(ストレスチェックの実施事務従事者、各種健康診断の通知等)
5	令和6年 8月16日～27日	1 職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 その他報告(各種健康診断の通知等)
6	令和6年 9月24日～30日	1 ストレスチェックについて 2 全国労働衛生習慣の実施について 3 その他報告(各種健康診断の通知等)
7	令和6年 10月24日～31日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 その他報告(各種健康診断の通知等)
8	令和6年 11月22日～29日	1 インフルエンザについて 2 その他報告(各種健康診断の通知等)
9	令和6年 12月12日～24日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 令和6年度衛生管理者等担当者向け参考資料について
10	令和7年 1月17日～24日	1 年次休暇について 2 その他報告(空気環境測定等)
11	令和7年 2月17日～25日	1 産業医による職場巡視結果の報告及び次回の日程について 2 健康診断未受診者について
12	令和7年 3月6日～13日	1 来年度の職場巡視について 2 その他報告(化学物質に係る改正通知等)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 6月24日	地方職員共済組合千葉県支部主催 メンタルヘルスケア研修
2	令和6年 8月30日～10月4日	県職員対象 ストレスチェック
H	評価(成果および改善事項)	
	・学外産業医とともに、教職員のメンタルを含めた健健全な教育環境、職場環境の改善に努めた。今後とも継続的な取り組みと努力が必要である。	
I	次年度の方策	
	学内の学生・教職員の労働衛生環境の保持・改善に努め、良好な職場環境を維持する。特に、メンタル対策、各種ハラスメント対策を強化して安心・安全な環境を作る。	

(7)危機管理委員会

A	委員長名 副委員長名	春日 広美・教授(看護学科) 菊池 裕・教授(栄養学科)
B	委員名	北川 良子・准教授(看護学科) 細山田 康恵・教授(栄養学科) 橋本 和幸・教授(共通教育) 佐々木 みづほ・准教授(歯科衛生学科) 佐久間 貴士・講師(歯科衛生学科) 江戸 優裕・講師(リハビリテーション学科理学療法専攻) 松尾 真輔・講師(リハビリテーション学科作業療法専攻) 水貝 明子(企画運営課長)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項

E	年度当初の重点課題	
	1) ChatLuck を活用した確実な緊急時の連絡体制を整備する 2) 千葉県の BCP（事業継続計画）と接続した災害対応を整備する 3) 地震発生の想定を盛り込んだ防火訓練を実施する	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和 6 年 4 月 8 日	1. 副委員長の選出 2. 令和 6 年度 会議開催日の確認 3. 今年度の活動計画について 4. 活動計画に基づく作業分担について ・第 1 班：教職員への ChatLuck 利用の準備について ・第 2 班：千葉県 BCP と災害対応（危機対策）初動マニュアルとの接続をふまえた見直し ・第 3 班：地震発生＋火災想定訓練シナリオの作成と実施
2	令和 6 年 5 月 13 日	1. 幕張キャンパス避難訓練の実施について ・地震発生のシナリオを盛り込んだ実施計画について ・現在までの準備状況の確認と課題 2. 2024 年 4 月 18 日実施の緊急連絡実施結果の報告 3. 各委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検について ・学生委員会、教務委員会
3	令和 6 年 6 月 10 日	1. 幕張キャンパス避難訓練の実施について ・改変した実施計画の確認と検討 ・防災訓練の事後アンケートの検討 2. ChatLuck の運用と次回の訓練時期の検討について 3. 各委員会が対応する危機管理対応マニュアル等の点検の報告 ・学生委員会
4	令和 6 年 7 月 8 日	1. 次年度、幕張キャンパス避難訓練、仁戸名キャンパス避難訓練について 2. ChatLuck の運用の検討 3. 幕張キャンパス避難訓練アンケート結果報告 4. ChatLuck テスト訓練の結果報告
5	令和 6 年 9 月 9 日	1. 8 月の地震・台風による影響及び 8 月 16 日（金）の大学閉鎖の対応について 2. 8 月 21 日（水）実施、情報伝達訓練の結果報告 3. 卒業生アンケート（危機管理に関する）内容の検討 4. 令和 6 年度 防災訓練（仁戸名キャンパス）の実施について 5. 令和 7 年度 防災訓練の日程の検討 6. 「災害対応（危機対策）初動マニュアル 2024 暫定版」の見直し、検討
6	令和 6 年 10 月 21 日	1. 令和 7 年度の防災訓練の日程について 2. 災害対応（危機対策）初動マニュアル 2024 の見直し
7	令和 6 年 11 月 11 日	1. 仁戸名キャンパス防災訓練のアンケートの検討 2. 災害対応（危機対策）初動マニュアル 2024 の見直し
8	令和 6 年 12 月 9 日	1. 令和 7 年度防災訓練の日程・実施内容について 2. 災害対応（危機対策）初動マニュアル 2024 の見直し 3. 不審者対策について 4. 情報システムの災害対策マニュアルの検討報告
9	令和 7 年 1 月 21 日	1. 令和 7 年度防災訓練について 2. 「災害対応（危機対策）初動マニュアル 2024」の審議 3. さすまたの設置場所について（各キャンパス）
10	令和 7 年 2 月	審議が必要な議題、報告がないため流会

11	令和7年 3月19日	1. 令和7年度防災訓練について 2. 災害対応配備体制兼自衛消防隊の編成について 3. R7年度危機管理委員会 活動目標等 引継ぎ内容 4. 災害対応（初動）マニュアル FDの準備状況と開催方法の報告
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和6年 6月21日	幕張キャンパス防災訓練
2	令和6年 11月13日	仁戸名キャンパス防災訓練
3	令和7年 3月24日～ 4月7日	FD・SD開催「改訂版 災害対応（危機対策）初動マニュアル」（オンデマンド）
H	評価（成果および改善事項）	
1) ChatLuck を活用した確実な緊急時の連絡体制の整備 全教職員への周知およびDLの支援を行った。DL マニュアルは企画運営課担当者が作成した。ChatLuck での緊急時連絡の訓練は、4月18日、8月21日に実施した。4月は整備が不十分で、一部、電話連絡を併用した。8月は学内対象者102名で実施し、30分以内の返信が73.5%を占めた。一方、24時間以上連絡がない者が3名いた。今回は学科内の安否確認をとりまとめる学科長がChatLuck 配信を受け取れていない状況があった。現実の災害時にも取りまとめ役が受信できないことは十分に考えられるため、確認連絡ができない場合の代替手段を決める必要があるとわかった。 2) 千葉県のBCP（事業継続計画）と接続した災害対応の整備 千葉県のBCPを確認し、現存の関連マニュアル等との整合性を点検して改訂版を作成し、大学運営会議で承認を得た。主な変更点は、教員の自動配備の変更に対応させ、また、自衛消防隊と災害対応（危機対応）初動マニュアルの初動配備体制をリンクさせた。これによって全教職員が災害時に何らかの役割を持つことになる。また、学生の安否確認は関連委員会（学生委員会、教務委員会）と連携させた。改訂版災害対応（危機対応）初動マニュアルをオンデマンドFDで開催して周知した。 3) 地震発生の想定を盛り込んだ防災訓練の実施と準備 幕張・仁戸名の両キャンパスとも、地震発生＋火災想定シナリオで訓練を行った。仁戸名キャンパスはこれまでも地震を想定した訓練を行っていたため大きな変更はなかった。幕張キャンパスでは、訓練シナリオに「震度6が発生した」を導入した。地震時の液状化を想定して、例年の校庭ではなく駐車場への避難が望ましいが、訓練日の職員の車の移動が必要など、準備不足があつて実現できなかった。次年度の訓練は6月27日（金）5限にコマをとって実施する予定である。		
I	次年度の方策	
1) ChatLuck での安否確認では、スマートフォンの機種変更などの個人のデバイス整備の支援を行う。 2) 取りまとめの学科長に異変があった場合に備えて、学科ごとに補佐を決めておく。 3) 地震・津波・火災に対応する避難訓練を両キャンパスで実施する。特に幕張キャンパスでは主に全学1年生を対象に1コマの時間をとって実施する。十分な準備を行い実施に臨む。		

(8) 人事委員会

A	委員長名	神田 みなみ・教授（学長指名） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長・作業療法学専攻長）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（学部長） 河部 房子・教授（看護学科長） 平岡 真実・教授（栄養学科長） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科長） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長） 山本 達也・教授（共通教育運営会議長）

		江口 洋・事務局長（事務局） （事務担当：美内 小夏・企画運営課）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置，教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項
E	年度当初の重点課題	
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月26日～5月1日 （メール審議）	1 人事委員会活動達成状況点検・評価表（2024年度）目標設定について
2	令和6年 5月28日	1 教員資格審査委員会の設置について
3	令和6年 6月25日	1 令和6年度教員組織の定期的検証について
4	令和6年 7月8～11日 （メール審議）	1 教員資格審査委員会の設置について 2 報告：令和6年度教員組織の定期的検証について
5	令和6年 8月28日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員資格審査委員会の委員選出について 3 本学における大学院設置を見据えた応募書類について
6	令和6年 9月27日～10月2日 （メール審議）	1 教員資格審査委員会の設置について
7	令和6年 12月18日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 報告：基幹教員制度について 3 人事委員会関連規程について
8	令和7年 1月28日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 人事委員会活動達成状況点検・評価表（2024年度）について 3 2022年度認証評価その後の進捗状況（2024年度）報告について
9	令和7年 2月21日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 その他
10	令和7年 3月24日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 その他
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
1 教員組織の定期的検証を実施した。 1) 令和6年度「教員組織の定期的検証」を実施し，大学運営会議へ報告した．概ね基準に達していると評価された． ・「管理栄養士養成」に5月段階で1名欠員があったが10月助教採用により解消した． 2) 基準を十分満たすために，教員組織編成の検討が必要とされる項目を明らかにした． ・「男女比」概ね許容内であるが，理学療法学専攻は女性0%で，今後改善が望まれる． ・「博士号取得率」講師53%（目標70%）と助教18%（目標40%）の改善が望まれる．		

2 教育の質を継続的に保証するため、本学の「主要科目」と認める「専門必修科目」について、教授又は准教授が担当する比率を高めるよう委員会は教員組織の検討を続けてきた。理学療法学 87%(昨年度 66%)・作業療法学 75%(昨年度 48%)の両専攻が大幅に改善し、全学平均も 84%(昨年度 73%)となった。リハビリテーション学科の教授・准教授増と欠員解消、および専攻での専門科目担当者の再検討により改善が実現できた。	
I	次年度の方策
1「教員組織の定期的検証」を5月1日基準で毎年行い、教員組織の管理・点検を継続する。 2 教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。(大学認証評価結果)	

(9)教員再任審査委員会

A	委員長名	小宮 浩美・教授（看護学科）
B	委員名	大川 由一・教授（歯科衛生学科） 加瀬 政彦・教授（栄養学科） 堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 江口 洋（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
・審査方法に則って適正に教員再任審査を実施する。 ・令和7年度4月1日施行の新規における審査項目や方法について、学内者に周知するとともに運用における問題点を解決する。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和6年 4月19日 （対面開催）	1. 2024年度委員会活動目標・計画 2. 審査対象者（3名）の確認 3. 審査の手順・様式 4. 再任審査の審査方法 5. 審査部会による審査体制 6. 令和7年4月1日施行の規程にかかる周知方法
2	令和6年 5月13日 （対面開催）	1. 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2. 審査結果の通知文について 3. 再任審査に係る規程改正についての周知方法 4. 教員再任審査手続きの流れ及び日程
3	令和6年 10月2日 （対面開催）	1. 審査対象者（4名）の確認 2. 審査の手順・様式 3. 再任審査の審査方法
4	令和6年 10月28日 （対面開催）	1. 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2. 審査結果の通知文 3. 来年度前期分の審査
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし

H	評価（成果および改善事項）
今年は再任申請者が多い年ではなかったため、専門部会は設置せず、委員のみであったが、滞りなく審査を実施することができた。また、令和7年度から導入される審査項目や方法について周知できた。	
I	次年度の方策
次年度は新しい規程での審査となるため、審査者間で齟齬がないよう、審査項目や審査方法について確認しながら審査を実施する必要がある。また、再任審査の公平性・透明性の確保に向けた課題がないか検討し、必要時は規程や審査方法、様式の見直しを行う。	

(10) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
B	委員名	大川 由一、佐藤 紀子、細山田 康恵、江口 洋、田中 順子、増井 起代子
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	北川 良子、加藤 隆子、渡辺 健太郎、菊池 裕、渡辺 優奈、鈴鹿 祐子、 佐久間 貴士、稲垣 武、坂崎 純太郎、有川 真弓、須藤 崇行、水貝 明子、 増井 起代子
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
1) ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂・周知 2) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施		
F	会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題
1	令和6年 4月9日 (メール審議)	(1) 2024年度キャンパス・ハラスメント委員会活動状況点検・評価表について (2) 2024年度キャンパス・ハラスメント委員会予算について
2	令和6年 7月22日	(1) 申し立ての案件について
3	令和6年 7月30日	(1) ハラスメント対応臨床心理士の業務内容について (2) その他
4	令和6年 10月8日	(1) キャンパス・ハラスメント委員会のFD・SDの演題、候補演者、日程について (2) 文部科学省からの通知に関する規程の整備について
5	令和7年 1月31日	(1) 申し立ての案件について (2) 規程等改正について (3) 令和6年度活動達成状況点検・評価表について
6	令和7年 3月25日	(1) ハラスメント調査報告について (2) キャンパス・ハラスメントに関するアンケート結果について
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
1	2025年2月3日	キャンパス・ハラスメント研修会
H	評価（成果および改善事項）	
[達成事項] これまでハラスメント相談員に外部相談員がいなかったため利用率に影響していると考えられていたが、今年度外部相談員にあらたに相談員に加わっていただきフローチャートも改訂できた。Teams等で周知したが2025年2月3日に行われるFD・SDでも周知した。学内ハラスメント研修会及びアンケートは2025年2月3日に施行した。 今年度も学内でハラスメントが疑われる事案が発生したが、臨時委員会を開催して対応した。		

[評価結果の理由と改善策]	
年度当初に掲げた活動計画は概ね達成されたと考えられる。ハラスメントが疑われる事案が発生した際は教職員・学生とも相談しやすい環境を提供することが重要であると考えられる。	
I	次年度の方策
ハラスメントが疑われる事案が発生した際は教職員・学生とも相談しやすい環境にすべく努力する必要があり、まずはフローチャートの周知・徹底を継続して行う必要がある。	

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

令和6年度は、4月1日時点では助教3名が新たに着任し、教授10名、准教授9名、講師10名、助教10名、計39名の構成でスタートした。その後、10月1日付けで助教1名が着任し、助教が11名、計40名となった（助教2名が欠員の状況）。

(2) 年度当初の重点課題

- ・学科長のリーダーシップのもと、全学委員会と学科内委員会とが十分に連携を図りながら、大学の管理運営業務を滞りなく遂行する。個々の教員は、大学全体の動きを見据え、各々の立場から大学の管理運営に参画する。
- ・学科内の各委員会は、PDCAサイクルを稼働させ活性化をはかるとともに、学科運営会議での共有・意見交換をとおして、継続的に発展できる管理運営体制を整備する。

(3) 取組状況

看護学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、11回（定例10回、臨時1回）開催した。臨時教授会は、第4次カリキュラム作成に向けた改正方針を検討するために開催し、看護学科教務委員を含めた拡大教授会とした。

以下、看護学科で設置している各種委員会の活動状況を報告する。

看護学科教務委員会の重点課題は、第4次カリキュラム改正およびアセスメント・ポリシー策定に向けた取り組み、看護学教育分野別評価において検討課題とされた「ポートフォリオ」および「看護実践能力評価票」の活用体制の整備、の2点であった。

第4次カリキュラム改正およびアセスメント・ポリシーの策定に向けた取り組みの検討については、教務委員会が中心となってワーキンググループを立ち上げ、学科内の意見集約と具体的な検討を進めた。第4次カリキュラム改正に関しては、学生および科目責任者を対象としたアンケート結果に加え、令和6年度に改正予定の「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容も参考にしながら、多面的に検討を重ねた。アセスメント・ポリシーについても、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの整合性を図りつつ、教育目標の達成度を的確に把握するための評価のあり方について議論を深めた。2023年度に受審した看護学教育分野別評価において検討課題とされた「ポートフォリオ」および「看護実践能力評価票」の活用に関し、授業科目「看護学入門」および「看護学統合」との連携を図りながら推進できるよう、教務委員会のもとにワーキンググループを立ち上げ、検討を行った。学生が主体的に学びへ取り組める体制の構築を目的として、看護学科のディプロマ・ポリシーに基づく学年別到達目標を策定した。また、1年次「看護学入門」と4年次「看護学統合」を有機的に接続するための「ビジョンシート」の内容および活用方法についても具体的に検討を進めた。あわせて、学年に応じた学生支援の方法についても整理を行い、体系的な支援体制の整備に取り組んだ。これらの取り組みを学科全体で継続的に推進していくために、看護学科教員を対象としたFDを実施し、取り組みの趣旨や活用方法の周知・共有を図った。

カリキュラム実施部会においては、年度初めの履修ガイダンスでは、学年別に履修計画立案の留意点を説明し、新入生にはシラバス・ハンドブックを活用して履修内容を分かりやすく伝えた。編入3年次生には担任と連携し支援を行った。ポートフォリオでは、年間目標シートの電子提出と担任コメントの返却を導入し、学年ごとの学修経過を蓄積可能とした。専門科目の目標シート活用を促すとともに、学生・教員へのアンケートで活用状況を把握した。看護実践能力評価票についても、随時記載を促し、様式を学生が記入しやすい形に見直した。

実習検討部会においては、年間活動計画に基づき、ユニフォーム・ネームプレートの見直しや実習オリエンテーション、実習計画表の作成等を実施した。ユニフォームは学生アンケートを踏まえ一部デザインを改良し、ネームプレートは両面表示へ変更した。オリエンテーションでは事故時対応や個人情報保護の意識付けを行った。実習要項・災害時マニュアルは一部改訂し、実習計画表は調整を重ね作成した。学生教育に関する教員意見交換会や、メンタルヘルス対応に関するオンライン研修会も実施し、好評を得た。

看護学科学生・進路支援委員会では、学生生活支援、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、国家試験合格への学習支援、同窓会活動のサポートを行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

看護学科総務・企画委員会の重点課題は、学科予算や学科の共有物品等に関する所掌事項を円滑に遂行することであった。特に令和6年度は看護学科が備品費の集中配当であったため確実な予算執行を行い、残額は緊急性

と必要性、公平性を考慮し希望の取りまとめを行った。他学科の備品費予算に多くの余剰が生じたため急遽、令和7年度当初予算に要求しかつ年度内に納品可能な物品について各領域に確認するなどの調整を行い、発注を行った。備品以外についても適正に執行を完了した。事務局との調整が必要な実習室・研究室の清掃・ワックスがけと被服貸与の希望のとりまとめを行った。学科長が付託する事項については、文部科学省に提出する学校概況調査の取りまとめを行った。また令和6年度は学科長適任者選考を滞りなく実施することができた。その他、ビジュランの取りまとめ、看護学科運営会議の準備、ゼミ用PCのメンテナンス対応、「看護学科看護実習室の運用指針」の学生への周知等を滞りなく実施した。

看護学科入試・広報委員会の重点課題は、公正な入試の実施に向けた人員配置の検討、参加者の満足度が高くかつ安全性を確保したオープンキャンパスの運営、看護学科の魅力を広く伝え知名度向上を図る広報活動の推進であった。

今年度は、特別選抜・編入学試験および一般選抜について、全学入試実施委員会や学生支援課と連携し、円滑に実施した。学科運営会議や面接担当者説明会では、面接試験の趣旨や実施方法について説明を行い、公正な入試の遂行に努めた。また、面接試験の運営においては、誘導担当者の負担軽減を考慮し、動線の見直しやオンコール体制の導入を含めた人員配置の最適化を検討した。その結果、例年と比較して業務をスリム化し、円滑な入試実施を実現した。オープンキャンパスでは、昨年度の来場者から得られたフィードバックを基に、従来の企画（実習室での看護体験、在校生・卒業生による講話等）に加え、複数領域による模擬授業の実施、血圧測定や採血体験など領域横断型の体験ブース、学生サークル活動の紹介等、新たな企画を取り入れた。これらの情報は大学ホームページで事前に周知し、結果として昨年度を上回る1,000名以上の参加者を得た。また、『学校説明会および模擬授業に関するマニュアル』の改訂を行い、今年度版を作成した。学校説明会・模擬授業は計48件（うち2件は大学見学を含む）実施し、昨年度と比較して6件の増加となった。さらに、看護学科紹介パンフレットを早期に作成し、模擬授業等において配布することで、看護学科およびオープンキャンパスの広報活動につなげた。加えて、幕張メッセで開催された進路説明会の「教えて！看護の進学トークセッション」には、看護学科の学生が登壇し、また、受験情報誌『蛍雪時代』には看護学科卒業生の記事が掲載された。これらの取り組みにより、本学の広報活動に貢献した。

なお本委員会は、これまでの活動内容を踏まえ、所掌業務の見直しを行うとともに、委員会名称を「看護学科入試検討委員会」から「看護学科入試・広報委員会」に変更した。

看護学科倫理審査委員会は、4年次生の必修科目「看護研究」において、人を対象とする研究を実施する場合の倫理審査を行った。審査者間で審査基準の認識が統一されていない課題に対し令和4年度に作成された「看護学科倫理審査の基準について」を用いて、4月の運営会議で倫理審査の方法と基準の周知を図った。結果として判断に関する問い合わせはなく書類不備として審査員の署名未記載が審査で1件に減少したが、リスト記載ミスが8件生じたため注意喚起を行った。また、1教員あたりの審査件数の均一化に向けて、6月に「各領域の倫理審査申請見込み件数調査」を継続実施した。申請数は過去最多と同数の40件あり7・8月に集中したが、各教員の担当数は概ね偏りなく調整できた。次年度も、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正等に留意しながら、適正かつ円滑な倫理審査に向けた周知と各教員の業務量の公平性担保を図る。

看護学科社会貢献委員会では、以下の社会貢献活動と学科内の社会貢献活動の把握・調整を行った。社会貢献活動の1点目は昨年度開発した「地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム」であり、学長裁量研究費を受けてプログラムの効果検証を行った。県内医療施設の地域包括ケア病棟に勤務する看護師19名の参加を得て、一定程度の効果があることを確認した。効果検証の結果は次年度公表予定である。また、令和5年度実施のプログラムについてアンケート結果等から高評価であることを確認し、第44回日本看護科学学会および本学紀要にて報告した。2つめは「研究指導に関する動画視聴のシステム」の運営である。大学ホームページにて周知し、5件の利用申込みを得た。なお、昨年度実施した「研究のコツがてんこ盛り！ コツコツ学ぼうセミナー」の参加者に対するフォローアップセミナーについては希望者がなく未実施となった。学科内の社会貢献状況の把握と調整については、当該年度の看護学科専任教員の社会貢献事業実績一覧を作成し学科内に公開するとともに、千葉県看護協会より令和7年度の研修講師派遣依頼があり、担当の調整を行った。次年度は、「地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム」をはじめとした社会貢献活動等、改善を加えながら引き続き実施する。

(4) 評価（成果および改善事項）

学科運営会議、学科教授会を中核として各学科内委員会が連携・協力し、教員の教育研究活動、管理運営業務は円滑に推進できたといえる。特に令和6年度は、第4次カリキュラムおよびアセスメント・ポリシーについて

学科教務委員会が中心となり検討を進めることができた。さらに、看護学教育評価分野別評価において検討課題とされたポートフォリオおよび看護実践能力評価票の活用について、教務委員会ワーキングにおいて検討し、次年度以降の活用促進の方略を定めることができた。次年度の実施状況をふまえ、さらに効果的な方略の検討につなげたい。

(5) 次年度の方策

学科長のリーダーシップのもと、全学委員会と学科内委員会とが十分に連携を図りながら、大学の管理運営業務を滞りなく遂行する。個々の教員は、大学全体の動きを見据え各々の立場から大学の管理運営に参画する。学科内の各委員会は、PDCA サイクルを稼働させ活性化をはかるとともに、学科運営会議での共有・意見交換をとおして、継続的に発展できる管理運営体制を維持する。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員組織構成は、4月1日時点で教授6名、准教授4名、講師2名、助教4名の計16名であった。年度途中で助教1名が着任、助教1名が退職し、年度末では16名（欠員1名）の構成となった。専門科目の担当教員は14名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は2名である。

(2) 年度当初の重点課題

教員間で学科会議やTeamsを活用して情報共有を図り、問題解決に迅速に臨み、大学運営が円滑に進められるようにする点施策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCA サイクルが稼働できるようにする。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ4回、13回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部会の組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月1回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。Teamsの活用を進め、学科会議資料のペーパーレス化やレスポンスの見える化を図った。

学年別の担任・副担任、国家試験対策（国家試験担当：4年生担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会それぞれが適切に機能して、学科会議で必要事項を周知した。

入試関係では、高校への出張説明会や模擬授業、大学見学を教員が引き受け実施した。オープンキャンパスでは、模擬授業、学科紹介や在校生による学生生活紹介、個別相談、卒業生講演などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験に際しては、入試監督・採点・集計・受験者誘導・面接試験など全教員で分担して入試関連業務に臨んだ。

社会活動として、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師など活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

Teamsの活用により、教員間での情報交換、共有がより密になり、連携のとれた学科運営ができた。助教1名欠員のため、実験実習の助教配置において、専門領域外の科目担当とせざるを得ない状況となり、学生教育に支障がでないよう教員相互での協力が不可欠であった。新たに欠員が生じたため、早期に人材確保を目指す。

(5) 次年度の方策

教員と学生との距離感をより近くし、相互の発信ができる授業運営を心掛け、きめ細やかな指導を心がけ、質の高い教育を行うようにする。学科教員間では、学科運営会議やTeamsだけでなく、日常的に対面での報告・連絡・相談の機会をもち、情報や問題意識を共有し、大学運営が円滑に進むようにする。また、重点政策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCA サイクルが稼働できるようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、4月から教授5名、准教授2名、講師3名、助教1名の10名であったが、10月から教授4名、准教授3名、講師3名、助教1名の11名である。教員のうち専門職は4月から8名（歯科医師4名、歯科衛生士4名）、10月から9名（歯科医師4名、歯科衛生士5名）となっている。

(2) 年度当初の重点課題

歯科医師 1 名、歯科衛生士教員が 2 名欠員となるため、歯科衛生士助手（臨時的任用職員）1 名を採用し、より一層教員間の連携を密にして円滑な組織運営と教育活動を行う。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で 11 回開催された。本学科付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり 11 回開催された。歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認を行った。引き続き感染対策に留意して歯科診療を行った。医療安全対策として、診療用放射線の安全利用のための指針を作成した。大学全体の管理・運営については、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行った。入試関係では、各高校への出張大学説明会等については広報委員が中心となって実施した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員が入試の監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生学科教員は 9 月に教授 1 名が退職、10 月から准教授 1 名が着任し、その結果 3 名欠員が継続した。学科教員および非常勤講師の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。入試関係については、志願者数が減少していることから、学科として志願者数確保のため高校説明会に広報委員だけではなく他の教員も参加し、歯科衛生士の職種としての魅力を伝えたり、歯科衛生学科の学生が参加したイベントの様子について SNS を用いて学外に発信したりした。

(5) 次年度の方策

教員欠員補充を速やかに進めるとともに、歯科衛生士助手（臨時的任用職員）1 名を含めて、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

令和 6 年度は、4 月 1 日時点では教授 3 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 1 名、計 7 名の構成でスタートした（理学療法士 6 名、教授 2 名、准教授 2 名、講師 1 名、助教 1 名、医師 1 名、教授 1 名、理学療法士講師 1 名が欠員の状況）であった。

(2) 年度当初の重点課題

新大学（キャンパス統合、大学院設置、学科の設置・再整備など）に向かって、専攻内での検討を促し、意見を集約する。教職員・学生・ステークホルダーに迅速に必要な情報を公開・広報し、実効性を適切に担保する。本専攻では理学療法専任教員 6 名が必要であるが、現状では 5 名である。1 名を必要な研修会に参加させ、専任教員の資格を得るようにするとともに、欠員となっている講師を補充する。専攻会議を週に 1 回開催し、専攻の管理運営を円滑に行う。専攻における共有資料をペーパーレス化しデジタル化の推進に努める。学科会議を 2 カ月に 1 回開催し、学科の管理運営を円滑に行う。学内の委員会活動に参加し、専攻の代表として専攻の意見を伝える。

(3) 取組状況

新大学に向かって、専攻内での検討を行った。教職員・学生・ステークホルダーに必要な情報を公開・広報した。本専攻では理学療法専任教員 1 名を必要な研修会に参加させ、専任教員の資格を得ることが出来たが、欠員となっている講師を行うことが出来なかった。専攻会議を週に 1 回開催し、専攻の管理運営を円滑に行った。専攻における共有資料をペーパーレス化しデジタル化の推進した。学科会議を 2 カ月に 1 回開催し、学科の管理運営を円滑に行った。専攻内教員全員が学内の委員会活動に参加し、専攻の代表として専攻の意見を伝えた。また、その情報を専攻会議で共有した。

(4) 評価（成果および改善事項）

概ね課題を達成することが出来た。理学療法専任教員講師 1 名が欠員の状態であり、次年度公募を実施する。

(5) 次年度の方策

1 名の教員の欠員でのスタートとなるが、今年度同様、教員間の連携を密にして協力し、円滑な管理運営を行う。各教員の負担を軽減するために、出来るだけ早期に人材確保を目指す。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織

令和6年4月1日時点における作業療法学専攻の教員構成は、教授3名、准教授2名、講師2名（うち1名は助教から昇任）、助教1名欠員（医師1名、作業療法士6名）で、計7名によりスタートした。10月には助教1名が着任し、教授3名、准教授2名、講師2名、助教1名（医師1名、作業療法士7名）の計8名体制で運営された。

(2) 年度当初の重点課題

①教育活動

千葉県の保健医療分野の現状と将来を見据え、「健康づくりなどの保健医療に関わる優れた専門職の育成」に重点を置き、リハビリテーション専門科目および作業療法学専門科目を通じて、倫理観、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、専門的知識・技術の習得を支援し、多職種連携教育プログラムの改革を推進した。

「作業療法士教育の教育水準（改訂第5.1版）」に基づき、教員のFDや臨床実習の内容など整備を推進した。

教員のオフィスパワーを活用し、進路相談とし、リハ学科として理学療法学専攻と共同でオープンキャンパスと卒業生にホームカミングディとして講義指導が実施できた。

②研究活動

各種委員会活動を通じて大学全体の管理運営に参画した。専攻会議を通じて教員間で情報共有を図り、大学院設置、キャンパス統合、法人化など将来的課題に対する共通認識を形成し、迅速な情報公開と実行性の担保に努めた。

③大学の管理運営

各種委員会活動を通じて大学全体の管理運営に参画した。専攻会議を通じて教員間で情報共有を図り、大学院設置、キャンパス統合、法人化など将来的課題に対する共通認識を形成し、迅速な情報公開と実行性の担保に努めた。

④社会貢献

本専攻では、地域における保健・医療・福祉の連携強化を目的として、地域包括ケアに関するスキルアップ研修を実施した。また、千葉県作業療法士会との連携のもと、臨床実習指導者講習会において運営委員および講師として協力し、実習指導体制の質的向上に寄与した。さらに、小・中学校および特別支援学校の教員を対象とした情報共有の場を提供し、教育現場との連携を深めた。卒業生に対しては、スキルアップ研修やキャリア形成支援（リカレント教育・リスキリング等）を実施し、卒業教育の充実を図った。加えて、卒業生の組織化を進め、介護予防および地域コミュニティ促進事業を通じて、県民の健康づくりに貢献した。

(3) 取組状況

教員は教授会や各種委員会に積極的に参加し、大学運営に貢献した。専攻内では、毎週1回の専攻会議に加え、臨床実習等に関するワーキンググループを定期的に開催し、教育活動の質的向上に努めた。また、千葉県リハビリテーション専門職協会や作業療法士会等を通じて、現任教育およびキャリア形成の支援を行った。

MTDLP基礎研修会（年2回）および事例検討会（年1回）に参加し、専門職としての継続的学習を推進した。さらに、高校生および保護者を対象とした仁戸名オープンキャンパスおよび模擬授業（11月30日）を初めて実施し、進路選択支援を強化した。

卒業生を対象としたホームカミングディでは、講演会（10月19日）を開催し、卒業教育の機会を提供した。また、第26回千葉県作業療法士学会（3月9日）を本学で開催し、教育講演および運営支援を通じて学術活動に貢献した。

教員は複数の学術誌において査読を担当し、学術的信頼性の向上に寄与した。さらに、厚生労働省指定の臨床実習指導者研修において、運営委員および講師として参画した。

特別支援教育における合理的配慮に関する研修会や学級観察・助言など、行政および関係機関と連携した実践的研究も展開した。

(4) 評価（成果および改善事項）

①教育活動

卒業生や高校生を対象としたリハ学科の共同活動を通じて、現任教育・キャリア形成支援が実現した。他学科・専攻との多職種連携による研究活動を推進し、成果の一部を論文として発表した。

②大学の管理運営

各種教育基準を遵守し、教育・臨床実習を適切に実施できた。

③社会貢献

地域に根ざした介護予防・コミュニティ促進事業を通じて、県民の健康づくりに貢献した。

(5) 次年度の方策

①教育活動

作業療法士の現任教育・キャリア形成支援を継続し、卒業生や高校生を対象とした教育活動をさらに推進する。

②研究活動

多職種連携研究およびDXを活用した地域健康サポートシステムの構築を継続して推進する。

③大学の管理運営

各種教育基準を遵守し、教育・臨床実習を継続的に実施する。

④社会貢献

地域貢献プログラムを継続し、県民の健康づくりに寄与する。

6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

1) 職員組織

令和6年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員9名、会計年度任用職員5名の計14名、学生支援課は課長を含め職員6名、会計年度任用職員8名の計14名、合計29名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入手続き、施設の維持管理等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入学共通テストに係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務、実習機関への委託事務等を担当している。

2) SDの取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

(2) 実施状況

8月27日

「飲酒運転根絶について」／保健医療大学 企画運営課長 町田 昌実

参加人数：22名

9月19日

「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」

／保健医療大学 企画運営課長 町田 昌実

参加人数：21名

その他下記の入試、奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に出席した。

①7月11日 大学入学共通テスト千葉地区連絡会議（千葉大学主催）

②7月29日 入学者選抜に関する協議会（公立大学協会主催）

③9月12日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）

④11月29日 公立大学事務局長等連絡協議会（公立大学協会主催）

7. FDの実施状況

1) 年度当初の重点課題等

・FD・SDマップに則して、以下を当初の重点課題とした。

1. 社会貢献：社会貢献のニーズを把握する企画・実施

2. 教育：シラバスの作成方法、教育倫理、指導困難学生への教育

3. 研究 : 研究遂行スキルの向上・研究倫理の理解の講習会の企画・実施, 学生相談・学生支援の実践, 教育経験の浅い教員に指導, 学生支援と進路支援に関して指導・管理
 4. 管理・運営: コミュニケーションスキルに関して理解を深める, 教員の説明能力を高める
 5. 各 FD・SD アンケートを含め FD・SD 報告書などの提出方法を統一実施
 6. SD の活性など目標に企画実施
- 2) 主な活動
- ・2022 年度作成の FD・SD マップに則して, 2023 年度の工程表を作成し, 概要検討・内容決定, 各委員会に依頼開始・実施できた。
 - ・達成事項
1. 社会貢献

(レベル 1 程度) 社会貢献のニーズを把握する企画・実施⇒「将来構想にかかる情報共有・意見交換」3 月 12 日実施 62 名参加ハイブリッド(社会貢献委員会) (やや満足+満足=86%)
 2. 教育

(レベル 1 程度) シラバスの作成方法と教育倫理⇒「シラバス作成」令和 6 年 3 月 22 日実施(教務委員会) 41 名参加 (やや満足+満足=89%) / 教育倫理⇒次年度検討(FD・SD 委員会で検討後, 社会貢献委員会で検討確認)

(レベル 2 程度) 指導困難学生への教育と学生相談・学生支援の実践, 及び(レベル 3) 学生支援と進路支援に関して指導・管理⇒『発達障害』の学生への対応について」11 月 2 日実施, 26 名参加(学生委員会) (やや満足+満足=92%) / 「医療系大学における教職員の進路支援」11 月 29 日実施, 28 名参加(進路支援委員会 (やや満足+満足=82%))

(レベル 3) 教育経験の浅い教員に指導⇒次年度検討(CH 防止委員会から FD・SD 委員会へ移行)
 3. 研究

(レベル 2) 文献検索, 文献レビューのスキルアップ/英語論文作成, 英語論文投稿など⇒イブニングセミナー「さがす・読む・伝える: 情報検索のコツとフェイクニュース」「論文の構成と書き方ー投稿から掲載まで 論文著者が知っておくべきポイントー」/ 「ヘルスサイエンス系論文/学術流通の最新動向」39 名参加(学術推進企画委員会 9 月 26 日実施, 教員参加(学術推進企画委員会) (やや満足+満足=100 と 96%))

(レベル 3) 研究の管理運営ができる⇒「安全保障輸出管理の初心者向け概要など」令和 5 年 12 月 25 日 78 名参加(研究倫理審査委員会) (やや満足+満足=97%)

(レベル 3) 研究における協働活動を運営できる⇒「地域医療連携システムについて」5 月 9 日実施, 教員参加(学術推進企画委員会) (やや満足+満足=88%)
 4. 管理・運営

(レベル 1) コミュニケーションスキルに関して理解を深める教育⇒「指導が難しい学生への指導」11 月 2 日実施, 26 名参加(学生委員会)

(レベル 1) 教員の説明能力を高める方法, コミュニケーション能力を高める方法⇒次年度検討(CH 防止委員から FD・SD 委員会へ移行)

(レベル 1) 大学の歴史, 理念, 組織, 国・県の理解を深める⇒「大学の成り立ちと人材育成の目標」4 月実施, 新入教員 7 名参加(学長)

(レベル 1) ハラスメントに対する関心を高める⇒「ハラスメントの予防や訴訟問題などに関する教職員向け FD・SD」12 月 13 日実施, 35 名前後参加(CH 防止委員会) (やや満足+満足=86%)

(レベル 2) 問題解決能力⇒「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」9 月 12 日実施, 26 名参加(教員 14, 事務職員 12 名)(企画運営課)

(レベル 2) 創造力を高める⇒次年度検討(CH 防止委員会から FD・SD 委員会へ移行)

(レベル 3) リスクマネジメント能力が高まる⇒「R5 年制定の「危機管理の方針」に基づいて」2 月 20 日から 3 月 1 日まで(オンデマンド)開催中(2 月 22 日現在)(危機管理委員会)

(レベル 3) 交通違反・事故防止(安全運転管理)⇒「安全運転管理の徹底について」1 月 25 日から 2 月 5 日まで(オンデマンド), 53 名(教員 46 名職員 7 名)(企画運営課) (やや満足+満足=75%)

(レベル 3) 部門内組織マネジメント⇒「医療安全を学ぶー保健医療者としてのリスク管理」令和 6 年 3 月 27 日実施 70 名参加(学長) (やや満足+満足=85%)

※学長が付託した事項

2025 年度から実施される大学入学共通テストにおける科目「情報」について内容と学共通テストの対応に必要な情報について⇒「新科目『情報Ⅰ』の教育内容及び高等学校における教育の現状」4 月 25 日（FD・SD・入試改革検討委員会共催）49 名参加（やや満足+満足＝93%）/5 月 19 日「千葉県立高校 教科情報Ⅰ 授業内容等の現状」49 名参加（FD・SD・入試改革検討委員会共催）（やや満足+満足＝65%）

5. 各 FD・SD アンケートを含め FD・SD 報告書などの提出方法を統一実施

各実施した FD・SD 報告書と FD・SD アンケートの書式統一し、提出の方法について実施はできた。

3) 評価(成果および改善すべき事項)

1. 大学内の FD と SD の企画、 推進に関する事項

・本年度について段階的に「FD・SD マップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は、FD・SD の学内委員会調整と FD・SD の推進はほぼ達成された。

2. その他学長が付託した事項に関する事項

・「新科目「情報Ⅰ」の教育内容及び高等学校における教育の現状について」の周知について実施できた。

3. その他 FD と SD に関する事項

・FD・SD について職員に周知と運営の協力体制さらにアンケートの回収が改善事項である。

4) 次年度の方策

- ・2023 年度の FD・SD マップの再検討と検討された 2024 年度 FD・SD マップによる年度計画し実施する。
- ・FD・SD アンケート・報告書など運営体制を含め運用について検討実施する。

IV 教育活動

1. 共通教育

1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

2) 年度当初の重点課題

一般教養科目・保健医療基礎科目の充実をはかる。

3) 取組状況

- ・一般教養科目・保健医療基礎科目・医学系科目のうちで、保健医療専門職を目指す学生教育という観点で、どの科目へ常勤教員を配置するべきか明らかにする。
- ・一般教養科目・保健医療基礎科目、医学系科目担当教員の業務内容・業務負担（特に学科・専攻内）における問題点を明らかにし、改善する。

4) 評価（成果および改善事項）

- ・今年度も定年退官する共通教育の教員がいたが、常勤教員枠が非常に限られている中、後任教員が担当すべき科目について共通教育運営会議、大学運営会議を通して discussion し後任教員の担当科目を決定しており、どの科目へ常勤教員を配置するべきかについての決定プロセスについては一定の成果が得られたと考えられる。
- ・情報科目（情報リテラシーⅠ、Ⅱ）のデータサイエンス科目への移行の道筋がついたこと。
- ・リハビリテーション学科の学生が教育学関連科目 4 単位を履修する場合、R7 より本学の科目履修で完結できるようにしたこと。
- ・今年度も共通教育担当教員の業務内容・業務負担についての問題点はあまり明らかにできなかった。本学の共通教育担当教員の常勤枠は非常に少なく、将来的に大学院設置を計画しているのであれば、共通教育担当教員の常勤枠数・担当科目を決定する際に現状での共通教育担当教員の業務負担・改善すべき事項を明らかにする必要があると考えられる。

5) 次年度の方策

共通教育担当教員の常勤枠数・担当科目については大学院化も見据えて考慮していく必要がある。

2. 看護学科

1) 教育方針

本学・学科の教育理念に基づき、卒業時の学生がディプロマ・ポリシーを達成し、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育・指導を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用した学生の主体的学習を促進する。

2) 年度当初の重点課題

- ・本学の基本理念および看護学科の教育理念をふまえ、各学年の学生がディプロマ・ポリシーの達成に向け学修を進められるよう、担当科目の教育内容や方法を各々の立場で検討する。個々の教員の教育力向上と教育の質担保に向け、領域を超えた教員間で情報共有・意見交換する機会を積極的に活用し、各々の教育活動に活かす。
- ・日本看護学教育評価機構による評価結果に基づく教育改善の方向性を個々の教員が理解し、各々の立場で改善に向けた取り組みを進める。
- ・学科教務委員会および学科学生進路支援委員会を中心に各委員会が連動し、よりきめ細やかな学生の支援体制を構築する。
- ・第 4 次カリキュラムの策定にあたっては、時代のニーズに対応できる実践力を有した保健医療者育成という観点からカリキュラムを点検し、より充実したカリキュラムを構築する。

3) 取組状況

看護学教育評価の受審を通して、看護実践能力評価票やポートフォリオの活用に関する課題が明確になった。これについては、学科教務委員会を中心にワーキンググループを立ち上げ、検討を進めた。その結果、ディプロマ・ポリシーの学年ごとの到達度を検討し、1～3 年次ポートフォリオ年間目標シートの改正を行った。さらに、4 年間の学修を積み重ね、4 年次開講科目「看護学統合」につなげる方法について検討して新たな方略を定め、学科運営会議で周知した。次年度、実際に運用し評価する予定である。

教員の教育能力向上に向けた FD としては、メンタル面での課題を抱える対応困難な学生への指導能力を高める目的で、オンライン研修を実施した。また千葉大学が主催する大学教員向けのレベル別 FD への参加を募り、教育力向上の FD プログラムに教授 1 名、准教授 1 名を派遣した。研修内容については、学科運営会議にて報告し、学科教員

で共有した。

第4次カリキュラムの策定にあたっては、学科教務委員会を中心にカリキュラム評価および改正の方針を検討し、策定した。またアセスメント・ポリシーについても、大学教務委員会の検討を基盤に学科内でも検討し、新たに定めた。分野別評価の結果をふまえ、DP到達度評価とポートフォリオ活用とを連動させ、4年次開講科目「看護学統合」につなげる方法について、学科内にワーキングを設置し取り組みを進めた。次年度から取り組む予定である。

学生への学習支援としては、学科教務委員会と学科学生・進路支援委員会が協働し、履修支援体制整備、休学・復学・退学に関わる個別面接や調整等をはかった。

4) 評価（成果および改善事項）

今年度は、授業はほぼ対面で実施することができたが、実習については、一部COVID-19の影響で中止となるなどの制限を受けた。コロナ禍での実習経験を重ねてきたことで教員・学生ともに大きな混乱はなかったが、コロナ禍以降に毎年開催してきた教員間の情報交換会は継続して実施し、学生の学修状況や課題、対応についてディスカッションを行い、その後の教育活動に反映させることができた。

令和6年度は、4年次76名が卒業判定に合格した。3年次への進級判定では、81名が合格し、5名が不合格となった。退学者は3名（3年次2名、4年次1名）であった。

国家試験の合格率は、保健師97.4%（全国96.4%）、助産師100.0%（全国99.3%）、看護師100.0%（全国95.9%）であった。

5) 次年度の方策

各学年の学生の学修状況を踏まえ、DPの達成に向け学修を進められるよう、担当科目の教育内容や方法を各々の立場で検討する。個々の教員の教育力向上と教育の質担保に向け、領域を超えた教員間で情報共有・意見交換する機会を積極的に活用し、各々の教育活動に活かす。

また看護学教育分野別評価の受審結果をふまえ、ポートフォリオの活用や看護実践能力評価票の活用促進の方略についての検討と学科教員との共有を通して、ディプロマ・ポリシーの達成に向けた教育展開について、教員個々の理解を深めることができた。今後、さらに実施状況と教育効果を検討し、学生の主体的な学修にむけ改善をはかる。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

教育においてデジタル技術を活用することで教育の質的向上をめざし、学生、教員相互のコミュニケーションを十分に図り、豊かな人間性の涵養に努める。保健医療に関わるすぐれた専門職を育成するために、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、自己主導型で学習できるような指導を心がける。県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成を目指すように努める。

3) 取組状況

進級及び卒業については、担任を中心とした相談、アドバイス、教科担当者による補習等の実施を繰り返した。留年者には丁寧な説明とこれからの展望について相談やアドバイスをおこなった。希望する職場への就職支援、栄養教諭課程（選択）の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、目標を達成できた。学生の学修状況や履修状況などは学科会議で全教員が共有して、科目をこえたフォロー体制をとった。学生の個人的相談には担任や卒研指導教員のみならず、どの教員でも相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習での学びを目標に1年、2年では「管理栄養士導入教育」「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要なとされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は講義中心で、後期は実験・実習による専門的技能やコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に「専門科目」と「臨地実習」、4年次では主に「総合演習」「卒業研究」「管理栄養士特別演習」を配当し、管理栄養士としての専門性を修学し専門職育成につとめた。また、1年、3年、4年では「特色科目」を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学び、多職種連携の意識、行動を身に付ける機会とした。

4) 評価（成果および改善事項）

新々カリキュラムを学んだ4年生23名の卒業生を輩出した。1名は後期休学、1名は前期休学し2名が留年となった。2年生は4名の留年が決定した。管理栄養士国家試験は23名受験、うち21名合格し、合格率91.3%であった。新卒の全国平均80.1%を上回っており、学生自身の頑張りと、学科全体で取り組んできた国家試験対策の成果の表れである。残念ながら不合格の学生はあと一歩及ばなかったことから、学修支援を細やか継続して、全員合格にな

るよう取り組みたい。卒業後進学が1名、就職希望者の就職率は100%であった。県内就職率は27%となり昨年より減少した。公務員は7名、うち県内は3名であり、引き続き卒後も千葉県に貢献できるような支援を検討したい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。また、栄養教諭課程(選択)の履修者は1年5名、2年16名、3年7名、4年生9名となり、栄養教諭免許取得にとどまらず、栄養教諭として活躍することを期待したい。

5) 次年度の方策

保健医療に関わるすぐれた専門職を育成するために、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、自己主導型で学習できるような指導を心がける。教育においてデジタル技術を活用することで教育の質的向上をめざし、学生、教員相互のコミュニケーションを十分に図り、豊かな人間性の涵養に努める。県民の健康づくりの推進力になる人材(県・市町村の公務員)を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成を目指すように努める。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次後期から3年次前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。新々カリキュラムでは、早期体験演習を設けて、1年次、2年次後期にそれぞれ実施している。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1～3年次に学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。また継続・個別支援実習においては、対象者それぞれのライフステージにあわせた歯科保健指導ならびに歯科予防処置について学んだ。臨地実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について学んだ。「発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)」では、幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象に歯磨きの方法や歯ブラシの選び方、交換時期、管理方法についてパワーポイントスライドを作成し講義を行った。また袖ヶ浦特別支援学校では、様々な障害のある児童の学校生活の施設見学を行った。さらに千葉東病院では、障害児診療見学を実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)」では、千葉市内の1か所の介護医療院において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに、高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市内・浦安市内の保健センターで実習を受け入れていただき、地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では、6か所の病院(JCHO船橋中央病院、総合病院国保旭中央病院、亀田クリニック歯科センター、がん研究会有明病院、千葉メディカルセンター、松戸市立総合衣装センター)において実習を行い、病院における歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行い、論文作成と成果発表会を実施した。国家試験については、進路支援委員が中心に国家試験対策を行い、国家試験のための補講も実施した。卒業生23名のうち23名(100%)が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価(成果および改善事項)

歯科衛生学科教員は9月に教授1名が退職、10月から准教授1名が着任し、その結果3名欠員が継続した。学科教員および非常勤講師の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。入試関係については、志願者数が減少していることから、学科として志願者数確保のため高校説明会に広報委員だけではなく他の教員も参加し、歯科衛生士の職種としての魅力を伝えたり、歯科衛生学科の学生が参加したイベントの様子についてSNSを用いて学外に発信したりした。

5) 次年度の方策

教員欠員補充を速やかに進めるとともに、歯科衛生士助手(臨時的任用職員)1名を含めて、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

1) 教育方針

大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、理学療法学専攻では、卒業までの4年間で医療専門職として教育や倫理観を涵養し、社会的責務を果たすことができる人材を育成する。そのための方策として、全学年の学生が欠席することなく、講義や臨床実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なく、最終学年までを全うすることとする。また、毎年度継続している国家試験合格者を全国平均よりも上回ることを維持することにある。

2) 年度当初の重点課題

- ・千葉県保健医療分野における課題解決に向かって、将来に必要とされる保健医療者像と地域保健医療体制を明らかにし、これまでの理学療法学専攻の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数、学科設置、再整備などを含め）の検討を進める。
- ・新時代の人材育成に必要な卒後教育の整備に努める。
- ・新時代の保健医療者育成に向けて、学外の機関（千葉大学・亀田総合など）との連携する教育体制を推進する。

3) 取組状況

- ・これらの目標を達成するための新カリキュラムを作成した。
- ・ホームカミングデイを実施し、卒後教育の検討を行った。
- ・新カリキュラムにおいて、より実践的な教育が行えるよう千葉大学・亀田総合との連携するカリキュラムを作成した。

4) 評価（成果および改善事項）

重点課題に対しては、おおむね予定どおりに取り組みを実施できた。

5) 次年度の方策

引き続き、千葉県の保健医療分野における課題解決に向かって理学療法学専攻の教育・研究体制（大学院設置や定数、再整備など）の検討を行う。また、新時代の人材育成に必要な仁戸名キャンパス教育環境（特に、Dx 環境、情報システム管理、設備の老朽化対策など）の現状把握を実施する。保健医療の効率化と多職種連携が求められる時代に対応できるよう、学外の機関（千葉大学医学部附属病院、亀田総合病院、十愛療育会など）と連携を図り、保健医療人材育成のための研究・教育体制の整備を推進する。

6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学および学科の教育理念と目標に基づき、対象者本位の作業療法実践技術を提供できる人材の育成を目的として、学生教育を実践している。専門職教育においては、2023年に改訂された「作業療法士教育の教育水準（第5.1版）」を遵守し、国家試験合格に向けた受験対策や、臨床実習における適切な施設の確保と配置にも配慮している。

2) 年度当初の重点課題

本専攻の教育活動における重点課題として、千葉県立保健医療大学の基本理念の実現に焦点を当て、保健医療分野において優れた専門職を育成することを目指した。リハビリテーション専門科目および作業療法学専攻の教育を通じて、各教員の研究活動や社会活動を活用し、作業療法ゼミナールや卒業論文指導などを通じて学生一人ひとりに対応し、倫理観、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力、ならびに作業療法学の専門領域に必要な知識の習得を支援した。

3) 取組状況

教育内容や方法の工夫・強化として、1年次の特色科目「体験ゼミナール」では、千葉県の地域特性や生活者理解を深める学びを提供した。2年次の「作業療法ゼミナール」では、少人数制および個別の対面授業を通じて、作業療法士としての倫理観や専門性の理解を促進した。

3年次からの臨床実習を経て、4年次には「卒業研究」に取り組み、各教員が個別に指導を行った。新カリキュラムに基づく臨床評価実習、総合実習、地域作業療法学実習も順調に実施され、全学生が体験することができた。

令和6年度の国家試験では、24名が受験し23名が合格し、合格率は95.8%であった。また、既卒者1名も受験し合格した。卒業論文については、各学生に担当教員を割り当て、発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

4) 評価（成果および改善事項）

本専攻では、教育・研究・社会貢献の各分野において、地域や他職種との連携を強化し、教育の質向上と社会的役割の拡充を図った。特に、卒業生や高校生を対象とした教育活動や、地域包括ケアに関する研修、学会運営などを通じて、実践的な教育・研究成果を地域に還元できた点は大きな成果である。一方で、教育環境の老朽化や教員体制の安定化、DX環境の整備など、持続的な教育・研究活動の基盤強化が今後の課題として残る。

5) 次年度の方策

次年度は、現任教育・キャリア形成支援を継続しつつ、卒業生・高校生への教育活動をさらに充実させる。また、DXを活用した地域健康サポートシステムの構築や、多職種連携による研究活動を推進し、地域課題への実践的な貢献を強化する。教育面では、国家試験対策や臨床実習体制のさらなる充実を図るとともに、教育環境の整備と教員の専門性向上を通じて、質の高い専門職育成を目指す。

7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートの対象科目は、前期・後期・通年で開講される講義および演習科目（非常勤講師担当を含む）である。授業評価アンケートの質問項目について検討し、内容および回答のしやすさ（質問数）、経年変化を見る観点から現状維持とした。すべての項目に対して5段階で回答する方式（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない・該当しない」）で実施した。

R3年度は、コロナ禍でFormsにて調査を実施したが回答数が減少した反省から、R4,5年度と同様に、R6年度も十分な回答数の確保と調査精度を上げることを目的に、アンケート実施時にアンケートFormのQRコードの提示および紙媒体による調査方法も併用して実施した。前後期での回答数は3,306で、回収率は前年度比で約1割弱程度減少となった。各教員にQRコードを配布する時期が講義終了直前となったことから、次年度は早期に配布できる体制を整える必要がある。

結果は表に示すとおりである。14項目中12の質問項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が85.0%～と高い数値を示し、14項目中11の質問項目で令和5年度値を上回る値を示し、令和5年度同様、概ね学生による授業評価は改善することができたと考える。一方で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は、「予習を行った」40.5%、「復習を行った」64.1%であり、依然として低い数値で課題を残し、令和5年度の結果を下回っており、検討課題であると考えられた。令和6年度は、ほぼすべての講義が対面で行われており、学生自身の主体的な学習意欲と主観的達成度の改善の工夫が必要となる。

最後に、令和2年度より実施しているMicrosoft Formsによるオンライン・アンケートについて、その手法において回答数確保の観点からは課題が残り、依然として改善の余地があると考えられる。十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、オンライン・アンケートに加え、対面/紙媒体による調査方法の併用、アンケート協力への周知について、時間的余裕をもった教員への周知など、さらなる改善に努めたい。

令和6年度学生による授業評価：割合

(%)

	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わない・ 該当しない
授業に積極的に取り組んだ	56.2	35.8	6.1	1.7	0.2
予習を行った	21.4	19.1	25.7	19.8	13.9
復習を行った	31.3	32.8	20.1	10.6	5.3
この授業のシラバスは役に立った	52.9	33.0	11.3	1.9	0.9
授業の目標が明確に示されていた	62.4	29.4	6.6	1.2	0.3
内容がよく理解できるように準備されていた	63.5	28.1	6.1	1.6	0.7
授業内容が充実していた	67.7	25.5	5.2	1.1	0.5
教員の熱意が感じられた	77.4	15.5	2.2	0.7	4.2
教員の説明は分かりやすかった	68.2	21.5	4.5	1.6	4.2
授業方法に工夫がなされていた	66.2	23.0	4.8	2.0	4.0
授業評価の方法を事前に理解していた	69.1	21.2	4.7	1.2	3.8
教員の話し方は聞き取りやすかった	69.7	18.7	5.5	2.1	4.1
学生の理解度に対して配慮がされていた	63.0	23.1	7.1	2.3	4.4
全体としてこの授業を受けられて良かった	73.1	18.0	3.8	1.0	4.1

8. 大学全体

1) 評価(成果および改善すべき事項)

令和6年度卒業生に対して卒業時アンケート調査を例年通り実施した。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の達成度に関する自己評価では、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力および能力を身につけたことが示された。指導者のもとで「十分発揮できる」および「ある程度発揮できる」との回答を合わせて、「倫理観とプロフェッショナリズム」について、1. 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる；97.9%、2. 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる；97.2%、3. 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる；95.1%、「コミュニケーション能力」について、4. 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる；96.5%、5. 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる；92.3%、6. 同一専門職や関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる；91.5%、7. 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる；73.9%、「実践に必要な知識」について、8. 学際的な幅広い教養と知識を有し実践できる；85.9%、9. 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識を有し実践に活用できる；93.7%、10. 各専門職における実践活動の基礎となる基礎的知識を有し実践に活用できる；94.4%、11. 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識を有し実践に活用できる；94.4%、12. 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法を有し実践に活用できる；92.3%、13. 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識を有し実践に活用できる；93.7%、「健康づくりの実践」について、14. 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる；95.8%、15. 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる；95.1%、16. アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる；96.5%、17. 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる；95.1%、18. 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる；93.0%、19. 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる；84.5%、20. 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる；94.4%、21. 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる；96.5%、「健康づくりの環境の整備・改善」について、22. 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境(人・物・制度)の改善に向けて実践できる；90.1%、23. 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる；86.6%、24. 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる；80.3%、「多職種との協働」について、25. 多職種の専門性と多様な価値観を理解し、尊重することができる；96.5%、26. 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる；96.5%、27. 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる；95.1%、28. ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる；94.4%、「生涯にわたる探究心と自己研鑽」について、29. 常に探求心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる；91.5%、30. 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる；90.8%、31. ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる；90.8%、32. 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる；96.5%で、いずれの項目においても高水準を維持することができた。今後の課題として、【「コミュニケーション能力」7. 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる；73.9%】については、昨年度同様、他に比べ達成度が低いことから、国際的視野を培う取り組みが必要である。語学、国際関係や異文化を理解することに加え、相手の価値観を尊重し、新しい価値を協働して創造する能力を備えた人材を育成するような仕掛け(講義・演習に加え、セミナー企画)を含めて、国際交流委員会と協業しながら、検討していきたい。

次に、「学位授与の方針の達成に授業科目、科目編成、科目の評価、教員の指導は有用だったか」について、「とても有用」と「やや有用」を合わせて、1. 授業科目；96.5%、2. 科目編成；97.9%、3. 科目の評価；95.1%、4. 教員の指導；97.2%と、学生の満足度は高水準で維持することができた。今後も授業評価アンケート結果を活用した具体的な学生の意見を汲み上げていくことで、各科目責任者が担当科目および授業形態の特徴に応じて学生の学修を支援する方策を検討する努力が引き続き求められる。

また、令和6年度には、カリキュラムの改正が行われた。大学機関別認証評価での評価コメントをふまえて、アセスメントポリシーの作成を行った。

2) 次年度の方策

令和6年度には、新たなカリキュラムポリシーのもとで、カリキュラム改正実施した。

また、大学機関別認証評価での評価コメントをふまえて、成績評価における基準の明示化のために、アセスメントポリシーを作成した。必要に応じて学則などの改正の是非についての検討とそのFD開催を目指す。

新たなカリキュラム、アセスメントポリシーの評価を行い、継続して文理横断・融合教育の推進に向かって、学部教育体制の改善・改革をはかる。

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

(1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
 - ・人間性、コミュニケーション能力
 - ・協働、責任感、地域貢献
 - ・主体性、探究心

(2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

(3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

(4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心をもち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- ⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く求めている。

(5) リハビリテーション学科理学療法学専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

(6) リハビリテーション学科作業療法学専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

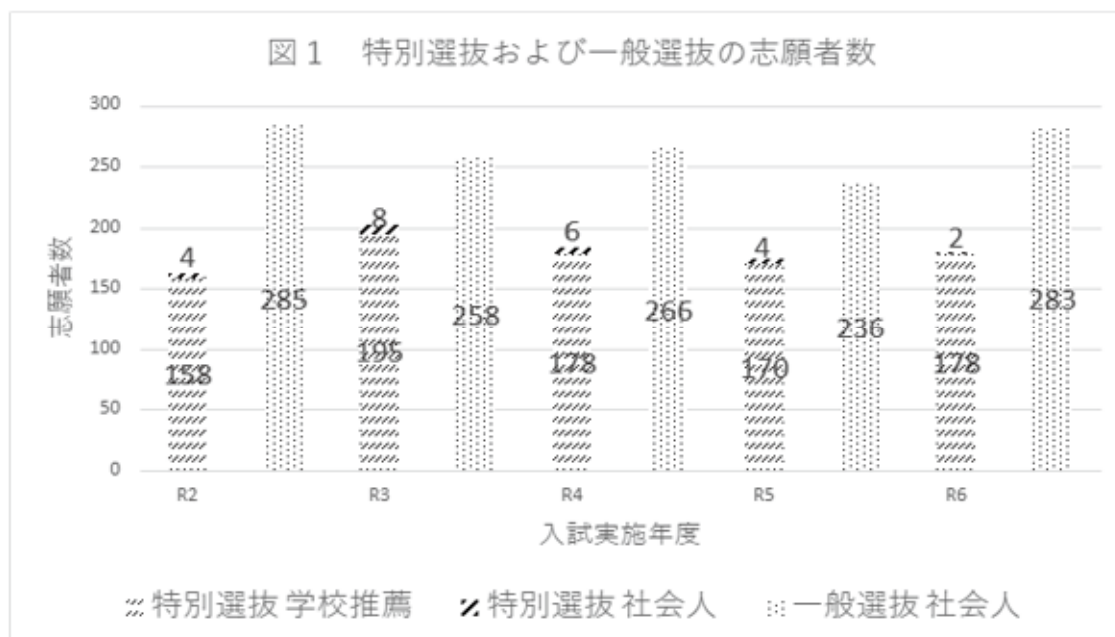
2. 年度当初の重点課題

令和7年度大学入学共通テストの新科目「情報Ⅰ」について調査・検討して各学科・専攻の選択方法及び配点を決定して令和5年6月末までに公表する。推薦枠拡大について学生確保への影響を調査する。調査書等を活用した新たな面接試験方法について学生確保への影響を調査する。求める学生像に適した大学入学共通テストの利用の見直しを検討する。

3. 入学者選抜状況

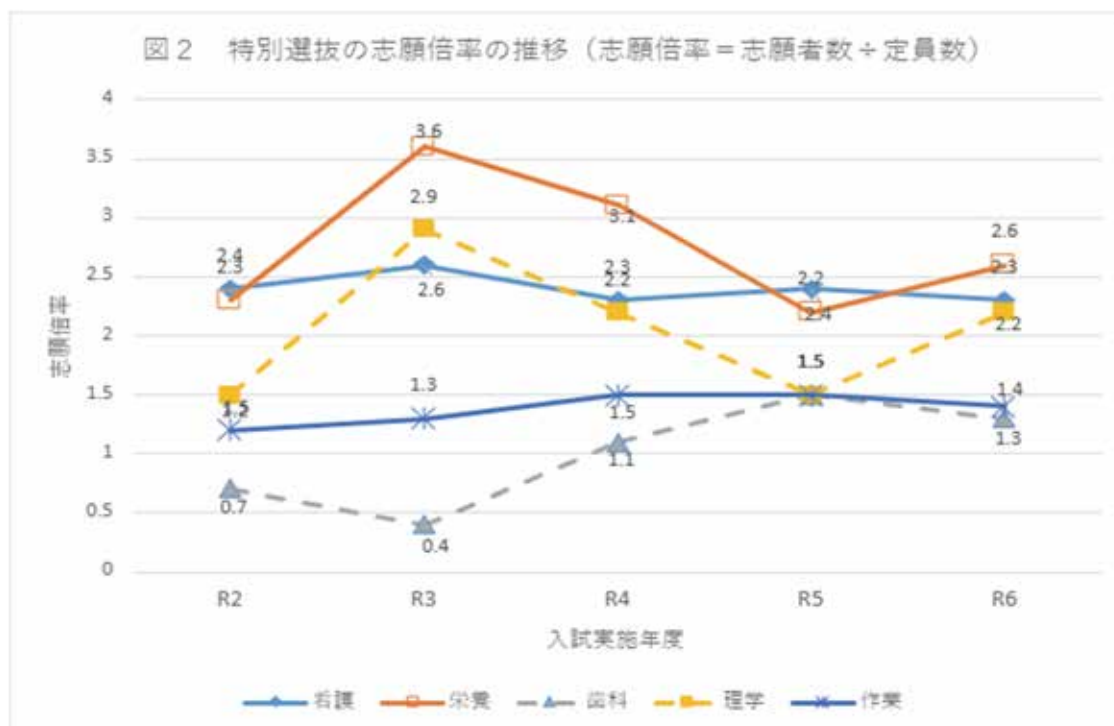
(1) 過去5年間の一般選抜および特別選抜の志願者数（年度）（図1）

令和6年度の志願者数は令和年度から増加しており、特別選抜及び一般選抜共に過去5年間で2番目に高い値を示している。



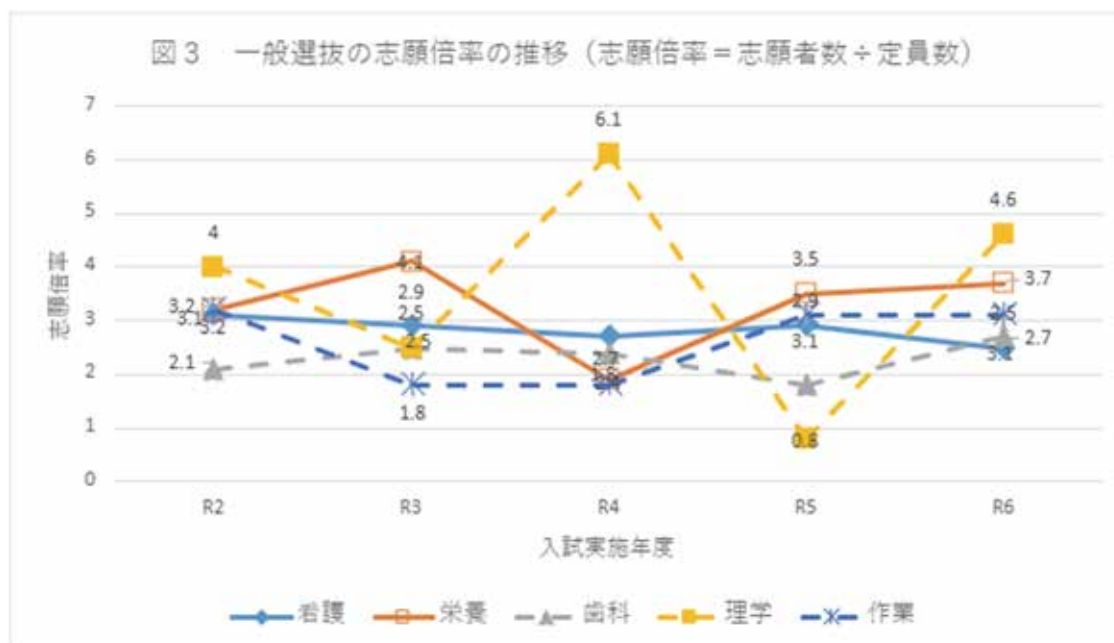
(2) 特別選抜入試の志願倍率の推移 (図 2)

特別選抜の定員枠が4割から5割に拡大した平成30年度以降は志願倍率が増減を繰り返しているが、令和5年度まで減少傾向だった理学療法学専攻が上昇し、看護学加科及び栄養学科と共に2倍前後を示している



(3) 一般選抜の志願倍率の推移 (図 3)

志願倍率の推移は、理学療法学専攻は年度により変動が大きく、令和6年度は定員割れの前年度0.8倍から4.6倍に上昇し、その他の学科・専攻も3倍前後を維持している。



(4) 編入学の受験競争率 (出願者数 ÷ 合格者数) の推移

看護学科編入学 (3年次)									
年度	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
倍率	3.6	3.2	7.6	12	2.3	4	—	—	9

4. 学生募集のための取り組み

(1) 大学案内の作成・配布

広報委員会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の理念・目的、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、カリキュラムの構成、各学科専攻長からのメッセージ、各学科専攻の特色、在校生からのメッセージ、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格者を掲載している。大学案内は、進学フェアのイベント、県内の高等学校、業者経由で希望があった個人に送付した。また、pdf を大学のホームページに掲載し、本学の特色を広く周知するよう努めた。

(2) オープンキャンパスの開催

令和5年度から人数制限なしでの開催が再開されたオープンキャンパスは、令和6年度も引き続き7月13日、14日に対面、人数制限なしで実施した。2日間の参加者は2,079名であり、来場者アンケートでは満足度も高かった（とても満足72%、満足23%）。

(3) 高等学校での模擬講義・説明会等の実施、高等学校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校や仲介業者からの依頼に合わせて、高等学校での模擬講義や大学説明会の実施、進学セミナーへの参加を行っている。令和5年度の出席件数は82件であったが、令和6年度は90回であった。

高校訪問・模擬講義・説明会への出席件数及び派遣教職員数

年度	依頼件数	参加件数			教員	派遣数		合計	出席者数
		教職員	資料参加	合計		職員	合計		
平成29年	134	83	34	117	89	0	89	2082	
平成30年	143	79	39	118	90	0	90	2011	
令和元年	119	105	13	118	100	0	100	1945	
令和2年	96	44	12	56	47	0	47	-	
令和3年	114	71	4	75	73	4	77	-	
令和4年	107	70	5	75	65	11	76	1497	
令和5年	125	79	0	79	81	9	90	1714	
令和6年	146	90	5	95	95	0	95	2035	

(4) ホームページでの情報提供

大学ページで、活躍した教員の研究活動に関するインタビュー内容が公開されたホームページを紹介した。

(5) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッションポリシーや教育内容を周知し、適正のある受験生に本学を志願する意思決定をしてもらえるようにした。

(6) 過去問の閲覧

平成30年度入試問題から、大学ホームページ（著作権に配慮した公開）および大学学生支援課窓口で閲覧が可能になった。令和6年度の過去問閲覧の来学者は57名だった。

5. 学生の在籍状況

令和7年3月31日現在の在籍学生総数は724名であり、収容定員(740名)対比は0.98でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員比は、看護学科（収容定員340名）が0.96（在籍学生数327名）、栄養学科（収容定員100名）が0.99（在籍学生数99名）、歯科衛生学科（収容定員100名）が1.02（在籍学生数102名）、理学療法学専攻（収容定員100名）が0.96（在籍学生数96名）、作業療法学専攻（収容定員100名）が1.00（在籍学生数100名）である。

開学時から令和7年3月31日現在退学者累計数は77名で、入学総数2,702名（除籍・編入学を除く）に対する退学者の割合は2.84%であった。学科別では看護学科が19名、栄養学科が13名、歯科衛生学科が16名、理学療法学専攻が15名、作業療法学専攻が14名である。退学理由の多くは進路変更だが、若干名は経済的理由を含む家庭の事情であった。

今後も受験生の志望動機を見極めるとともに、入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化するなどの方策が求められる。

退学者数（令和7年3月31日現在）

入学年度	退学者数（休学後退学者数）					合計
	看護学科	栄養学科	歯科衛生学科	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻		
平成21年度	4(3)	1(1)	0(0)	2(2)	1(1)	8(7)
平成22年度	1(1)	1(0)	1(1)	0(0)	2(2)	5(4)
平成23年度	0(0)	3(3)	1(0)	2(2)	0(0)	6(5)
平成24年度	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	1(1)	3(3)
平成25年度	1(0)	2(2)	1(1)	2(2)	1(1)	7(6)
平成26年度	2(2)	0(0)	0(0)	1(1)	2(2)	5(5)
平成27年度	3(3)	0(0)	2(2)	0(0)	1(1)	6(6)
平成28年度	2(2)	0(0)	1(1)	1(1)	1(1)	5(5)
平成29年度	2(1)	1(0)	4(1)	0(0)	2(2)	9(4)
平成30年度	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	1(1)	2(1)
令和元年度	2(2)	1(1)	3(3)	0(0)	1(0)	7(6)
令和2年度	2(2)	2(2)	1(1)	3(3)	0(0)	8(8)
令和3年度	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
令和4年度	0(0)	1(1)	0(0)	1(0)	1(1)	3(2)
令和5年度	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
令和6年度	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
累計	19(16)	13(10)	16(10)	15(13)	14(13)	77(62)

6. 評価（成果および改善すべき事項）

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は5類感染症に変更され、令和6年4月1日からは通常の医療提供体制等へ完全移行したことから、令和6年度のオープンキャンパスは予約制と入場制限を撤廃し、新型コロナウイルス感染症の発生前とほぼ同様な体制で開催された。令和令和5年度の来場者数は2079名（看護学科1093名、栄養学科425名、歯科衛生学科134名、理学療法学専攻311名、作業療法学専攻116名）で、前年度比91.7%であった。6年度の来場者数は1436名（看護学科811名、栄養学科279名、歯科衛生学科68名、理学療法学専攻178名、作業療法学専攻100名）で、前年度比144.8%であった。

令和7年度入学一般選抜試験で理学療法学専攻の大学入学共通テスト利用科目と配点を変更し、志望倍率が上昇した。

7. 次年度の方策

令和7年度大学入学共通テストで「情報Ⅰ」の試験が初めて実施されたことから、高校、教育委員会及び文部科学省の対応を分析して他教科との選択や配点を含めた「情報Ⅰ」の設定に関するFD・SDを開催するなど、学生の受入れに資する活動を行なう。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題等

学生委員会の重点施策では、各学科・専攻と同窓会分科会との連携まではできたが、支援体制の評価をするまでには至らなかった。体制を整備・改善し、情報共有できるようにする。

進路支援委員会では、所掌事項に関する活動を計画的に行う。県内保健医療機関と連携し、県内就職の推進に努める。国家試験合格率100%を目指し、大学全体として取り組んでいく。

2. 活動内容

1) 学生委員会

学生の福利厚生：令和6年度学生支援計画を立案し、以下の取組を行った。学内環境の点検について、Wi-Fi環境を強化し、以前より使用しやすくなったが、まだ良い環境とはいえない状況にある。学生会とは、コミュニケーションをとり、新入生歓迎会、いずみ祭(10月13日・14日)の開催を支援した。来場者数は13日が510名・14日が346名で計856名となり、昨年より160名増であった。売店・自販機については、学生のニーズ調査を実施し、その結果をもとに、後援会と学生支援課で「キッチンカーのお試し」について検討し、授業期間のみ幕張キャンパスでは週2日実施できた。仁戸名キャンパスでも実施したが、利用者が少なく撤退となり、お弁当の注文に切り替えて対応している状況。学生対象セミナーでは、ブラックバイト、デートDV防止に関わるビデオのオンデマンド配信を行った。また、学生向け講習会を前期末試験最終日の8月8日に設けて、「防犯対策講話」を千葉西警察の方にしていただいたが、学生7名の参加であった。学生委員会のFD「発達障害の学生の対応について」をテーマに12月20日に実施した。卒業式において、学生会中心に「仰げば尊し」を歌うことができた。

学生の保健衛生：令和6年度健康診断(口腔検診・体力測定を含む)は4月5日に実施し、診断結果に基づき指導を行った。ワクチン接種計画(B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン)を計画し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。R7年度学生ハンドブック、自己管理ファイルの内容について検討し、加除修正を行った。

学生の課外活動：15団体の各サークルで活動を行った。

奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面談を行った。

授業料等の減免：R6年4月に規程の改定を実施した。

後援会：加入者が減少しているため、入学式に保護者と共に新入生にも「後援会の活動」について説明を実施した。前年度より25.8%上回り、73.9%となった。

同窓会：各学科専攻の分科会で、ホームカミングデーや懇親会などを企画し、実施することができたが、分会との連携・支援体制の評価はできていないため、次年度以降に検討を継続していく必要がある。

卒業時調査については、自己点検評価委員会・IR部会で実施した。

2) 進路支援委員会

就職・進路支援：令和5年度進路支援計画を作成し、就職・進路支援を行った。進路ガイドブックに関しては、見直しを実施し、加除修正を行った。全学でのキャリアセミナー第1回(8月8日)「就活の進め方」、第2回(8月21日)「公務員業務説明会」、第3回(3月11日)「就職活動に必要なマナーのツボ」を実施した。ジョブカフェの就職セミナーは、第1回(6月19日)「自己PR作成セミナー」、第2回(9月25日)「エントリーシート対策セミナー」、第3回(2月26日)「個人模擬面接セミナー」を実施した。第2回キャリアセミナーに関しては、学生さんから、千葉県病院局の各病院の看護方式、保健所保健師の業務等について深く知ることができた。また、専門資格を持つ公務員の仕事内容や現状について様々な情報が得られたと大変好評であった。次年度以降も千葉県職員の方に講演していただく方向で検討していきたい。ハローワークによる個別就職活動支援は、7月～8月にかけての利用が多かった。進路情報室の活用は、約180名であった。令和6年度の就職率は、看護学科100%、栄養学科100%、歯科衛生学科100%、リハビリテーション学科理学療法学専攻100%、リハビリテーション学科作業療法学専攻100%であった。本学の県内就職率67.5%、県外就職率32.5%であった。令和5年度の県内就職率73.5%であり、昨年度より6%の減少となった。看護学科では、県内保健医療機関の就職関連情報が強調されるような周知方法を検討し、約72%が県内就職となった。

国家試験対策：令和6年度支援計画に基づき、各学科専攻で国家試験受験支援を行った。国家試験模擬試験代の助成を後援会から受けた。令和6年度の国家試験合格率は保健師97.4%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士91.3%、歯科衛生士100%、理学療法士100%、作業療法士95.8%であった。すべての職種で、全国平均を上回る結果となった。

3. キャンパスハラスメント

- 1) 本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態を把握し、その防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。
- 2) 令和6年度は学生1名から教員1名よりハラスメントを受けているとのことでキャンパスハラスメント防止対策委員会に調査申し入れがあり、キャンパス・ハラスメント調査委員会を立ち上げ調査を行った。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

本年度は、以下の 5 つの課題に取り組んだ。①修学支援・生活支援：学生が充実した学生生活を送るために、必要な支援体制を整備する。②進路支援・県内就職の推進：学生が主体的に進路を選択し、就職活動を行えるように進路支援ガイダンスと就職・進学活動調査を実施する。担任や看護研究担当教員と連携し、学生の県内就職を促進する。③国家試験対策：合格率“ALL100%”を目指し、国家試験受験対策を効果的に進めるための支援を強化する。④看護学科卒業生・同窓会：活動をサポートし、卒業生に対する卒後支援の仕組みを構築する。⑤卒前・卒後教育情報交換会を継続的に開催し、実習施設教育担当者との連携を深める。

(2) 取組状況

- ①学生の学業および生活に対する支援は、特に個別履修を行っている学生や複雑な問題を抱える学生に対して、担任と学年リーダーと連携を密にし、フォロー体制の強化を図った。
- ②就職試験の早期化に合わせた時期の設定と重複内容のスリム化を図り、就職・進学調査の時期を早め、進路支援ガイダンスを2回開催した。県内就職の推進については、全学進路支援委員会の事業への参加を促し、ガイダンスを通して学生に県内就職を呼びかけることで、内就職率は72.4%であった。
- ③国家試験対策については、早期より学習に取り組むように働きかけ、eラーニング教材や第3回保健師模試1月実施するなど、学生のニーズを把握しながら支援を行った。成績が低迷している学生には個別に書籍やツールを用いた学習支援を行ったが、計画的に進められなかった学生も存在した。
- ④看護学科の卒業生および同窓会に関する活動としては、同窓会と連絡・調整・会計監査を行った。「ホームカミングデー」については、卒業式での周知や、教員からアドバイス・経験談を募り卒業生に配布するなどの取り組みにより、多くの参加者を得ることができ、卒業後の不安・悩みの軽減に寄与できた。また、参加者からカリキュラムに対する意見も聴取した。
- ⑤卒前・卒後教育情報交換会は、「新人看護職のメンタルヘルスケア」をテーマに2月20日にリモート会議で開催し、実習施設や就職施設18施設23名が参加し、活発な情報共有と意見交換ができた。

(3) 評価（成果および改善事項）

- ①担任は担任リーダーと連携を密にしながら個別履修計画のある学生に対して学習およびメンタル面ともに手厚いサポートを行うことができた。今年は特に2年次生の個別履修計画者が多く、また休学・退学者は3年次生に多かった。前期は学修環境の変化はもちろん生活環境の変化のある学生もいることから、担任・担任リーダーからの声掛けを密にするとともに、各授業における学生の学習状況に対して気配り、目配りをしていく必要がある。各学生の目標や課題を明確にするためのポートフォリオ作成支援および進捗確認に関しては、特に3年生は担当人数が多いため課題が残った。
- ②学生の進路支援として、学生の希望を踏まえ3回の進路支援ガイダンスを実施したが、ますます早まっている採用試験時期に合わせて、進路支援ガイダンスや3年次調査の時期と内容の整理が必要である。県内就職率は74.0%と高い割合であった。
- ③新卒者の国家試験においては、看護師・助産師で100%、保健師で97.4%の合格であった。保健師の不合格者については、学習への取組が不十分なまま受験したとのことであった。計画的に学習を進められるよう、定期的に支援を行っていく必要がある。
- ④6月に同窓会の協力を得て、「ホームカミングデー」を開催した。今年度は卒業式に日程をアナウンスし、卒業後も大学からの案内を随時行った結果、多くの参加者があり、満足度は高かった。引き続き、できるだけ多くの参加が得られるよう、企画や周知方法を検討したい。
- ⑤今年度も2月20日に実習施設および県内就職施設の教育担当者との「卒前・卒後教育情報交換会」を開催し、活発な情報交換を行うことができた。参加者の満足度も高く、実習施設教育担当者との連携の場が構築できた。

(4) 次年度の方策

- ①各学生の目標や課題を明確にするためのポートフォリオ作成および進捗確認の支援を強化するために、担任制度の見直しを実施する。
- ②進路支援ガイダンスは、学生のニーズを踏まえ、引き続きガイダンス内容を再評価し、効率的・効果的に事業

を展開する。

- ③学生のニーズに応じた模擬試験の実施時期を設定し、国家試験対策専用のアクティブラーニングスペースを設けることで、国家試験の100%合格を目指す。
- ④看護学科卒業生・同窓会において、前年度の同窓会役員から今年度の役員への引き継ぎが円滑にいくように、教員は現役員・次期役員間のコミュニケーションを支援する。
- ⑤本学の重点施策の一環として実施している卒前・卒後教育情報交換会について、基礎教育・継続教育に関わるテーマで開催し、情報共有や意見交換を通して実習施設と大学との連携を一層強化する。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

管理栄養士特別演習を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、面談(2回)や個別相談等の窓口として学生支援にあたった。さらに学科会議で学生の様子を報告、共有し、学科全体で学生支援を行った。臨地実習(臨床栄養(必修)11施設・給食経営(必修)16施設・公衆衛生(選択)11施設および栄養教育実習(選択)7校)は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。

就職活動の支援は3年次から担任・進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講話や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、学生の希望に応じて学科教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動・大学祭は感染予防に留意しながら実施した。いずみ祭では、コロナ禍前と同様に飲食物の提供が可能となり、栄養学科の実習施設を調理や食品保存のために貸出した。1年生はトロピカルジュース、2年生はポップコーン、4年生はうどん、アイスクリームの模擬店販売をおこなった。また栄養学科ブースでは、紅茶の試飲による実験体験、受験相談、展示(ジュースの砂糖、野菜の摂取量、教科書)がなされた。

学習・生活指導や相談などは各教員が担当した。国試対策は科目担当者による国試対策講座、業者模試7回を計画・実施、さらに成績低迷者には、模試終了後の面接指導および学習アドバイスを実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

卒業生23名。管理栄養士国家試験合格率91.3%、卒後の進路は進学1名、就職22名、就職率100%であった。県内就職率27%となり。就職先の内訳は病院3名、官公庁7名、施設2名、一般企業(管理栄養士・栄養士として給食会社、保育所、薬局等に勤務、その他)10名であった。次年度は国家試験合格率100%達成と県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

歯科衛生士国家試験合格率100%を目指し、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関連団体と連携を図り、50%以上の県内就職率を目指す。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、主に教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担当制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。学修支援については、各教員が授業に対応した教材作成とそれを用いた講義を展開し、演習・実習においては引き続き感染予防対策を講じて実施した。学外の臨床・臨地実習では、実習施設と事前打ち合わせを行い、実習前には施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーシート・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク(公共職業安定所)の協力を得ながら支援した。国家試験対策については、進路支援委員会が中心となり、学外全国統一模擬試験を3回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施して理解の強化を図った。

(3) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生士国家試験については教員が積極的に支援を行った。新卒者は全員が合格した。就職状況等について、病院 5 名 (21.7%)、歯科診療所 13 名 (52.0%)、行政 3 名 (13.0%)、企業 1 名 (4.3%)、大学院進学 1 名 (4.3%) であった。県内就職率については、関係団体との連携を行い 69.5% であった。

(4) 次年度の方策

歯科衛生士国家試験合格率 100% を目指し、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携を図り、50% 以上の県内就職率を目指す。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士になるための意欲を確認しながら、学年進行に努める。精神状態の不調者以外で学習意欲の低い学生に対して、各学年担任は学生の授業や臨床実習へのモチベーション確認を心掛ける。特に精神状態の不調が生じやすい臨床実習時には、精神状態の不調により実習が中断とならないように工夫する。臨床実習中は、学生の日常生活態度等の変化を見過ごさないように、健康状態を記載した日常生活記録を提出させ精神状態の把握を心掛けるようにする。

(2) 取組状況

各学年担任による半年に一度の面接を実施している。その他で相談がある場合や欠席などが多い場合は、個別対応を行っている。9 月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように心掛けている。また学生の問題に対して早期に対応できるよう、毎週の専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援は担任及びゼミの担当教員が中心となり、国家試験対策は国家試験対策担当教員を中心に対応を行っている。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、ゼミの担当教員又は国家試験担当教員が個別対応を行っている。なお個人でのみの国家試験の勉強は極力避けるよう、できるだけ大学にて勉強を行うように促した。評価実習から総合実習まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけるなど健康状態の不調を早期に把握するように試みている。

(3) 評価（成果および改善事項）

卒業生 22 名全員が国家試験受験し、全員が合格した。県内就職者は 19 名、県外は 3 名で千葉県から要望がある県内就職率 70% 以上の数値目標を上回った。新たに進路に対する悩み、学業不振による留年者が出た。引き続き、学生との連絡を密にし、できるだけ早期に対応できる体制を推進したい。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率 100%、県内就職率 70% 以上を維持するとともに、様々な理由で学習意欲の低くなってしまった学生を早期発見し、対応できるように、学年担任を中心に、各教員間の連絡を密にする。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 年度当初の重点課題

本専攻では、学生の通学負担を考慮し、1 年次の授業は原則として幕張キャンパスで実施しているが、専門科目の一部については水曜日に仁戸名キャンパスで実施し、実習設備を活用した教育を行っている。授業内容は、作業療法概論、基礎作業療法、基礎作業療法実習、体験実習のオリエンテーションなどである。2 年次は火・木曜日に仁戸名キャンパス、その他の曜日は幕張キャンパスで学修しており、3・4 年次は主に仁戸名キャンパスで学修している。特に 3 年次生は通学利便性を考慮し、自主的に住居を選択するなどの工夫が見られた。4 年次には国家試験対策として選択科目「作業療法総合演習」を導入し、模擬試験や個別指導、グループ学習、学生相談を通じて学習支援を行っている。

(2) 取組状況

作業療法学専攻では、担任・副担任制を導入し、学生の適性や就職に関する個別支援を行っている。重要な事案には専攻長も加わり、組織的に対応している。また、教員はサークル顧問も兼務し、学生生活全般にわたる支援を行っている。学生間の交流促進を目的にチューター制度を導入し、1 年次から 4 年次までの縦割りグループによる交流会を学生主体で実施している。仁戸名キャンパスには教員が常駐しており、幕張キャンパスの学生ともチャットやメールを通じて連絡を取り、相談対応を行っている。今後の課題としては、2 キャンパス間の距離による不便さの解消や、SNS 等を活用した支援体制の強化が挙げられる。進路支援や国家試験対策については、週 1 回の専攻会議を通じて継続的に情報共有と対応策の検討を行っている。

(3) 評価（成果および改善事項）

成果として、通学負担への配慮として、1 年次の授業を幕張キャンパスに集約しつつ、必要に応じて仁戸名キャンパスでの実習を組み合わせることで、教育効果と学生の利便性の両立が図られており評価できる取り組みで

ある。また、国家試験対策として導入された選択科目「作業療法総合演習」では、模擬試験、個別指導、グループ学習など多様な支援手法を通じて学習支援の質が向上しており、学生の学習意欲の向上にも寄与している。さらに、担任・副担任制およびチューター制度の導入により、学生一人ひとりに対するきめ細やかな支援が実現されており、学年間の交流促進にもつながっている。加えて、教員の常駐体制やICT（チャット・メール）を活用した相談対応により、キャンパス間の物理的距離を補完する工夫がなされている点も評価できる。

改善事項として一方で、2 キャンパス間の移動に伴う時間的・身体的負担は依然として課題であり、特に2 年次の学生にとってはスケジュール調整が困難となる可能性がある。また、SNS 等の活用については、具体的な運用方針やツールの選定が十分に整備されておらず、学生とのコミュニケーションの質をさらに高める余地がある。

(4) 次年度の方策

次年度は、2 キャンパス間の移動負担軽減を目的に、時間割の最適化や一部授業のオンライン化（D x）をさらに検討する。また、SNS 等を活用した学生支援体制の強化に向けて、運用方針の整備と教職員への研修を実施する。さらに、チューター制度の活性化を図り、学年間の交流と学習支援の充実を推進する。

5. 令和6 年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②4年間の学生生活について、③学生生活・学生支援に対する満足度、④実施した就職・進学活動について、⑤学士授与の方針の達成度に関する自己評価、⑥大学の教育に対する意見である。調査時期は、2025年2月から3月で、Webにて回答を回収した。

2) 調査の結果

(1) 対象者の概要

卒業生168名中155名からの回答が得られた（回収率92.3%）。昨年より2.3%上回る回収率となった。所属学科は、看護学科76名（49.0%）、栄養学科23名（14.8%）、歯科衛生学科28名（12.9%）、リハビリテーション学科理学療法専攻13名（8.4%）、リハビリテーション学科作業療法学専攻23名（14.8%）であった。

(2) 本学の教育に対する満足度

「特色科目」「一般教養科目」「ICT 教育」「保健医療基礎科目」「おもに学内で実施の専門科目（学習内容・教員の指導）」「学外実習での専門科目（学習内容・臨地実習指導者による指導・教員の指導・実習施設までの交通の便・実習施設における実習環境）」「時間割」「4 年間のカリキュラム」「GPA の活用」の14 項目で、「とても満足」と「やや満足」と回答したのは平均で92.6%となり、本学の教育に対する満足度が高いことが伺えた。学外実習に関しては、学習内容や教員・指導者の指導に対する評価は良好でしたが、交通の便についてはやや不満の声も見られた。時間割やカリキュラム、GPA の活用については概ね肯定的な評価が得られた。

(3) 本学の教育目標への到達度

学位授与の方針の達成度について、「倫理観とプロフェッショナルリズム(3項目)」「コミュニケーション能力(4項目)」「実践に必要な知識(6項目)」「健康づくりの実践(8項目)」「健康づくりの環境の整備・改善(3項目)」「多職種との協働(4項目)」「生涯にわたる探求心と自己研鑽(4項目)」7分野で32項目の質問をした。卒業時における力の発揮について、すべての項目で90%以上が「十分発揮できる」または「ある程度発揮できる」と回答。特に「人権尊重と倫理観」「信頼関係の構築」「健康づくりの計画と実施」「多職種との協働」などで95%以上の高評価が得られた。一方、「国際的情報の活用」や「制度改善の企画提案」では「どちらともいえない」が10~20%あり、今後の課題といえる。授業・指導の有用性も96%以上が肯定し、教育内容が学びに直結していることが示された。

(4) 4 年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「臨床（臨地）実習の学習」「国家試験のための学習」「進路・キャリアの検討」「他大学との学生との交流」「サークル活動」「いずみ祭」「友達等との交流」「先輩・後輩等との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア」「趣味・レジャー」の17 項目について、取り組みの程度および活動から得たものの大きさを4 段階で質問した。大学生活で得た成果に対する評価は、学業面で非常に高く、「臨床実習の学習」98.1%、「専門科目の学習」94.8%が「非常に大きい」または「やや大きい」と回答。「国家試験の学習」や「進路・キャリア検討」も90%以上が肯定的に評価。一方、「他大学との交流」や「部活動」では「該当なし」や「非常に小さい」が40~46%と高く、得られた成果は限定的でした。私生活面では「友人との交流」90.3%、「家族との交流」90.3%など、交流や趣味活動からの学びも多く見られました。学生の学業への取り組みは非常に熱心で、たとえば「臨床実習の学習」では96.1%が「とても熱心」または「やや熱心」と回答。「国家試験のための学習」も91.6%が

積極的に取り組んでいた。一方、「他大学との交流」や「部活動・サークル活動」は「該当なし」や「全く熱心ではない」が約37～33%と高く、課外活動への参加は限定的でした。友人や家族との交流、アルバイト、趣味・レジャーには約80～90%が熱心に取り組んでおり、学業と私生活の両立が伺えた。

(5) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「office365」「所属学科専攻の教員の対応」「所属学科専攻以外の教員の対応」「事務職員の対応（幕張・仁戸名）」「図書館職員の対応（幕張・仁戸名）」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「カウンセラーによる学生相談」「教員による学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍の学生への支援」「事務手続き（幕張・仁戸名）」「施設の清掃（幕張・仁戸名）」「幕張売店（Bossマート）」「仁戸名無人ワゴン販売」「学生生活への全体評価」の29項目について、満足度を4段階で質問した。学生支援に関する満足度は全体的に高く、「健康診断」では92.3%、「図書館職員の対応（幕張）」は93.5%が満足と回答。「学生用メールシステム」や「Office365」も約75%以上が肯定的でした。一方、「オフィスアワー」や「掲示による連絡」は「該当なし」や「やや不満」が約30～45%とやや低評価となった。また、「仁戸名キャンパスの事務・図書館職員対応」や「奨学金制度」は「該当なし」が70%以上と高く、利用率に課題が見られた。教員対応や就職支援は85%前後が満足と回答。学生生活に関する施設・設備については、学生相談やサポート制度に関して、「学科専攻での教員による相談」は62.6%が満足と回答。一方、「大学カウンセラーによる相談」や「休学者・長期在籍者支援」は「該当なし」が約77～91%と非常に高く、利用率の低さが目立った。「施設の清掃（幕張）」は89%が満足と回答した一方、「売店」や「無人販売」では「やや不満」「該当なし」が多く、満足度は低かった。全体として、学生生活への評価は80%以上が肯定的で、概ね良好だった。幕張キャンパスの講義室や実習室の設備は、「広さ」「空調」「机・椅子」などで約65～75%が満足と回答。一方、仁戸名キャンパスでは「該当なし」が70%以上と多く、利用機会が限られている様子が伺えた。「図書館（幕張）」は89%が満足と高評価だったが、「仁戸名図書館」は「該当なし」が73%と高く、利用率に差が見られた。全体として、幕張の施設は高評価が多く、仁戸名は利用者が限定的だった。幕張キャンパスの「学生ホール」や「自習室」は約86%が満足と回答し、利用率・評価ともに高い傾向が見られた。一方、仁戸名キャンパスの施設は「該当なし」が70～89%と非常に高く、利用機会が限られている様子が伺えた。学生の学業への取り組みは非常に熱心で、たとえば「臨床実習の学習」では96.1%が「とても熱心」または「やや熱心」と回答。「国家試験のための学習」も91.6%が積極的に取り組んでいた。一方、「他大学との交流」や「部活動・サークル活動」は「該当なし」や「全く熱心ではない」が約37～33%と高く、課外活動への参加は限定的だった。友人や家族との交流、アルバイト、趣味・レジャーには約80～90%が熱心に取り組んでおり、学業と私生活の両立が伺えた。「トイレ（幕張）」は満足・不満が拮抗し、改善の余地が示唆された。「キッチンカー」や「自販機」などの飲食関連施設は幕張での評価が高めだが、「Bossマート」はやや不満の声も多く、改善が望まれる。

(6) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」などについて質問した。卒業後の進路は95.8%が就職と回答し、進学は2.8%にとどまった。活動開始時期は「3年次後期」が最多で38.0%、次いで「4年次前期」30.3%、職種は「看護師」42.3%、「理学療法士」13.4%、「歯科衛生士」12.0%が多く、就職先は66.9%が千葉県内。受験施設数は「1カ所」が47.2%と最多で、65.5%が1カ所から内定を得ていた。内定辞退の対応では「第1希望の発表後に連絡」が17.7%と最も多く、誠実な対応が伺えた。進路支援事業・情報収集・重視した条件については、進路支援イベントの「就活マナー講座」54.9%、「第2回ガイダンス」49.3%が「役に立った」と評価。学科別セミナーは参加率が低く、「卒業生との懇談会（作業療法）」でも8.5%だった。情報源としては「施設のホームページ」93.7%、「就職サイト」81.7%、「教員」71.8%がよく活用された。相談相手は「家族」34.3%、「教員」24.9%が多く、重視した条件は「給料」13.7%、「施設の規模・機能」9.7%、「雰囲気」9.5%などが上位だった。進学活動を行った学生の状況は、進学希望者は全体のうちわずか2名（1.4%）で、うち1名が大学院を受験。受験校数は1校のみで、活動は非常に限定的だった。相談相手としては「家族」「教員」が各1.4%と少数で、進学活動における支援や情報共有の機会が限られていたことが伺えた。全体として、進学希望者はごく少数であり、進学支援のニーズは限定的である一方、個別対応の重要性が示唆された。

6. 評価（成果および改善すべき事項）

各学科専攻において、年度当初の重点課題を遂行し、成果が得られたといえる。リハビリテーション学科では、2キャンパス間の移動に伴う時間的・身体的負担が問題となっており、改善すべき点と考える。学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に実施することができた。それらの活動のうち、令和6年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①昨年度から新入生に対し、本学のAED設置場所を周知し、AED取り扱いの知識をつけていただくために、消防庁がインターネットで公開している「応急手当WEB講習 普通救命講習編」を受講後、「受講証明書」を提出させた。医療職を学ぶものにとって、必要な知識を身につけることは重要なので、今後も継続していけるようにする。②「いずみ祭」を昨年よりも盛り上げることができた。来場者数は10月13日が510名・14日が346名で計856名となり、昨年より160名増であった。SNS等を活用し、広報に力を注いだ成果と考える。③売店・自販機について、学生のニーズ調査を実施し、その結果をもとに、後援会と学生支援課で「キッチンカーのお試し」について検討し、授業期間のみ幕張キャンパスでは週2日実施できた。④学生委員会のFDとして、「発達障害の学生の対応について」をテーマで開催し、アンケート結果は、大変好評であった。⑤学内のWi-Fi整備については、継続して実施し、学生が良い環境で学生生活を送れるようにする必要がある。

進路支援については、①キャリアセミナー年3回やジョブカフェの就職セミナー年3回を対面で実施することができた。アンケート結果は、好評であった。②令和6年度県内就職率は、67.5%で昨年度より6%の減少となった。次年度は、県内就職率が増加するように検討したい。③国家試験については、すべての職種で全国平均を上回り大きな成果といえる。各学科専攻で年画計画に従い、継続できるように努めたい。

7. 次年度の方策

学生委員会では、各学科・専攻の同窓会分科会とホームカミングデイなどを通して支援体制を強化し、卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備できるように努める。また、いずみ祭を継続できるように学生会への支援体制を検討する。進路支援委員会では、所掌事項に関する活動を計画的に行うように努める。各学科専攻の年間計画を活用し、国家試験合格率100%を目指す。就職に関しては、県内保健医療機関と連携しながら県内就職の推進に努める。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。関係機関等との協働により、研究成果や知的資源を地域に還元し、地域住民の健康づくりを支援する。

2. 年度当初の重点課題

公開講座の充実に向けて、来場型とオンライン型のハイブリッド方式とし、年1回に集約して開催する。出前講座の依頼があった際には、随時実施する。

3. 活動内容

1) 公開講座

令和6年度の公開講座は、「健康な未来へ」をメインテーマとし、看護、栄養、歯科衛生、リハビリテーション（作業）の4学科の講師により、「子どもの健康な未来につながるあそびのススメ」「若い世代からのヘルスケア～次世代につながる健康とプレコンセプションケアについて～」「お口と全身の関係～お口の衰えは『寝たきり』への第一歩！？～」「健康な老後に向けて～開いてみよう人生会議～」のタイトルで開催した。来場・オンラインのハイブリッド形式で来場者81名、オンライン参加者33名であった。参加者アンケートは講演内容や開催方式に対し概ね肯定的な評価で目標を達成できた。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

令和6年11月7日（木）に「大学の概要及びこれまでの取組と成果」について、令和6年度保健医療大学取組報告会を県庁にて実施した。「卒業生調査結果について」と、研究的取組については、「Covid-19前後の特定健康診査・後期高齢者健康診査のデータ解析から導出された健康指標の現状と課題 ―自治体との協働から―」、専門職の質向上を図る取組については「地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの実践報告」と「県健康福祉部との連携による歯科衛生士リカレント教育の実践報告」について成果を報告した。

3) 共同研究等による学外組織との連携

UR都市機構及びいすみ市と連携し、県民の生活の場における健康づくりに資する地域貢献事業である「ほい大健康プログラム」を全学科協働で実施した。令和6年度は、千葉市内UR団地で2回、いすみ市で2回開催、本学幕張キャンパスで2回開催した。プログラムの参加者は述べ56名で、プログラムの企画実施に携わった教員は述べ36名、当日の運営に携わった学生ボランティアは述べ19名であった。参加者アンケートではプログラムの満足度は高かった。

4) 各学科・専攻の活動状況

(1) 看護学科

①地域におけるボランティア活動等

千葉県内の活動としてほい大健康プログラム、外国語による応急処置体験講習、災害訓練傷病者訓練ボランティア、CHIBASHI こども未来会議、千葉県医療的ケア児家族会、千葉つばみの会イベント等22件であった。

②地域への保健医療活動

みつわ台総合病院診療・技術指導の1件であった。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：以下17件の委員等を務めた。

審議会委員5件（文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)認定審査委員会委員、厚生労働省健康危機管理支援事業運営会議等）、委員会委員12件（千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県介護予防市町村支援検討会議委員、千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会委員、千葉県移行期医療支援体制整備事業連絡協議会、千葉市地域自立支援協議会検討会医療的ケア児等支援部会、墨田区介護保険事業運営協議会委員他）

国家試験委員等5件

④職能団体委員等：以下計14件の委員等を務めた。

理事3件（日本看護学教育評価機構、日本専門看護師協議会、千葉県看護協会）、部局委員長2件（日本看護学教育評価機構 評価委員会委員長、日本看護協会専門看護師委員副委員長）、委員15件（日本看護協会、千葉県看護協会、日本看護系大学協議会、千葉県ナースセンター運営委員会他）

⑤学会、学術団体への貢献：

・所属学会・学術団体

教員が会員となっている学会は 95 あり、主なものとして日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本母性看護学会、日本看護研究学会、日本公衆衛生看護学会、日本母性衛生学会、千葉看護学会、文化看護学会等があった。

・学会、学術団体への貢献：以下計 107 件の貢献があった。

学会理事 13 件、学会監事 3 件、学会代議員・評議員 12 件、学会内委員会委員 41 件(学会誌編集、学会誌査読、教育、広報、表彰他)、学術集会各種委員会委員 23 件(企画、実行、査読他)、その他 15 件。

⑥講演会／研修会の講師・研究指導等：以下 87 件を務めた。

講演会・研修会の講師等は 60 件(厚生労働省健康・生活衛生局健康危機における保健活動推進会議、国立保健医療科学院主催公衆衛生看護研修、千葉県看護協会主催：新人教育担当者研修、新人助産師研修、看護管理者研修、認定看護管理者教育課程他、千葉県医療的ケア児等支援センター主催 支援者養成等研修、千葉県主催：介護予防の推進に資する専門職育成研修、中堅前期保健師研修会、特定健診・特定保健指導経験者研修、保健師管理者能力育成研修他、県内医療機関主催：千葉県循環器病センター、亀田総合病院、県内保健所主催：松戸保健所、習志野保健所、君津保健所、夷隅保健所、山武保健所、印旛保健所他、その他：西東京市、さいたま赤十字病院 他)

研究指導／サポートは、27 件 16 施設：県内医療機関 6 (千葉県がんセンター、千葉県循環器病センター・千葉県総合災害救急医療センター、東京歯科大学市川総合病院他)、県内保健所 4 (夷隅保健所、山武保健所、市川保健所、海匝保健所)、県内市町村 3 (市原市・松戸市他)、その他 3：墨田区、東京都立東部療育センター他)であった。

⑦その他の社会貢献：なし

(2) 栄養学科

①地域におけるボランティア活動等：15 件

・千葉県内：10 件

ちば食育応援隊「デイスサービスセンター からたち」、千葉市子ども食堂、ほい大健康プログラム (UR さつしが丘団地、いすみ市、健康教室) 6 件、千葉市食育おむすびプロジェクト、スポーツ実施時における間食と水分の取り方支援 (船橋市)

・千葉県外：5 件

食事・栄養相談、(東京都大田区)、二小青少年対策地区委員会広報 (小平市)、だれでも食堂「わらい」副代表、子ども食堂 3 ヶ所 (小平市)、健康課題児童・生徒における海洋教育協働探究カリキュラム開発プロジェクト「海・空・子どもプロジェクト」実行委員コアメンバー、鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導

②地域への保健医療活動 (診療・技術指導等、活動期間、場所等)：3 件

・千葉県内：2 件

地域高齢者向け低栄養予防講話 (木更津市地域包括支援センター、旭市中央地域包括支援センター) 2 件、

・千葉県外：1 件

鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：15 件

文部科学省科学技術・学術審議会、食品成分委員会及び作業部会専門委員、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター倫理委員会委員、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 (総合委員会、国際調和検討委員会、生物試験法委員会、専門委員)、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団生物薬品標準品評価委員会、日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクトワーキングメンバー、日本人事試験研究センター 専門試験 (栄養士/管理栄養士) 試験問題作成委員、日本栄養・食糧学会 倫理審査委員会、厚生労働省管理栄養士国家試験委員会、川崎市いじめ問題専門調査委員会委員長、千葉県管理栄養士採用試験試験問題作成委員

④職能団体委員等：3 件

所属職能団体：日本栄養士会、千葉県栄養士会、神奈川県栄養士会、東京都栄養士会

委員会・役員等：千葉県栄養士会 (研究教育事業部役員 2 件) 神奈川県臨床心理士会代議員

⑤学会、学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：55 団体

日本栄養改善学会 (12 名)、日本栄養・食糧学会 (6 名)、日本生化学会、日本調理科学会、日本給食経営管理学会 (以上 3 団体各 3 名)、日本疫学会、日本解剖学会、日本家政学会、日本公衆衛生学会、日本糖尿病・妊娠学

会、日本病態栄養学会、日本臨床栄養学会（以上7団体各2名）、千葉県学校保健学会、日本食品科学工学会、教育史学会、中部教育学会、日本英語教育史学会、日本栄養学教育学会、日本教育学会、日本教育工学会、日本教育政策学会、日本教育法学会、日本健康教育学会、日本高血圧学会、日本脂質栄養学会、日本小児科学会、日本女性医学学会、日本神経科学会、日本心理学会、日本成長学会、日本農芸化学会、日本パーソナリティ学会、日本ビタミン学会、日本肥満学会、日本分子生物学会、日本防菌防黴学会、日本補完代替医療学会、日本マイコプラズマ学会、日本薬学会、日本臨床栄養代謝学会、日本臨床化学会、日本小児保健協会、日本臨床栄養協会、DOHaD研究会、日本伝統食品研究会、日本フードサービス学会、日本酸化ストレス学会、日本心理臨床学会、日本カウンセリング学会、日本認知療法・認知行動療法学会、日本青年心理学会、日本学校心理学会、日本学校心理学会、日本柔道整復接骨医学会、日本教育心理学会（各1名）

・学会、学術団体への貢献：39件

日本栄養改善学会評議員（7名）、日本栄養改善学会理事、日本栄養・食糧学会参与、日本ビタミン学会代議員、日本ビタミン学会トピックス等委員会委員、日本ビタミン学会幹事、JNSV編集委員、日本薬学会微生物試験専門委員、日本防菌防黴学会GMPとバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員、日本疫学会代議員、日本病態栄養学会評議員、日本糖尿病・妊娠学会評議員、日本糖尿病・妊娠学会：妊娠糖尿病・糖尿病、合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究DREAMBee Study検討委員、日本公衆衛生学会代議員、日本公衆衛生学会公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員、日本伝統食品研究会幹事（庶務）、千葉県学校保健学会監事、日本栄養学教育学会編集委員、日本ビタミン学会第76回大会一般演題座長、日本ビタミン学会第77回大会実行委員、日本臨床栄養学会評議員、栄養士会雑誌査読委員、第71回日本栄養改善学会学術総会シンポジウム座長、第46回日本臨床栄養学会総会・第45回日本臨床栄養協会総会・第22回大連合大会一般演題座長、第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会一般演題座長、日本栄養改善学会第72回学術総会総務委員・栄養学雑誌編集委員、第72回日本栄養改善学会学術大会栄養教育・食育分野査読委員、日本学生相談学会代議員、日本学生相談学会倫理委員会委員、日本認知療法・認知行動療法学会心理職部会コアメンバー

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：13件

本学公開講座、海匝保健所管内栄養士会研修会、千葉県教育委員会栄養教諭初任者研修、坂戸市葉酸プロジェクト栄養士研修会、株式会社LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC大学院」、習志野保健所管内行政栄養士業務連絡会、千葉県作業療法士会 学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会、千葉県学校給食センター研究会第一地区研究所長・栄養士合同研究会、第4回現場で活動する管理栄養士・栄養士のための『実践栄養学研究セミナー』—自分の活動をまとめる実践編— チューター、習志野市教育研究会栄養士部会研修会、令和6年度中堅教諭等資質向上研修Ⅰ（栄養教諭・学校栄養職員）、調理員・用務員・技能員・栄養士研修、成田市生涯大学院

(3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等：9件

・千葉県内：8件

ほい大健康プログラム（2024年11月2日いすみ市役所、2024年11月19日URさつきが丘団地）、千葉市歯科医師会主催 第31回歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会、（2024年12月8日、千葉ポートアリーナ）、いい歯のイベント2024・千葉県口腔保健大会、「スマイルアップ・ちば体操」（2024年11月10日、ホテルミラマーレ）、歯科診療室健康教室（2025年1月25日、本学A棟A306教室）、健康体操教育指導、口腔機能向上プログラム（2020年8月～現在に至る、流山市南部地域包括支援センター）、松戸市東部地区社会福祉協議会ふれあい広場（2023年11月、松戸第5中学校）、幕張ファミールハイツ体操教室（2024年4月～2025年3月、ファミールハイツ集会所）

・千葉県外：1件

神奈川県横須賀市浦上台北町内会清掃活動（横須賀市）。

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

歯科診療（2024年4月1日～2025年3月31日、本学歯科診療室）、継続・個別支援ならびに歯科診療補助の実施（2024年4月1日～2025年3月31日、本学歯科診療室）、千葉市口腔がん検診（2024年7月1日～2025年1月17日、本学歯科診療室）、千葉市口腔ケア事業（2024年4月1日～2025年3月31日、本学歯科診療室）、千葉県歯科医師会委託歯科健康診査（2024年4月1日から2025年2月28日、歯科診療室）、健康教室（2025年1月25日、本学A棟A306教室）、健康体操教育指導（2024年4月～2025年3月、流山市南部地域包括支援センター）、幕張ファミールハイツ体操教室（2024年4月～2025年3月、千葉市美浜区）。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：2件

千葉県歯科衛生士育成協議会会長、同運営委員。

④職能団体委員等：17件

全国歯科衛生士教育協議会理事、同教育委員会理事、同教育委員会委員、同教育問題検討委員会委員、同認定委員会委員長、同歯科衛生学モデル・コア・カリキュラム検討会委員、同歯科衛生学モデル・コア・カリキュラム検討会オブザーバー、同認定委員会委員、全国大学歯科衛生士教育協議会理事、同監事、同教育・研究委員会委員、千葉県歯科衛生士会理事(学術)、同選挙管理委員、同総務理事、千葉県歯科衛生士育成協議会会長、同運営委員長、同運営委員。

⑤学会、学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：総数 55 学会

日本口腔衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会、日本歯科保存学会、日本補綴歯科学会、日本歯周病学会、日本歯科色彩学会、日本口腔外科学会、日本口腔内科学会、日本口腔科学会、International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons、Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons、日本口腔診断学会、日本臨床口腔病理学会、日本臨床細胞診学会、日本有病者歯科医学会、日本老年歯科医学会、日本小児歯科学会、日本看護技術学会、日本医療安全学会、日本公衆衛生学会、日本顎顔面インプラント学会、日本口腔インプラント学会、日本医学教育学会、日本歯科医療管理学会、社会歯科学会、日本体力医学会、日本体育・健康スポーツ学会、日本測定評価学会、日本バイオメカニクス学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、大学体育連合、日本疫学会、American College of Sports Medicine、日本咀嚼学会、日本総合歯科学会、日本口腔ケア学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、ヘルスカウンセリング学会、日本歯科医学教育学会、日本大学口腔科学会、日本歯科基礎医学会、東京歯科大学学会、日本障害者歯科学会、国際 ICT 利用研究学会、情報文化学会、教育システム情報学会、コンピュータ利用教育学会、情報システム学会、日本環境教育学会、日本スポーツ歯科医学会、日本禁煙学会、千葉県学校保健学会。

・学会、学術団体への貢献：28 件

日本歯科衛生学会幹事、同学会査読委員、同学会総務委員会委員、同学会倫理審査委員会委員、同学会企画第一委員会委員長、日本歯科衛生教育学会理事長、同学会常任理事、同学会理事、同学会評議員、同学会監事、同学会編集委員会委員、同学会編集委員会査読委員、同学会編集委員会事前抄録担当委員、同学会規程検討委員会副委員長、同学会査読委員、同学会研究倫理審査委員、同学会利益相反委員会委員、同学会教育活動委員会委員、日本大学口腔科学会評議員、日本口腔科学会評議員、日本口腔内科学会評議員、日本医療安全学会理事、同学会代議員、同財務委員会委員、日本歯科医学教育学会評議員、日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員、国際 ICT 利用研究学会理事、日本環境教育学会広報委員。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：10 件

2024 年度東京歯科大学大学院講義、臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について、東京歯科大学大学院生、2024 年 12 月 12-13 日、東京歯科大学、柏シルバー大学院 38 期「健康づくりのための座位時間」、2024 年 9 月 19 日、アミュゼ柏、松戸市健康推進員研修会「正しいウォーキングの方法について」2024 年 10 月 16 日、松戸市中央保健福祉センター、歯科衛生学科分会ホームカミングデイ「歯科衛生士の未来に向けて～保医大生につながる歩んだ道と想い～」2025 年 2 月 16 日、千葉県立保健医療大学、柏シルバー大学院生涯課程 B 組「今日の 1 歩が明日につながる生活のなかの体力づくり」、2025 年 3 月 4 日、野村証券柏支店 3 階ホール、教職員のための特別企画「社会貢献への理解を深める：さまざまな社会貢献の方法（地域連携）」2025 年 3 月 18 日、千葉県立保健医療大学、令和 6 年度日歯認定歯科助手講習会、千葉県歯科医師会、バキュームテクニック、2024 年 9 月 8 日、千葉県立保健医療大学、ほい大プログラム 講話「定期的な歯科受診で得られるメリット」2024 年 11 月 9 日、UR さつきが丘団地、公開講座、お口の衰えは「寝たきり」への第一歩!お口の全身の関係、一般市民、2024 年 10 月 13 日、千葉県立保健医療大学、歯科衛生士の仕事と学校についての説明会(千葉県歯科衛生士育成協議会)、2024 年 7 月 6 日、千葉県立保健医療大学ほい大健康プログラム第 1 回幕張キャンパス講師、2025 年 1 月 25 日、千葉県立保健医療大学、2024 年度安全・ルール伝達講習会、千葉県ラグビーフットボール協会主催、「スポーツ選手の口腔衛生管理」、2024 年 7 月、千葉県スポーツ科学センター。

(4) リハビリテーション学科理学療法専攻

①地域におけるボランティア活動等：特になし

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）：9 件

- ・ちばプラン市民健康づくり大会、2025 年 1 月 19 日、アリオ蘇我、(堀本)
- ・日本 ACLS 協会主催/BLS インストラクター、2024 年 10 月 12 日、2025 年 2 月 8 日、亀田総合病院、(室井)
- ・ほい大プログラム「健康状態を知ろうー運動から始める健康づくりー」2024 年 11 月 9 日、さつきが丘団地、(室

井)

- ・ほい大プログラム「ストップ！生活習慣病 -自宅でもできる運動-」 2024年11月23日、いすみ市役所。(室井)
- ・千葉県いすみ市ほい大プログラム, 2024年11月23日, いすみ市役所。(稲垣)
- ・健康づくりイベントにおける肺年齢測定, 2025年1月18日, アリオ蘇我。(稲垣)
- ・ほい大健康プログラム, 2024年11月9日, UR さつしが丘団地。(坂崎)
- ・いすみ市健康診査に関するデータ分析の活動報告, 2024年7月17日, いすみ市役所, 2024年11月7日, 千葉県庁。(坂崎)

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績: 2件

- ・柔道整復師国家試験委員(金子)
- ・日本理学療法士協会, 認定理学療法士内部障害分野作問部会員(稲垣)

④職能団体委員等: 11件

- ・千葉県理学療法士会 障がい児・者支援部部員(堀本).
- ・千葉県理学療法士会 学術誌編集委員会副委員長, 研究倫理審査委員(大谷).
- ・千葉県理学療法士協会 生涯学習局企画研修部部長, (室井).
- ・千葉県理学療法士会代議員, 学術企画研修部員, 千葉ブロック介護予防推進リーダーWG メンバー, 千葉ブロック副ブロック長, 臨床実習指導者講習会世話人(江戸)
- ・千葉県理学療法士会 代議員, 研究支援委員会 副委員長。(稲垣)
- ・日本神経理学療法学会千葉地方会 事務局(坂崎)

⑤学会, 学術団体への貢献

- ・所属学会・学術団体: 37 団体

日本理学療法士協会, 日本小児理学療法学会, 日本神経理学療法学会, 日本運動器理学療法学会, 日本呼吸理学療法学会, 日本地域理学療法学会, 日本理学療法教育学会, 日本基礎理学療法学会, 日本重症心身障害学会, 重症心身障害療育学会, 日本リハビリテーション臨床教育研究会, 日本理学療法学会連合, 理学療法科学学会, 日本ヘルスプロモーション理学療法学会, バイオメカニクス学会, 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会, 日本老年療法学会, 日本咀嚼学会, 臨床歩行分析研究会, 日本臨床バイオメカニクス学会, International Society of Posture and Gait Research, International Society of Biomechanics, 日本呼吸器学会, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 日本肺高血圧・肺循環学会, 日本臨床生理学会, 日本リハビリテーション医学会, 日本急性期リハビリテーション学会, 日本体力医学会, 日本整形外科学会, 日本脳卒中学会, 日本リウマチ学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本ボツリヌス治療学会, 日本スティミュレーションセラピー学会, 日本運動器科学学会, 日本保健科学学会,

- ・学会, 学術団体への貢献: 49 件

- ・千葉県立保健医療大学紀要, 論文査読。(堀本)
- ・第13回日本理学療法教育学会学術大会, 抄録査読。(堀本)
- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会, 演題査読者。(大谷)
- ・第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 演題査読者。(大谷)
- ・第30回千葉県理学療法学会学術大会 座長。(大谷)
- ・第29回日本基礎理学療法学会学術大会 座長。(大谷)
- ・日本リハビリテーション医学会, 代議員。(金子)
- ・日本ボツリヌス治療学会, 代議員。(金子)
- ・日本スティミュレーションセラピー学会, 評議員。(金子)
- ・日本急性期リハビリテーション学会, 評議員。(金子)
- ・日本運動器科学学会, 評議員。(金子)
- ・成医会, 評議員。(金子)
- ・日本保健科学学会, 評議員。(金子)
- ・千葉県リハビリテーション医学懇話会, 世話人。(金子)
- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会 世話人。(室井)
- ・日本理学療法士協会 代議員。(室井)
- ・第13回日本支援工学学会学術大会 準備委員。(室井)
- ・American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation 査読担当。(室井)
- ・理学療法の科学と研究 査読担当。(室井)
- ・BMC Geriatrics 査読担当。(室井)
- ・Experimental Brain Research 査読担当。(室井)

- ・日本理学療法教育学会学術誌「理学療法教育」, 論文査読. (江戸)
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」, 論文査読. (江戸)
- ・埼玉県理学療法士会学術誌「理学療法 臨床・研究・教育」, 論文査読. (江戸)
- ・第12回日本運動器理学療法学会学術大会, 一般演題セッション座長. (江戸)
- ・第29回日本基礎理学療法学会学術大会, 一般演題セッション座長. (江戸)
- ・第12回日本運動器理学療法学会学術大会, 演題査読. (江戸)
- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会学術大会合同大会, 演題査読. (江戸)
- ・第7回日本産業理学療法研究会学術大会, 演題査読. (江戸)
- ・第13回日本理学療法教育学会学術大会, 演題査読. (江戸)
- ・第10回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会, 演題査読. (江戸)
- ・第31回千葉県理学療法学会学術大会, 学術局長. (江戸)
- ・日本呼吸理学療法学会, 理事. (稲垣)
- ・日本呼吸理学療法学会, 国際委員会委員. (稲垣)
- ・日本呼吸理学療法学会, 総務委員会委員. (稲垣)
- ・日本呼吸理学療法学会, 学術事業推進委員会委員長. (稲垣)
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 代議員. (稲垣)
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, シュミレーション教育推進委員会委員. (稲垣)
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 将来計画委員会委員. (稲垣)
- ・日本肺高血圧・肺循環学会, メディカルスタッフWG委員. (稲垣)
- ・呼吸理学療法学, 論文査読. (稲垣)
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会雑誌, 論文査読. (稲垣)
- ・理学療法の科学と研究, 論文査読. (稲垣)
- ・BMC Cardiovascular Disorder, 論文査読. (稲垣)
- ・第10回日本呼吸理学療法学会学術大会, 一般演題座長. (稲垣)
- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会/第30回千葉県理学療法学会学術大会合同大会, 座長. (稲垣)
- ・第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 座長. (稲垣)
- ・千葉県理学療法士協会, 更新研修会(Web), 運営事務局. (坂崎)
- ⑥講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等: 17件
- ・臨床実習指導者講習会, 千葉県立保健医療大学, 臨床実習制度の理念と概要, 理学療法士, 2024年9月31日, Web. (堀本)
- ・臨床実習指導者講習会, 千葉県立保健医療大学, 教育原論・人間関係論, 理学療法士, 2024年9月31日, Web. (堀本)
- ・臨床実習指導者講習会, 千葉県立保健医療大学, ハラスメント防止意識の向上, 理学療法士, 2024年9月31日, Web. (堀本)
- ・臨床実習指導者講習会, 千葉県立保健医療大学, 臨床実習の到達目標と修了基準, 2024年9月31日, Web. (堀本)
- ・臨床実習指導者講習会, 千葉県立保健医療大学, 理学療法士, 2024年9月31日, Web. (大谷)
- ・第40回千葉県リハビリテーション医学懇話会, 痙攣に対するリハビリテーション療法の工夫と, 鉤状趾のお話など, 医師, コメディカル, 2024年12月12日. (金子)
- ・Encounter 講習会, 運動連鎖からみた膝関節障害の理学療法, 医療・スポーツ関係者, 2024年6月19日, Web. (江戸)
- ・千葉県理学療法士会 千葉ブロック主催検討会, 管理者の集いー他の施設ってどうしてるんだろう?ー, 理学療法士, 2024年10月2日, 千葉県立保健医療大学仁戸名キャンパス. (江戸)
- ・千葉市社会福祉研修センター フレイル予防研修会, 理学療法士が教えるフレイル予防～身体と心を元気に保ち, 社会参加を活発に～, 地域住民, 2024年12月11日, 千葉市社会福祉研修センター. (江戸)
- ・YMCA 米子医療福祉専門学校 実習指導者対象セミナー, 下肢の運動連鎖ー関節構造と筋の作用からみた多関節の運動ー, 2025年1月20日, Web. (江戸)
- ・千葉県理学療法士会 千葉ブロック主催検討会, 管理者の集いー生涯学習制度ー, 理学療法士, 2025年3月5日, Web. (江戸)
- ・大阪府理学療法士会, 理学療法士講習会(応用編), 肺高血圧症と呼吸理学療法, 理学療法士, 2024年9月14日, Web. (稲垣)
- ・第17回呼吸リハビリテーション研修会, 急性期の呼吸リハビリテーション, 医療従事者全般, 2024年9月28日, 順天堂大学. (稲垣)

- ・愛知県理学療法士会主催若手理学療法士による疾患別呼吸理学療法 Web セミナー。間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション。理学療法士。2024年10月20日。Web。(稲垣)
- ・大阪府理学療法士会主催 Web 研修会。間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション ～COPD とどう違う??～。理学療法士。2024年10月24日。Web。(稲垣)
- ・大阪府理学療法士会主催呼吸器疾患患者に対する理学療法の知識と実技の融合セミナー。間質性肺疾患患者に対する呼吸理学療法。理学療法士。2024年12月21日。森ノ宮医療大学。(稲垣)
- ・長崎夢塾勉強会。肺高血圧症患者に対するリハビリテーション。理学療法士。2024年11月27日。Web。(稲垣)

⑦その他 5件

- ・医歯薬出版。理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員。(室井)
- ・理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員。医歯薬出版。(江戸)
- ・産業保健人間工学会 作業管理士 取得。(江戸)
- ・「大学・高専連携事業基金」事業(共同研究)。視覚・動作誘導による自動車の乗降支援の研究。東京都立産業技術高等専門学校学生。2023年4月～2025年3月。東京都立大学。(坂崎)
- ・「大学・高専連携事業基金」事業(共同研究)。触覚刺激を用いた自己運動感覚による自動車運転時の速度感の制御。東京都立産業技術高等専門学校学生。2024年4月～現在に至る。東京都立大学。(坂崎)

(5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

①地域におけるボランティア活動等:

- ・千葉県内: 17件

認知症の人と家族の会千葉県支部との共催による認知症普及啓発物資の配布(2024年9月23日。千葉駅前)。ふなばし健康まつり。千葉県作業療法士会運転支援検討委員会出展(2024年11月3日。船橋市運動公園)。千葉発達障害児・者親の会「コスモ」感覚あそびの会の補助(2024年9月1日～2025年3月31日。市川市こども発達センター)。「eスポーツ体験会」の補助(2024年9月。鷹の台自治会)。千葉県立保健医療大学「ほい大プログラム」講師(2024年11月。いすみ市役所)。

- ・千葉県外: 1件

介護老人保健施設における転倒防止に向けた教育・指導支援、および回想法を用いた認知症高齢者との交流支援(2025年1月～3月。東京都世田谷区)。

②地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・千葉県内: 11件

市原青年矯正センター 認知機能向上作業及び一般改善指導の助言・指導(2024年4月1日～2025年3月31日)。市原青年矯正センター 活動評価・社会復帰指導(2024年4月1日～2025年3月31日)。

- ・千葉県外: 3件

大田区小学校 特別支援学級 医療専門相談(2024年12月1日～2025年3月31日)。足立区発達障害児支援事業専門研修等講師(2024年5月1日～2025年3月31日)。練馬区障害児保育巡回指導(2024年4月1日～2025年3月31日)。

③審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 8件

全日本指定自動車教習所協会連合会「高齢運転者支援士」試験作問委員(2022年4月～2023年3月)。市川市障害支援区分認定審査会 審査委員(2024年4月1日～2025年3月31日)。一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 評価員(2024年4月1日～2025年3月31日)。千葉県脳損傷者運転支援連携会議 外部委員(2023年12月～2025年3月)。千葉県地域リハビリテーション協議会 委員(2024年6月～2025年3月)。

④職能団体委員等 40件

日本作業療法士協会, 「運転と地域移動推進委員会」, 委員長。全日本指定自動車教習所協会連合会, 理事。東京都医師会, 「高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会」, 委員。日本作業療法士協会, 「制度対策部保健福祉課」, 障害児支援班長。日本作業療法士協会, 「障害福祉サービス等報酬改定対策委員会」, 委員。日本作業療法士協会, 「学会演題査読」, 委員。日本作業療法士協会, 代議員。千葉県作業療法士会, 事務局長。千葉県作業療法士会, 代議員。千葉県作業療法士会, 理事。千葉県作業療法士会, 「学術部発達障害委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「学術部査読委員」, 委員。千葉県作業療法士会, 「地域連携部こども連携委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「臨床実習指導者講習会委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「司法作業療法特設委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「千葉中央ブロック」, 代議員。千葉県作業療法士会, 「千葉県生活行為向上マネジメント委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「千葉県作業療法誌」, 査読者。千葉県作業療法士会, 「災害対策委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 「ブロック部」, 部長。千葉県作業療法士会, 「ブロック部」, 所属。千葉県作業療法士会, 「地域連携システム委員会」, 委員長。千葉県 POS 連盟, 「千葉 POS 災害対策委員会」, 委員。千葉県作業療法士会, 副会

長。千葉県作業療法士会、「運転特設委員会」、担当理事。千葉県 POS 協議会、理事。日本作業療法士協会、代議員。千葉市リハビリテーション連絡協議会、委員。千葉県作業療法士会、「司法作業療法」、担当理事。全国リハビリテーション学校協会、「学術誌査読」、査読者。千葉県作業療法士会、会長。千葉県リハビリテーション専門職協会、副会長。千葉県作業療法士会、「教育部」、委員。千葉県作業療法士会、「事務局 Web 研修班」、班員。千葉県作業療法士会、「学会委員会」、委員長。千葉県作業療法士会、「学術誌編集委員会」、委員。千葉県 POS 連盟、理事。

⑤学会、学術団体への貢献 30 件

所属学会・学術団体：日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本内科学会、日本神経学会、日本自律神経学会、日本排尿機能学会、日本パーキンソン病・運動障害疾患学会、日本脊髄障害医学会、日本神経治療学会、Movement Disorder Society、International Continence Society、日本老年医学会、日本老年精神医学会、日本高次脳機能学会、自動車技術会、日本リハビリテーション工学協会、運転と作業療法学会、日本安全運転医療学会、日本交通心理学会、日本遠隔医療学会、日本感覚統合学会、日本作業行動学会、日本 LD 学会、日本発達系作業療法学会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本発達障害学会、日本特殊教育学会、日本司法作業療法学会、千葉県リハビリテーション専門職協会、千葉県医療推進協議会、千葉県脳損傷者運転支援連携会議、千葉県地域リハビリテーション協議会、千葉市リハビリテーション連絡協議会、日本公衆衛生学会、千葉 POS 連盟。

学会、学術団体への貢献：千葉県立保健医療大学紀要、査読協力。一般社団法人作業療法士会、会委員会、演題査読委員。日本神経学会、代議員。日本排尿機能学会、代議員、ダイバーシティ推進委員会、総務委員会委員。日本自律神経学会、評議員、編集委員会委員。日本パーキンソン病・運動障害疾患学会、評議員。日本脊髄障害医学会、評議員。日本作業療法士協会地域社会振興部「運転と地域移動推進班」、班長。日本高次脳機能学会、代議員。日本安全運転医療学会、理事。運転と作業療法学会、監事。日本作業療法士協会、学会演題査読委員。日本交通心理学会創立 50 周年・第 90 回記念千葉大会準備 WG、委員。日本感覚統合学会、効果研究委員。日本発達系作業療法学会、理事。日本発達系作業療法学会、査読委員。JDD ネットワーク多職種連携委員会、委員。千葉県 POS 協議会、理事会。千葉県作業療法士会、理事会。千葉県作業療法士会、三役会。千葉県作業療法士会、定時・予算総会。第 26 回千葉県作業療法士学会、運営スタッフ。日本作業療法士協会、48 会議、各都道府県代表者、監事。日本理学療法士協会、関東甲信越ブロック学会。千葉県作業療法士会、学術誌編集委員会、委員。千葉県作業療法士会、理事会出席。千葉県作業療法士会、定時総会出席。千葉県作業療法士会、臨時総会出席。

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等： 30 件

青森県作業療法士会、地域リハビリテーション活動支援事業等に関する啓発活動「運転と地域移動支援～日本作業療法士協会の動向と様々な取り組み～」、作業療法士、2024 年 6 月 23 日、Web 開催。交通労連、全国指定自動車教習所第 13 回労使懇談会「高齢者・障害者の機能を踏まえた運転者教育と支援」、労働組合員、2024 年 7 月 30 日、東京。全日本指定教習所協会連合会、障害者教習指導員研修「高次脳機能障害者の特性と指導法」、教習指導員、2024 年 10 月 11 日、アルカディア市ヶ谷。全日本指定教習所協会連合会、高齢運転者支援士研修「高次脳機能障害者の特性と指導法」、教習指導員、2024 年 10 月 31 日、アルカディア市ヶ谷。全日本指定教習所協会連合会、運転補助装置の配備による障害者等の運転再開等に向けた支援事業研修会、教習指導員、2024 年 9 月 20 日および 10 月 18 日、サン九段ビル。警察庁運転免許課、安全運転相談専科教養「高次脳機能障害と自動車等の運転一作業療法士の立場から」、各都道府県警察官および職員、2024 年 11 月 18 日、関東管区警察学校。彰栄リハビリテーション専門学校、彰栄リハ 2024 年度第 5 回卒業後研修「高齢者の運転支援～最近のトピック・地域移動支援について～」、同校卒業生、2025 年 2 月 1 日、彰栄リハビリテーション専門学校。千葉県作業療法士会、臨床実習指導者講習会（運営スタッフ）、作業療法士、2024 年 6 月 8 日～9 日、Web 開催。JDDnet、「発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）、荒川区第 2 瑞光小学校教員、2024 年 8 月 29 日、荒川区第 2 瑞光小学校。千葉県作業療法士会、学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）（講師）「作業療法士が関与可能なモデル」、作業療法士、2024 年 10 月 5 日、オンライン開催。千葉県立保健医療大学、令和 6 年度千葉県立保健医療公開講座「健康な未来へ」（講師）「子どもの健康な未来につながるあそびのススメ」、県民、2024 年 10 月 13 日、ハイブリッド開催。JDDnet、2024 年度 JDDnet 第 20 回記念年次大会「発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）、年次大会参加者、2024 年 12 月 21 日、東京商工会議所 渋谷ホール。JDDnet、発達障害支援人材育成研修会 2023 オンラインセミナー（ファシリテーター）、多職種・当事者等、2025 年 2 月 20 日、オンライン開催。JDDnet、「発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）、NTT「フクチッチ」番組取材として撮影、2025 年 2 月 18 日、NTT ExC パートナー株式会社 会議室。JDDnet、「発達障害を理解し合理的配慮を学ぶ VR 体験型プログラム」体験会（講師）、中学 2 年生および教員、2025 年 2 月 28 日、台東区立駒形中学校。日本発達系作業療法学会、日本発達系作業療法学会第 13 回学術大会（座長）「一般演題Ⅳ」、作業療法士、学校教諭、保育士、医師、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士、公認心理師、社会福祉士、保護者等、2025 年 3 月 16 日、東京保健医療専門職大学 講堂。千葉県作業療法士会、第 1 回臨床実習指導者講習会、作業療法士、2024 年 6 月 8 日～9 日、Web 開催。千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント

基礎研修会，作業療法士，2024年7月20日，Web開催。千葉県作業療法士会，第2回臨床実習指導者講習会，作業療法士，2024年9月7日～8日，Web開催。千葉県立保健医療大学，ほい大プログラム「生活行為を見直そう！～健康な心身で人生に彩りを～」，県民，2025年1月25日，千葉県立保健医療大学。千葉県保健医療担当部および千葉県立保健医療大学，令和6年度保健医療大学取組報告会「Covid-19前後の特定健康診査・後期高齢者健康診査のデータ解析から導出された健康指標の現状と課題―自治体との協働から」，千葉県保健医療担当者，令和6年11月，千葉県庁本庁舎。千葉大学 RISTEX プロジェクトチーム，スポーツを活用した健康まちづくりワークショップ「スポーツを活用した健康まちづくり」，自治体スポーツ振興課等，令和6年12月，Web開催。千葉県作業療法士会，生活行為向上マネジメント事例検討会，作業療法士，2024年10月26日，Web開催。千葉県作業療法士会，生活行為向上マネジメント基礎研修会，作業療法士，2024年12月7日，Web開催。千葉県作業療法士会，第1回臨床実習指導者講習会，作業療法士，2024年6月8日，Web開催。千葉県作業療法士会，第26回千葉県作業療法士学会，作業療法士，2025年3月9日，千葉県内会場。

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており，歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており，2024年度の延患者数は2,084名であった。また，「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に69件の個別検診，口腔機能に関わる千葉市口腔機能検診3件，千葉県歯科医師会委託 歯科口腔健康診査1件を行った。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療医療安全対策加算1，歯科外来診療感染対策加算1等の施設基準を満たし，患者にとって安心な歯科医療環境の提供，厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は，（公社）日本口腔外科学会専門医1名，（公社）日本口腔外科学会指導医1名，がん患者歯科医療連携登録医1名，日本口腔内科学会専門医1名，日本口腔内科学会指導医1名，ICD協議会インфекションコントロールドクター1名，千葉市口腔がん検診検診医1名，千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医1名，日本口腔衛生学会認定医1名，日本歯周病学会認定歯科衛生士1名，日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食・嚥下リハビリテーション）1名，日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導・口腔保健管理）2名，日本咀嚼学会健康咀嚼指導士2名，ケアマネージャー1名となっている。

6) 国際交流の推進状況

国際的な視野を持ち，社会に貢献する次世代を担う人材を輩出するべく，多（異）文化交流を体得できる学びの機会の提供として，千葉大学に短期語学留学中のタイ・マヒドン大学学生（6名）と本学学生（15名）との国際交流会を令和6年8月7日に開催した。英語と日本語を交えての会話や学科紹介レクリエーションを通して，互いに異文化理解を深めることができ，グループに分かれてのフリートークでは大いに盛り上がり，約1時間半のイベント終了後も教室に残って交流している様子が見られた。この様子は本学広報誌に掲載され，参加学生からは，「言語の壁を低く感じるようになった」「勉学の意欲が高まった」などのコメントが寄せられ，事後アンケートでは高い満足度（“満足”80%，“やや満足”20%）を得ることができた。次年度以降も国際理解教育の一貫として，留学生（大学生）等との交流イベントを企画検討し，本学学生と海外の方との交流機会を提供することで，互いに多文化理解を深めるとともに，交流成果が高い活動の開発にも力を尽くしていきたい。

また今年度は海外で活躍する医療従事者を講師に招き，アメリカの医療保険制度や各専門職の病院での実務，留学からキャリアアップについて講演いただいた。講師が海外在住のため，講演の様子は動画配信となったが，講師と学生有志とのweb対談という形式で，学生から直接講師へ質問する時間や意見交換する機会を設けることが出来た。学生からは「言語の壁を越えて医療の質を維持しようという工夫が印象に残った」「日本との違いを知って，より良い医療提供を行うために私たちにできることを考える良い機会となった」などのコメントが寄せられ，有意義な講演となった。国際化が進むわが国において，社会の根幹を担う将来の保健医療専門職者である本学学生に，海外で活躍する医療従事者の講演を提供することにより，文化の違いから保険制度や働き方が日本と海外とでは異なること，キャリア形成の在り方について考えるひとつの機会となったと考える。今後は語学の習得という観点に加え，国際化が進むわが国の状況を鑑み，現下の国際情勢が学べるような講演会企画も検討していきたい。

例年開催している，神田外語大学と共催の「外国語による応急処置体験講習」は今年で第4回を迎え，両大学合わせて31名（定員30名）の学生参加応募があり，26名（保健医療大学13名，神田外語大学13名）の学生が参加した。令和6年度までの経験や反省を踏まえた講習構成，前年度を上回る学生参加者を達成することができた。昨年度のセミナー事後アンケートでは，参加者より「両大学の交流が有意義であった」「もっと交流の時間があっても良かった」との声があがっていたことから，今年度は応急処置の際の英会話講義と手技の体験

に加え、昼食時間も活用して、両大学の学生交流の時間を確保し、交流を通して互いに刺激を受け成長の機会となった。講習の最後に設けた参加学生による感想発表では、「近隣大学である神田外語大学との交流イベントを増やして欲しい」「応急処置体験講習は保健医療大学で開催しているが、神田外語大学に保健医療大学学生を招き、他国の習慣や宗教を学び、それを医療に活かせる機会をつくりたい」との意見・要望もあったことから、次年度は本講習以外にも神田外語大学を含む他大学と共催できる企画を検討・実施していきたい。

4. 評価（成果および改善すべき事項）

本学の教員が講師を担った講演会研修会の講師・研究指導等は全学で140件あった。また自治体・職能団体等の審議会・委員会への参画や学会、学術団体への貢献、地域のボランティア活動等に関わる教員は多く、例年と等しく社会貢献活動が実施された。

歯科診療室は2024年度の延患者数は2,084名であり、例年と同様の貢献ができた。

ほい大健康プログラムは計画通り、UR団地で2回、いすみ市で2回、本学幕張キャンパスで2回実施した。参加者は述べ56名で、参加者アンケートの満足度は高く目標を達成できた。

公開講座は、今年度より来場・オンラインのハイブリッド形式の年1回開催とした。来場者81名、オンライン参加者33名で、アンケートは講演内容や開催方式に対し概ね肯定的な評価であった。

5. 次年度の方策

ほい大健康プログラムは募集人数に対して参加者数が減少傾向のため内容を充実させるとともに広報等について検討が求められる。

公開講座は参加者のニーズを取り入れたテーマを企画し、年1回開催を継続する。また、ハイブリッド方式では音声映像等のトラブル対策を施していく。

VIII 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題

教育環境については、大講義室のプロジェクターの整備とともに、A棟の机・椅子の整備を順次行う。図書館に関しては、引き続き学科推薦や図書館選定など多様な方法で蔵書の充実を図るとともに、利用者の促進を図る。研究倫理に関しては、近年の倫理指針や関連法の改正を踏まえ本学の倫理審査申請書類書式の改定を検討する。

2. 施設・設備の整備状況

(新規購入備品)

幕張キャンパス

教育棟 A 棟	A306	プロジェクタ	1 台
		机	26 台
		椅子	26 脚
教育棟 B 棟	B105	机	18 台
		椅子	24 脚
	B107	机	18 台
	B109	プロジェクタ	1 台
	B201	プロジェクタ	1 台
図書館棟	中講義室	椅子	54 台
		サーキュレーター	1 台
学生ホール棟	講義室 1	机	20 台

仁戸名キャンパス

東校舎棟	ADL 室	エアコン	1 台
	第 1 講義室	教卓	1 台
	第 2 講義室	教卓	1 台
	第 3 講義室	教卓	1 台
	評価実習室	マイク機器	1 台
	基礎作業室	マイク機器	1 台
	男子更衣室	ロッカー	5 台

3. 図書館の状況

1) 利用者数

幕 張 37,745 人

仁戸名 4,401 人

2) 資料収集

(1) 蔵書数

幕 張 図書 78,996 冊 雑誌 1,314 タイトル

仁戸名 図書 34,688 冊 雑誌 774 タイトル

(2) 視聴覚資料数

幕 張 CD 40 点 DVD 511 点 スライド 7 点

仁戸名 CD 10 点 DVD 225 点

3) 開館時間および開館日数

【授業期間中開館時間】(幕 張) 月・金曜日 8:45～21:00, 火～木曜日 8:45～20:00,
土曜日 9:00～17:00

(仁戸名) 月・金曜日 9:15～21:00, 火～木曜日 9:15～20:00,
土曜日 9:00～17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月～金曜日 : 9:00～17:00

(但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数（年間延べ数）

幕 張 256 日

仁戸名 277 日

4) 利用状況

貸出冊数 幕 張 3,941 冊

仁戸名 1,295 冊

参考業務件数 幕 張 956 件

仁戸名 153 件

複写 幕 張 177 件 2,002 枚

仁戸名 20 件 364 枚

5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

図書館ガイダンスの実施（計 13 回）

文献検索ガイダンスの実施（計 5 回）

文献検索セミナーの実施（計 1 回【オンデマンド開催：動画 1 本】，参加者のべ人数 68 名）

図書館だより「ぽ〜れば〜れ」の発行 年 2 回（4 月，10 月）

4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・令和 6 年 4 月 1 日，10 月 1 日 新任教員を対象に，研究倫理・コンプライアンス研修会を実施した。
- ・令和 7 年 3 月 14 日 令和 6 年度科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。
- ・全教員に日本学術振興会研究倫理 e ラーニングコースの受講を求めた。

5. 評価（成果および改善すべき事項）

教育環境については，大講義室のプロジェクターの整備を実施することができた。A 棟の机・椅子の整備については進捗しているが，まだ完了はしていないため，今後も継続していく必要がある。図書館に関しては，学科推薦や図書館選定などの方法で蔵書の充実を図ることができた。利用者について，広報などで周知し，促進が必要と考える。研究倫理に関しては，近年の倫理指針や関連法の改正を踏まえ本学の倫理審査申請書類を電子化することができた。

6. 次年度の方策

教育環境については，学生の学習環境がより良くなるように継続して取り組むようにする。図書館では，学生の文献検索セミナーを実施し，文献活用の推進につなげる。また，機関リポジトリ運用指針を作成し，運用できるようにする。研究倫理については，「データ収集と管理に関する研究倫理審査委員会の指針」の改定を行うようにする。

Ⅸ 研究活動報告

1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 11 件，その他 4 件，総数 15 件であった。
- (2) 学術論文：英文 4 件，和文 24 件，その他 22 件，総数 50 件であった。
- (3) 発表：国際学会 8 件，全国学会 86 件，総数 94 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：13 件（教育講演 2 件，シンポジスト 3 件，セミナー講師 4 件，学術集会等講演等 4 件）であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究は 90 件（うち科研費 42 件，科研費以外の外部資金 1 件，学内共同は 9 件，学長裁量は 38 件であった。
- (6) 賞・特許：6 件（表彰 6 件）であった。

2. 栄養学科

- (1) 著書：和文共著 10 件，編集 1 件，総数 11 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 20 件，その他 4 件，総数 28 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 34 件，地方学会 3 件，その他 2 件，総数 40 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：シンポジスト 6 件，セミナー講師 1 件，その他 1 件，総数 8 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 12 件（内科研費 8 件）であった。学内共同は 14 件，学長裁量は 1 件であった。
- (6) 賞・特許：なし。

3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：単著 0 件，共著 4 件，編集 3 件，総数 7 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 1 件，和文原著 5 件，総数 6 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 5 件，全国学会 13 件，総数 18 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 11 件（科研費 3 件）であった。学内共同研究は 2 件，学長裁量研究 3 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件であった。

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：0 件であった。
- (2) 学術論文：英文論文 11 件，和文論文 5 件，その他 3 件，総数 19 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 10 件，地方学会 14 件，総数 25 件の発表があった。
- (4) 教育講演 1 件，シンポジスト 2 件，総数 3 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 4 件，学内共同 4 件，学長裁量 3 件，総計 11 件であった。
- (6) 賞・特許：表彰 2 件，総計 2 件であった。

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：共著 2 件，総数 2 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 9 件，その他 5 件，総数 18 件の投稿があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 11 件，地方学会 2 件，総数 16 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：教育講演 3 件，シンポジスト 2 件，セミナー講師 2 件，その他 1 件，総数 8 件の講演があった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 1 件（内科研費 1 件）であった。学内共同は 3 件，学長裁量は 2 件，総数 6 件の資金獲得があった。
- (6) 賞・特許：表彰 0 件，総計 0 件であった。

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会（教育研究年報作成部会、認証評価部会、自己点検・評価実施推進部会、IR部会）と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。具体的には、令和5年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。各部会の年間スケジュールにしたがい、部会の所掌事項を推進していく。各委員会の令和5年度目標の達成度から、委員会の所掌について検証する。令和5年度教育研究年報を発行する。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応として、【優れた点】については、継続・発展させる。【改善を要する点】、【今後の進展が望まれる点】については責任部署で計画に従って、対応を進める。
- 3) IRの機能を促進する。具体的な計画としては次の通りである。卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析、結果を公表する。IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行う。教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続して実施する。
- 4) 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。

2. 評価（成果及び改善すべき事項）

- 1) 令和5年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。令和6年度報告書作成においては、昨年度改善したプロセスにしたがって作成を進め、3月下旬に完成した。「令和5年度教育研究年報」は予定通り12月に完成し学内公開された。1月にはHPで公開できた。令和6年度教育研究年報の原稿依頼を2月におこない、執筆者の退職や異動に伴う対応をスムーズにした。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された9項目について、改善に向けた取り組みの進捗状況を各担当部署に確認した。
- 3) IR部会において卒業時調査を企画・実施し、学内におけるIRの機能を果たした。毎年実施している卒業時調査は、令和5年度の結果を6月に報告した。令和5年度の卒業時調査は質問内容精査を経て1月～3月にかけて実施した。卒業生調査結果を8月に学外（HP）公開した。IRコンソーシアムのデータ活用では検討を進めたが、分析結果提示には至らなかった。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業は継続して実施した。教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を、教育研究年報作成部会にて昨年度に引き続き収集し、年度内に学内報告した。以上のとおり、複数の学生調査や年報の量的データなどの集約は達成できた。
- 4) 大学組織図および内部質保証システム体系図の改正をはかった。

3. 次年度の方策

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して自己点検・評価を推進する。令和6年度「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。委員会の令和6年度目標の達成度から、委員会の所掌について検証する。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書における指摘事項への対応を、責任部署で計画に従って進める。
- 3) IR機能の促進をはかる。卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析と結果の公表を行う。IRコンソーシアムの活用により、他大学との単純比較をおこない分析データを公表する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続する。教育研究年報作成部会において、教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を継続して行う。
- 4) 大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しを提言する。

第 2 部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 龍野 一郎 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

千葉県の保健医療分野における課題解決に向かって、将来に必要とされる保健医療者像と地域保健医療体制を明らかにし、これまでの県立大学の人材育成・研究活動の実績を踏まえて、千葉県による調査が行われる新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数，学科設置，再整備などを含め）の検討を更に進める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・管理栄養士導入教育.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・龍野一郎：序文 日本肥満症治療学会の歴史，減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024，2024 年，コンパス出版社，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・Kohda H, Tanaka M, Shichino S, Arakawa S, Komori T, Ito A, Wada E, Ochi K, Yuan X, Takeda T, Saiki A, Tatsuno I, Ikeda K, Miyai Y, Enomoto A, Morikawa Y, Shimizu S, Ueha S, Matsushima K, Ogawa Y, Suganami T: Novel cell-to-cell communications between macrophages and fibroblasts regulate obesity-induced adipose tissue fibrosis, *Diabetes*, 2025(Online ahead of print).
- ・Tatsuno I, Gerlier L, Olivieri AV, Baker-Knight J, Lamotte M: Assessing the health and economic burden of obesity-related complications in East-Asian populations: implementation of risk equations in the Core Obesity Model for Japan and model validation, *BMJ Public Health*, 12:2(1), e000302, 2024.
- ・Watanabe Y, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A: Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on weight loss and metabolic improvement in subjects aged 65 years or older: a subanalysis of J-SMART study, *Diabetol Int*, 13:16(1), 56-64, 2024.
- ・Miyazaki Y, Ohta M, Kitahama S, Seki Y, Inamine S, Oshiro T, Nagao Y, Hatao F, Orita H, Sasaki A, Kagawa S, Yamaguchi T, Aizu K, Hayata K, Saito S, Amiki M, Nakamura Y, Matsubara H, Shimada M, Naitoh T, Ishibashi N, Takiguchi S, Shibao K, Inoue K, Togawa T, Saito T, Uno K, Endo Y, Kasama K, Tatsuno I: Clinical characteristics of coronavirus disease 2019 in patients undergoing laparoscopic bariatric/metabolic surgery: a nationwide survey in Japan, *Surg Today*, 55(5), 668-675, 2025.
- ・Yamaguchi T, Kawakubo S, Yamaura K, Kinoshita S, Kanai R, Kanbe I, Sameda M, Yamaoka S, Watanabe Y, Tsuji S, Oshiro T, Tatsuno I, Saiki A: Effects of native vitamin D supplementation on vitamin D status and body composition after sleeve gastrectomy: A retrospective study in Japanese patients, *Obes Pillars*, 27:12:100134, 2024.
- ・Ohira M, Tsuji S, Watanabe Y, Abe K, Yamaoka S, Nakamura S, Oka R, Tanaka S, Kawagoe N, Yamaguchi T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A: No medication prescription and residential distance from the hospital are important factors associated with nonsurgical weight-loss treatment discontinuance in Japanese patients with high-

degree obesity: a retrospective study, BMC Health Serv Res, 16;24(1), 1078, 2024.

- Saiki A, Takahashi Y, Nakamura S, Yamaoka S, Abe K, Tanaka S, Watanabe Y, Yamaguchi T, Nagayama D, Ohira M, Oshiro T, Tatsuno I, Shirai K. Relationship between Lipoprotein Lipase Derived from Subcutaneous Adipose Tissue and Cardio-Ankle Vascular Index in Japanese Patients with Severe Obesity, Obes Facts, 17(3), 255-263, 2024.
- 龍野 一郎: 【肥満症治療の最前線】統合的肥満症治療としての減量・代謝改善手術の進歩 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン2024への期待, BIO Clinica, 38(9), 745-750, 2024.
- 須永 眞司, 龍野 一郎, 前田 和久, 石垣 泰: 【肥満症とやせの問題 適切な体重管理と健康寿命の伸延】適切な体重管理と健康寿命の延伸, Medical Practice, 41(12), 1782-1793, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- 竹本稔，林愛子，稲葉洋介，田中智洋，林秀樹，笠間和典，齋木厚人†，佐々木章，岡住慎一，龍野 一郎：我が国における高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術の現状，第121回日本内科学会講演会，2024年4月，東京都。
- 渡邊康弘，山口崇，齋木厚人，佐々木章，内藤剛，松原久裕，横手幸太郎，岡住慎一，卯木智，山本寛，太田正之，石垣 泰，笠間和典，関洋介，辻野元祥，白井厚治，宮崎安弘，正木孝幸，永山大二，龍野 一郎：日本人高齢者肥満症に対するスリーブ状胃切除術の成績（J-SMART 研究サブ解析），第67回日本糖尿病学会年次学術集会，2024年5月，東京都。
- 越坂 理也，横尾 英孝，長島 健悟，佐藤 泰憲，前田 祐香里，武田 健治，石川 耕，小野 啓，齋木 厚人，龍野 一郎，津下一代，高原 充佳，下村 伊一郎，笹子 敬洋，門脇 孝，横手 幸太郎：肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標を見出すための介入研究（SLIM-TARGET）耐糖能障害，第67回日本糖尿病学会年次学術集会，2024年5月，東京都。
- 竹本稔，林愛子，稲葉洋介，田中智洋，林秀樹，笠間和典，齋木厚人，佐々木章，岡住慎一，龍野 一郎：減量・代謝改善手術の高齢者高度肥満症患者への適応に関する検討（第3報），第66回日本老年医学会学術集会，2024年6月，愛知県。
- 谷内 洋子，山田 貴穂，柳生田 紀子，児玉 暁，龍野 一郎，曾根 博仁：健康妊婦における妊娠初期の栄養摂取状況と体重増加量および母児の転帰の検討，第78回日本栄養・食糧学会大会，2024年5月，福岡県。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 第45回日本肥満学会・第42回日本肥満症治療学会学術集会，JSTO 総会・学会賞・川村賞受賞式 受賞講演，日本肥満症治療学会と歩んだ道 -統合的肥満症治療の確立とその普及-，2024年10月，神奈川県。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- 日本医療政策機構肥満症対策プロジェクト，アドバイザーボードメンバー，2022年7月～現在に至る。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- 千葉県糖尿病対策推進会議，理事，2021年3月～現在に至る。
- 社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団，評議員，2021年4月1日～現在に至る。
- 千葉ウイスコンシン協会，理事，2021年4月1日～現在に至る。
- 健康ちば地域・職域連携推進協議会，委員，2021年4月1日～現在に至る。
- 千葉地方裁判所委員，2021年4月1日～現在に至る。
- 東邦大学自己点検評価委員会委員，外部委員，2024年4月1日～現在に至る。
- 千葉大学社会予防医学センター外部評価委員会，外部委員，2024年4月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本内科学会，日本内分泌学会，日本糖尿病学会，日本肥満学会，日本肥満症治療学会，日本臨床栄養学会，日本動脈

硬化学会、千葉医学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本肥満症治療学会、理事。
- ・日本臨床栄養学会、理事・COI 委員会委員。
- ・日本栄養療法推進協議会、理事。
- ・日本内科学会、前評議員・関東地方会元常任幹事。
- ・日本内分泌学会、関東甲信越支部幹事・前評議員・前専門医認定部会試験小委員会副委員長。
- ・日本肥満学会、評議員・日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同委員会委員長。
- ・日本糖尿病学会、学術評議員。
- ・千葉医学会、評議員。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、衛生委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

保健医療大学の強化に向けた調査検討委員会に委員として大学の立場を代表して議論に参加し、新大学の教育・研究体制（大学院設置や定数、学科設置、再整備などを含め）の検討を行って、最終報告案に結び付け、学内に向かってその成果と期待される大学の将来像を周知した。

VII 次年度の目標

保健医療大学の強化に向けた調査検討委員会の最終報告に従って、大学院設置、独立法人化、言語聴覚士専攻の新設を含めて学部再編、キャンパス統合と施設の整備をに向かって、千葉県健康福祉部と連携を強化し、準備を進める。

看護学科

教授（兼）学部長 佐藤 紀子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、看護学教育評価の結果を踏まえ、改善した科目を実施・評価するとともに、国家試験の 100%合格が維持できるような授業や実習での工夫を継続する。研究活動では、科研費の代表研究は最終年度となることから、報告書としてまとめる。管理運営では、学部長として、学長のガバナンスを強化させ、新大学（キャンパス統合、大学院設置、学科の設置・再整備など）に向かって、全学的な検討を促進させる。社会貢献では、本学の社会貢献事業に積極的に参画するとともに、県内の自治体、職能団体、学会等で与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・災害看護学.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習（地域看護学）.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・看護理論（東京医療保健大学大学院千葉看護学研究科）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版 2025 年版各論 1（宮崎美砂子他編集），2-49，2025 年 2 月，日本看護協会出版会，東京.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・佐藤 紀子，雨宮 有子，細谷 紀子，杉本 健太郎，松浦 めぐみ：住民主体の通いの場に携わる住民協力者の活動に伴う認識と思い，日本地域看護学会第 27 回学術集会，2024 年 6 月 29 日～30 日，仙台市.
- ・村上祐里香，牛尾裕子，田村須賀子，嶋澤順子，大澤真奈美，城諒子，佐藤紀子，斎藤美矢子，沖林洋平：実習を通し公衆衛生看護の理解をもたらす経験：日本地域看護学会第 27 回学術集会，2024 年 6 月 29 日～30 日，仙台市.
- ・牛尾 裕子，斎藤 美矢子，村上 祐里香，田村 須賀子，城 諒子，嶋澤 順子，大澤 真奈美，佐藤 紀子，沖林 洋平：事例や状況を用いた看護実践の教育手法の動向－日本の学士課程看護専門科目の教室内プログラムの文献調査より－：日本地域看護学会第 27 回学術集会，2024 年 6 月 29 日～30 日，仙台市.
- ・飯野理恵，宮崎美砂子，佐藤紀子，杉田由加里，石丸美奈，時田礼子，鈴木悟子，坂井文乃，佐藤太一，栗栖千幸，土屋裕子：予防活動に対して市町村中堅期保健師に求められる実践技術，日本地域看護学会第 27 回学術集会，2024 年 6 月 29 日～30 日，仙台市.

- ・牛尾 裕子, 斎藤 美矢子, 村上 祐里香, 田村 須賀子, 城 諒子, 嶋澤 順子, 大澤 真奈美, 佐藤 紀子, 沖林 洋平: 公衆衛生看護実習の学生指導における教員のメタ認知の様相, 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025年1月4日～5日, 名古屋市.
- ・石橋みゆき, 田中幸子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 野村陽子: 看護基礎教育における政策教育プログラム導入ガイドの開発-A大学における政策教育コンピテンシーの活用例, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日8日, 熊本市.

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・日本地域看護学会第27回学術集会, 理事会企画「地域看護学の教育の充実に向けて」(シンポジスト), 2024年6月28日, 仙台市.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C)), エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(B)), 予防活動の持続・発展のための地域看護実践のQJT実用化研究, 研究協力者.
- ・文部科学省科学研究費(基盤研究(C)), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 研究協力者.
- ・学長裁量研究, コロナ禍後において千葉県内新任保健師の抱く業務上の困難感や人材育成へのニーズ, 研究分担者
- ・学長裁量研究, 健康危機管理担当者のネットワーク構築と災害時地域対応力向上に向けた支援プログラムの効果検証(実装研究), 研究分担者

6 受賞・特許

- ・2023年度日本地域看護学会奨励論文賞(2024年6月受賞)
- ・柏市功労賞受賞(2024年10月受賞)

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県現任教育推進会議 委員長. 2012年4月～現在.
- ・千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会 委員. 2023年4月～2026年3月.
- ・千葉県介護予防市町村支援検討会議 委員. 2023年4月～2026年3月.
- ・柏市保健衛生審議会 委員長. 2022年7月～2026年6月.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会 委員長. 2020年4月～2026年6月.
- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会 委員. 2025年3月～2027年3月.
- ・千葉県立保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議 委員. 2024年8月～2025年3月.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会 副会長. 2023年6月～2025年5月
- ・千葉県看護協会 千葉県ナースセンター運営委員会 委員. 2022年7月～2024年6月.
- ・日本看護系大学協議会 選挙管理委員会 委員. 2024年4月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 千葉看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 日本家族看護学会, 日本公衆衛生看護学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・文化看護学会、理事長、2023年4月～2026年総会。
- ・千葉看護学会、代議員、2024年4月～2028年代議員総会。
- ・千葉看護学会COI委員会、委員、2024年4月～2026年3月。
- ・日本地域看護学会、理事、2023年6月～2025年5月。
- ・日本看護科学学会、代議員、2023年2月～2027年3月
- ・日本地域看護学会、教育委員長、2023年6月～2025年5月。
- ・日本地域看護学会、専任査読委員、2023年6月～2025年5月。
- ・日本公衆衛生看護学会、査読委員、2024年6月～2026年5月。
- ・日本公衆衛生看護学会、倫理委員会副委員長、2024年6月～2026年5月。
- ・日本地域看護学会第29回学術集会企画委員会、企画委員長、2024年10月～2027年3月。
- ・文化看護学会第17回学術集会、査読委員、2024年12月。
- ・日本地域看護学会第27回学術集会、査読委員、2024年4月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和6年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者研修会講師、千葉県健康福祉部健康づくり支援課、時代の変化を踏まえたこれからの保健師の人材育成、県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者、2024年8月29日、千葉県教育会館。
- ・習志野市令和6年度健康づくり推進員養成講座、みんなで一緒に取り組む健康づくり・まちづくり、習志野市民他、2024年9月9日、習志野市役所
- ・令和6年度千葉県介護予防の推進に資する専門職育成研修、千葉県高齢者福祉課、専門職連携の考え方と方法、千葉県内介護予防従事者100名程度、2025年2月10日、オンライン
- ・保健活動業務研究における指導、夷隅保健所、保健所保健師、2024年6月～12月、本学およびオンライン。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会、教員再任審査委員会、キャンパスハラスメント防止対策委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、担当科目においては、成績評価および学生による授業評価の結果より、学生の満足度および学習目標の達成度は高かったことを確認した。また、保健師国家試験の合格率は97.4%と全国平均は上回る結果であった。研究活動は、科研費の代表研究については予定どおり調査を終え報告書を作成している。また、更なる発展となる研究課題を申請した科研費が採択された。管理運営面では、学部長として、総括する委員会の長に対して目標設定や評価の助言を行うとともに、大学機能強化に向けた検討会議に委員として参画し、本学の学部の再構築、大学院の開学に向けて一定の成果を出すことができた。社会貢献では、自治体が主催する委員会の委員や学会の理事等として参画し、役割を確実に遂行した。職能団体への貢献としては、千葉県看護協会副会長として理事会、施設長代表者会議等のイベントに出席し多くの役割を果たした。

VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き授業・実習等に、国家試験の100%合格が維持できるよう授業や実習での工夫を継続する。研究活動では、科研費を取得し新たな研究課題に取り組むとともに、分担研究者としての役割を遂行する。管理運営面では、今年度より副学長として、大学ガバナンスを強化し、新大学（キャンパス統合、大学院設置、学科の設置・再整備など）に向かって、具現化のための検討を推進する。社会貢献では、本学の社会貢献事業に積極的に参画するとともに、県内の自治体、職能団体、学会等で与えられた役割を確実に遂行する。

教授（兼）学科長 河部 房子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、新任教員を迎えてのスタートとなる。これまでの教育実践での経験知をふまえ、より効果的な教育方法について検討し、教員が目標を共有しながら授業に参加できるよう、授業前後の打ち合わせを綿密に行いながら進める。技術演習や臨地実習においては、教員間の意思疎通をはかり、学生に統一した関わりがなされるよう調整する。研究活動としては、分担研究者として参加している科研費の研究課題を進めると共に、その分担研究として、シミュレーション教育に関する看護学生の看護実践の実態解明と、実践能力向上に向けた教育についての研究を進める。

管理運営では、看護学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行する。特に、昨年から開始した学科独自の社会貢献事業について、昨年の成果をふまえて実施し、持続的な実施体制へとつなげる。また将来構想検討委員長として、新たに策定された重点施策の目標設定や大学院設置に関する検討など、その役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・看護学入門実習.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（統合看護技術）.
 - ・日常生活調整方法論
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発，千葉県立保健医療大学紀要，第16巻第1号，pp67-75，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・河部房子，今井宏美，渡辺健太郎，仁井田友紀，山本千代ほか：臨床判断力育成に向けたフィジカルアセスメント教材アプリの活用と評価，日本看護学教育学会 第34回学術集会，2024年8月，東京.
- ・田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代，細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発① 患者・家族への支援能力に関する効果，第44回日本看護科学学会学術集会，熊本市.
- ・細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子，田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山

本千代：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発② 連携調整・マネジメント力に関する評価，第 44 回日本看護科学学会学術集会，熊本市。

- ・Shinobu Saito, Mariko Tobise, Fusako Kawabe: The Reality of Students' Knowledge Acquisition by Flipped Classroom in Basic Nursing Education, 28th East Asia Forum of Nursing Scholars, 2025.2.13. Seoul.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（B），看護のリアリティとバーチャル融合型シミュレーションプラットフォームの構築，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），夜間交替制勤務による看護師への影響と概日適応を促進する健康教育プログラムの開発，研究分担者。
- ・学長裁量研究費，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究分担者。
- ・学長裁量研究費，Audience Response System が看護系大学生の学習意欲に与える影響，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県ナースセンター運営委員会委員，2024 年 6 月～現在に至る。
- ・千葉県看護教員養成講習会運営委員，2024 年 7 月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護管理学会，千葉看護学会，日本看護学会，ナイチンゲール研究学会，日本良導絡自律神経学会，日本看護シミュレーションラーニング学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，表彰論文選考委員会委員，2024 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会，専任査読者，2018 年 4 月 1 日～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会，評議員，2024 年 2 月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム，看護学科社会貢献委員会，臨床看護師，2024 年 8 月 31 日，9 月 14 日，千葉県立保健医療大学。
- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導，臨床看護師，2024 年 10 月～2025 年 3 月，計 3 回。
- ・令和 6 年度新潟薬科大学看護学部臨地実習指導者協議会講演，新潟薬科大学，学びあい育ちあう看護職－看護実践の知の共有を通して，臨床指導者および教員，2024 年 12 月 12 日，新潟薬科大学。
- ・令和 6 年度青森県立保健大学看護学科実習指導者会議，青森県立保健大学，臨地実習を通して育む看護学生の自己教育力，臨床指導者および教員，2025 年 2 月 19 日，青森県立保健大学（オンライン）。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，将来構想検討委員会（委員長），自己点検・評価委員会，人事委員会，教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会，看護学科運営会議，看護学科人事評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については、教員間の意思疎通をはかりながら進められるよう取り組んだが、不十分なところもみられた。引き続き、意識的に取り組みたい。また、新規実習施設の実習については、事前の綿密な打ち合わせを行い、教員間の連携をはかることにより、教育効果の高い実習を展開することができた。研究活動においては、研究分担者として関与しているシミュレーション教育に関する研究課題の推進に向けた活動を展開することができた。合わせて、自身の科研費による研究成果や、学科の社会貢献事業として取り組んでいる研修評価研究について、成果を発表することができた。

管理運営では、看護学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行することができた。特に、2023年の分野別評価で指摘された事項をふまえ、その改善に向けた取り組みについて、教務委員を中心としたワーキングを立ち上げ、推進した。さらに、将来構想検討委員会委員長として、本学の機能強化に向けた検討会議についての情報収集を行い、委員会内での共有や学内教員への情報提供を行った。

VII 次年度の目標

教育活動においては、領域内での教員の欠員がある状態でのスタートとなることから、教員間の意思疎通を積極的にはかりながら進めていきたい。特に、昨今の学生特性をふまえながら、看護職者として必要な基本的な考え方と技術を身につける教育方法について検討し、適宜評価を行いながら進めていきたい。研究活動としては、科研費および学内共同研究費・学長裁量研究費の研究分担者として参加している研究の推進に貢献する。

管理運営では、学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行する。また将来構想検討委員長として、大学院設置をはじめとする本学の機能強化に向けた検討の進捗をふまえ、必要に応じて委員会で検討するなど、その役割を果たす。

職位 石井 邦子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、コロナ禍の経験を活かした Teams の有効活用やコミュニケーション等の対人関係スキルの育成と共に、領域教員の教育活動の支援にも力を入れる。研究活動では、研究代表者を務める科研の終結と公表をめざすと同時に、学外・領域内で取り組んでいる地域における母性看護高度実践やプレコンセプションケアに関する研究が計画通りに実行する。大学管理運営では、教務委員、図書館長としての責務を確実に遂行する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護学入門.
- ・看護学入門学習.
- ・育成期看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（産婦ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・統合医療安全・特定行為実践特論（放送大学大学院）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・石井邦子, 廣間武彦, 他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版, 2025年, 医学書院, 東京.
- ・森恵美, 鈴木俊治, 大月恵理子, 石井邦子, 他：助産師基礎教育テキスト（2025年版）第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア, 第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア, 2025, 日本看護協会出版会, 東京.
- ・森恵美, 工藤美子, 香取洋子, 堤治, 石井邦子, 他：母性看護学概論（系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]）第14版 第2章母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状, 2025年, 医学書院, 東京.

・石井邦子, 他: 2023 年版系統別看護師国家試験問題集 第 114 回看護師国家試験 解答と解説, 2025, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他(著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

・石井邦子, 川城由紀子, 川村紀子, 北川良子, 山崎麻子: 熟練看護職による産後抑うつ状態のアセスメントの構造, 千葉県立保健医療大学紀要, 16 巻, 1 号, 21-28, 2025.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

・科学研究費基盤 (C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究代表者.
・学内共同研究, 子育て世代包括支援において他職種が助産師に期待する役割機能, 研究代表者.
・学内学長裁量研究, 多職種協働によるプレコンセプションケアの現状と課題—プログラム開発に向けた文献研究, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

・文部科学省, 職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

・日本看護学教育評価機構, 評価委員会副委員長, 2024 年 4 月~2024 年 6 月.
・日本看護学教育評価機構, 業務執行理事, 評価委員会委員長, 2024 年 7 月~2025 年 3 月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本母性看護学会, 日本看護科学学会, 日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本生殖看護学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・日本母性看護学会, 理事長, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.
・日本看護科学学会, 代議員, 会則等委員会委員, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.
・日本助産学会, 代議員, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.

7 その他

・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.
・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.
・放送大学客員教授, 2024 年 4 月~2025 年 3 月.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・大学運営会議, 教授会, 将来構想・検討委員会, 自己点検・評価委員会, 図書委員会, 教務委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科教務委員会.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、Teams の課題機能やチャット機能を活用して学生の学習支援を充実させることができた。新任教員の実習指導に同行し、適宜助言を行うことができた。研究活動では、最終年度となる科研のまとめを行ったが、公表には至らなかった。学外・領域内の共同研究は、計画通りに遂行することができた。大学管理運営、学外組織における役割はケ池区通りに遂行することができた。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、教育活動では、学生の学習準備状況や生活背景が多様化していることに鑑み、個別の状況を把握して必要な学習支援を行うことを目標とする。欠員による悪影響が出ないように、領域内で教員間のコミュニケーションを円滑にする。研究活動では、新たに獲得した学内共同研究を計画どおりに遂行するとともに、科研申請を行い採択をめざす。大学管理運営では、人事委員会委員長、学術推進委員としても責務を果たす。社会貢献では、与えられる役割を着実に遂行する。

教授 浅井 美千代 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、慢性疾患患者の看護の特徴をより明確に示せるよう、教材研究や研究活動に力を入れる。研究活動は、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行うことを最優先課題として行う。委員会活動では、引き続き、ミスを防ぐためにひとつひとつの仕事を確認しながら丁寧に行うこと、そして、出題誤り再発防止策を検討・実施していく。社会貢献活動は、前年度に引き続き、積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・急性期看護学実習.
- ・慢性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・看護理論（東京医療保健大学大学院）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・田口智恵美、内海恵美、三枝香代子、大内美穂子、大塚知子、坂本明子、浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感、千葉県立保健医療大学紀要、16 巻、1 号、95 - 104、2025.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・大内美穂子、大塚知子、浅井美千代：医療系大学生とともに創出する“大切な人ががんと診断された大学生”について考えるワークショップデザイン、第 39 回日本がん看護学会学術集会、2025 年 2 月 23 日、札幌.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究、高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係、研究分担者.
- ・学内共同研究費（学長裁量）、医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価、研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本介護福祉学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本慢性看護学会、日本リウマチ看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本看護学会、査読委員、2022年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県循環器病センター看護研究指導、2病棟、2024年7月3日・10月31日・12月5日・2025年2月10日。
- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導、1病棟、2024年7月24日・11月29日・2025年1月31日。
- ・千葉県循環器病センター看護研修会、看護リフレクション、臨床看護師、2024年11月2日、千葉県循環器病センター。
- ・千葉県循環器病センター看護研修会、看護過程、臨床看護師、2024年12月7日、千葉県循環器病センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、入試改革検討委員会、自己点検評価委員会 IR 部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試・広報委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、講義内容を見直し、学生の講義後のレスポンスから講義内容の理解度がこれまでよりも上昇した。研究活動は、論文文化に向けて文献検討を再開したが、時間捻出することが出来ず、目標を達成できなかった。引き続き研究活動に積極的に取り組む必要がある。委員会活動は、入試実施委員長として、入試の出題誤りの再発防止に取り組み、複数の防止策を実施し成果を得ることができた。社会貢献活動は、病院看護師の研究指導や院内研修を行い、とくに研究指導では研究メンバーの意向をくみ取りながら研究を支援し、院内発表会で研究成果を明確に示すことができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、講義内容を「わかりやすさ」に加えて、学生が「考える」ことができるよう工夫する。研究活動は、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行うことを最優先課題として行う。委員会活動では、引き続き、ミスを防ぐためにひとつひとつの仕事を確認しながら丁寧に行うこと、そして、マニュアルの整備を進める。社会貢献活動は、病院看護師の研究指導や院内研修の講師を積極的に引き受け、それぞれの施設に合った内容になるよう工夫する。

教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

Society 5.0 に向かう日本社会における看護職者の育成という視点をもって、領域の教員相互に協力しながら教育内容をさらに充実させる。次年度も継続して県内の精神科看護を担う人材を輩出していきたい。研究活動では、科研費の代表者となっている研究計画を推進するとともに、これまでの研究成果の論文投稿に取り組む。管理運営業務では、特に教員再任審査委員会においては委員長として円滑な審査と審査項目や審査方法の課題の解決を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・精神看護学概論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・精神看護学方法論Ⅱ.
- ・精神看護学実習.
- ・退院支援論.
- ・心の健康.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・小宮 浩美，石川 かおり：精神障害者の「家族亡き後」のことに関する精神科訪問看護師の認識と支援，日本精神保健看護学会誌，33 巻 1 号，106-114，2024.
- ・小宮 浩美：【病棟に潜むパターナリズム-“謎文化”-“謎ルール”を超えて】パターナリズムとは何か？ 組織にはびこる“謎ルール”，精神科看護，51 巻 13 号，004-007，2024.
- ・小林 雅美，小宮 浩美，加藤 隆子：公立小・中学校で働く教員の精神疾患に関する認識，千葉県立保健医療大学紀要，15 巻 1 号，61，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小宮 浩美，小宮 全，小林 雅美：精神科病棟における身体拘束減少のための介入のシステムティックレビューとメタアナリシス，日本看護科学学会学術集会講演集 44 回，363-364，2024 年 12 月 8 日，熊本.
- ・片平若葉，小宮 浩美：アルコール依存症をもつ女性の自分や他者への信頼感が獲得される過程，日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回，149，2024 年 6 月 1 日，成田.
- ・小林 雅美，小宮 浩美，加藤 隆子：公立小・中学校で働く教員の精神疾患をもつ児童・生徒への関わりに関する認識，日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回，143，2024 年 6 月 2 日，成田.
- ・藤本 真理，加藤 隆子，小宮 浩美，小林 雅美：統合失調症をもつ人の母親のベネフィット・ファインディング 退院を受け入れた家族の体験に焦点を当てて，日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回，141，2024 年 6 月 1 日，成田.

- ・山本 真衣, 加藤 隆子, 小宮 浩美, 小林 雅美: 統合失調症をもつ人のセルフスティグマに関連した自己認識の変容, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 139, 2024 年 6 月 2 日, 成田.
- ・唐木田 桃子, 小宮 浩美, 小林 雅美, 加藤 隆子: スクイグル法が看護学生に与える心理的影響とストレスケアへの応用についての検討, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 111, 2024 年 6 月 1 日, 成田.
- ・林 万紘, 小宮 浩美: 看護学生の推し活動が身体的・精神的・社会的な健康に与える影響, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 110, 2024 年 6 月 1 日, 成田.
- ・金丸 友, 小宮 浩美, 飯村 直子, 原 加奈, 三池 純代: 保育所保育士・看護職による精神疾患をもつ母親と子どもへの関わりとその困難, 小児保健研究 83 巻講演集, 196, 2024 年 6 月 21-23 日, 札幌.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 精神科病棟の看護師を対象に EBP に関する継続的な学習を支援する教育システムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・一般社団法人 日本精神科看護協会, 論文査読委員, 2024. 4. ～現在に至る.
- ・一般社団法人 日本精神科看護協会千葉県支部, 顧問, 2024. 4. ～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護管理学会, 日本精神保健看護学会, 日本病院・地域精神医学会, 千葉看護学会, 日本看護評価学会.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・一般社団法人 日本精神保健看護学会 査読委員, 2024. 4. ～現在に至る.
- ・一般社団法人 千葉看護学会 編集委員, 2024. 4. ～現在に至る.
- ・日本看護評価学会, 編集委員, 2024. 4. ～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所）

- ・一般社団法人日本精神科看護協会, 千葉県支部第 2 回研修会, こころの解剖学を学ぼう, 県内精神科看護師等, 5 月 25 日 13 時 30 分～16 時, 千葉市教育会館.
- ・新人精神科看護師の会, 一般社団法人日本精神科看護協会千葉県支部, 集まれ! 新人精神科看護師 第 1 回目, 千葉県内精神科病院で働く看護師, 8 月 3 日 13 時 30 分～16 時, 千葉県立保健医療大学.
- ・新人精神科看護師の会, 一般社団法人日本精神科看護協会千葉県支部, 集まれ! 新人精神科看護師 第 2 回目, 千葉県内精神科病院で働く看護師, 11 月 9 日 13 時 30 分～16 時, 千葉県立保健医療大学.
- ・令和 6 年度思春期保健研修会, 印旛健康福祉センター（印旛保健所）主催, 「思春期のこころの健康によい日常生活習慣～日常生活, 学校生活におけるこころの不調の予防～」, 管内小学校・中学校・高等学校の養護教諭, 教員及び市町思春期保健担当者等, 2025 年 2 月 5 日 13 時 30 分～15 時 30 分, 印旛保健所.
- ・令和 6 年度卒前・卒後教育情報交換会, 千葉県立保健医療大学 健康科学部看護学科主催, 「新人看護職のメンタルヘルスケア」, 県内施設・機関の看護管理者, 統括保健師, 教員担当者, 2025 年 2 月 20 日 14 時～16 時, 千葉県立保健医療大学 オンライン.
- ・一般社団法人日本精神科看護協会, 令和 6 年度千葉県支部看護研究発表会講評, 県内精神科看護師等, 10 月 19 日 13 時 30 分～16 時, 千葉市教育会館.

- ・事例検討・看護研究指導, 千葉県総合災害救急医療センター, 千葉県総合災害救急医療センター看護師, 年7回.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学教授会, 教員再任審査委員会, 共通教育運営会, 研究倫理審査委員会, 教員資格審査委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では, 自己主導型学習の促進と学生の精神科看護の実践についての興味関心を高めるため, 精神看護学方法論Ⅰおよび心の健康において特別講義講師との共同による演習を取り入れ, 学生からの評価は高かった. 研究活動については学術誌に掲載できた. また, 代表者の研究をはじめ, 様々な研究テーマについての学会発表をすることができた. しかしながら, 論文掲載につなげるための時間の捻出は課題である. 次年度は業務全体の効率化を行い, 論文文化を目指す. 大学管理運営は, 教員再任審査委員会委員長として各種規程の改正の周知を円滑に行うことができた. 職能団体の委員および学会への貢献として, 社会貢献活動を果たすことができた. また, 千葉大学主催の看護学教育に関するFDに参加し, 教育に関する情報収集を行い, 看護学科の教員に対して情報共有することができた.

VII 次年度の目標

多様な学生に対応した教育方法の開発とともに, 教員が研究力を高められるような業務体制も確立する. 研究活動では, 科研費の代表者および分担者となっている研究計画を推進するとともに, これまでの研究成果の論文投稿に取り組む. 管理運営業務では, 特にキャンパス・ハラスメント防止対策委員会においては委員長として, ハラスメントの防止に向けた方策を, 看護学科の学生・進路支援委員会においては委員として, 学生生活や進路決定活動への支援策を他教員や事務局職員と協働する.

教授 春日 広美 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、在宅看護シミュレーション演習を継続して行う。在宅療養の場を想定し、臨床看護のひとつとしての在宅看護を実践できる学生の頭づくりと技術力の強化を継続的に計画する。研究活動は、取り組んでいる文科省科学研究助成研究の介入とデータ収集を継続し発表する。社会貢献活動では千葉県民が望む場所で療養できるための町づくり、人づくりに協力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・ターミナルケア論.
- ・高齢者 在宅看護学概論.
- ・高齢者 在宅看護学方法論 I.
- ・在宅看護学方法論 II.
- ・退院支援論.
- ・在宅看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・看護の歴史（東京医科大学 客員教授）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・春日広美, 訪問介護員と看護師の歴史における接点, 千葉県立保健医療大学紀要, 15 巻, 1 号, 45-50, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・春日広美, 山崎律子, 太田浩子, 遠山寛子, 久長正美, 窪島領子: e ラーニングを活用した分岐型ストーリーの在宅看護シミュレーションシステムの教育評価—中間発表—, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 令和 6 年 12 月 7 日, 8 日, 熊本.
- ・細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発 (2): 連携調整・マネジメント力に関する評価, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 令和 6 年 12 月 7 日, 8 日, 熊本.
- ・田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発 (1): 患者・家族への支援能力に関する効果, 日本看護科学学会学術集会, 令和 6 年 12 月 7 日, 8 日, 熊本.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), e ラーニングを活用した分岐型ストーリーの在宅看護シミュレーションシステムの課題、研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 訪問看護経験に囚われない予期的アセスメントに至る思考プロセスが見えるマップ開発、研究分担者。
- ・2024 年度共同研究費（学長裁量）、地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発、研究分担者。
- ・2024 年度共同研究費（学長裁量）、千葉県における在宅遠隔モニタリングシステム構築のための基礎的研究。

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・一般社団法人日本看護系大学協議会 文部科学省委託事業令和4年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」調査事業実行委員会委員、2022 年 7 月 28 日～2025 年 3 月 31 日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、千葉看護学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、日本医史学会、日本在宅ケア学会、日本家族看護学会、日本シミュレーション医学教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本看護歴史学会、理事、2023 年～2025 年。
- ・日本看護歴史学会第 38 回学術集会、企画委員、令和 5 年 9 月 1 日～令和 6 年 8 月 31 日。
- ・日本看護歴史学会第 39 回学術集会集会長。
- ・日本看護歴史学会会誌、査読委員。
- ・日本家族看護学会誌、査読委員。
- ・日本在宅ケア学会、査読委員。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・危機管理委員会（委員長）、研究倫理審査委員会安全保障輸出管理部会（部会長）、入試改革委員会、FD・SD 委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

在宅看護シミュレーション演習を、在宅療養者 3 事例で実施した。昨年に引き続き 3 年生 80 名が同時に受講できるよう、B409 実習室と B410 教室をオンラインで結んで演習を実施した。過去、教室間の通信環境には課題があったため、最も障害が大きかったシミュレーション時の音声の不具合に対応して、B410 教室での 2 事例の演習、B409 実習室での 40 人×2回の 1 事例の演習とした。昨年度の授業評価にあった学生からの不満は解消された。また、提出物へのフィードバック、評価の統一性に対して、教員間の意識統一を行い、必ず肯定的なフィードバックを記載して返却すること、評価方法には従来よりルーブリック評価を導入していたが、学生にも評価点がわかりやすいよう、各事例演習に対して事前に提示するようにした。その結果、評価に対するマイナスの授業評価はなくなった。

VII 次年度の目標

引き続き、よりよい通信環境を整備する努力、実習室を充実させる努力を継続する。また、令和6年度まで研究開発を行ってきたeラーニングシステムを利用したシミュレーション教材の利用を開放して、在宅看護のリアリティ学習を追求する。

教授 木内 千晶 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、特に、教育活動では、若手教員をサポートし領域教員の協力体制のもと学生が主体的に学習できる環境をつくる。研究活動では、時間配分を綿密に計画し代表者となっている科研の研究調査を実施する。分担者となっている研究では分担役割を、責任をもって果たす。管理運営では、社会貢献委員会委員長としてリーダーシップを発揮し委員会の業務を整理し明確化するよう努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学入門実習.
 - ・高齢者・在宅看護学概論.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・看護管理学演習Ⅱ（埼玉医科大学大学院）.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・東辻朝彦，齋木匠，佐伯恭子，荒井幸代，木内千晶：遺伝的アルゴリズムを用いた看護学実習学生配置の最適化，第 12 回看護理工学会学術集会，令和 6 年 11 月 2 - 3 日，石川。
- ・室岡陽子，木内千晶，武田利明：脊髄損傷者における e ヘルスリテラシーと褥瘡発生状況についての実態調査，第 40 回日本看護科学学会学術集会，令和 6 年 12 月 7 - 8 日，熊本。
- ・田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代，細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発①：患者・家族への支援能力に関する効果，第 40 回日本看護科学学会学術集会，令和 6 年 12 月 7 - 8 日，熊本。
- ・細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子，田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発②：連携調整・マネジメント力に関する評価，第 40 回日本看護科学学会学術集会，令和 6 年 12 月 7 - 8 日，熊本。
- ・東辻朝彦，佐伯恭子，木内千晶：看護学実習における配置決定アルゴリズムの有用性，第 40 回日本看護科学学会学術集会，令和 6 年 12 月 7 - 8 日，熊本。
- ・Yoko Murooka, Chiaki Kinouchi : Survey of Health Literacy and Incidence of Pressure Injury in People with Spinal Cord Injury, 28th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, 令和 7 年 2 月 13 日，韓国ソウル。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（若手研究），高齢者看護に携わる看護補助者のワーク・エンゲイジメント・プロセスモデルの検証，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ウィズコロナ社会における看護職の困難感因果モデルと緩和的介入の明確化，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ヘルスリテラシーに着目した脊髄損傷者の褥瘡再発予防のための教育プログラムの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），介護老人保健施設での感染対策を融合した出前型急変時対応シミュレーション研修の開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），看護師のためのチーム連携向上プログラムの検証，研究分担者。
- ・学内共同研究，数値最適化を用いた看護学実習における施設配置決定アルゴリズムの有用性，研究分担者。
- ・学長裁量研究，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究分担者。
- ・学長裁量研究，看護学生の健康管理行動に対する電子健康記録の影響，研究分担者。
- ・学長裁量研究，千葉県における在宅遠隔モニタリングシステム構築のための基礎的研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第1回 総括，看護学科プログラム「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」，令和6年10月12日，UR さつかが丘団地）。
- ・ほい大健康プログラム（いすみ市 第1回 看護学科プログラム「よい「眠り」とは」，令和6年11月2日，いすみ市役所）。
- ・ほい大健康プログラム（健康教室 第2回 看護学科プログラム「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」，令和7年2月15日，幕張キャンパス）。

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉市国民健康保険運営協議会委員，千葉市，令和6年7月1日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・岩手看護学会，日本認知症ケア学会，日本老年行動科学学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本老年看護学会，日本看護管理学会，北日本看護学会，日本看護学教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・北日本看護学会，専任査読者，2021年3月1日～現在に至る。
- ・岩手看護学会，理事，2022年4月1日～2025年3月31日
- ・岩手看護学会，広報委員，2022年4月1日～2025年3月31日
- ・岩手看護学会，査読委員，2023年2月9日～現在に至る。
- ・北日本看護学会誌，論文査読1本。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・千葉県立保健医療大学公開講座，「健康な老後に向けて～開いてみよう人生会議～」，令和6年10月13日，幕張キャンパス。
- ・千葉県看護協会教育担当者研修，千葉県看護協会，「新人看護師の基礎教育の状況」，令和6年10月15日，千葉県看護協会。

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学看護学科主催、地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム研修、ファシリテーター、ステップ1（患者・家族への支援能力を高める）：令和6年8月31日、ステップ2（地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める）：令和6年9月14日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会貢献委員会（委員長）、FD・SD委員会、大学教授会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会、社会貢献委員会、看護学科教授会、看護学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、看護技術演習は事前に教員の打ち合わせを綿密に行い、領域教員の協力体制のもと授業を行うことができた。実習では若手教員をサポートし、看護過程の展開において学生個別の支援を行い、学生が主体的に学習できる環境をつくりに取り組んだ。研究活動では、代表者となっている科研の研究調査を実施した。分担者となっている研究では分担役割を責任をもって果たし学会発表につなげることができた。管理運営では、社会貢献委員会委員長として、公開講座やはい大健康プログラムの委員会業務を整理し明確化するよう努めた。

VII 次年度の目標

教育活動では、講義、演習、実習の連動を強化するため、学生の理解度を考慮した具体的な授業を行う。また、教育の方向性を領域教員で共通認識できるよう、コミュニケーションを密に行い協力体制のもと教育を行える環境を整える。研究活動では、計画的に進められるよう時間配分を考えて取り組む。また研究結果をまとめ公表を目指す。分担者となっている研究では分担役割を責任をもって果たす。管理運営では、特色科目委員長として重点施策の目標を達成できるよう責任をもち、委員と連携をとりながら積極的に活動を推進する。

教授 市原 真穂 博士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

小児医療の課題を踏まえた内容を盛り込み、学生の实践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授、および実習科目との接続において、プロフェッショナリズム教育を踏まえて、将来リーダーとなる人材育成に資する教育内容を開発する。研究活動については、領域として小児関連施設との連携を深め、地域に貢献できるような中核、拠点となるように、医療的ケア児、発達障害児への支援をテーマの研究を推進する。大学運営では、引き続き全学学生委員会、学生進路支援委員会、紀要委員会等の業務を円滑に遂行したい。また、業務を遂行する中で課題に気づき、解決を図ることを通して指導力、調整力、判断力を養う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・育成期看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児地域ケア論.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・看護倫理とコンサルテーション（常磐大学大学院看護学研究科）.
- ・プライマリケア看護学概論（島根県立大学看護学研究科）.
- ・子どもとその家族への支援（済生会横浜市東部病院人材開発センター認定看護師教育課程・小児プライマリケア分野）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・市原 真穂：ICF と 6F-Words. I 章 こどもを知らう. いい顔ひろがる 医療的ケア児ケアポケットブック. 仁宮 真紀, 鈴木 千琴編集. へるす出版. 2024.

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・市原 真穂, 倉田 慶子：施設に入所しているこどもと家族にかかわる障害福祉サービスの課題と将来, 小児看護, 4, 11, 1342-1348, 2025.
- ・市原 真穂, 仁宮真紀, 妹尾直子, 北村都美子, 住吉亮子, 来住るみ子, 中本さおり, 塚原美穂, 矢澤博美：医療的ケアがあってもなくても変わらないもの. 日本重症心身障害学会誌, 49(1), 63-68, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・前澤美代子, 渡邊眞理, 山田雅子, 和田由樹, 藤田冬子, 武用百子, 市原真穂, 宇都宮明美, 長田暁子, 寺岡征太郎：

- 専門看護師が認識している貢献度と役割遂行の課題, 第 28 回日本看護管理学会学術集会, 2024 年 8 月 24 日, 名古屋.
- Mika Nonouchi, Maho Ichihara, Atsumi Yokoyama: Enhancing Advanced Practice Nursing through International Networking: A Case Study of the Society for Japanese Advanced Practice Nurses, 13th ICN NP/APN Network Conference, 2024. 9, Aberdeen.

4 招待講演, シンポジウム, その他

- 小児看護学会第 34 回学術集会小児看護政策委員会テーマセッション, 2024 年 7 月 7 日, 大阪.
- 第 28 回日本看護管理学会学術集会 インフォメーション・エクスチェンジ 69. 高度専門看護師 (APN) としての専門看護師の価値と課題 - 専門看護師は必要とされているのか -. 2024 年 8 月 24 日, 名古屋.
- 第 55 回日本看護学会学術集会シンポジウム 2 シンポジスト. 日本専門看護師協議会合同企画「専門看護師の活動と社会への貢献」. 2024 年 9 月 27 日, 熊本.
- JANA APN 推進委員会主催連続シンポジウム「日本の未来の高度実践看護について意見を共有しよう」シンポジスト, 2025 年 2 月 16 日, オンライン.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 科学研究費補助金 (2019 年度基盤研究 (C)), 高次脳機能障害の症状を呈する子どもに対する急性期からの生活支援, 研究分担者.
- 科学研究費補助金 (2022 年度基盤研究 (C)), 重症心身障がい児の看護ケアに伴う生体反応を非接触で測定できるデバイスの開発, 研究分担者.
- 科学研究費補助金 (2023 年度基盤研究 (C)), 保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム, 研究分担者.
- 科学研究費補助金 (2023 年度基盤研究 (C)), 幼児期の医療的ケア児を育てる母親の強みに対する支援—プロダクティビティの観点から, 研究分担者.
- 2024 年度千葉県立保健医療大学共同研究費 (学長裁量), 在宅療養する医療的ケアを必要とする子どもとその家族への支援指針作成 ～育児ストレス緩和を観点にしたアプローチ～.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- CHIBACHI 子ども未来会議. 2024 年 10 月 20 日 (日), 千葉県立保健医療大学大講義室.
- 千葉県医療的ケア児等支援センター主催: ぼろりすフェス, 2025 年 3 月 9 日 (日), 千葉県千葉リハビリテーションセンター大ホール.
- 千葉県医療的ケア児家族会, 2024 年 4 月～2025 年 3 月, 千葉.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 一般社団法人 日本医療安全調査機構 個別調査部会 部会員 2024 年 11 月～2025 年 3 月.
- 千葉市地域自立支援協議会検討会 医療的ケア児等支援部会. 2024 年 4 月～2025 年 3 月.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 公益社団法人日本看護協会. 専門看護師認定委員. 2024 年 4 月～2025 年 3 月.
- 公益社団法人日本看護協会. 専門看護師認定実行委員. 2024 年 4 月～2025 年 3 月.
- 重症心身障害福祉協会. 重症心身障害看護師審査委員. 2024 年 4 月～2025 年 3 月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本小児看護学会, 日本重症心身障害学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本家族看護学会, 日本看護管理学会, 日本専門看護師協議会

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、小児看護政策委員、委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本小児看護学会、診療報酬検討委員、委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌専任査読者、2024年4月～2025年3月。
- ・日本重症心身障害学会、評議員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本重症心身障害学会、編集委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本重症心身障害学会、看護研修委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本専門看護師協議会、代表理事、2024年4月～2025年3月。
- ・日本専門看護師協議会、評議員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本専門看護師協議会、第12回学術集会企画委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本看護系学会協議会、APN制度推進委員、2024年4月～2025年3月。
- ・千葉看護学会、千葉看護学会誌査読委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本リハビリテーション看護学会、日本リハビリテーション看護学会誌査読委員、2024年4月～2025年3月。
- ・日本看護学会誌査読者、2024年9月～2025年3月。
- ・Jornal of International Nursing Research Reviewer、2025年1月～2025年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・療育研究研修、東京都立東部療育センター、看護師、2024年5月～2025年3月10回、東京都。
- ・療育研究指導、東京都立東部療育センター、看護師、3グループ、東京都。
- ・小児看護スキルアップ研修グループワークファシリテーター、日本小児看護学会、看護師、2024年9月7日、2025年1月25日。
- ・千葉県医療的ケア児支援センター支援者研修会、千葉県医療的ケア児支援センター、医療的ケア児とその家族への看護、看護師、保育士他、2024年9月4日、2023年11月30日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、学生委員会、紀要編集部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、学生進路支援委員会、進路支援部会、看護学科「看護研究」作業グループ会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

小児医療の課題を踏まえた内容を盛り込み、学生の实践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授、および実習科目との接続において、プロフェッショナリズム教育を踏まえて、将来リーダーとなる人材育成に資する教育内容を開発してきた。研究活動については、領域として小児関連施設との連携を深め、地域に貢献できるような中核、拠点となるように、医療的ケア児、発達障害児への支援をテーマの研究を推進してきた。大学運営においても、全学学生委員会、学生進路支援委員会、紀要委員会等の業務を遂行した。課題として、多様な業務に対して、業務遂行のロジスティックスを整理、効率化し、本来の教育・研究に関する成果につなげていきたい。

VII 次年度の目標

小児医療の課題を踏まえた内容および学生の实践能力向上につながる基礎的知識の効果的な教授、および実習科目との接続を意図し将来リーダーとなる人材育成に資する教育内容を開発してきた。次年度は、これらについて評価する。また、多様な業務のロジスティックスを整理し、これまで以上に教育・研究に関する成果につなげる。

教授 神田 みなみ 修士（文学）, Master of Arts (TESOL)

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育に関して、引き続き、担当の英語科目を充実させて保健医療職として活用できる英語指導、英語カリキュラムについて非常勤講師を含めて効果的に実施できるように教員との連携、学生の支援を行う。大学の管理運営（人事委員長）としての任務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・英語 I（講読）.
 - ・英語 III（講読・記述）.
 - ・英語 V（保健医療英語）看護学科.
 - ・英語 V（保健医療英語）栄養学科.
 - ・英語 V（保健医療英語）歯科衛生学科.
 - ・英語 VI（応用英語）.
 - ・英語 VII（上級英語）A.
 - ・英語 VII（上級英語）B.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・実践歯科英会話（日本歯科大学東京短期大学）

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Susan's Story: The Flowers on the Stairs (Stories for Halloween), 多聴多読マガジン, 2024 年 10 月号, p. 83, 2024.
- ・神田みなみ：快読快聴フィットネス解説 Snow White and Red Rose, 多聴多読マガジン, 2025 年 2 月号 p. 61, 2025.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本多読学会、国際異文化学会、日本英文学会、大学英語教育学会 (JACET)、全国語学教育学会 (JALT)、TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会)、映像メディア英語教育学会、Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会)、日本医学英語教育学会、英語コーパス学会.
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本多読学会、監事・理事、2024 年 4 月～2025 年 3 月.
 - ・国際異文化学会、副会長・理事、2024 年 4 月～2025 年 3 月.

- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）
- ・第4回外国語による応急処置体験講習。神田外語大学／千葉県立保健医療大学。「対象者への声かけと状況把握」「体勢への配慮」。2025年3月8日、9時30分～16時。千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・教授会、共通教育運営会議、教務委員会、人事委員会、入試改革検討委員会、教員資格審査委員会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・看護学科運営会議、看護学科教授会、看護学科学生・進路支援委員会（1年担任リーダー）、看護学科人事評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

英語科目責任者として新規非常勤講師を募集し選出した。年度途中の担当者変更であったが、後期の学生希望調査に基づくクラス指定、教科書販売など滞りなく行うことができた。担当する英語科目については、保健医療職として活用でき、より実践に役立つよう健康や安全等の危機管理に関する内容を加えた。看護学科、栄養学科、歯科衛生学科2年生必修の「英語V（保健医療英語）」は専門科目や国家試験に繋がるよう増強し、知識の定着と形成的評価のために小テストを隔週実施した。新たな知識や専門分野の英語について自分自身も学習に努めた1年であった。次年度はさらに授業時の工夫を加えることに努めたい。

神田外語大学ボランティアセンターと提携して、国際交流委員会のもと、看護学科教員と共に実施してきた外国語による応急処置体験講習は4回目の開催となり、内容及び指導方法を経験を踏まえて変化、改善してきた結果、受講者の満足度はより高くなった。外国語とAEDを用いた応急処置は両大学の専門の強みを活かせるもので、学生交流の良い機会でもあった。

大学及び学科の委員会等については与えられた任務を遂行できた。人事委員長としては各学科長・専攻長と事務局の尽力により、教員組織の改善を進めることができたと考える。

VII 次年度の目標

1年生の英語カリキュラムについて効果的に実施できるように非常勤講師3名と連携し、学生の指導・支援を行う。担当の2年生の保健医療英語については将来の保健医療専門職として実用的な専門英語の習得を支援する。大学の管理・運営においては与えられた任務を滞りなく遂行する。学生委員長と進路支援委員長として、委員や関係する教職員と協力し、学生への支援を心がける。さらに学生部長として、学生会・同窓会・後援会と密にコミュニケーションをとりながら活動支援を進める。

教授 太和田 暁之 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

- ・教育：基礎医学・臨床医学の系統講義を行う。高い倫理観と優れた臨床知見を有する医療専門職を育成する。
- ・研究：病態の解明と新規治療法の開発をテーマに臨床研究を行う。
- ・管理・運営：戦略的かつ効果的な組織運営を通して大学の発展に寄与する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・人体の構造と機能Ⅰ.
- ・人体の構造と機能Ⅱ.
- ・人体の構造と機能Ⅲ.
- ・病態学Ⅰ.
- ・病態学Ⅲ.
- ・臨床検査論.
- ・内科学概論(歯科衛生学科).
- ・高齢者医療論(歯科衛生学科).
- ・疾病論（栄養学科）
- ・高齢者医療論(栄養学科).
- ・内科学各論（リハビリテーション学科）
- ・画像診断学(全学科・専攻).
- ・多職種間の連携活動論(全学科・専攻).

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・解剖生理学Ⅰ，解剖生理学Ⅱ（和洋女子大学）.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，千葉県における在宅遠隔モニタリングシステム構築のための基礎的研究，研究分担者.
- ・学長裁量研究，看護学生の健康管理行動に対する電子健康記録の影響，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・みつわ台総合病院（診療・技術指導等，2024 年 4 月～，千葉市若葉区）.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・The Asian Pacific Association for the Study of the Liver，日本内科学会，日本臨床腫瘍学会，日本消化器病学会，日本消化器内視鏡学会，日本肝臓学会，日本人類遺伝学会，千葉医学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉医学会，評議員，2024 年 4 月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会，学内共同研究審査部会，学生委員会，共通教育運営会議，FD・SD 委員会，衛生委員会，教授会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，学科教授会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・教育：看護学科，栄養学科，歯科衛生学科，リハビリテーション学科(理学療法学・作業療法学専攻)の各学部生を対象に基礎医学および臨床医学の系統講義を行った。
- ・研究：分担研究者を担当する学長裁量研究 2 課題を遂行した。
- ・管理・運営：委員長を担当する学術推進企画委員会において年度目標に沿い全 3 回のイブニングセミナーを企画・実施した(第 1 回「学問の自由」，第 2 回「学術論文の即時 OA 義務化」について，第 3 回「学術推進のための AI や DX に関する学びについて」)。学内共同研究課題の募集と審査を実施した。昨年度に続き外部の研究支援サービス(科研費計画調書の添削，科研費申請スケジュール管理，オンデマンドの科研費セミナーなど)を提供した。紀要の原稿募集と編集，発行を実施した。
- ・令和 6～10 年度本学重点施策において本委員会へ課せられている重点施策 II「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献」-大項目 3「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化（行政や関係機関等との協働による実践的研究の推進）」-小項目 2，3，4 に対し以下を実施した。
- ・小項目 2：共同研究発表会に新規に参加可能とする外部研究者等の範囲の検討(県職員と県出先機関の研究員まで)。学内共同研究発表会運営上の課題抽出を行い，抄録の紀要掲載において二重発表・投稿や着想が剽窃されるリスクの指摘に対し共同研究発表会での発表の 1 年延期を認める改定(現状は課題遂行年度の翌年度発表が義務)，および同趣旨に沿って共同研究募集要項・共同研究発表会それぞれの要綱を改定。
- ・小項目 3：全学教員を対象に「外部資金獲得に関するアンケート」を実施。アンケート回収率 72.5%(58/80)。「研究以外の業務の整理・削減」，「申請書添削などのサービス導入・継続」，「県費による研究費の柔軟化」，「事務手続きの簡素化」，「外部資金申請のインセンティブまたは必須化」の意見に対し来年度以後に実施可能な方策を検討。
- ・小項目 4：令和 8 年度以後の公的資金による研究課題のオープンアクセス(OA)化に関する国の方針についての対応を進めた。その一貫として外部有識者による OA や機関リポジトリに関する FD を開催し，全学教員へパブリックコメントを求め，研究データポリシー素案を機関リポジトリ WG に提出。

VII 次年度の目標

- ・教育：基礎医学・臨床医学の系統講義を行う。高い倫理観と優れた臨床知見を有する医療専門職を育成する。
- ・研究：病態の解明と新規治療法の開発をテーマに臨床研究を行う。
- ・管理・運営：戦略的かつ効果的な組織運営を通して大学の発展に寄与する。

准教授 雨宮 有子 博士（スポーツ健康科学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育では、担当科目において、学生が看護職、特に保健師への関心を高め基礎的知識及び実践能力が学得できるよう努める。研究に関しては、共同研究の計画的推進とともに既存の研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献では、県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援することに加え、学術団体や国の委員において全国の保健師活動の発展に貢献できるように努める。管理・運営に関しては、研究倫理審査の体制整備および自己評価点検の公正な実施に参画する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・看護政策論
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所．）

- ・雨宮有子：2025 年版 保健師国家試験問題 解答と解説，成人保健活動・高齢者保健活動，2024，医学書院，東京.
- ・山本則子，柄澤清美 編集. 雨宮有子，家高洋，池田真理，角川由香，仁昌寺貴子，野口麻衣子，望月由紀，山花令子，吉田滋子 編集協力・執筆：ケアの意味を見つめる事例研究―看護実践の知を探究する研究方法論，2025，医学書院，東京.
- ・Miyuki ISHIBASHI, Naho SATO, Yuko AMAMIYA, Yoshiyuki TAKAHASHI, Akiko SAKAJI, Kazuma HAIDA. Collaborative partnerships during natural disaster recovery and preparedness: Methodological developments through activities with local citizens and researchers in Japan. Health Emergency and Disaster Nursing, 12(1), 54-67, 2025. DOI [https:// doi.org/10.24298/hedn.2024-0002](https://doi.org/10.24298/hedn.2024-0002)

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・雨宮有子，奥田博子，春山 早苗，岩瀬 靖子：市町村における災害時保健活動マニュアルの策定および活用のためのガイド（案）に対する意見調査 県型保健所への意見調査の結果・考察，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和 5 年度 総括・分担研究報告書，112-132，2024.
- ・岩瀬 靖子，春山 早苗，奥田博子，雨宮有子，宮崎美砂子：市町村における災害時保健活動マニュアルの策定および活用のためのガイド（案）に対する意見調査 市町村への意見調査の結果・考察，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和 5 年度 総括・分担研究報告書，65-102，2024.
- ・宮崎美砂子，尾島俊之，奥田博子，春山早苗，雨宮有子，吉川悦子，岩瀬 靖子：市町村における災害時保健活動マニ

アルの策定および活用のためのガイド（本編及び別冊）の提示，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和5年度 総括・分担研究報告書，156-187，2024.

- ・宮崎美砂子，尾島俊之，奥田博子，春山早苗，雨宮有子，吉川悦子，岩瀬 靖子：全国自治体を対象とした災害時保健活動マニュアルの策定・活用状況の実態調査－特別区への追加調査，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究 令和5年度 総括・分担研究報告書，7-23，2024.
- ・雨宮有子，鈴木秀洋：ガイドラインにおける事例の作成，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和5年度 総括・分担研究報告書，22-28，2024.
- ・春山早苗，雨宮有子，井口理，江角伸吾，尾島俊之，鈴木秀洋：自治体における感染症対応職員の人材育成ガイドラインの作成，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和5年度 総括・分担研究報告書，40-46，2024.
- ・春山早苗，尾島俊之，雨宮有子，井口理，鈴木秀洋，江角伸吾，藤田利枝，福田昭子，塚本容子，島田裕子，佐藤太地，関山友子，岸範子，赤松友梨：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和5年度 総括・分担研究報告書，1-9，2024.
- ・春山早苗，尾島俊之，雨宮有子，井口理，鈴木秀洋，江角伸吾，藤田利枝，福田昭子，塚本容子，島田裕子，佐藤太地：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発 令和4～5年度 総合研究報告書，2024.
- ・Sameh Eltaybani,... Yuko Amamiya, Noriko Yamamoto-Mitani. Promoting workplace retention during global crises: An international survey of the preventive role of psychological support among victims of social discrimination in long-term care facilities, Geriatric Nursing, vol 59, 94-102, 2024.
- ・雨宮有子，山花令子，山本則子：事例研究にまつわる研究倫理の課題「ケアの意味を見つめる事例研究」を中心に，看護研究，57，5，452-458，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・雨宮有子，奥田博子，春山早苗，岩瀬靖子，宮崎美砂子，尾島俊之，吉川悦子，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，井口紗織，花井詠子：県型保健所調査による災害時保健活動マニュアル策定・活用のためのガイドの検討. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 2024年10月29日-31日，札幌市.
- ・岩瀬靖子，春山早苗，雨宮有子，奥田博子，宮崎美砂子，尾島俊之，吉川悦子，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，井口紗織，島田裕子，市川定子：市町村調査による災害時保健活動マニュアル策定活用のためのガイドの検討. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 2024年10月29日-31日，札幌市.
- ・吉川悦子，春山早苗，宮崎美砂子，雨宮有子，岩瀬靖子，奥田博子，尾島俊之，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，井口紗織，花井詠子：保健所設置市調査による災害時保健活動マニュアル策定活用のためのガイドの検討. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 2024年10月29日-31日，札幌市.
- ・奥田博子，宮崎美砂子，春山早苗，岩瀬靖子，尾島俊之，雨宮有子，吉川悦子，立石清一郎，五十嵐侑，築場玲子，相馬幸恵，草野富美子，井口紗織，花井詠子：都道府県調査による災害時保健活動マニュアル策定活用のためのガイドの検討. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 2024年10月29日-31日，札幌市.
- ・井口紗織，宮崎美砂子，尾島俊之，奥田博子，春山早苗，雨宮有子，吉川悦子，岩瀬靖子，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，花井詠子：災害時保健活動マニュアル策定活用のためのガイド（本編及び別冊）の提示. 第83回 日本公衆衛生学会総会. 2024年10月29日-31日，札幌市.
- ・田村須賀子，鈴木悟子，山岸愛実，山田洋子，米澤洋美，城諒子，室野奈緒子，林愛海，佐藤美樹，雨宮有子，春山早苗：統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力の教育プログラムの検討，第13回日本公衆衛生看護学会学術集会，2025年1月4-5日，名古屋市.
- ・濱坂浩子，富岡順子，前田香，加藤孝子，雨宮有子，牛尾裕子：地域保健活動の推進につながる統括保健師間ネットワーク【第1報】ネットワークの形態，第83回日本公衆衛生学会総会，2024年10月29-31日，札幌市.
- ・富岡順子，濱坂浩子，前田香，加藤孝子，雨宮有子，牛尾裕子：地域保健活動の推進につながる統括保健師間ネットワ

ーク [第2報] ネットワークの成果, 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月29-31日, 札幌市.

- ・富岡順子, 濱坂浩子, 前田香, 加藤孝子, 雨宮有子, 牛尾裕子: 地域保健活動の推進につながる 統括保健師間ネットワーク ～ネットワークの構築・維持・発展の要因と構造, 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025年1月4-5日, 名古屋市.
- ・富岡順子, 濱坂浩子, 前田香, 加藤孝子, 木村由紀子, 佃美幸, 雨宮有子, 牛尾裕子: 統括保健師等の役割発揮を促すネットワークづくり (ワークショップ), 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025年1月4-5日, 名古屋市.
- ・石橋みゆき, 黒田久美子, 佐藤奈保, 坂上明子, 雨宮有子, 岩崎寛, 高原達也, 塩澤卓巳: 音声 SNS を共通基盤に市民と大学生が学び合う「災害シチズンサイエンス演習」構築過程の報告ー災害に強い人とまちを創るためにー, 日本災害看護学会 第26回年次大会, 2024年8月31日, 茨木市.
- ・黒田久美子, 石橋みゆき, 岩瀬靖子, 菅原七海, 立石順久, 岩崎寛, 雨宮有子, 坂上明子, 佐々木ちひろ: 市民と共に学生が学び合う災害シチズンサイエンス教育プログラムの効果と課題, 防災教育学会 第5回大会, 2024年6月15-16日, 神戸市.
- ・佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 杉本健太郎, 松浦めぐみ: 住民主体の通いの場に携わる住民協力者の活動に伴う認識と思い, 日本地域看護学会第27回学術集会, 2024年6月29日～30日, 仙台市.
- ・石橋みゆき, 田中幸子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 小山田恭子, 池田真理, 西垣昌和, 加藤典子, 野村陽子: 看護基礎教育における政策教育プログラム導入ガイドの開発-A 大学における政策教育コンピテンシーの活用例, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日～8日, 熊本市.
- ・望月由紀, 雨宮有子, 柄澤清美, 角川由香, 仁昌寺貴子, 山花令子, 山本則子: 研究するって楽しい! 「ケアの意味を見つめる事例研究」で自分のがん看護実践を研究にまとめよう (交流集会), 第39回日本がん看護学会学術集会, 2025年2月22-23日, 札幌市.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第15回和歌山保健看護学会学術集会, 特別講演「ケアの意味を見つめる事例研究」, 2025年8月10日, 和歌山県立医科大学.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2024年度学長裁量研究費, 健康危機管理担当者のネットワーク構築と災害時地域対応力向上に向けた支援プログラムの効果検証 (実装研究), 研究代表者
- ・2024年度学長裁量研究費, コロナ禍を経た新任保健師の対人支援および地域支援における課題, 共同研究者
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2020-2024, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 2020-2024, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・2023年度一般社団法人日本地域看護学会「奨励論文賞」: 細谷紀子, 佐藤紀子, 杉本健太郎, 雨宮有子, 泰羅万純: 全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動, 日本地域看護学会誌, 25巻, 2号, 4-12, 2022. (2024年6月29日受賞)

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・保健活動業務研究サポート事業 事務局 (千葉県公衆衛生看護学教育連絡会). 2024年4月～2025年3月. 千葉県立保健医療大学.

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・厚生労働省、保健師助産師看護師試験委員、2023年5月1日～2025年4月30日。
- ・一般社団法人 日本公衆衛生協会 健康危機緊急時対応体制整備事業「健康危機管理支援事業運営会議」委員（2024年4月10日～2025年3月31日）。
- ・一般社団法人 日本公衆衛生協会 健康危機緊急時対応体制整備事業「健康危機管理研修検討作業部会」委員（統括 DHEAT 研修）（感染症・IHEAT 管理者マネジメント研修）（2024年4月12日～2025年3月31日）。
- ・千葉大学大学院医学研究院 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 千葉地域医療教育外部評価委員（2024年4月1日～2030年3月）。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国保健師長会都道府県部会 委員アドバイザー（2024年4月1日～2025年3月31日）。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本災害医学会、日本災害看護学会、防災教育学会、日本家族看護学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本看護管理学会、日本看護科学学会、文化看護学会、千葉看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人 日本公衆衛生看護学会、代議員、2021年～2024年。
- ・一般社団法人 日本公衆衛生看護学会、学術実践開発委員会委員、2024年6月9日～2026年6月。
- ・一般社団法人 日本公衆衛生看護学会、学術奨励賞 論文選考委員、2024年7月22日～2024年8月25日。
- ・一般社団法人 日本家族看護学会 査読委員、2016年8月1日～2026年8月31日。
- ・公益社団法人 日本看護科学学会、和文誌専任査読委員、2021年10月1日～2025年9月30日。
- ・一般社団法人 日本在宅看護学会、編集委員会委員、2024年4月1日～2026年。
- ・一般社団法人 日本在宅看護学会、査読委員、2021年11月～2024年3月31日。
- ・一般社団法人 日本在宅ケア学会、査読委員、2022年7月10日～2026年。
- ・日本保健医療福祉連携教育学会学術誌、査読員、2021年4月1日～2025年3月31日。
- ・一般社団法人 千葉看護学会、査読委員、2018年4月1日～2026年3月31日。
- ・日本家族看護学会第31回学術集会、査読委員、2024年5月。
- ・第13回公衆衛生看護学会学術集会、査読委員、2024年9-10月。
- ・第29回日本在宅ケア学会学術集会、座長、2024年8月24-25日。
- ・第29回日本在宅ケア学会学術集会、査読委員、2024年5月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・2024年度 健康危機における保健活動推進会議、厚生労働省健康・生活衛生局、保健師等チームとの連携と保健師等チームに期待すること、都道府県・保健所設置市・特別区に所属する統括保健師又は統括的役割を担う保健師、本庁及び保健所の健康危機管理を担当する保健師、及び地域防災計画の担当者等、2025年1月21日、オンライン開催。
- ・2024年度 保健師等ブロック別研修会（関東甲信越ブロック）、一般社団法人日本公衆衛生協会・東京都、災害時保健師活動について考える：「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動の推進」（講演）、「能登半島地震における保健活動からの学び」（シンポジウム座長）、関東甲信越地区の各都県、保健所設置市、特別区、市町村に勤務する保健師等、2024年8月30日、新宿住友スカイルーム（新宿住友ビル）47階 Room 5-7。
- ・2024年度 統括 DHEAT 研修、一般社団法人 日本公衆衛生協会、統括 DHEAT 及びその候補者、2024年7月16日、AP 日本橋。
- ・杉並区災害時保健活動マニュアル策定に関するアドバイザー、杉並区杉並保健所、2024年7月11日～2025年3月31日。
- ・中野区保健師人材育成研修、中野区保健所、災害時保健活動から紐解く平時の地区把握・地域連携体制構築、中野区保

健師. 2025 年 1 月 24 日. 中野区役所.

- ・2024 年度 鎌倉保健所保健福祉事務所 地域保健師業務連絡会議・管内研究会・管理期保健師研修会. 鎌倉保健福祉事務所. 事前災害等を見据えた平時からの体制づくり. 鎌倉市, 逗子市, 三浦市, 葉山町の管理期保健師及び鎌倉保健福祉事務所・三崎センターの管理期保健師. 2024 年 10 月 28 日. 神奈川県鎌倉保健福祉事務所.
- ・2024 年度 鎌倉保健福祉事務所三崎センター管内保健師等合同研究会. 鎌倉保健福祉事務所三崎センター. 三浦市における大規模災害発生時の受援体制の整備. 三浦市の保健福祉部職員, 政策部デジタル課職員, 及び防災危機対策室職員ならびに鎌倉保健福祉事務所三浦センター職員, その他の保健福祉事務所・センター職員. 2024 年 12 月 16 日. 神奈川県三浦合同庁舎.
- ・埼玉県鴻巣保健所管内 第 5 回保健部会. 埼玉県鴻巣保健所管内 保健衛生活動連絡協議会. 地域での災害時保健活動について. 鴻巣保健所管内各市町の保健衛生業務に従事する職員. 2024 年 11 月 13 日. 上尾市東保健センター.
- ・2024 年度災害時保健活動研修. 愛知県保健医療局. 災害時保健活動において求められる統括保健師及びリーダー保健師(統括保健師を補佐する保健師)の役割. 県及び市町村に勤務する統括保健師・リーダー保健師(統括保健師を補佐する保健師). 2024 年 12 月 3 日. 愛知県自治センター.
- ・2024 年度 丹南地域保健・福祉・環境関係職員研修. 福井県丹南健康福祉センター. 市町村における災害時保健活動マニュアル作成について. 福井県丹南健康福祉センター管内の市町村保健・福祉・環境分野の職員, 災害時保健活動マニュアル策定に係る関係職員, 福井県健康福祉センター職員, 及び県内市町保健師. 2025 年 1 月 23 日. 丹南健康福祉センター鯖江庁舎.
- ・2024 年度 保健師管理者能力育成研修. 千葉県健康福祉部健康づくり課. 根拠に基づく事業・施策の展開. 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは次期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者として役割・機能を果たす者. 2024 年 10 月 21 日. 千葉県教育会館.
- ・2024 年度 管理期保健師研修会. 千葉県健康福祉部健康づくり支援課. 災害時における県と市町村の連携強化～保健師の災害時の応援派遣及び受援のためのオリエンテーションガイドから～. 市町村の係長相当以上の職位にある保健師および保健所(健康福祉センター)の主査以上の職位にある保健師. 2024 年 6 月 25 日. 千葉県教育会館.
- ・2024 年度 健康づくり指導者研修会 テーマ別研修⑦「災害時保健活動」. 茨城県国民健康保険団体連合会. 災害時保健活動のイメージ化と保健活動の推進に向けて. 茨城県内市町村及び保健所の保健師. 2025 年 2 月 4 日. 茨城県立健康プラザ.
- ・2024 年度 千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修. 千葉県健康福祉部. 標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術. 特定保健指導従事経験年数 3 年目以上の従事者(県内市町村の国民健康保険等, 医療保険者, および保健衛生部門等ならびに県内医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等). 2024 年 9 月 4 日. Web 会議開催.
- ・2024 年度 第 2 回海匝保健所管内保健師業務連絡研究会. 千葉県海匝保健所. 自組織の災害被害想定及び災害対応体制と必要な保健活動. 海匝保健所管内の市・保健所に勤務する統括保健師ならびに経験年数概ね 15 年目以上の保健師, 防災担当職員. 2024 年 11 月 8 日. 旭市民会館.
- ・2024 年度 第 3 回海匝保健所管内保健師業務連絡研究会. 千葉県海匝保健所. 災害時保健活動と応援派遣要請. 海匝保健所管内の市・保健所に勤務する統括保健師ならびに経験年数概ね 15 年目以上の保健師, 防災担当職員. 2024 年 11 月 8 日. 匝瑺市保健センター.
- ・2024 年度 第 2 回夷隅保健所管内保健師業務連絡研究会. 千葉県夷隅保健所. 令和 6 年能登半島地震における保健活動を通して. 夷隅保健所管内市町及び保健所の保健師及び栄養士. 2024 年 11 月 7 日. 夷隅保健所.
- ・2024 年度 第 3 回夷隅保健所管内保健師業務連絡研究会. 千葉県夷隅保健所. 災害時保健活動の具体化. 夷隅保健所管内市町の保健師(主に津男活発の立場および中堅後期以降), 市町防災担当, 及び保健所保健師. 2025 年 2 月 6 日. 夷隅保健所.
- ・2024 年度 第 2 回管内保健師業務連絡研究会. 千葉県君津保健所. 令和 6 年能登半島地震への派遣報告と平時に必要な準備(助言). 君津保健所管内保健師等. 2024 年 11 月 21 日. 君津保健所.
- ・2024 年度 第 3 回管内保健師業務連絡研究会. 千葉県君津保健所. 模擬事例をとおして災害時保健活動の初動体制整備につなげる. 君津保健所管内保健師等. 2024 年 8 月 19 日. 君津保健所.
- ・2024 年度 印旛保健所管内保健師研修会. 千葉県印旛保健所. 受援の実際を学ぶ～平時からの受援体制づくり～. 統括的役割を担い保健師, 管理的立場にある保健師, 中堅後期保健師, 及びその他受講を希望する保健師. 2024 年 12 月 11 日. 印旛合同庁舎.

- ・2024年度第3回香取保健所管内保健衛生連絡協議会保健部会及び管内保健師業務連絡研究会、香取保健所管内保健衛生連絡協議会・千葉県香取保健所、保健師が行う地区診断とは～地域に責任を持つ保健師となるために～、管内市町保健師及び保健所保健師等、2024年11月1日、香取合同庁舎。
- ・千葉県保健師会 みんなの会、千葉県保健師会、伝わるってどういうこと？学ぼう！保健師活動を共有するコツ、千葉県保健師会会員、2024年11月23日、千葉県立保健医療大学。
- ・2024年度 保健活動業務研究サポート、千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議、がん検診受診離脱者ががん検診を受診しない理由を明らかにし、効果的な周知方法、山武保健所保健師、2024年6月～12月、山武保健所
- ・2024年度 保健活動業務研究サポート、千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議、在宅人工呼吸器装着者等への平常時の支援方法を考える～「災害対策アンケート」から見えてきた現状と課題～、市川保健所保健師、2024年6月～12月、市川保健所。
- ・2024年度 ケアの意味を見つめる事例研究、東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野、ケアの意味を見つめる事例研究、研究倫理について、ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方、2024年10月26-27日、東京大学本郷キャンパス医学部5号館。
- ・看護を見つめる研修会、さいたま赤十字病院、ケアの意味を見つめる事例研究、さいたま赤十字病院の看護師 ラダーレベルⅢを取得または目指す者、2024年7月30日、さいたま赤十字病院。
- ・臨床看護研究研修、医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 臨床看護教育研究センター、ケアの意味を見つめる事例研究、亀田総合病院の看護師長、看護師、亀田医療大学教員、2024年8月20日、10月2日、2025年2月19日、亀田総合病院。
- ・事例研究ワークショップ、九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会、挑戦！ケアの意味を見つめる事例研究、九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会会員等、2025年1月12日、オンライン開催。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・研究倫理審査委員会、自己点検・評価委員会 実施推進部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科 倫理審査委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、看護政策論に関する研究に参加し内容を見直した。保健師として12名の就職者を出せた。研究では、著書2本（分担）、論文1本（共著）、雑誌1本（筆頭）、報告書8編（筆頭2編）、学会発表15本（筆頭1本）等により成果を公表した。学術集会特別講演に招聘された。特に、厚生労働科研および地域保健総合推進事業における研究成果を、令和6年度健康危機における保健活動推進会議（厚労省主催）に活かした。また、全国の自治体や保健所主催の研修において反映・活用することで千葉県をはじめ複数自治体の行政保健師活動へ還元できた。千葉県内の災害担当者を対象とした実装研究を開催できた。これらの結果を発展させた文部科学省科学研究費を獲得できた。今後、既存成果の論文文化を進める必要がある。管理運営としては、大学としての体制整備に向けて倫理審査基準や申請様式、終了報告書等の改定・新設に参画し委員会として導入した。社会貢献では、千葉県内保健師等の現任教育に加え、日本公衆衛生協会の健康危機緊急時対応体制整備事業「健康危機管理支援事業運営会議」「健康危機管理研修検討作業部会」の委員として全国自治体を対象にした研修を企画・実施した。

VII 次年度の目標

教育では、担当科目において、学生が看護職、特に保健師への関心を高め基礎的知識及び実践能力が学得できるよう努める。研究に関しては、研究代表者としての科研の計画的推進とともに既存の研究成果の論文文化を優先的に注力する。社会貢献では、保健師の現任教育とその体制整備を継続して支援することに加え、学術団体や国の委員において全国の保健師活動の発展に貢献する。管理・運営に関しては、学生進路支援に関する全学および学科の事業を確実に実施する。

准教授 細谷 紀子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育については、担当科目において学生からのレスポンスに応じた双方向の授業運営に努め、学生が学習への意欲や関心を高め、確かな知識や実践能力を修得できるようにする。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、看護学科社会貢献委員長として所掌する業務、特に昨年度試行した研修プログラムの効果検証について責任をもって遂行する。そのほか各委員や研修講師等により社会貢献の役割を果たす。大学の管理運営については、委員長や委員としての職務、担任、入試・広報業務等を関係者と協力して担う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・看護政策論.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・細谷紀子：第2 章 I 障害児者保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第 3 版 2025 年版各論 1（宮崎美砂子他編集），184-229，2025 年，日本看護協会出版会，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発，千葉県立保健医療大学紀要，第 16 巻第 1 号，pp67-75，2025.
- ・細谷紀子，山崎由佳，川崎由紀，福田浩子：中堅前期保健師研修会の効果の検証，千葉県立保健医療大学紀要，第 16 巻第 1 号，pp77-85，2025.
- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発，令和 5 年度学長裁量研究抄録，千葉県立保健医療大学紀要，第 16 巻第 1 号，158，2025.
- ・吉岡京子，塩見美抄，細谷紀子，佐藤美樹，三浦貴大，藤井仁：ICT を用いた保健師活動アルゴリズム及び評価手法の開発と統括保健師による人材育成への活用，令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）総括研究報告書，pp1-11，2024.
- ・塩見 美抄，吉岡京子，細谷紀子，佐藤美樹，三浦貴大，藤井仁：令和 4 年度全国調査の分析結果に基づくアルゴリズム項目の洗練，令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）（分担）研究報告書，pp12-17，2024.

- ・細谷紀子, 吉岡京子, 塩見 美抄, 佐藤美樹, 三浦貴大, 藤井仁 : 「ICT を活用しデータに基づく人材育成を推進するための活用ガイド (仮称)」の骨子の検討, 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) (分担) 研究報告書, pp18-24, 2024.
- ・三浦貴大, 塩見 美抄, 吉岡京子, 細谷紀子, 佐藤美樹, 藤井仁 : ICT を活用した試作版ツールの開発とパイロット調査の実施, 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 (健康安全・危機管理対策総合研究事業) (分担) 研究報告書, pp25-34, 2024.

3 発表 (発表者 : 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・細谷紀子, 山崎 由佳, 川崎 由紀, 福田 浩子 : 中堅前期保健師研修会のアンケート評価に基づく効果の検証, 日本地域看護学会第26回学術集会, 2024年6月29日~30日, 仙台市.
- ・佐藤美樹, 吉岡京子, 塩見 美抄, 細谷紀子, 藤井仁, 茂木りほ, 松本博成, 本田千可子, 角川由香, 平和也, 三浦貴大 : 統括保健師の人材育成・人事管理に関する評価項目の検討, 日本地域看護学会第27回学術集会, 2024年6月29日~30日, 仙台市.
- ・佐藤 紀子, 雨宮 有子, 細谷 紀子, 杉本 健太郎, 松浦 めぐみ : 住民主体の通いの場に携わる住民協力者の活動に伴う認識と思い, 日本地域看護学会第27回学術集会, 2024年6月29日~30日, 仙台市.
- ・細谷紀子, 吉岡京子, 藤井仁, 角川由香, 塩見 美抄, 佐藤美樹, 松本博成, 本田千可子, 平和也, 茂木りほ, 三浦貴大 : データに基づく人材育成・マネジメントを推進するための活用ガイド骨子の検討, 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月29日~31日, 札幌市.
- ・吉岡京子, 塩見 美抄, 藤井仁, 細谷紀子, 松本博成, 本田千可子, 平和也, 角川由香, 佐藤美樹, 茂木りほ, 三浦貴大 : 保健師が個別支援必要度をアセスメントするための項目の開発 : 第1報, 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月29日~31日, 札幌市.
- ・塩見 美抄, 吉岡京子, 藤井仁, 細谷紀子, 松本博成, 本田千可子, 平和也, 角川由香, 佐藤美樹, 茂木りほ, 三浦貴大 : 保健師が個別支援必要度をアセスメントするための項目の開発 : 第2報, 第83回日本公衆衛生学会総会, 2024年10月29日~31日, 札幌市.
- ・田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宜子, 河部房子 : 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発① : 患者・家族への支援能力に関する効果, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日~8日, 熊本市.
- ・細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宜子, 河部房子, 田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代 : 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発② : 連携調整・マネジメント力に関する評価, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日~8日, 熊本市.
- ・吉岡京子, 塩見 美抄, 松本博成, 本田千可子, 細谷紀子, 平和也, 佐藤美樹, 茂木りほ, 角川由香, 三浦貴大 : 統括保健師による人材育成とマネジメントに資する ICT 試作版ツールの開発 : 第1報, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日~8日, 熊本市.
- ・塩見 美抄, 吉岡京子, 細谷紀子, 松本博成, 本田千可子, 平和也, 角川由香, 佐藤美樹, 茂木りほ : ICT による保健師の区活動・事業化の必要性判定と保健師活動自己評価との関連, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日~8日, 熊本市.
- ・石橋みゆき, 田中幸子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 細谷紀子, 小山田恭子, 池田真理, 西垣昌和, 加藤典子, 野村陽子 : 看護基礎教育における政策教育プログラム導入ガイドの開発-A 大学における政策教育コンピテンシーの活用例, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日~8日, 熊本市.
- ・吉岡京子, 塩見 美抄, 細谷紀子, 松本博成, 本田千可子, 佐藤美樹, 茂木りほ, 角川由香, 山下久美, 松下美穂子 : 統括保健師による ICT を活用した根拠に基づく人材育成とマネジメントの実践, 第13回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ, 2025年1月4日~5日, 名古屋市
- ・Kyoko Yoshioka-Maeda, Hiroshige Matsumoto, Chikako Honda, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii, Kazuya Taira, Miki Sato, Riho Iwasaki-Motegi, Yuka Sumikawa, Takahiro Miura and Misa Shiomi : Association between public health nurses' assessments and individual care refusal in the community, 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb. 13-14, 2025, Seoul, Korea.
- ・Mana Shirouchi, Kyoko Yoshioka-Maeda, Misa Shiomi, Hiroshige Matsumoto, Chikako Honda, Noriko Hosoya : Challenges in Acquiring Ultrasound Hip Screening Techniques for Nurses Conducting Home Visits for Newborns

and Infants: An Observational Study Based on Video and Images, 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb. 13-14, 2025, Seoul, Korea.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・2020～2024 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究代表者。
- ・令和5（2023）年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業），ICT を用いた保健師活動アルゴリズム及び評価手法の開発と統括保健師による人材育成への活用，研究分担者。
- ・2020～2024 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，分担研究者。
- ・2024～2026 年度科学研究費助成事業（基盤研究（B）），新生児訪問で股関節脱臼のエコースクリーニングを行うための教育プログラム開発と実装，研究分担者。
- ・2024 年度学長裁量研究費，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究代表者。
- ・2024 年度学長裁量研究費，コロナ禍を経た新任保健師の対人支援および地域支援における課題，共同研究者。
- ・2024 年度学長裁量研究費，健康危機管理担当者のネットワーク構築と災害時地域対応力向上に向けた支援プログラムの効果検証（実装研究），共同研究者。

6 受賞・特許

- ・2023 年度一般社団法人日本地域看護学会「奨励論文賞」：細谷紀子，佐藤紀子，杉本健太郎，雨宮有子，泰羅万純：全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動，日本地域看護学会誌，25 巻，2 号，4-12，2022.（2024 年6月29日受賞）。
- ・千葉県看護協会「千葉県看護協会会長表彰」。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県国民健康保険団体連合会。保健事業支援・評価委員会委員。2021 年7月より現在に至る。
- ・千葉県国民健康保険団体連合会。保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員。2021 年6月より現在に至る。
- ・八千代市第3 次健康まちづくりプラン推進評価委員，2023 年6月より現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会。千葉看護学会。日本公衆衛生学会。日本看護科学学会。文化看護学会。日本公衆衛生看護学会。日本ルーラルナース学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人日本地域看護学会。代議員。2023 年6月～2027 年。
- ・千葉看護学会誌査読委員。2015 年4月より現在に至る。
- ・日本公衆衛生看護学会誌査読委員。2022 年6月より現在に至る。
- ・日本看護系大学協議会。災害連携教員。2021 年1月より現在に至る。
- ・千葉看護学会第30 回学術集会。企画委員。2023 年9月～2024 年10 月。
- ・千葉看護学会第30 回学術集会。プレゼンテーション&交流ディスカッションA2 群座長。2024 年9月7 日。
- ・第63 回千葉県公衆衛生学会。第2 分科会座長。2025 年3月7 日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和6年度「公衆衛生看護研修（中堅期）」、国立保健医療科学院、リスクマネジメント（災害）と保健師の役割、中堅期保健師50名、オンデマンド講義（2024年6月）。
- ・令和6年度中堅前期保健師研修会、千葉県健康づくり支援課、千葉県内中堅期保健師60名、オンデマンド講義および集合研修、2024年10月2日、2025年1月22日、千葉県教育会館。
- ・令和6年度第2回松戸保健所管内保健師業務連絡研究会、松戸保健所、中堅期保健師に求められる役割とアイデンティティ、松戸保健所管内保健師46名、2024年7月29日、松戸市中央保健福祉センター。
- ・令和6年度第2回山武保健所管内保健師業務連絡研究会、山武保健所、事業の評価の基本と活用、山武保健所管内保健師23名、2024年8月5日、横芝光町健康づくりセンター「プラム」。
- ・地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム、千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会、「患者・家族への支援能力を高める」および「地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める」、千葉県内の地域包括ケア病棟に勤務する看護師19名、2024年8月～9月、本学。
- ・海匝保健所管内保健衛生連絡協議会第2回保健師研修会、海匝保健所管内保健衛生連絡協議会、保健事業展開における多職種との連携の工夫～保健師の仕事をもっと知ってもらうためには～、海匝保健所管内保健師19名、2024年12月9日、旭市役所。
- ・令和6年度第2回野田保健所管内保健師業務連絡研究会、野田保健所、実践の質を高める地区診断、野田保健所管内保健師26名、2024年12月13日、松戸市中央保健福祉センター。
- ・令和6年度保健師研修、西東京市、災害時の保健衛生活動について、西東京市保健師・危機管理課職員・西小平保健所保健師計33名、2025年3月3日、西東京市役所保谷保健福祉総合センター。
- ・業務研究サポート、千葉市稲毛保健福祉センター健康課、健康状態不明者の健康管理に関する意識と生活の状況、千葉市稲毛保健福祉センター健康課保健師、2024年7月～11月、本学。
- ・業務研究サポート、千葉市稲毛保健福祉センター健康課、子育て中の母親の喫煙状況からみえた禁煙支援の在り方、千葉市稲毛保健福祉センター健康課保健師、2024年7月～11月、本学。
- ・業務研究サポート、松戸市、自殺対策の電話相談「生きる支援相談窓口」の役割、松戸市保健師、2024年7月～11月、松戸市中央保健福祉センターおよびオンライン。
- ・業務研究サポート、市原健康福祉センター、難病患者支援における在宅人工呼吸器装着者等の災害時・緊急時対策と保健所保健師の役割、市原健康福祉センター保健師、オンライン。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、紀要編集部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科社会貢献委員会、看護学科学生進路・支援委員会、看護学科看護研究作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については看護政策論に関する研究に参画したことにより講義内容の見直しを行うことができ、授業前後のアンケートにより31項目中30項目のコンピテンシーの獲得が促進されていることを確認した。研究は、厚生労働科研の研究成果（国際誌共著）および学長裁量研究費による研究成果等（本学紀要筆頭著者2編）を公表することができ、学会発表（14件）を含め計画的に進めることができた。また、先行研究の成果について一般社団法人日本地域看護学会「奨励論文賞」を得た。社会貢献活動は千葉県国民健康保険団体連合会等や学術団体の委員としての活動のほか、研修会8件、研究指導4件により当初の予定以上に役割を果たすことができた。大学の管理運営については看護学科社会貢献委員会委員長の他、所属委員会の任務について目標どおりに活動することができた。

VII 次年度の目標

教育については、引き続き、担当科目において学生からのレスポンスに応じた双方向の授業運営に努め、学生が学習への意欲や関心を高め、確かな知識や実践能力を修得できるように努める。研究については、2025年度より開始する科研費研究（代表者）および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、関係団体の委員や研修講師としての役割を責任をもって遂行し、保健医療従事者の資質や活動の質向上に寄与する。大学の管理運営については、看護学科入試検討委員会委員長や全学入試実施委員、ハラスメント相談員としての職務を関係する方々と協力して担う。

准教授 川城 由紀子 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、担当科目において学生が主体的に学習に取り組めるような授業を行う。研究活動では、科研（研究代表者、研究分担者）の調査を引き続き遂行し、成果をまとめる。管理運営では、進路支援事業を見直し就職活動の現状に合わせた事業に修正し実施する。また、2 年生の担任が適切に学生支援ができるように支援する。社会貢献では、日本母性看護学会と千葉県母性衛生学会での役割における責任を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）.
 - ・助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）.
 - ・助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）.
 - ・助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）.
 - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
 - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
 - ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・石井邦子，廣間武彦，川城由紀子，他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第 8 巻）第 6 版，2025 年，医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子，山崎麻子：熟練看護職による産後抑うつ状態のアセスメントの構造，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，21－28，2025。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費基盤（C），日本人更年期女性に生じる骨量低下に関連する日常生活要因の探索－睡眠状態を中心に－，研究代表者。
- ・科学研究費基盤（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者。
- ・学内共同研究，子育て世代包括支援において他職種が助産師に期待する役割機能，研究分担者。
- ・学内学長裁量研究，多職種協働によるプレコンセプションケアの現状と課題－プログラム開発に向けた文献研究，研究

分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム(健康教室 第2回 看護学科プログラム「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」。
令和7年2月15日、幕張キャンパス)。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本衛生学会、千葉看護学会、千葉県母性衛生学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県母性衛生学会、理事、2022年6月～現在に至る。
- ・日本母性看護学会、専任査読委員、2014年4月～現在に至る。
- ・日本母性看護学会、編集委員（制作担当）、2023年7月～現在に至る。
- ・千葉看護学会、査読委員、2018年10月～現在に至る。
- ・第55回日本看護学会学術集会、抄録選考委員。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科2年生担任リーダー。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ:千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学。(<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学内の講義・演習と臨地での実習が連動するように構成し、学生の考えを引き出す課題提示を行い主体性のある学習につなげることができた。研究では進行中の調査を継続して行った。管理運営では、全学と学科内で進路支援事業を実施し、学科内の進路支援事業の内容を見直し、スリム化効率化をして業務改善を行った。2年生の担任リーダーとして各担任の支援に努めた。社会貢献では、千葉県母性衛生学会会計担当理事として、会計管理を責任をもって遂行した。また、日本母性看護学会編集委員会制作担当として着任し、学会誌の発行を責任をもって行った。

VII 次年度の目標

令和7年度は、教育活動では、学習者目線に立って教育にあたる。また、第4次カリキュラムの実習内容について検討する。研究活動では、現在調査中の研究の成果をまとめる。また新たな研究に着手する。管理運営では、学生委員として学生生活を支援する取り組みを行う。看護学科学生・進路支援委員長として、学科での事業を社会情勢に即した内容に合わせ効果的に行う。社会貢献では、日本母性看護学会での学会誌発刊に向け貢献する。

准教授 三枝 香代子 修士（教育学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では引き続き効果的な教育方法を検討し改善を図る。大学運営については、担当する教務委員会のカリキュラムに関する事項について取り組む。研究活動では、収集したデータの分析に取り組む。社会貢献については、引き続き活動を継続する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・ターミナルケア論.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，内海恵美，三枝香代子，大内美穂子，大塚知子，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，95 - 104，2025.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，運動器外傷患者の回復過程における希望を維持する看護支援プログラムに関する研究，研究代表者.
- ・学内共同研究費（学長裁量），2024 年度学内共同研究費（学長裁量），医療チームの一員として急変時対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発 - （第 1 段階）患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県総合救急災害医療センター 災害訓練傷病者訓練ボランティア（2/15）千葉県総合救急災害医療センター.

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校、看護学校教育課程編成委員、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日。
- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校、学校関係者評価委員主任評価委員、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、千葉看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・第 4 回外国語による応急処置体験講習。神田外語大学／千葉県立保健医療大学。「一時救命処置（一般市民用）講習」「一時救命処置（一般市民用）実習」。2025 年 3 月 8 日。9 時 30 分～16 時。千葉県立保健医療大学。
- ・東京歯科大学市川総合病院 看護研究指導 手術室 4 回（8/2, 12/23, 1/7, 1/17）。発表会講評（1/31）。東京歯科大学市川総合病院。
- ・千葉県総合救急災害医療センター 事例検討指導 4 名 各 4 回（6/12, 6/14, 7/30, 8/1, 9/10, 9/12, 12/2, 12/4,）。発表会講評 4 名（2/26）。千葉県総合救急災害医療センター。
- ・千葉県総合救急災害医療センター 看護研究指導 ICU 4 回（6/12, 7/30, 9/10, 12/11）。発表会講評（3/12）。千葉県総合救急災害医療センター。
- ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校。4 名 1 回（6/26, 6/28）。千葉医療センター附属千葉看護学校。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については、教育内容・方法を洗練させることができ、臨地実習においては学生の学びの状況を把握し、丁寧に対応しながら教育を進めることができ、大学運営については、教務委員会での役割を遂行することができた。また、看護学科教務委員会では委員長として、看護学科のカリキュラム全般にわたって委員会のメンバーと協働・連携しながら役割を遂行することができた。また、今年度は第 4 次カリキュラム改正およびアセスメント・ポリシー策定に向けた取り組み、②「ポートフォリオ」および「看護実践能力評価票」の活用体制の整備にワーキンググループを立ち上げそれぞれのリーダーとして取り組んだ。研究活動については、調査対象である施設の研究倫理審査会の承認を得ることができ、データ収集に取り組むことができている。社会貢献については、看護専門学校の学校関係者評価委員・外国語による応急処置体験講習・実習施設の看護研究指導等を行った。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、教育活動においてより効果的な教育方法の検討と継続的な改善に取り組む。大学運営においては、国際交流委員として、学生が多文化・異文化に触れる学びの機会を提供できるよう、担当教員と連携・協働して活動を推進する。研究活動では、収集済みのデータを分析し、成果として取りまとめる。社会貢献においては、看護研究指導およびボランティア活動を継続して行う。

職位 北川 良子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、担当科目の学習目標を達成できるように創意工夫を行いながら教育を行う。実習では学生個々のレディネスや状況に応じた支援を行い、学生の主体性を尊重する教育を実施する。研究活動では研究時間を確保し成果をまとめ公表する。大学の管理運営において適切に所掌事項を遂行し円滑な委員会運営を目指す。社会貢献活動では、高校訪問や各種学会活動に取り組む。教育研究活動に支障が生じないように健康管理に十分務める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所．）

- ・石井邦子，廣間武彦，北川良子，他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2025年，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子，山崎麻子：熟練看護職による産後抑うつ状態のアセスメントの構造，千葉県立保健医療大学紀要，16巻，1号，21－28，2025.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費基盤（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者.
- ・学内共同研究，子育て世代包括支援において他職種が助産師に期待する役割機能，研究分担者.
- ・学内学長裁量研究，多職種協働によるプレコンセプションケアの現状と課題－プログラム開発に向けた文献研究，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

・日本母性看護学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本母性衛生学会、千葉県母性衛生学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本母性看護学会、評議員、2024年4月～2025年3月
・日本母性看護学会、査読委員、2024年4月～2025年3月

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・危機管理委員会、総務企画委員会、キャンパスハラスメント相談員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科運営会議、看護学科総務企画委員会、3年生担任、

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学、(<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、昨年度の授業評価と学生の授業後のアンケート内容を踏まえ、授業内容と指導方法を確認し、改善点を見出し修正することができた。担当している講義、演習において学生の反応や事後評価より学習目標を達成することができた。実習においては、複数施設の指導者および管理者ときめ細かく調整を行い適切に実習を行うことができた。学生個々のレディネスを実習早期に把握し状況に応じて指導を行い、学習目標の達成に向けて指導者とともに支援できた。研究活動では、助産師と連携・協働する専門職者が考える子育て世代包括支援における助産師の役割機能の研究に取り組んだ。また令和7年度の科学研究費に応募し無事に採択された。大学の管理運営について、全学委員会では委員長を始めとする他学科の教員や事務職員と協働しながら役割を担い、看護学科総務企画委員会委員長として役割を遂行することができた。社会貢献活動では、自分の役割を果たすことができた。

VII 次年度の目標

教育活動は、授業の到達目標および学生のDP達成に向けて、講義・演習・実習における一貫性を保ち学学習効果を随時評価しながら実施する。また、学生個々のレディネスに応じた指導、学生が学習に対して主体的に取り組めるよう工夫する。研究活動は、採択された科学研究と学内共同研究を計画的に遂行するとともに、これまでの研究成果を公表する。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう、教職員と協力しカリキュラム実施部会長として第4次カリキュラムの円滑な進行に努める。社会貢献活動では、幅広い視野を持ち積極的に社会貢献活動に参加する。

准教授 今井 宏美 博士（工学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

2024 年度は、COVID - 19 のパンデミックの中で高校・大学生活を過ごしてきた学生にとって、体験・実施が重要視され、他者との関わりが必要になる看護職としての教育方をさらに検討していきたい。研究活動はこれまでの成果の論文化と、学会発表を行いつつ、企業との連携で開発している教育教材および衛生材料等の研究の促進・商品化を行っていく。大学の管理運営においては、今年度も領域内では欠員が続くことが予想されることから、業務の効率化を図っていきたい。大学運営では 2 年目となる学科内委員でさらなる効率化をすすめつつ話しやすい・相談しやすい雰囲気は継続して整えていき、円滑な運営に努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・看護学原論.
- ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
- ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
- ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
- ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
- ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・日常生活調整方法論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・看護師国家試験問題集，共著，2024，医学書院，東京.
- ・系統看護学講座，専門分野，基礎看護技術Ⅱ，基礎看護 3. 第 19 版，共著，2025，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・渡部誠人，滝聖子，鈴木翔太，杉山裕哉，今井宏美，神代充：介護支援のための起き上がり介助動作の基礎分析，日本整備管理学会誌，36，3，65 - 70，2024.
- ・谷直道，市原陽子，今井宏美，上田裕之，梶本繁之，金一成，高橋秀行，菱田博俊，藤掛和広，松井真弓，山田泰行，吉村健志，榎原毅：未来検討委員会活動報告-産業保健人間工学研究のさらなる発展にむけて-，産業保健人間工学研究，25，1，23 - 27. 2025. 3.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，滝聖子：練習モジュールを用いた電動歯ブラシのブラッシング練習の効果，日本看護技術学会 2024. 10 月 27 日，札幌.
- ・河部房子，今井宏美，渡辺健太郎，仁井田友紀，山本千代：臨床判断力育成に向けたフィジカルアセスメント教材アプリの活用と評価，日本看護学教育学会（第 34 回学術集会），2024 年 8 月 20 日，東京.

- ・水野陸弥, 保田俊行, 早川智洋 (静岡大学), 太田俊介, 今井宏美, 滝聖子: 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会, 2024 年 11 月 13~15 日, 富山.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成若手研究, 現実適合性の高いモデルを活用した歯周病疾患予防・悪化防止に資するプログラムの創成, 研究代表者.
- ・科学研究費助成挑戦的萌芽, 身体的員インタラクション特性に基づく介助動作の技能教育システムの構築, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, Audience Response System が看護系大学生の学習意欲に与える影響, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 唾液の分泌を促進しうる着香マスクの開発, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会, 日本環境感染学会, 日本看護学教育学会, 日本看護技術学会, 日本看護科学学会, 勤務環境改善マネジメント研究会, 産業保健人間工学会, 日本人間工学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・産業保健人間工学会, 未来検討委員, 2023 年 1 月~現在に至る.
- ・産業保健人間工学会, 表彰委員, 2023 年 7 月~現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・千葉県循環器病センター看護研究指導, 臨床看護師, 2024 年 6 月~2025 年 3 月, 計 4 回, WEB.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・広報委員会, 入試実施委員会, 学長候補者選考の学内意向調査委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科入試・広報委員会, 3 年次生担任, 看護学科運営会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

2024 年度は, LMS システムとクリッカーを活用し, 体験的学びを重視した看護教育を推進した. 授業時間の多くを演習に充て, 学生が実践的に学びながら知識を適用できる力を高めた. 今後は臨地実習との接続性強化と, ICT ツールの活用支援を強化する必要がある. 研究活動では, 論文化 1 本と学会発表 3 つを実現したが, 教育・大学運営に多くの時間を要し, 論文数が少ないことが課題である. 大学の管理運営では, 学科内委員会では建設的な対話を通じて円滑な運営を実現した. 領域内は再び欠員の状況となり, 業務の負担が集中することが予想される. 業務効率化を図り, 限られたリソースで運営の最適化を進め, 負担感の偏りや業務のフレキシブル化が今後の課題となる.

VII 次年度の目標

2025年度は、制限下で学生生活を過ごした世代への教育として、対話的・主体的な学修を促すアクティブラーニングの視点を重視し、看護専門職としての感受性や判断力を高める教育方策を検討する。人間工学的視点を活かし、体験的学びや協働的な学びを通じて実践力の育成を図る。研究面では、企業と連携した教育教材や衛生材料の開発を進め、使用環境やニーズを踏まえた社会実装を目指す。出口教育の視点から、臨床現場と臨地実習・卒業研究等で連続した学びを通じ、卒業後の即戦力育成にも注力する。大学運営では新たな委員会での業務の効率化・分担と、協働・相談しやすい環境づくりに努める。

准教授 田口 智恵美 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、特に教育活動で、「社会実習（ボランティア活動）」が継続開講されるよう実施内容をまとめて次の科目責任者へと滞りなく引き継ぐ。専門科目では最新の知見を授業に取り入れる。大学運営では継続して複数の委員会委員としての役割を果たす。研究活動では研究を計画的に進める。社会貢献では多様な場での活動を継続する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・社会実習

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・クリティカルケア看護学特論Ⅴ（急性期看護援助論B）（順天堂大学大学院）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・田口智恵美, 内海恵美, 三枝香代子, 大内美穂子, 大塚知子, 坂本明子, 浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感, 千葉県立保健医療大学紀要, 16 巻, 1 号, 95 - 104, 2025.
- ・細谷紀子, 河部房子, 田口智恵美, 佐伯恭子, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 大内美穂子, 春日広美, 西村宣子, 山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発, 千葉県立保健医療大学紀要, 16 巻, 1 号, 67 - 75, 2025.
- ・細谷紀子, 河部房子, 田口智恵美, 佐伯恭子, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 大内美穂子, 春日広美, 西村宣子, 山本千代：地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 令和 5 年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第 16 巻第 1 号, 158, 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発①：患者・家族への支援能力に関する効果, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 8 日, 熊本.
- ・細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山

本千代：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発②：連携調整・マネジメント力に関する評価，第44回日本看護科学学会学術集会，2024年12月8日，熊本。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2024～2026 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），ICU 看護師の臨床判断における情動の役割とその発達プロセス，研究代表者。
- ・2024 年度学内共同研究費（学長裁量），医療チームの一員として急変時対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発 - （第1段階）患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割，研究代表者。
- ・2024 年度学内共同研究費（学長裁量），地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護協会，論文審査・編集委員会委員，2021年4月～現在

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本クリティカルケア看護学会，日本循環器看護学会，千葉看護学会，日本看護学会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本看護科学学会，和文編集委員会専任査読委員，2018年9月～現在
- ・日本クリティカルケア看護学会編集委員会委員，2019年5月～現在。
- ・日本クリティカルケア看護学会，査読委員，2004年～現在。
- ・日本循環器看護学会，学会誌選任査読委員，2013年2月～現在。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・初期医療言語サービスボランティア研修，神田外語大学／千葉県立保健医療大学，「体勢への配慮」「一時救命処置（一般市民用）実習」，令和7年3月8日，9時30分～16時，千葉県立保健医療大学。
- ・地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム，千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会，「患者・家族への支援能力を高める」および「地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める」，千葉県内の地域包括ケア病棟に勤務する看護師19名，令和6年8月～9月，千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究指導，1病棟 年4回，東京歯科大学市川総合病院。
- ・看護研究指導，3病棟 年6回（遠隔），千葉県循環器病センター。
- ・事例検討指導，2事例 年5回（うち1回はメール），千葉県総合救急災害医療センター。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・社会実習作業部会，国際交流委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営委員会，看護学科社会貢献委員会，総合実習作業部会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・ＴＶ出演、ラジオ出演等＞

- ・模擬授業. 千葉県立国分高校. 令和6年5月13日.
- ・大学合同説明会. 東京ベイ幕張ホール. 令和6年6月9日.
- ・模擬授業. 千葉県立船橋東高校. 令和6年10月30日.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、社会実習を開講して2年目となり、今年度は初年度の2倍の4名が履修し、その実績を次年度の科目責任者に引継ぐことができた。大学運営及び社会貢献活動については、当初の目標通りの成果であった。研究活動では、学内教員との共同研究活動に尽力し成果をあげることができたが、単独研究である科研費助成研究については進捗がやや遅れており努力が必要である。

VII 次年度の目標

教育では、実習での学びが深まるよう講義・演習内容を見直し必要に応じて実践に即した内容に修正する。大学運営については、看護学科社会貢献委員長や倫理審査委員などの新たな任に対し、役割を確認・把握しながら与えられた諮問に対して適切な成果が出せるよう尽力する。研究活動については、研究代表者になっている複数の研究があるため、業務を調整し並行して実施していけるよう計画的に進めていく。

准教授 金丸 友 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、本年度見直した講義、演習、実習内容を評価し、引き続き領域内で協力して、アセスメント力が高まる教育を検討する。大学運営では、着任 2 年目となるため、昨年度の経験を踏まえて主体的に活動する。また、カリキュラム作成部会員として、カリキュラム改正が円滑に行われるよう役割を遂行する。研究活動では、研究成果の公表として論文公開を目指す。今年度より始まった科研については、遅れが生じたため計画を修正し、計画通り遂行できるよう努める。社会貢献活動については、患者家族会の活動が COVID-19 拡大前に戻りつつあるため、会のニーズに沿って支援する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児地域ケア論.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中村伸枝，薬師神裕子，野本美佳，金丸 友：新型コロナウイルス感染症による小児糖尿病キャンプの中止がもたらした影響：子どもの自己管理，スタッフの糖尿病療養指導，オンラインキャンプの効果，日本糖尿病教育・看護学会誌，28，2，115-121，2024.
- ・金丸友，伊藤千穂，中村伸枝，出野慶子：総合病院の小児病棟で 1 型糖尿病診断時に行われる子どもと家族への看護の実態調査，日本糖尿病教育・看護学会誌，29，1，11-18，2025.
- ・金丸友，三池純代，飯村直子，原加奈：保育所職員が抱く精神疾患をもつ親と その子どもへの関わりにおける困難，千葉県立保健医療大学紀要，16，1，117-123，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・金丸友，小宮浩美，飯村直子，原加奈，三池純代：保育所保育士・看護職による精神疾患をもつ母親と子どもへの関わりとその困難，第 71 回日本小児保健協会学術集会，2024 年 6 月 21～23 日，札幌.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム，研究代表者.
- ・学長裁量研究，在宅療養する医療的ケアを必要とする子どもとその家族への支援指針作成～育児ストレス緩和を観点にしたアプローチ～，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉つばみの会夏のイベント，2024年8月24日，千葉県立保健医療大学.
- ・千葉つばみの会クリスマス会，2024年12月7日，千葉県立保健医療大学.

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課，千葉県移行期医療支援体制整備事業連絡協議会，2024年9月～現在に至る.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県看護協会，千葉地区部会，2024年5月～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本小児・思春期糖尿病学会，日本糖尿病教育・看護学会，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本公衆衛生学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児・思春期糖尿病学会，理事，2024年4月～現在に至る.
- ・日本小児・思春期糖尿病学会，学術委員会，2024年4月～現在に至る.
- ・日本小児看護学会，専任査読者，2024年4月～現在に至る.
- ・第29回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会，座長，2024年7月15日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，第四次カリキュラム作業部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，看護学科総務・企画委員会，看護学科運営会議，看護学科2年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、領域内で協力し、授業・演習・実習の内容を検討することで、学生がより主体的に参加できる授業にすることができた。大学運営では、与えられた役割を適切に遂行し、特に第四次カリキュラム改定においては積極的に関与し、カリキュラムの認定に至った。研究活動では、目標通り論文化することができたが、研究の遅れを完全に取り戻すには至っていない。社会活動では、患者会と協力しながら活動を進めることができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、見直した講義・演習・実習内容を評価し、領域内での協力を継続しながら、学生が主体的に学習できる授業のさらなる改善を進める。大学運営では、看護学科教務委員長としての役割を果たし、看護学科の教務が円滑に進行するよう管理し、適切な運営に努める。研究活動では、研究成果の公表に向けた論文公開を継続するとともに、遅れが生じている研究について計画を見直し、着実な遂行を図る。社会貢献活動では、患者家族会の活動がCOVID-19拡大前の状態に戻るよう支援し、円滑な運営を促進する。

准教授 西村 宣子 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、前年度の教育方法の評価を基に、より効果的な授業を展開していく。また、学生一人ひとりの自己肯定感や自己信頼感を高めることができるように関わり、学生が能動的に他者との関係を築く基盤を作るとともに、看護職としての倫理的感受性を高めるために様々な事例を用いて伝えていく。委員会活動においては、引き続き学生の修行、生活、進路支援に関する事業に尽力していく。研究活動においては、「看護管理者に貢献できる研究」や「教育活動の成果に関する研究」を計画的に推進していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理論.
- ・看護倫理.
- ・看護キャリア発達論.
- ・リーダーシップ論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・国際看護論.
- ・家族看護論.
- ・看護管理実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録・

1 著書（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・西村宣子：年上スタッフを活用した自分らしいマネジメント，看護展望，メヂカルフレンド社，Vol. 49，No7，p19 - 22 ，2024.
- ・河野秀一，中西真由美，西村宣子：“気づき”が行動変容となり，組織が変わる 看護マネジメントリフレクションの効果と活用，Nursing BUSINESS, MC メディカ出版，Vol18，No1，p4-10，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・西村宣子，富樫恵美子，河野秀一，木村麻紀，菅原聡美：行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修プログラムの効果—看護師長の「気づき」に焦点をあてて—，第 28 回日本看護管理学会学術集会，2024 年 8 月 23～24 日，名古屋国際会議場.
- ・河野秀一，西村宣子，中西真由美：看護マネジメントリフレクションでマネジメントが楽になる！～気づきを得る仕掛けと仕向け～，第 28 回日本看護管理学会学術集会，2024 年 8 月 23～24 日，名古屋国際会議場
- ・西村宣子，富樫恵美子：看護大学 4 年生が訪問看護実習で捉えた「疾患を抱えて地域で生活するイメージ」，第 44 回 日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 7 日～8 日，熊本城ホール.

- ・村山久美子, 原田通予, 西村宣子: ICU に勤務する看護師の看護実践の困難感がバーンアウトへ及ぼす影響—男女の印がモデルの差異—, 第44回 日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日～8日, 熊本城ホール.
- ・飯岡由紀子, 杉本知子, 辻恵子, 大場良子, 西村宣子, 渡邊恵, 廣田千穂: 看護職の調整力向上プログラムの実行可能性と効果の検討, 第44回 日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日～8日, 熊本城ホール.
- ・細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発②: 連携調整・マネジメントに関する評価, 第44回 日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日～8日, 熊本城ホール.
- ・田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発①: 患者・家族への支援能力に関する効果, 第44回 日本看護科学学会学術集会, 2024年12月7日～8日, 熊本城ホール.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・2024年度 学内共同研究, 看護師長のリフレクション自己評価尺度項目の選定—内容性妥当性と表面妥当性の検討—, 研究代表者.
- ・2019～2024年度 科学研究費助成事業基盤研究 (B), 研究チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価, 研究分担者.
- ・2024年度 学長裁量研究, 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの開発, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定実行委員会 委員 (2024年4月～2026年3月)
- ・公益社団法人 千葉県看護協会 教育委員会 委員 (2024年8月～2026年7月)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会, 日本看護科学学会, 日本災害医学会, 日本健康医学会, 日本健康学会, 日本看護教育学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導, 2024年7月～2025年3月 計8回 (2部署), 臨床看護師.
- ・第45回・46回認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会, 人材管理Ⅰ, リーダーシップ, 看護管理者, 2024年6月19日, 2025年1月30日, 公益社団法人千葉県看護協会.
- ・看護管理者研修会, 「看護管理者のための看護倫理」, 看護管理者, 2024年12月24日, 公益社団法人千葉県看護協会
- ・新人教育担当者研修, 「新人看護職員のガイドラインの概要」, 新人教育担当者, 2024年10月15日, 公益社団法人千葉県看護協会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議, 看護学科学生・進路支援委員会委員長.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、前年度の教育方法についての評価を踏まえてより効果的な授業を展開していった。担当する領域の授業科目において関連する DP の目標達成に向けて授業内容や方法を工夫して実施した。研究活動については、共同研究、交流会、研究代表者として 2 演題および共同研究者として 4 演題の学会発表、科研費申請等、計画通り順調に遂行した。また、紀要への投稿も行った。学生委員会では、今年度もキッチンカーと無人販売の使用状況についてアンケート調査を実施し、結果を委員会や教職員で共有した。課題は依然として存在するが、学生の意見を徐々に反映させていることに対する満足度が向上していることが確認された。看護学科学生・進路支援委員会の委員長として、学生のニーズや現状を考慮し、委員の意見を積極的に取り入れながら、進路支援ガイダンスやホームカミングデーなどの企画と運営を実施した。さらに、4 年生の就職活動に対するエントリーシートの添削、面接練習を積極的に行い就職活動の支援を行った。

VII 次年度の目標

次年度も担当する領域の授業科目において、関連する DP の目標達成に向けて授業内容や方法を工夫し、教育活動を実施していく。研究活動については、採択された科研と継続する共同研究とともに計画的に遂行していく。次年度の全学の委員会では、共通教育委員会、危機管理委員会、広報委員会および看護学科は、入試検討委員会、国試担当、4 年生担任と新たな委員会の役割を担うことになるが、早期に役割を理解し、活動が円滑に進むように努めていく。

講師 成 玉恵 修士（政治学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

今年度は、アクティブラーニングを取り入れた授業や演習を積極的に行う。実習では、引き続き Teams 等オンライン機能を利用し、学生・教員間のコミュニケーションを充実させ学びを深める。研究に関しては、研究成果を学会や論文で発表する。社会貢献活動は、墨田区介護保険運営協議会の地域包括支援センター部会の副部会長を兼任し、職員研究および第 9 期介護保険計画の実施に参画する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・在宅看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・学長裁量共同研究費、市町村保健師による民間活力を活かしたヘルスケア対策の実践活動モデルの開発、研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）
 - ・墨田区、介護保険事業運営協議会委員、2025 年 4 月～2028 年 3 月.
- 5 学会、学術団体への貢献
 - 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本在宅ケア学会、日本地域看護学会、日本行政学会、日本公衆衛生看護学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会.
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）
 - ・所沢市介護保険サービス事業者連絡会研修、所沢市介護保険サービス事業者連絡会、働き続けたい職場づくり、所沢市介護保険サービス事業者、令和 6 年 5 月 23 日、所沢市保健センター.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・自己点検：評価委員会、教育研究年報作成部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科学生進路・支援委員会、2年生担任、看護学科総務・企画委員会、看護研究作業部会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、本学の Wi-Fi 環境が改善し、演習や学内実習でアクティブラーニングがスムーズに行われた。特に新しい試みとして、後期の領域実習では、臨地実習前のレディネスとして、訪問看護を想定した実践的なロールプレイを行った。症例を提示し、学生がグループでその症例に訪問看護を実施した場面を作成し、実際にロールプレイすることで学びを深めた。それにより、臨地で同じような場面に出会ったことから更に学びが深まり、学生の満足度も高まったと考える。引き続き、講義・演習・実習に Teams 等オンライン機能を利用しスムーズな運営ができています。研究に関しては、科学研究費の研究成果をまとめているところであるが、学会発表や論文発表には至らなかった。各種委員会活動は円滑に実施できた。特に、3年生を対象とした進路支援ガイダンスでは、昨年度までの内容を整理し効率化を図った。社会貢献活動では、墨田区の介護保険運営協議会委員の任期が継続となり、今年度から更に3年間の任期となった。今年度は、墨田区の第9期介護保険計画の策定に参画した。

VII 次年度の目標

次年度も、継続して授業・演習・実習に、積極的にアクティブラーニングを取り入れる。実習では、引き続き Teams 等オンライン機能を利用し、学生・教員間のコミュニケーションを充実させ学びを深める。研究に関しては、これまでの研究成果を学会や論文で発表する。大学運営では、各種委員会業務を遂行し業務の効率化を図る。社会貢献活動は、墨田区介護保険運営協議会の委員を引き続き受託し、墨田区の地域包括支援センター部会の副部会長を兼任する。また、地域包括支援センター職員を対象に、アドバンス的な事業評価研修を行い、地域包括ケアシステムに寄与する。

講師 川村 紀子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 5 年度の教育活動は、学生の DP 達成に向けて、講義・演習・実習における学習目標を達成するよう学習効果を見直し実施する。また、学生個々のレディネスに応じた指導、学生が学習に対して関心を高められるように工夫する。研究活動は、計画的に活動時間を確保し、収集したデータの分析から研究成果をまとめ、新たな研究テーマに取り組む。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう、教職員方と協力し役割を遂行する。社会貢献活動は、幅広い視野を持ち積極的に社会貢献活動に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所．）

- ・石井邦子，廣間武彦，小川亮，川村紀子他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2025年，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子，山崎麻子：熟練看護職による産後抑うつ状態のアセスメントの構造，千葉県立保健医療大学紀要，16巻，1号，21-28，2025.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2024～2027 年度 科学研究費補助金基盤研究（C），オキシトシンと分娩経過の関連性の研究—より正確な分娩経過の予測に向けて—，研究代表者.
- ・2021～2024 年度 科学研究費補助金基盤研究（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者.
- ・2024 年度 学内共同研究，子育て世代包括支援において他職種が助産師に期待する役割機能，共同研究者.

- ・2024 年度 学長裁量研究, 多職種協働によるプレコンセプションケアの現状と課題—プログラム開発に向けた文献研究, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉県母性衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会, 選挙管理運営部会委員, 2022 年 10 月 1 日～現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所.)

- ・新人助産師研修, 千葉県看護協会, ～家族への支援・看護実践のリフレクション～, 新人助産師, 2024 年 8 月 21 日, Web.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学内共同研究審査部会.

2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会.

3 対外広報活動 < 新聞・ホームページでの活動・TV 出演, ラジオ出演等 >

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学 (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義内容及び指導内容を見直し, 改善点を修正し学習効果を図ることができた. 新生児看護の講義, 演習, 実習における学生の反応や評価より学習目標を達成することができた. 母性看護学実習及び助産学実習において, 施設との調整を図り安全に実習を行うことができた. 学生個々のレディネスに応じて指導を行い, 学生の主体性を引き出すよう工夫した. また受持ち対象者の状況に則して指導を行った. 研究活動では, 活動時間を確保し, 助産ケアにおける分娩期ヒヤリ・ハット事例, 子育て世代包括支援における助産師の役割の分析及び成果をまとめ様々な研究に取り組んだ. 大学の管理運営について, 教職員と協力しながら適切に判断し, 運営を円滑にすることができた. 社会貢献活動では, 新人助産師研修講師, また学会の選挙管理運営部会委員として, 関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた.

VII 次年度の目標

教育活動は, 学生の DP 達成に向けて, 講義・演習・実習における一貫性を保ち学習目標を達成するよう学習効果を評価し実施する. また, 学生個々のレディネスに応じた指導, 学生が学習に対して主体的に取り組めるよう工夫する. 研究活動は, 計画的に活動時間を確保し, 収集したデータの分析から研究成果をまとめ, 次の段階の研究テーマに取り組む. 大学の管理運営について, 円滑な委員会運営となるよう, 教職員と協力し役割を遂行する. 社会貢献活動では, 幅広い視野を持ち積極的に社会貢献活動に参加する.

講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

学生自身の自主的な学ぶ意欲を念頭に、アクティブラーニングの中でも問いかけを意識しながら授業展開を行う。また、他者との良好なコミュニケーションを築けるように、特に実習やゼミ活動を通して支援していく。また、研究活動においては、実施した研究を論文にまとめて投稿を行うこと、更に外部資金獲得に向けて準備する。学内組織としての委員会活動においては、改善案の提案を常に考えながら、積極的に役割を果たしていく。社会貢献については、専門職としての研修だけでなく、ボランティア活動に参加し地域に貢献していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・看護管理論.
- ・看護管理実習.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・西村宣子，富樫恵美子，河野秀一，木村麻紀，菅原聡美：行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修プログラムの効果－看護師長の「気づき」に焦点をあてて－，第28回日本看護管理学会学術集会，2024年8月23～24日，名古屋国際会議場.
- ・富樫恵美子，新井由美：看護師長が考えるオーセンティック・リーダーシップ行動，第44回日本看護科学学会学術集会，2024年12月7～8日，熊本城ホール.
- ・西村宣子，富樫恵美子：看護大学4年生が訪問看護実習で捉えた「疾患を抱えて地域で生活するイメージ」，第44回日本看護科学学会学術集会，2024年12月7～8日，熊本城ホール.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 日本医療マネジメント学会. 医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会. 人類働態学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会/カリキュラム実施部会 看護学科履修ガイダンス主担当/ポートフォリオ主担当.
- ・総務・企画委員会/看護学科運営会議主担当.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、自主的な学びが展開できるように授業内容の中で時事問題や臨床現場で起こっていること、海外での医療事情などを紹介し、自ら情報にアクセスしたり自分の意見を持たせるように発問を心がけた。学生からのレスポンスシートには「気になって調べてみた。」や、反対の立場からの意見が書かれるなどの反応を引き出すことができた。また、質問については直接の対話や授業内での解説を行うなど、丁寧なコミュニケーションを心がけた。研究活動においては、前年度の研究を発表することができたが、それ以前に行った研究を論文にし発表することが叶わず、次年度への課題となった。大学の組織内での委員会活動などは、第4次カリキュラム作成部会メンバーとして参加し、認証評価後の課題解決に立ち上げられた教務WGにおいて、ポートフォリオ主担当として積極的に関わり役割を果たした。また、看護学科運営会議におけるペーパーレス化を軌道に乗せる役割を果たした。次年度は会議の開催方法についての課題が残された。

VII 次年度の目標

学生自らが DP の達成に向けて主体的な学びに取り組めるよう、引き続きアクティブラーニングを意識して授業を展開する。また、他者とのコミュニケーション・スキルが向上し、看護基礎教育の中で自分の意見をアサーティブに発言でき、困難があっても前向きな気持ちで取り組めるような支援を行う。研究活動においては、他大学の教員と計画している研究を実施することと、前年度叶わなかった以前の研究を論文にして発表する。学内組織としての委員会活動においては、更に改善点や効率化を考えながら積極的に役割を果たしていく。社会貢献については、学会の実行委員として学びながら成功するよう実務を行っていく。

講師 加藤 隆子 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は学生が主体的に学修し、かつ思考力が高まるように講義演習科目の内容を改良していきたい。実習では、学生のレディネスに合わせながら、学生が対象者に関心を持ち、看護実践能力を高めるよう指導していく。研究活動では、昨年度進めた教育・支援プログラムの評価を行い、今後の研究につなげていきたい。大学の管理運営では、教務委員会や入試広報委員会の活動の業務を円滑に行い役割を着実に果たす。社会貢献では、各術団体や職能団体に参加し看護の質の向上のため、大学教員の役割を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・精神看護学概論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・精神看護学方法論Ⅱ.
- ・精神看護学実習.
- ・看護研究.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：トラウマにより生きにくさを抱えた人の体験と回復に影響を与える要因—幼少期から逆境体験があった人の語りに焦点をあてて—，日本看護科学学会誌，40 巻，p839—902，2024 年.
- ・小林 雅美，小宮 浩美，加藤 隆子：公立小・中学校で働く教員の精神疾患に関する認識，千葉県立保健医療大学紀要，15 巻 1 号，p61，2024 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺純一，渡辺尚子：トラウマケアを向上する ICT を用いた教育・支援プログラムの開発と実施 - 教育・支援プログラムの動画視聴前後の参加者の変化-，第 34 回日本精神保健看護学会，2024 年 6 月 1 日～2 日，成田.
- ・小林雅美，小宮浩美，加藤隆子：公立小・中学校で働く教員の精神疾患をもつ児童・生徒への関わりに関する認識，第 34 回日本精神保健看護学会，2024 年 6 月 1 日～2 日，成田.
- ・山本真衣，加藤隆子，小宮浩美，小林雅美：統合失調症を持つ人のセルフスティグマに関連した自己認識の変容，第 34 回日本精神保健看護学会，2024 年 6 月 1 日～2 日，成田.
- ・藤本真理，加藤隆子，小宮浩美，小林雅美：統合失調症の子どもをもつ母親のベネフィット・ファインディング～退院を受け入れた家族の体験に焦点をあてて～第 34 回日本精神保健看護学会，2024 年 6 月 1 日～2 日，成田.
- ・唐木田桃子，小宮浩美，小林雅美，加藤隆子：スクイグル法が看護学生に与える心理的影響とストレスケアへの応用についての検討，第 34 回日本精神保健看護学会，2024 年 6 月 1 日～2 日，成田.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・R6 学長裁量，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・日本看護学会誌、論文査読委員、2022年4月～現在に至る。
- ・日本精神科看護学術集会誌、論文査読委員、2023年2月～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本保健医療行動科学学会、日本ヒューマン・ケア心理学会。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・一般社団法人日本精神科看護協会、精神科認定看護師養成研修会、チーム医療、チームアプローチ論、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2024年7月29日、品川。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・体験ゼミ作業部会、キャンパスハラスメント相談員。

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会、看護学科入試検討委員会、総合実習作業部会。

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動においては、学生自身が主体的に考える力を伸ばせるように学生間で意見交換できる機会を増やし講義の構成を工夫したことで、他者の意見を取り入れ視野が広がることにつながっていた。実習では学生のレディネスに応じて臨床指導者と協働し実習指導を行うことで、学生は看護師としての姿勢を身につけるための行動につながった。研究活動では、科研費の研究成果について学会発表を行うことはできたが、論文投稿に至っていないため次年度の課題としたい。大学の管理運営では、所属委員会での役割を果たし、積極的に業務を遂行することができた。社会貢献では、職能団体の認定看護師養成に関わる講師や論文の査読を行うことで、精神看護の質の向上に貢献することができた。

VII 次年度の目標

R7年度は講義演習内容の見直し、教育目標が達成できるよう検討していく。実習では、臨床指導者と協働し学生の個別性を考慮した指導を行い、学生が心身ともに安定しながら実習目標を達成できるよう指導する。研究活動では、科研費で行ってきた研究の論文投稿と、学会発表は2本を目指す。科研費申請の準備を進め採択を目指す。また、学長裁量研究費に申請し、新規研究に着手する。大学の管理運営では、看護学科および全学教務委員会にて業務の効率化を図りながらも学生の教育環境が整うよう他教職員と協働しながら役割を果たす。社会貢献では、千葉県内の病院施設看護職者の看護実践や教育環境の質の向上につながる企画を検討し実施する。

講師 大内 美穂子 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、講義内容を検討し、学生が興味を持ち主体的に学べる工夫を新たに取り入れていく。研究活動では、アプリ開発やワークショップの開催を通じて各プログラムの洗練を図る。今年度同様に看護学科学生・進路支援委員会の国試担当および 4 年生担任リーダーとして国家試験に向けた学生支援に必要な改善を加え支援を継続していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・救命救急の理論と実際.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p67 - 75，2025 年.
- ・田口智恵美，内海恵美，三枝香代子，大内美穂子，大塚知子，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p95 - 104，2025 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大内美穂子，大塚知子，浅井美千代：医療系大学生とともに創出する“大切な人ががんと診断された大学生”について考えるワークショップデザイン，第 39 回日本がん看護学会学術集会，2025 年 2 月 23 日，札幌.
- ・佐藤まゆみ，高山京子，阿部恭子，西脇可織，片岡 純，森本悦子，大内美穂子，佐藤禮子：外来通院がん患者が主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの有用性，第 39 回日本がん看護学会学術集会，2025 年 2 月 23 日，札幌.
- ・田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代，細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発①：患者・家族への支援能力に関する効果，第 44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 8 日，熊本.
- ・細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子，田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発②：連携調整・マネジメント力に関する評価，第 44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 8 日，熊本.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、セルフモニタリングアプリを活用してがん患者の術前準備を支援する看護支援方法の開発、研究責任者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練、研究分担者。
- ・学内共同研究費（学長裁量）、医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価、研究責任者。
- ・学内共同研究費（学長裁量）、医療チームの一員として急変時対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発 - （第1段階）患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割、研究分担者。
- ・学内共同研究費（学長裁量）、地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証、研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本看護学教育学会、日本遠隔医療学会、千葉看護学会、日本老年看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・初期医療言語サービスボランティア研修、神田外語大学／千葉県立保健医療大学、「体勢への配慮」「一時救命処置（一般市民用）実習」、令和7年3月8日、9時30分～16時、千葉県立保健医療大学。
- ・地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム、千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会、「患者・家族への支援能力を高める」および「地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める」、千葉県内の地域包括ケア病棟に勤務する看護師19名、令和6年8月～9月、千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究指導、看護師、千葉県循環器病センター、全3回（6月、9月、11月）。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会専門職間の連携活動論作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・模擬授業、千葉敬愛高等学校、令和6年5月13日。
千葉県立袖ヶ浦高等学校、令和6年11月7日。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度の教育活動は、概ね目標通り実施することができた。4年生の担任として、学生の心身のサポートを行い、学習を継続するための支援ができた。講義や演習では学生が主体的に学べるように関心を高めるとともにアクティブラーニングを取り入れることができた。研究活動は、プログラム考案に時間を要し進捗が遅れている状況がある。その一方で共同研究者として研究に加わることで、研究力を高めることもできたと評価する。令和6年度は、学生とともに進める研究を開始した。次年度はこれらの研究を成果発表していく。大学運営に関しては、4年生の担任や学生進路支援委員会において国家試験対策担当し、e-Learning導入など新しい試みを実践できた。今後も、教育活動、研究活動、大学運営、社会交換活動において、自らの役割を発揮していく。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、教育活動では、最新の情報を収集するとともに、実習施設の看護師の知識や技術を直接得ながら、現場に即した内容を講義や演習に反映させられるようにする。研究活動では、考案したプログラムの実施と評価を行い、成果を発表する。大学運営、社会貢献活動では、新たな役割を理解し職務を果たせるように情報収集に努め、与えられた役割が滞りなく遂行できるよう、上席教員および同僚の協力を得て実施していく。

講師 佐伯 恭子 博士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、引き続き学生が主体的に興味関心を持って学ぶことへの支援に力を注ぐ。研究活動では、研究分担者としての役割を果たしながら、自身の研究テーマに関する成果発表を念頭に、教育活動および大学管理運営業務とのバランスをとりながら取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・ターミナルケア論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・医療倫理学（信州大学大学院）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発，千葉県立保健医療大学紀要，16巻，1号，p67-76，2025年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・東辻朝彦，齋木匠，佐伯恭子，新井幸代，木内千晶：遺伝的アルゴリズムを用いた看護学実習学生配置の最適化，第12回看護理工学会学術集会，2024年11月2-3日，石川県.
- ・東辻朝彦，佐伯恭子，木内千晶：看護学実習における配置決定アルゴリズムの有用性，第44回日本看護科学学会科学学会学術集会，2024年12月7-8日，熊本県.
- ・田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代，細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子：地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発：患者・家族への支援能力に関する効果，第44回日本看護科学学会学術集会，2024年12月7-8日，熊本県.
- ・細谷紀子，大内美穂子，佐伯恭子，西村宣子，河部房子，田口智恵美，木内千晶，市原真穂，大塚知子，春日広美，山本千代，地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発：連携調整・マネジメント力に関する評価，第44回日本看護科学学会学術集会，2024年12月7-8日，熊本県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（若手研究），認知症の人を対象とした非医学系研究における倫理的配慮のためのガイドの有効性検討，研究代表者.

- ・2024 年度学内共同研究費，数理最適化を用いた看護学実習における施設配置決定アルゴリズムの有用性，研究分担者．
- ・2024 年度学長裁量研究費，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証，研究分担者．
- ・2024 年度学長裁量研究費，千葉県における在宅遠隔モニタリングシステム構築のための基礎的研究，研究分担者．

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会，日本医学哲学・倫理学会，日本看護科学学会，日本看護倫理学会，日本老年看護学会，千葉看護学会．

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本医学哲学・倫理学会，広報委員，2021 年 5 月～ 広報委員会副委員長 2023 年 11 月～
- ・日本看護倫理学会 代議員・広報委員 2023 年 6 月～．

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・一般社団法人日本精神看護協会，精神科認定看護師養成研修会，チーム医療 チームアプローチ論 2. 精神科認定看護師資格取得を目指す者，2024 年 7 月 2 日，7 月 29 日（東京/オンライン）．

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学看護学科主催，地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラム研修，運営&ファシリテーター，ステップ 1（患者・家族への支援能力を高める）：2024 年 8 月 31 日，ステップ 2（地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める）：2024 年 9 月 14 日．

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・分野別認証評価部会．

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会，第 4 次カリキュラム作業部会，アセスメントポリシー作業部会，看護研究作業部会，看護学科教務関連作業部会，看護学科社会貢献委員会，看護学科 1 年生担任．

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動は領域内教員との協力体制を基に，学生への教育の質向上を意識して取り組むことができた．他の活動との調整ができず自身の研究テーマに関する研究活動は十分でなかったが，複数の共同研究での取り組みを通して研究方法や分析，研究の進め方など多くを学ぶことができた．管理運営活動では，学科の教務関連部会の活動を通して貢献することができた．

VII 次年度の目標

教育活動では，今年度の経験や学生からの反応を元に学生が興味関心をもって学ぶことができるような講義，演習を意識して取り組む．研究活動では，引き続き研究分担者としての役割を果たすと共に，他の業務との優先順位も考えながら自身の研究テーマに関する成果を発信できるよう計画的に取り組む．

講師 杉本 健太郎 博士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、実際に保健医療現場で行われている活動を踏まえ、教授する内容を柔軟に対応させていきたい。特に、臨地実習については、学生が直接住民や保健医療従事者と接し、県民の健康課題を見出せるよう支援する。研究については、共同研究者と協力しながら、現在の保健医療現場のニーズに沿ったテーマに取り組んでいく。社会貢献に関しては、自治体、職能団体、学術団体の活動に、大学教員としての経験や知識をいかしながら参加していく。大学の運営については、他の委員と連携しつつ、各所属委員会の目標達成に貢献したい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習（地域看護学）.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・高田 聖果，湯本 淑江，杉本 健太郎，奈良 佳子，緒方 泰子：認知症を有する施設入居者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実施内容の検討：スコーピングレビュー，東邦看護学会誌（印刷中）.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・佐藤 紀子，雨宮 有子，細谷 紀子，杉本 健太郎，松浦 めぐみ：住民主体の通いの場に携わる住民協力者の活動に伴う認識と思い，日本地域看護学会第27回学術集会，2024年6月29日～30日，仙台市.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2024，医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，研究代表者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2024，発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2019-2024，エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発，研究分担者.
- ・学長裁量研究費 2024，コロナ禍を経た新任保健師の対人支援および地域支援における課題，研究代表者.

6 受賞・特許

- ・日本地域看護学会 奨励論文賞.
- ・第29回日本在宅ケア学会学術集会 優秀演題賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ 柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本運動器看護学会、日本看護管理学会、日本健康医学会、日本高齢者ケアリング学研究会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 日本在宅看護学会、編集委員、2018年9月～現在に至る。
- ・ 日本看護科学学会、査読委員、2019年10月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・ 千葉県業務研究発表会、千葉県、県内保健師、2025年3月4日、千葉県教育会館。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 広報委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 看護学科学生進路支援委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

近年の社会保障制度の変更点を講義に反映させ、直近の制度内容及びその中での保健活動を学生が学べるよう支援した。また、臨地実習においては、全学生が直接住民や保健医療従事者とのかかわる機会を調整・確保することができた。研究については、2つのテーマについてそれぞれ調査を立案・実施するとともに、論文（共著）1本が採択された。社会貢献・大学運営に関しても年間通して尽力し、年度目標達成できた。

VII 次年度の目標

教育については、学生が実際の保健活動をイメージできるように教授する内容を工夫するとともに、臨地実習など、現場で活動する保健医療従事者や県民と直接かかわることのできる機会をととして、県民のニーズおよびそれに対して求められる保健活動を学生自身が考えることができるよう支援する。研究については、調査により得られた成果を学術誌等で公表するとともに、新たな研究課題について検討する。社会貢献に関しては、教育・研究等で培った知識をいかにしながら、自治体や学術団体の活動に参加していく。大学の運営については、他の教職員と連携しながら所属委員会の目標達成に貢献する。

講師 栗田 和紀 博士（理学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育については、「深い学び」に誘えるような科目内容・授業展開を目指す。研究では、これまでの研究成果をまとめつつ、新規研究課題に着手する。管理運営については、所属委員会の活動に積極的に参加する。社会貢献においては、専門外の分野でもできるだけ役割を果たせるように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）。
 - ・環境変化と生態。
 - ・観察生物学入門。
 - ・生物学。
 - ・体験ゼミナール。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・栗田和紀：東アジアの島々で多様化するトカゲ属，Caudata，7 巻，p23-27，2025 年。
- ・栗田和紀：飼育下におけるヒガシニホントカゲの産卵と孵化，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p35-38，2025 年。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，トカゲ属の種分類解明へ：オキナワトカゲとオオシマトカゲは別種か同種か，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム，2024 年 11 月 2 日，いすみ市役所。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本爬虫両棲類学会，日本動物分類学会，日本動物学会，沖縄両生爬虫類研究会，The Society for the Study of Amphibians and Reptiles。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本動物分類学会，生物多様性保全委員，2022 年 7 月～現在に至る。
 - ・日本爬虫両棲類学会，英文誌 Current Herpetology 編集委員，2024 年 1 月～現在に至る。
 - ・沖縄両生爬虫類研究会，和文誌査読 1 件，2024 年 12 月。
 - ・日本動物学会，英文誌査読 1 件，2025 年 2 月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 共通教育運営会議 入試実施委員会 特色科目運営会（体験ゼミナール作業部会） 研究倫理審査委員会（動物部会）
学内研究関連の規則並びに共同実験等の整備のためのプロジェクトチーム 学内意向調査委員会（立会人）

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 入試・広報委員会 学生・進路支援委員会（1年生担任）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、「深い学び」になるように、発問を意識した授業展開を行うことで履修者の思考を促すことができた。また Teams を有効活用し、履修者の興味・関心が授業時間外につながるような工夫をした。研究では、研究成果の一部を紀要や商業誌に公表することができた。今後は新たに着手した研究テーマをより発展させていく必要がある。管理運営については、全学および学科内双方の所属委員会の活動に積極的に参加し、役割を理解した上で業務にあたることができた。社会貢献においては、「ほい大健康プログラム」への参加や所属学会の委員としての活動において学外に向けた取り組みを果たすことができた。

VII 次年度の目標

教育については、「深い学び」に誘えるように、中等教育との関連性を考慮した科目内容や授業展開の見直しを行う。研究では、2024 年度に着手した研究課題を発展させる。管理運営については、所属委員会の活動に積極的に参加する。社会貢献においては、専門分野内外にて可能な範囲で役割を果たす。

講師 大塚 知子 博士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和6年度は、本学の特徴を踏まえた教育活動ができるよう自己研鑽する。研究活動については、自らの研究課題の成果の公表を目指すとともに、研究分担者として研究活動に積極的に参加し、チームメンバーの一員として貢献できるよう役割を果たす。大学運営については、看護学科教務委員会のカリキュラム実施部会長としての役割を果たすとともに、アセスメントポリシー作業部会員として、学科内の意見集約等の役割を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・救命救急の理論と実際.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・慢性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細谷紀子，河部房子，田口智恵美，佐伯恭子，木内千晶，市原真穂，大塚知子，大内美穂子，春日広美，西村宣子，山本千代：地域包括ケア病棟における看護実践能力向上プログラムの開発，千葉県立保健医療大学紀要，16巻，1号，67 - 75，2025年.
- ・田口智恵美，内海恵美，三枝香代子，大内美穂子，大塚知子，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感，千葉県立保健医療大学紀要，16巻，1号，95 - 104，2025.
- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otsuka, Kentaro Watanabe: Impact of ChatGPT on case creation efficiency and learning quality in case-based learning for undergraduate nursing students, Teaching and Learning in Nursing, Vol 20, 1, 159-166, 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大内美穂子，大塚知子，浅井美千代：医療系大学生とともに創出する“大切な人ががんと診断された大学生”について考えるワークショップデザイン，第39回日本がん看護学会学術集会，2025年2月23日，札幌.
- ・青木結衣，内海恵美，大塚知子：スピリチュアルペインを強く抱えるがん患者に対するがん看護専門看護師の支援，第39回日本がん看護学会学術集会，2025年2月22日，札幌.
- ・長谷川栞里，内海恵美，大塚知子：術後ホルモン療法を行う閉経前乳がん患者に対する乳がん看護認定看護師の意思決定支援，第39回日本がん看護学会学術集会，2025年2月22日，札幌.
- ・Tomoko Otsuka, Tomoko Majima: Development a Nursing Support Model for Stigma Coping in Women Diagnosed with Cervical Precancerous Lesions: Initial Model Creation (Phase 1), 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025/2/13-14, Korea.
- ・Tomoko Otsuka, Tomoko Majima: Development of a Nursing Support Model for Stigma Coping in Women Diagnosed

with Cervical Precancerous Lesions: Content validity evaluation (Phase 2) , 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025/2/13-14, Korea.

- ・田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代, 細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子: 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発①: 患者・家族への支援能力に関する効果, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月8日, 熊本.
- ・細谷紀子, 大内美穂子, 佐伯恭子, 西村宣子, 河部房子, 田口智恵美, 木内千晶, 市原真穂, 大塚知子, 春日広美, 山本千代: 地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラムの開発②: 連携調整・マネジメント力に関する評価, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月8日, 熊本.
- ・渡辺健太郎, 東辻朝彦, 大塚知子: 看護教員が事例作成にChatGPTを使用した際のプロンプトと受けた印象, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月8日, 熊本.
- ・大塚知子, 眞嶋朋子: 子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマ体験をアセスメントするための質問紙の開発, 第29回日本緩和医療学会学術大会, 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024年6月15日, 神戸.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 子宮頸部前がん病変と診断された女性とパートナーのスティグマを予防・低減する看護モデルの開発, 研究代表者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 看護教員のための教育・研究活動における ChatGPT 活用ハンドブックの開発, 研究代表者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 看護学生の健康管理行動に対する電子健康記録の影響, 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 医療系大学生を対象とした「がん患者の家族となった大学生の支援を考えるワークショップ」の質的評価, 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 医療チームの一員として急変時対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発 - (第1段階) 患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割, 研究分担者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), 地域包括ケアを担う看護職に対する実践能力向上プログラムの効果検証, 研究分担者.

6 受賞・特許

- ・2024年度千葉看護学会優秀論文: 子宮頸部前がん病変と診断された女性のスティグマプロセス.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本がん看護学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本緩和医療学会, 千葉看護学会, 文化看護学会, International Society of Nurses in Cancer Care.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所）

- ・「次世代育成力強化のための看護系大学 FD 研修推進拠点」事業, 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター, 看護教育における課題解決のための生成 AI の活用方法 (各論) 5. 教育における活用, 看護系大学の教員ならびに医療機関において継続教育, 看護教育などに携わるもの, 2024年6月～2025年2月, オンデマンド配信.
- ・地域包括ケアに関わる看護実践能力向上プログラム, 千葉県立保健医療大学看護学科社会貢献委員会, 「患者・家族への支援能力を高める」および「地域包括ケアシステムを維持・発展させる連携調整・マネジメント力を高める」, 千葉県内の地域包括ケア病棟に勤務する看護師19名, 令和6年8月～9月, 千葉県立保健医療大学.
- ・看護研究指導, 看護師, 千葉県循環器病センター, 全3回 (6/12, 9/11, 11/22).
- ・看護研究指導, 看護師, 千葉県がんセンター, 全2回 (7/23, 9/19).

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・教務委員会 教務委員会アセスメントポリシー作業部会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科教務委員会 看護学科カリキュラム評価作業部会
- 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演 ラジオ出演等＞
 - ・大学説明会 習志野市立習志野高等学校 令和6年6月11日
 - ・模擬授業 千葉県立小金高等学校 令和6年10月9日

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度教育活動は、概ね目標通り実施することができた。今後も学生の興味関心がもてるよう新たな知見やアクティブラーニングを取り入れ、教育活動に反映していく。研究活動に関しては、昨年度からの継続研究だけでなく、自らの専門性を踏まえた研究の開始することができた。今後は、研究成果の還元を目指し、成果の公表を行っていく。大学運営に関しては、看護学科カリキュラム実施部会長としての役割を果たすだけでなく、全学教務委員会のアセスメントポリシー作業部会員の役割を担った。学科内の意見集約を行い、アセスメントポリシーを作成する役割の一助を担うことができた。また、社会貢献活動として、次世代育成力強化のための看護系大学FD研修において、一部の企画運営および講師を担当した。教育活動、研究活動、大学運営、社会交換活動において、自らの役割を発揮していく。

VII 次年度の目標

令和7年度は、産前産後休暇、育児休暇を取得する予定である。そのため、限られた期間ではあるが、教育、研究、大学運営、社会貢献活動において、可能な限り自らの責任を果たし、役割を担っていく。特に、教育活動の実習科目では、実習指導者とこれまで以上に連携し、学生が学びやすい環境調整を図っていく。研究活動では、これまでの研究成果をまとめ、少しでも多くの成果を公表できるよう研究代表者の研究だけでなく、分担者となっている研究についても積極的に役割を果たしていく。大学運営、社会貢献活動では、与えられた役割が滞りなく遂行できるよう、上席教員および同僚の協力を得て実施していく。

講師 渡辺 健太郎 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、効果的・効率的・魅力的な学習環境の整備に向けて、授業担当・補助を行う。特に担当する単位では、学習者の目標達成状況の形成的評価を十分に行い、フィードバックを充実させることにより目標達成を支援する。研究活動では、筆頭者としての研究成果の公表を目指す。管理・運営では、所属する委員会において、教職員と連携しながら着実な役割遂行を目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otsuka, Kentaro Watanabe : Impact of ChatGPT on case creation efficiency and learning quality in case-based learning for undergraduate nursing students, Teaching and Learning in Nursing, 20, 1, e159-e166, 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・河部 房子，今井 宏美，渡辺 健太郎，仁井田 友紀，山本 千代：臨床判断力育成に向けたフィジカルアセスメント教材アプリの活用と評価，日本看護学教育学会（第34回学術集会），2024年8月20日，東京.
- ・渡辺 健太郎，東辻 朝彦，大塚 知子：看護教員が事例作成にChatGPTを使用した際のプロンプトと受けた印象，日本看護科学学会（第44回学術集会），2024年12月8日，熊本.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，Audience Response System が看護系大学生の学習意欲に与える影響，研究代表者.
- ・学長裁量研究，唾液の分泌を促進しうる着香マスクの開発，研究分担者.
- ・学長裁量研究，看護教員のための教育・研究活動におけるChatGPT活用ハンドブックの開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム UR 都市機構 第 1 回, 2024 年 10 月 12 日, さつきが丘団地.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本医療教授システム学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパス・ハラスメント相談員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科総務・企画委員会、看護学科教務委員会、看護学科 1 年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、ICT の活用や十分な演習時間の確保により、効果的・効率的・魅力的な学習環境を整備したことで目標の達成を支援でき、学生から肯定的な評価を受けることができた。研究活動では、研究代表者として研究活動を推進するとともに、共同研究者としての役割も果たし、筆頭者および共著者として研究の公表を行うことができた。管理・運営では、任命された役割を十分に果たすとともに、担任として学生の相談に対応することで学生生活を支援できた。

助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育内容及び方法について見直しを行い、実践的な知識・アセスメント力を強化することを意識したい。特に、実習記録用紙の内容や臨地実習の学内日での演習内容について、医療の現場に即した内容となるよう修正を加えて学習効果を上げることにつなげる。また、臨地実習施設側との情報交換を十分に行い、実習期間内で学生が学習可能な内容について検討する。委員会活動では、2 年目となった全学の自己点検評価委員会の部会員として、主体的に役割を担い、スムーズな作業につなげる。研究活動では、新たに獲得した助成金を基に、計画的に研究作業を進める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・小児看護方法論Ⅰ.
 - ・小児看護方法論Ⅱ.
 - ・小児看護学実習.
 - ・総合実習(小児看護学領域).

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中山静和 自閉スペクトラム症児の睡眠障害への非薬物的介入に関する文献検討，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p130-137，2025 年.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），幼児期兵スペクトラム症児の睡眠改善にむけた革新的養育者包括支援プログラムの開発。研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），保育・教育職を対象とした精神疾患である親と子どもの支援に関する学習支援プログラム」，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・第 4 回 外国語による応急処置体験講習。2025 年 3 月 8 日。千葉市.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会。日本小児保健協会。日本保育保健協議会。全国保育園保健師看護師連絡会。日本臨床睡眠医学会。日本睡眠環境学会.

6 講演会/研究会の講師・研究指導等

- ・看護研究指導，千葉県こども病院 千葉県こども病院看護師 2024 年 6 月～2025 年 2 月，月 4 回.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・自己点検評価委員会／教育研究年報作成部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科運営会議 看護学科学生・進路支援委員会 看護学科入試・広報委員会 看護学科1年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、専門領域の領域別実習に使用する実習要項の修正を行い、臨地実習の場で活用しやすいように工夫した。しかし、実際に臨地実習で使用した際に学生が理解しづらさを感じた内容もあったことから、さらに追加修正必要である。臨地実習施設の指導者との間で、学生のレディネスや学内での既習内容についての情報交換を十分に行うよう努めた。また、流動的な臨地の状況を踏まえながら、学生の受け持ち患児および学習到達レベルについての検討・調整を丁寧に行い、学生の学習到達度の向上につなげた。

委員会活動では、全学の自己点検評価委員会の活動において、前年度の経験を踏まえつつ、主体的に役割を遂行することができた。また、学科内の入試・広報委員として、オープンキャンパスおよび入試業務における役割遂行に努め、安全な運営につなげることができた。研究活動では、新たに研究代表者として学術研究助成基金助成金を獲得した。2024年度は、研究テーマに基づく内容の文献検討をまとめ、本学の紀要での掲載に至ることができた。今後は、研究計画に沿って計画的に研究を進めていく。

VII 次年度の目標

次年度は、特に学内での既習内容と臨地実習での学習内容を結び付け、より深い学びとなるような指導方法を検討し、実践する。委員会活動では、これまでの経験を活かし、業務が未経験の同僚教員へのアドバイス等やメンバー間の連絡・相談・報告を丁寧に行い、スムーズな運営となるよう努める。研究活動では、研究成果を学会発表および論文投稿による公表にむけて準備を進めていく。

助教 増田 恵美 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度の教育活動においては、演習や実習で学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では、新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い、学生が学びやすい環境を整えていく。また、研究活動においては、研究活動は、計画的に活動時間を確保し、現在行っている研究のデータ収集を引き続き行い、データ分析から研究成果をまとめられるように計画通りに進めていくことを目標とする。総務・企画委員会や入試・広報委員会では、委員長の指示に従い、系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し、社会貢献活動を充実させる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・増田 恵美：2026 年版系統別看護師国家試験問題集 第 114 回看護師国家試験 解答と解説，2025，医学書院，東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2024～2025 年度，一般社団法人日本助産学会 奨励研究 (B)，妊婦の腰痛・骨盤痛改善を目的としたオンラインを活用したヨガプログラムの効果：パイロットランダム化比較試験，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本母性看護学会，千葉県母性衛生学会，聖路加看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県母性衛生学会，会計幹事，2020 年 5 月～現在に至る.

7 その他

- ・放送大学、オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）、2024年4月1日～2025年3月31日。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、入試・広報委員会、総務企画委員会、看護学科2年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、学生が目標を達成できるように学習到達度を確認しながら、個別的な指導内容を工夫した。講義と実習中に、学生がアセスメントやケアの立案を行い実践できるように支援に努めることができた。また、母性看護学・助産学実習において、施設との調整を図り実習を行うことができた。研究活動において、積極的に活動し一般社団法人日本助産学会 奨励研究（B）の研究資金を獲得し、円滑に進めて実施することができたことや、実施した研究について論文にまとめたことは評価できる。入試・検討委員会、総務企画委員会では、責任者へ報告しながらメンバーとともに協力しながら業務を遂行することができた。社会貢献活動は、千葉県母性衛生学会の会計幹事として、係りとともに会計業務を行うことができた。また、2年生担任として、担当する学生にはいつでもサポートすることを伝え、学生の支援に努めることができた。

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

本学の教育理念に基づき、慢性疾患患者の看護に関する教育・研究活動を展開する。今年度は以下の点に注力する。教育面では、最新の心不全セルフマネジメント支援の情報を取り入れた原則的かつ実践的な看護方法に関する授業を実施するため、視覚に訴える授業内容とする。研究面では、未発表研究の学術論文文化を進めるとともに、新規に獲得した心不全緩和ケアに関する研究に着手する。研究知見を教育内容へ積極的に還元する。社会貢献では、学会活動を通じて様々な経験を積み、千葉県内の病院看護の質向上に向けて、知見を還元していく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・救命救急の理論と実際.
 - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
 - ・慢性期看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，内海恵美，三枝香代子，大内美穂子，大塚知子，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に千葉県内の病院に就職した新人看護師の困難感，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p95 - 104，2025 年.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 基盤 C「心不全緩和ケアを促進する看護師のコーディネート実践ガイドの開発」研究代表者
- ・学内共同研究費（学長裁量），医療チームの一員として急変時対応にあたる新人看護師のシミュレーション教育プログラム開発 - （第 1 段階）患者急変時に救命処置をする医療チームの一員として新人看護師の担える役割，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本老年看護学会，日本看護学教育学会，千葉看護学会，文化看護学会，看護質的統合法研究会.
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本循環器看護学会，指名理事，2020 年 11 月～2024 年 9 月.
 - ・日本循環器看護学会，代議員，2024 年 9 月～現在に至る.
 - ・日本循環器看護学会，広報委員会副委員長，2022 年 11 月～2024 年 9 月 2024 年 9 月～現在に至る.

- ・日本循環器学会 第 89 回日本循環器学会学術集会, チーム医療セッション「チーム医療:多職種連携 3」一般演題座長, 2025 年 3 月 30 日.

6 講演会／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）

- ・2024 年度看護研究指導, (東京歯科大学市川総合病院, 2024 年 4 月～現在, 東京歯科大学市川総合病院).

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議, ・看護学科教務委員会, 看護学科実習検討部会, 看護学科倫理審査委員会, 看護学科医療生活支援領域会議, 2 年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

2024 年度は, 概ね目標通りに実施することができた. 教育面での成果と改善点として, 慢性疾患患者（特に心不全）のセルフマネジメント支援に関して視覚に訴える授業内容を実施することができた. 学生からは「具体的なイメージが付きやすかった」という評価を得られた. 一方, 患者の主体性を引き出すための支援についての授業方法の改善の余地がある.

実習科目では, 慢性期疾患とともに生活する患者の特性についての学生の理解が深まるよう演習方法の検討・実施ができた. 研究面での成果と改善点として, 今年度最終年度であった科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア: 苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」は調査が終了し, 今後学術集会で結果を公表していく予定である. また, 心不全緩和ケアに関する新たな科研費を獲得できた. しかし, 未発表研究の論文化については進捗が遅れており, 次年度への課題となる. 社会貢献での成果と改善点として, 所属学会の役職を継続しながら新たな役割の遂行を通して, 学術的にも経験的にも成長することができた. それらを生かして看護研究指導も継続している. 今後も内の病院看護の質向上に向けて活動を継続していく必要がある.

VII 次年度の目標

2025 年度は, 今年度に引き続き上席教員のもと, 心不全患者のセルフケア支援教育を発展させ, 患者の主体性を引き出すための支援についての授業方法や実習指導を検討していく. 研究面では, 未発表研究の論文化を優先的に進め, 心不全緩和ケア研究の計画的実施と心不全終末期患者へのエンドオブライフケア: 苦痛緩和への実践内容・評価の明確化に関する学会発表を行う. 社会貢献では, 所属学会での役割を継続しながら, 知見を活かして研究指導活動を推進する.

助教 小林 雅美 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、学生たちの学習目標が達成できるよう準備を行っていききたい。また、臨地実習では実習先との連携を密に行いながら、学生たちの実習目標が達成されるよう支援を行っていききたい。研究活動では、「公立小中学校で働く教員と精神疾患をもつ児童・生徒との関わりに関する認識」に関する研究について学会発表する。「精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症をもつ人の力」は、原著論文として現在査読中であるため、今年度中に受理されるよう査読意見に対応していく、また外部資金に応募し、研究費の獲得を進めていききたい。社会貢献では、引き続き日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして合同ミーティング等に参加し、エリア検討会の企画・運営の準備を進めていききたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・精神看護学概論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・精神看護学方法論Ⅱ.
- ・精神看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・小林 雅美, 小宮 浩美, 加藤 隆子: 公立小・中学校で働く教員の精神疾患に関する認識, 千葉県立保健医療大学紀要, 15 巻 1 号, 61, 2024 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小林 雅美, 小宮 浩美, 加藤 隆子: 公立小・中学校で働く教員の精神疾患をもつ児童・生徒への関わりに関する認識, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 143, 2024 年 6 月 2 日, 成田.
- ・小宮 浩美, 小宮 全, 小林 雅美: 精神科病棟における身体拘束減少のための介入のシステムティックレビューとメタアナリシス, 日本看護科学学会学術集会講演集 44 回, 363-364, 2024 年 12 月 8 日, 熊本.
- ・藤本 真理, 加藤 隆子, 小宮 浩美, 小林 雅美: 統合失調症をもつ人の母親のベネフィット・ファインディング 退院を受け入れた家族の体験に焦点を当てて, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 141, 2024 年 6 月 1 日, 成田.
- ・山本 真衣, 加藤 隆子, 小宮 浩美, 小林 雅美: 統合失調症をもつ人のセルフスティグマに関連した自己認識の変容, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 139, 2024 年 6 月 2 日, 成田.
- ・唐木田 桃子, 小宮 浩美, 小林 雅美, 加藤 隆子: スクイグル法が看護学生に与える心理的影響とストレスケアへの応用についての検討, 日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回, 111, 2024 年 6 月 1 日, 成田.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発、研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
- ・新はい大プログラム（2024 年 10 月 12 日、さつきが丘団地）。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・一般社団法人 日本精神科看護協会、論文査読委員、2024. 11. ～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、千葉看護学会、ナイチンゲール研究学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
- ・日本看護科学学会、若手の会エリアコーディネーター、2021. 12～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・新人精神科看護師の会、一般社団法人日本精神科看護協会千葉県支部、集まれ！新人精神科看護師 第 1 回目、千葉県内精神科病院で働く看護師、8 月 3 日 13 時 30 分～16 時、千葉県立保健医療大学。
- ・新人精神科看護師の会、一般社団法人日本精神科看護協会千葉県支部、集まれ！新人精神科看護師 第 2 回目、千葉県内精神科病院で働く看護師、11 月 9 日 13 時 30 分～16 時、千葉県立保健医療大学。
- ・令和 6 年度思春期保健研修会アシスタント、印旛健康福祉センター（印旛保健所）主催、「思春期のこころの健康による日常生活習慣～日常生活、学校生活におけるこころの不調の予防～」、管内小学校・中学校・高等学校の養護教諭、教員及び市町思春期保健担当者等、2025 年 2 月 5 日 13 時 30 分～15 時 30 分、印旛保健所。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会（同窓会、2 年担任）、看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、領域教員間で講義・演習の検討を重ねながら、円滑に授業が進むよう準備・進行を行い、学生たちが学習目標を達成できるよう支援を行うことができた。臨地実習では、実習先との連携を密に行いながら、対象理解が深まるよう支援を行い、学生たちの実習目標が達成できるよう支援を行うことができた。研究活動では、「公立小・中学校で働く教員の精神疾患をもつ児童・生徒への関わりに関する認識」として学会発表することができた。「精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症をもつ人の力」は、投稿できた。令和 7 年度科学研究費助成事業 基盤 C は応募したが、不採択であった。社会貢献では、新はい大プログラムへの参加や日本看護科学学会若手エリアコーディネーターとして南関東エリア検討会の開催準備、講演等を行っている。

助教 竹中 奈々 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度の教育活動においては、本学の教育方針に沿った教育活動を行っていく。学生個人の学習状況を把握し、学習目標が達成できるよう授業や演習を行っていく。臨地実習においては、実習施設との連携を密に行い学生の実習目標が達成できるよう支援を行っていく。研究活動において、「新人・若手助産師が受けるペリネイタル・ロスの影響」に関する研究について、学会発表、論文の作成を行う。学生・進路支援委員会では、委員会の一員として、国家試験に向けた学生の支援に尽力する。本学主催の社会貢献活動であるほい大健康プログラムに参加し、地域の高齢者の健康の維持・向上に貢献する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産診断・技術学Ⅱ.
 - ・助産診断・技術学Ⅲ.
 - ・助産診断・技術Ⅳ.
 - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
 - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
 - ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
 - ・体験ゼミナール.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・ウィメンズヘルス看護学特論Ⅳ（順天堂大学医療看護学研究科）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・竹中 奈々：2026 年度版系統別看護師国家試験問題集 第 114 回看護師国家試験 解答と解説，2024，医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・竹中 奈々，大月 恵理子：ペリネイタル・ロスのケアに関わる看護職の受ける心理的影響に関する文献検討，医療看護研究，21 巻，1 号，p87-97，2024 年。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・竹中 奈々：新人・若手助産師の受けるペリネイタル・ロスの心理的影響とその影響因子，第 65 回日本母性衛生学会学術集会，2024 年 10 月 19 日，宮崎。
- ・牧原 由紀子，森野 佐芳梨，坂本 飛鳥，竹中 奈々：産後疲労に対する運動療法の効果検証，第 10 回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会，2024 年 10 月 20 日，神奈川。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金（2022年度 基盤研究（C））、産後女性における産後疲労の客観的評価法の開発、研究分担者。
- ・2024年度 学内共同研究（若手）、新人・若手助産師のペリネイタル・ロスの心理的影響と負担軽減のための教育的手法の開発、研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大プログラム（健康教室 第2回 看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」、2025年2月15日、幕張キャンパス。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本助産学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・聖路加看護学会、第29回聖路加看護学会学術大会実行委員、2024年7月1日～9月28日。

7 その他

- ・放送大学、オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）、2024年4月1日～2025年3月31日。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、学生・進路支援委員会、看護学科3年生担任。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学、(<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、領域間の教員に確認を行いながら授業や演習の準備や支援を行うことができた。採用年度であったため上席教員に領域内の状況を適宜、確認し助教教員と共同し領域内の業務に従事することができた。学生が学習目標を達成することができるように、学習状況に応じた個別指導を行うように支援をした。母性看護学・助産学実習においては、実習施設との連絡・調整を図り安全に実習を行うことができた。学生のレディネスに合わせ、学生がより効果的な学習ができるような支援方法を意識し、指導方法の工夫を図っていく必要がある。研究活動では、新人・若手助産師が受けるペリネイタル・ロスの影響について研究を進めることができた。来年度、論文の執筆とともに発表を行っていきたい。社会貢献として、ほい大プログラムの講師として地域の高齢者の健康意識向上に貢献する活動に従事することができた。

3年生担任として、担当している学生の相談や面談など適宜行うことができた。学生へのサポートをいつでもすることを伝え、学生の支援を行った。

VII 次年度の目標

教育活動では、授業や演習、実習において学生が主体的に学び、学習目標を達成できるように努めていく。実習施設において、信頼関係の構築ができるよう適宜、報告・相談・連絡を行い学生の学ぶ環境がより良いものになるように努める。研究活動においては、計画的に論文の執筆を行い学術論文として公表できるようにすすめていく。また、外部資金に応募し、研究費の獲得ができるようにすすめていく。

助教 臼井 智子 修士（看護学）

対象期間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、特に臨地実習指導と研究の論文化に力を入れて行う。本学の教育方針に沿って教育活動をおこなっていく。慢性期性器疾患とともに生活する患者の特性に関して、学生の理解が深まるような指導方法を検討する。研究活動では、研究をまとめ、学会発表、論文化に向けて努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）。
 - ・臨床看護学概論。
 - ・臨床看護学方法論Ⅲ。
 - ・慢性期看護学実習。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・臼井智子，金城芽里，眞嶋朋子．短期間で看取りを迎えた患者と家族に対する救急医療機関の一般病棟における看護援助．千葉看護学会学会誌，30 巻 1 号，p21-30，2024 年。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Satoko Usui，Rong Zeng，Tomoko Majima.，Nurses' Perceptions of Advance Care Planning for Community-Dwelling Stroke Survivors, the 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference, 2024 March 6-7. HongKong, China.
- ・Satoko Usui，Tomoko Majima. Effect of a Nurse-Led General Advance Care Planning (ACP) Booklet for Stroke Survivors at Home: A Pilot Study, 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025 Feb 13-14. Seoul, Korea.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・千葉市看看連携の会，2024 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 31 日，千葉市立青葉の森病院，オンライン。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・エンド・オブ・ライフケア学会，千葉看護学会，救急看護学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科入試・広報委員会，看護学科社会貢献委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度は10月からの入職であるが、概ね目標通りに実施することができた。臨地演習指導は、学生が知識・技術を活用できるよう事前学習と到達度を確認しながら演習に向かえるよう指導した。臨地演習は事前、実習中、実習後の情報共有を、病院の看護部教育担当、病棟看護師、患者、学生と適宜行い、安全に完遂できた。学内演習、臨地演習ともに学生指導に参加し、担当したすべての学生が学習目標を達成できた。研究活動は、英文投稿のため、投稿準備を進めている。博士論文のための研究は分析継続中であり、来年度4月に休学していた博士後期課程に復学予定である。学外での活動として、看護職の情報交換のための活動に運営メンバーとして参加したり、自治体や他大学と共同研究を行うプロジェクトに参加した。

VII 次年度の目標

令和7年度は、今年度に引き続き上席教員のもと、慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して、学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する。研究活動においては、英語論文の投稿、現在分析中のデータを論文として発表できるよう授業や実習との両立をはかりすすめていく。

助教 松浦 めぐみ 修士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動において、臨地実習でDPを意識して学生の個別指導を行うこと、また現場の実習指導者と連携し、学生の学びの引き上げや学習効果が高まるよう努めることを目標とした。学科教務委員実習検討部会委員として、2024年度に看護学科の学生に対してユニフォーム意向調査を実施する。学生の意見を聞きながら、見直しの必要性の判断を行うことを目標とした。研究活動においては、学長裁量研究の分担者として、成果の公表に向けて積極的に参画することを目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護学入門実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・松浦めぐみ，石丸美奈：医療的ケア児（者）及び家族に対する看護実践の現状と課題：文献検討，日本公衆衛生看護学会第27回学術集会，2025年1月4日-5日，愛知県.
- ・成田悠哉，室井大祐，松浦めぐみ，坂崎純太郎，尾形和宏，健康診査からみた新型コロナウイルス感染症流行による高齢者の健康状態の変化，第63回千葉県公衆衛生学会，2025年3月7日，千葉県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，コロナ禍後において千葉県内新任保健師の抱く業務上の困難感や人材育成へのニーズ，研究分担者.
- ・学長裁量研究，新型コロナウイルス感染症流行前後における健康診査結果からみた健康状態の変化，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム，2024年11月2日，いすみ市役所.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会，日本公衆衛生看護学会，千葉看護学会，文化看護学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・文化看護学会，第17回文化看護学会学術集会，実行委員，2024年10月1日～2025年3月31日.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会 看護学科総務・企画委員会 看護学科 1 年生担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学生の主体性を引き出す関わりを意識しながら、教育活動に励むことができた。また、DP に紐づけながら教育内容を振り返りも行うことができた。また、FD受講を通して、昨今の学生の傾向や対応の工夫を学んだ。それをすぐに実践に生かすことができたと考え、学内資源を効果的に活用し、自己研鑽できた。

看護学科の学生に対してユニフォーム意向調査を計画通り実施できた。学生の意見を取り入れて見直したデザインを適用できるよう、他委員、部会長、委員長とのコンセンサスを得ながら着実に実行できたと考える。

研究活動において、学長裁量研究の分担者として、千葉県公衆衛生学会で共著者として発表できた。

VII 次年度の目標

教育活動においては、今年度に引き続き、主に実習や演習のなかで、学生の学びが深まるように教育方法を検討していく。研究活動では、自身の研究成果を学会で公表または論文化に向けて進めていく。

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

R6年度の教育活動においては、臨床現場で即戦力となる看護師を育成するため、実習内容を見直し、現場の最新の要求に応じた実践的なトレーニングを組み入れる。大学運営については、デジタル化を進め、オンラインでの業務および学習支援を充実させる。研究については、論文1件、投稿2件を目標とする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・高齢者看護学方法論II.
- ・高齢者看護学実習.
- ・総合実習（高齢者）.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Asahiko Higashitsuji, Tomoko Otsuka, Kentaro Watanabe: Impact of ChatGPT on case creation efficiency and learning quality in case-based learning for undergraduate nursing students, Teaching and Learning in Nursing, 20, e159-e166, 2025.
- ・Shintaro Togashi, Rumi Wakabayashi, Ayumu Takehara, Asahiko Higashitsuji, Aoi Ikarashi, Naoko Nakashima, Naoko Tanaka, Naomi Nakano, Tatsuhiro Shibata, Shogo Oishi, Akihiro Sakashita: A Web-Based Education Program About Primary Palliative Care for Heart Failure A Study Protocol of Wait-Listed Randomized Controlled Trial, The Journal of Cardiovascular Nursing, 40(1), 31-38, 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・東辻朝彦，佐伯恭子，木内千晶：看護学実習における配置決定アルゴリズムの有用性，第44回日本看護化学会学会学術種会，2024年12月7-8日，熊本県.
- ・渡辺健太郎，東辻朝彦，大塚知子：看護教員が事例作成にChatGPTを使用した際のプロンプトと受けた印象，第44回日本看護化学会学会学術種会，2024年12月7-8日，熊本県.
- ・東辻朝彦，齋木匠 佐伯恭子 荒井幸代，木内千晶：遺伝的アルゴリズムを用いた看護学実習学生配置の最適化，第12回看護理工学会学術集会，2024年11月2-3日，石川県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学術研究助成基金助成金 令和5(2023)年度科学研究費助成事業 研究活動スタート支援，人工知能による心不全患者の歩行姿勢解析を用いた看護師向け心機能評価ツールの開発，研究代表者.
- ・学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)，心不全 Advance Care Planning 外来の有効性の検討，研究分担者.
- ・学長裁量研究，看護学生の健康管理行動に対する電子健康記録の影響，研究代表者.
- ・学長裁量研究，看護教員のための教育・研究活動における ChatGPT 活用ハンドブックの開発，研究分担者.
- ・学内共同研究，数値最適化を用いた看護学実習における施設配置決定アルゴリズムの有用性，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第2回、看護学科プログラム「いきいき生活をつづけるために」：令和6年11月9日、UR さつきが丘団地）。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・看護理工学会、日本集中治療医学会、日本医療マネジメント学会、日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本循環器看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・多職種を対象とした心不全緩和ケア教育プログラム、日本心不全学会 緩和ケア推進委員会、臨床倫理 講師、看護師、2024年7月30日-9月23日、オンライン。
- ・多職種を対象とした心不全緩和ケア教育プログラム、日本心不全学会 緩和ケア推進委員会、演習ファシリテーター、看護師、2024年9月16日、オンライン。
- ・第21回 日本循環器看護学会学術集会 教育セミナー、日本循環器看護学会、心不全患者へのAdvance Care Planning、看護師、日本赤十字看護大学広尾キャンパス。
- ・組織全体の次世代育成力を強化するFD改革 レベルIII 次世代育成力強化の方向性共有、看護学科教員、2024年8-12月、オンライン。
- ・在宅に役立つ心不全セミナー（基本編）、NP0 法人千葉医師研修支援ネットワーク、ファシリテーター、看護師、2025年3月22日、千葉大学病院。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・情報システム委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

R6年度の教育活動においては、計画通り、臨床現場で即戦力となる看護師の育成を目的とした実習内容の見直しを実施し、現場の最新の要求に応じた実践的なトレーニングを組み入れることができた。また、大学運営のデジタル化についても、情報システム委員会において情報システム構築および学習支援の充実を推進した。研究活動についても、目標として掲げた論文1件の掲載、投稿2件を達成した。

VII 次年度の目標

R7年度は、演習および実習内容の充実と確実な運営の実施による看護師育成の質向上、デジタル化を活用した学習・業務の効率化、論文1件の掲載・投稿2件を目標として研究の推進に取り組む。

助教 小布施 未桂 博士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、採用年度である。教育活動では、本学の教育の概要を把握しながら、講義・演習の支援を行い、授業運営の実施および支援を行う。研究活動では、博士論文の執筆に取り組み、博士課程修了を目指す。大学運営管理では、委員会の活動目的を理解し、学生進路支援委員会のメンバーとしての役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・吉田俊子，小布施未桂：Ⅷ. 多職種連携，施設間連携，施設内連携 「腫瘍循環器診療における看護師の役割」，日本臨牀，82 巻増刊号 2（通巻 1252 号），p458- 464，2024 年.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，「食べる」を支える心臓リハビリテーション，（合同企画 1 日本循環器看護学会・日本心臓リハビリテーション学会ジョイントセッション），2024 年 7 月 13 日（土），神戸.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム（看護学科プログラム「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」，令和 6 年 10 月 12 日，第 1 回 UR さつきが丘団地）.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本心臓リハビリテーション学会，聖路加看護学会，日本循環器看護学会，日本口腔ケア学会.

- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
・第30回聖路加看護学会学術大会，企画委員，2024年11月～現在に至る。

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科2年生担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

成果としては，教育活動，研究活動，大学運営管理に関して年度当初の目標どおりに遂行できたことである。授業者に確認を行いながら講義・演習を支援し，常勤任用の教員と協働して領域内の業務に従事し，博士論文の執筆，審査を経て博士課程を修了した。改善すべき事項は，論文執筆において査読対応までの進捗となり論文発表まで至らなかった点と，研究資金獲得ができなかった点である。

VII 次年度の目標

令和7年度の教育活動においては，2年生の看護技術における授業の3コマを担当し，学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では，実習担当者と信頼関係を築くために報告や相談を行い，学生が学びやすい環境を整えていく。また，研究活動においては，研究資金獲得を目指し研究を推し進め，博士論文および予備研究の論文執筆をすすめて論文発表をすることを目標とする。学生進路・支援委員会や社会貢献委員会では，担当者と協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では，聖路加看護学会企画委員および看護歴史学会実行委員として役割を遂行し，社会貢献活動を充実させる。

助教 仁井田 友紀 修士（看護学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動において、教育目標に沿った授業が行えるよう、講義・演習の支援を行う。研究活動では、来年度に向けた共同研究の計画立案・申請に取り組む。また、博士論文執筆に取り組む。大学運営管理では、昨年度から引き続き、学生進路支援委員会のメンバーとしての役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学原論.
- ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
- ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
- ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
- ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
- ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）.
- ・日常生活調整方法論.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・千葉看護学会. ナイチンゲール研究学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・第 44 回ナイチンゲール研究学会. 実行委員. 2024 年 9 月～10 月.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会. 看護学科 2 年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動、研究活動、大学運営管理に関して年度当初の目標どおりに遂行できた。教育活動では、授業者に確認を行いながら講義・演習を支援し、他の教員と協働して領域内の業務に従事した。研究活動については、博士論文の予備研究として、来年度実施予定の研究計画を立て、共同研究として申請予定である。また、博士論文の研究計画立案にも取り組んでいる。

VII 次年度の目標

令和 7 年度の教育活動においては、2 年生の看護技術における授業を一部担当する予定である。学生が意欲的に学べるような授業展開に努めていく。研究活動においては、引き続き博士論文を進めることが課題である。新たに教務委員会、入試広報委員会の担当となり、新たな業務も増えるため、他教員と協力しながら計画的に実施していく。

助教 青木 綾香 修士（看護学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和6年度は、教育活動では演習の準備を助言の元に行い、実習においては実習施設との連携をとりながら学生が実習目標を達成できるよう支援を行っていく。研究活動では修士論文を学術誌に投稿し、自身の研究に関してさらなる情報収集を行う。大学運営活動では、学生・進路支援委員会の一員として、進路支援事業の自身の業務を責任を持って遂行し、1年生の担任として学生に対しきめ細やかなサポートを行う。社会貢献活動では、県民の健康の向上に寄与できるようほい大健康プログラムに参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）。
 - ・体験ゼミナール。
 - ・高齢者看護学方法論II。
 - ・高齢者看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・鈴木航，青木綾香，宇野智咲，石田陽子：糖尿病モデルラット圧迫創における一酸化窒素の発生動態，形態・機能，23巻，1号，p3-9，2024年。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，千葉県における在宅遠隔モニタリングシステム構築のための基礎的研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム（UR 団地 第1回 看護学科プログラム「いきいき暮らせる身体づくりをみんなで考えましょう」）。2024年10月12日。UR さつきが丘団地。
 - ・ほい大健康プログラム（いすみ市 第1回 看護学科プログラム「よい「眠り」とは」）。2024年11月2日。いすみ市役所。

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・コ・メディカル形態機能学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生・進路支援委員会 1 年生担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、演習においては助言を元に資料作成などの準備を行うことができた。実習においては看護計画や対象者との関わり方について学生と密にやりとりをしながら実習指導を行った。学生が実習目標を達成できるように学生一人一人に合わせた支援を行っていくことが課題である。研究活動では、論文投稿の準備を進めるに留まり投稿ができなかった。計画的に研究活動を進めていくことが課題である。大学運営活動では、適宜指示を仰ぎながら役割を遂行することができた。社会貢献活動では、ほい大健康プログラムへの参加で地域の高齢者の健康維持管理のための働きかけができた。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、教育活動では、実習施設とも密に連携をとりながら学生一人一人に合わせた支援を行っていく。研究活動では、学内共同研究を計画的に進めていく。大学運営活動では、コミュニケーションをよくとり、協力・連携しながら役割を遂行していく。

栄養学科

教授（兼）学科長 平岡 真実 博士（保健学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、学生との対話の機会を増やして、一方通行の講義ではなく自主的な学びに繋がるような授業展開の工夫をする。質の高い講義、実習のために常にブラッシュアップを行い、最新の情報を取り入れた内容で学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究活動は、科研費基盤 C 研究課題の研究代表者として 2 年目の計画を遂行するため、研究時間を増やすよう工夫し、研究成果の発表を必須とする。大学運営では学科長として学科をとりまとめ運営を滞りなく進める。委員会業務に積極的に取り組み、所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・応用栄養学Ⅰ.
- ・応用栄養学Ⅱ.
- ・応用栄養学Ⅲ.
- ・応用栄養学実習.
- ・スポーツ栄養学.
- ・千葉県健康づくり.
- ・栄養統計学.
- ・卒業研究.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・総合演習.
- ・顎口腔機能リハビリテーション論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・病態栄養学（お茶の水女子大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・加藤久典、藤原葉子（編集・執筆）、大石祐一、三浦豊、井上順、花井美保、福島亜紀子、岸本良美、竹中麻子、田原優、澤田留美、豊島由香、清水誠、平岡真実：栄養科学イラストレイテッド 分子栄養学改訂第 2 版、第 13 章 4「個人の体質にあわせた栄養指導」p214～p217 を単著、2024 年、羊土社、東京.
- ・柳沢幸江、松井幾子（編著）、岸昌代、伊藤智子、佐久間理英、酒井治子、池谷真梨子、増野弥生、平岡真実、豊島裕子、加藤理津子、小池亜紀子：改訂 応用栄養学実習書〔第 3 版〕—PDCA サイクルによる栄養ケア—、第 5 章 1「高齢期一般」p107～p125 を単著、2024 年、建帛社、東京.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・平岡真実、坂本香織、庄司久美子、金胎芳子、影山光代、百合本真弓、香川靖雄：葉酸個別化栄養介入による生活習慣病指標改善効果の検討、第 78 回日本栄養・食糧学会大会、2024 年 5 月 25 日、福岡（於 中村学園大学）.
- ・平岡真実、坂本香織、庄司久美子、金胎芳子、影山光代、百合本真弓、香川靖雄：葉酸、ホモシステイン代謝とビタミン D 栄養状態の関連、日本ビタミン学会第 76 回大会、2024 年 6 月 9 日、福井（於 AOSSA）.
- ・平岡真実：中高齢者の赤血球葉酸値と葉酸摂取量、第 478 回ビタミン B 研究委員会研究協議会、2023 年 11 月 10 日、大

津（於 ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター）

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）
 - ・第48回 DOHaD 寺子屋 日本 DOHaD 学会主催無料オンラインセミナー、葉酸摂取の重要性と遺伝子多型に基づく個別化栄養、2024年9月21日、オンライン）
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）、葉酸関連遺伝子多型別栄養介入による健康づくり支援：生活習慣病関連指標改善に有効か、研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）
 - ・独立行政法人国立病院機構千葉医療センター、倫理委員会、委員、令和6年4月1日から令和7年3月31日。
- 5 学会、学術団体への貢献
 - 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本ビタミン学会、日本臨床化学会、日本栄養・食糧学会、日本分子生物学会、日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会。
 - 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本ビタミン学会、代議員、2015年11月～現在に至る。
 - ・日本ビタミン学会、トピックス等委員会委員、2018年6月～現在に至る。
 - ・日本栄養改善学会、評議員、2022年11月～現在に至る。
 - ・日本ビタミン学会、幹事、2023年6月～現在に至る。
 - ・JNSV、編集委員、2024年1月～現在に至る。
 - ・日本ビタミン学会第76回大会、一般演題座長、2024年6月9日。
 - ・日本ビタミン学会第77回大会、実行委員、2024年6月～現在に至る。
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）
 - ・坂戸市葉酸プロジェクト 食と健康のプランニングセミナー 栄養士研修会、坂戸市、葉酸プロジェクトの取組状況について他、地域活動栄養士他 葉酸プロジェクト協力者、2025年3月21日、坂戸市立市民健康センター。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会、人事委員会、IR 部会、特色科目運営会、千葉県の健康づくり作業部会、共通教育運営会議、大学運営会議。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・栄養学科運営会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、教科書には載っていない情報を提示して学生の知的好奇心を刺激するよう努めた。実習報告会や卒業研究報告会、栄養教諭の実践活動報告などの講評をする機会を通じて、管理栄養士養成教育の意義、内容を改めて認識することで教育力向上につながった。研究活動では、学会発表は最低限クリアしているが、原著論文発表が滞っており全力で取り組まねばならない。科研費の課題は計画にしたがって遂行している。社会貢献では学会での委員等が増え、積極的に活動した。

大学管理運営活動は、学科長として学内会議、委員会活動、学科の運営に取組み、役割を果たすよう努めた。

VII 次年度の目標

教育活動では、一方通行の講義ではなく自主的な学びに繋がるようなアクティブラーニングを取り入れた授業展開を行う。質の高い講義、実習のために常にブラッシュアップを行い、最新の情報を取り入れた内容で学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究活動は、科研費基盤C研究課題の研究代表者として3年目の計画を遂行するため、研究時間を増やすよう工夫し、研究成果の論文文化を必須とする。大学運営では学科長として学科をとりまとめ運営を滞りなく進める。退職に伴う人事に関しては学内での調整に努め、前向きに取り組む。委員会業務に積極的に取り組み、所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

教授 菊池 裕 博士（薬学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

最新の科学の動向を担当する授業及び演習・実験・実習に取り入れると共に、学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する。

食品行政に即した研究課題を立案して学外競争的研究費の獲得試み、学内研究環境の更新を図りたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・食品学総論.
- ・理化学概論.
- ・食品衛生学.
- ・食品加工学.
- ・食品微生物学.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・食品化学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・食品加工学実習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・レギュラトリーサイエンス概論（星薬科大学）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Hayashi K., Sano M., Kanayasu-Toyoda T., Morita Y., Yamaguchi T., Ohya K., Kikuchi Y., Izutsu KI., Hara-Kudo Y. Evaluation of the effect of cell freshness on pyrogen detection using a serum-free monocyte-activation test. PLoS One. 2024 Dec 30; 19:e0316203. doi: 10.1371/journal.pone.0316203.
- ・Hayashi K., Ohya K., Kikuchi Y., Izutsu K., Hara-Kudo Y. Uniform Suspension of Heat-Killed Staphylococcus aureus for a Positive Control Used in the Monocyte-Activation Test. Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2024; 47 (7): 1321-1325. doi: 10.1248/bpb.b24-00139.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・田村友峰子，工藤美奈子，菊池裕：簡易培地コンパクトドライを用いた米飯の保存試験-第2報- 第18回日本給食経営管理学会学術総会，日本給食経営管理学会，2024年11月30日，京都市。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・第29回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 ランチョンセミナー，組換えC因子及び組換えカスケード試薬を用いたエンドトキシン試験法の動向，2024年11月9日，西東京市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・令和6年度共同研究、加熱による液相中のエンドトキシン活性の変動の評価、菊池裕、水村光、小倉紀彦。
- ・令和6年度学内共同研究、HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究3、菊池裕、工藤美奈子、生魚薫、一條知昭、石岡憲昭、山崎丘。

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会、2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会、2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会、2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員、2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・一般財団法人医療品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会、2024年4月1日～2025年3月31日。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本薬学会、日本生化学会、日本マイコプラズマ学会、日本防菌防黴学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本薬学会微生物試験専門委員、2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本防菌防黴学会 GMP とバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員、2024年4月1日～2025年3月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・海匝保健所管内給食施設研修会、食中毒予防について－衛生管理が守る食の安全－、令和6年8月23日、旭市いっおかユーートピアセンター 潮騒ホール、千葉県。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試改革検討委員会、FD・SD 委員会、危機管理委員会、認証評価部会、研究関連規則整備プロジェクトチーム

VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍の高校で実験・実習の経験がない新入生がほとんどで、手技の説明に戸惑う場面が多かったが、説明方法を工夫するなどして完遂することができた。

学内共同研究費に加えて、新たな研究班を学外の共同研究者と編成して外部資金による共同研究費を獲得した。

VII 次年度の目標

令和7年度は、これまでの講義及び演習・実験・実習を踏襲すると共に、新たな知見を加えた学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革としては、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学習支援としては、学生の視線から講義、実験及び実習を捉える。

食品行政等に即した研究課題を立案して競争的研究費の獲得を試み、学内研究環境の更新を図りたい。

教授 加瀬 政彦 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、本学に赴任 4 年目になるので、特に本学における様々な業務をより広く深い領域で実行することを目標にした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・解剖生理学Ⅰ.
- ・解剖生理学Ⅱ.
- ・解剖学.
- ・疾病論.
- ・生理学実験.
- ・解剖学実験.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・栄養統計学.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.
- ・人体の構造と機能Ⅰ.
- ・人体の構造Ⅱ.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・解剖生理学Ⅱ（和洋女子大学）.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究、大学における研究・教育・事務業務での生成 AI 利用法に関する調査研究、研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県管理栄養士採用試験試験問題作成委員.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本解剖学会、日本神経科学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会、研究倫理審査委員会動物部会、共通教育運営会議、FD/SD 委員会、教員再任審査委員会、学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、紀要編集部会、教員資格審査委員会、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

赴任 4 年目である令和 6 年度に本学の様々な業務、特に教育と大学運営業務により円滑に実行することを目標にしたが、これらはある程度達成できた。教育では授業を円滑に行うことができた。委員会活動では研究倫理審査委員会では委員長としての任を全うできた。今後も一層努力していきたい。研究面については卒業研究の指導に加えて、研究代表者として新たな学内共同研究を始めることができたので、次年度は更に研究面での進展を計りたい。

VII 次年度の目標

令和 7 年度はさらに高いレベルで本学の各業務の遂行ができるようにする。

教授（兼）学生部長 細山田 康恵 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

学生教育において、学生の理解度を考慮しながら講義を進めるように心がける。実験では、講義で修得した内容を実際に確認し、課題解決能力を身につけ、自己主導型学習を促すように指導する。研究においては、学内・学外の方と協力して進められるように時間の確保に努め、研究成果を論文として報告できるようにする。大学運営では業務に積極的に取り組み、より良い大学になるように務める。学生委員会と進路支援委員会では委員長として、委員の先生方と協力し、学生生活が快適に送れるよう、充実した支援を心がける。また、学生部長として、学生会・同窓会・後援会活動がスムーズにできるよう、密にコミュニケーションをとりながら進めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖生理学 I.
- ・解剖学実験.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：カテキン摂取による肥満 2 型糖尿病モデルラットの酸化ストレスと腎臓組織への影響，日本補完代替医療学会誌，21-1，1-5，2024.
- ・金澤匠，細山田康恵：卵巣摘出ラットにおける肝オートファジー活性と血中オートファジー調節因子濃度との関連性，千葉県立保健医療大学紀要，16-1，3-11，2025.
- ・細山田康恵，金澤匠，山田正子：カテキン摂取による 2 型糖尿病ラットの血中アディポネクチンと腎組織への影響，千葉県立保健医療大学紀要，16-1，151，2025.
- ・鈴木亜夕帆，細山田康恵，渡邊智子：前茶の浸出液及び粉末茶溶液の成分含有量の比較，千葉県立保健医療大学紀要，16-1，156，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・金澤匠，細山田康恵：性周期に伴う血中プロゲステロン濃度の変動が雌ラットの肝オートファジーに及ぼす影響，第 78 回 日本栄養・食糧学会大会，2024 年 5 月 25 日，福岡.
- ・細山田康恵，樋口誉誌子，山田正子：しそ油とカカオポリフェノール摂取がラットのアディポサイトカインに及ぼす影響，日本脂質栄養学会 第 33 回大会，2024 年 8 月 30 日，岐阜.

- ・細山田康恵、金澤匠、樋口誉誌子、山田正子：カテキン摂取による肥満2型糖尿病モデルラットの腎臓組織への影響、第71回日本栄養改善学会学術総会、2024年9月8日、大阪。
- ・山田正子、樋口誉誌子、細山田康恵：冷凍ほうれん草および乾燥ほうれん草のシュウ酸およびカリウム量、日本給食経営管理学会学術集会、2024年11月30日、京都。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者）

- ・学内共同研究、糖尿病モデルラットにカカオポリフェノールを摂取した際の脂肪蓄積量とホルモンへの影響、研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ちば食育応援隊「デイサービスセンター からたち」、2024年9月15日、あきまつり。

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養食糧学会、日本栄養改善学会、日本脂質栄養学会、日本解剖学会、日本生化学会、日本補完代替医療学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
 - ・日本栄養改善学会、評議員、2003年4月から現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、大学運営会議、学生委員会、進路支援委員会、危機管理委員会、将来構想検討委員会、FD・SD委員会、資格審査委員会、自己点検・評価委員会、キャンパスハラスメント防止対策委員会、動物倫理審査部会、学内研究関連の規則並びに共同実験等の整備のためのプロジェクトチーム

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議、栄養学科教授会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育において、学生の理解度を深め、自己主導型学習につなげられるように、Teamsなどを活用し取り組むことができた。実験のレポートは、毎回コメントを入れて返却し、次回の学習意欲の向上につなげることができたと考える。研究においては、R5年度学内共同研究を論文として投稿することができた。学会発表は、他大学との共同を含め、5報を発表できた。学外との共同研究も、継続して研究を進めるように心がけたい。大学運営では他学科と協力し、すべての業務に積極的に取り組めた。学生委員長として、学生会の役員と連携体制をとり、いずみ祭が盛り上がるように努めた。準備は早くから進めていたが、学生会に参加する学生が減少し、学生同士の連携が希薄になり、開催するまでに不安も多かった。次年度からのいずみ祭については、学生会が今後どのようにしていきたいのかを相談し、進めていく必要があると考える。学生委員会として「発達障害と合理的配慮の学生への対応」についてのFDを開催し、学生対応で日頃から困っていることにご助言いただける良い機会となった。アンケート結果は、好評であった。進路支援委員会として、年3回のキャリアセミナーを開催し、学生からは就活する上に変役立つと好評であった。今後も、同様に継続が必要と考える。学生部長として、後援会加入率が増加するように、入学式後に後援会が説明する時間を確保し、加入率アップにつなげることができた。また、4月からキッチンカーの導入ができるように、後援会、学生支援課と調整を行った。アンケート結果は好評で今後も継続していけるように取り組むたいが、学外実習も多いため、利用者の確保が課題と考える。

VII 次年度の目標

新大学創生に向かって非常に重要な時期と考えており、この事業を推進できるように努める。キャンパスの整備を推進し、教育・研究のためのより良い環境づくり、同窓会（各学科専攻の分会）組織へのサポート、健康づくりのプロとして、地域への社会貢献を進めていけるようにする。学生教育において、問題解決能力を身につけ、自己主導型学習ができるような指導を心がける。研究においては、学内・学外の方と協力して進められるように時間の確保に努め、研究成果を論文として報告できるようにする。大学運営では学部長として、各委員会委員長と密にコミュニケーションをとり、委員会の活性化につながるような助言を行い、本学の発展に寄与できるようにする。

教授 谷内 洋子 博士（学術）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、日々進歩が著しい臨床栄養分野の情報を取り入れながら、エビデンスに基づいた情報提供の重要性について、授業を通して学生に教授することを目標とする。また一方で、実臨床ではエビデンスだけでは食事療法を含めた治療方針は決まらず、患者の病状や背景、患者を取り巻く環境や患者の主観を含めて、総合的に判断することが求められること、いつ、どこで、どの食品を食べるかは個人が社会生活を営む中で、自由意志で選択していることを踏まえて、最終的に患者とともに最適な治療方針を決める姿勢や共感性についても培えるような授業展開を目指したい。

また研究活動については、現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して、社会に還元・貢献したい。特に、若年女性のやせや妊産婦の妊娠中の適切な体重増加量の在り方など、自身の研究分野をテーマとした講演依頼が増えていることから、専門家への啓蒙活動に加えて、一般の方への情報提供や啓蒙活動に取り組むことで、管理栄養士のプレゼンス向上にも努めたい。また、現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから、専門職としての責任の下、今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い、望ましく実践可能な食生活の在り方の発信、健康寿命の延伸を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論.
- ・事前指導（臨地実習）.
- ・事後指導（臨地実習）.
- ・臨床栄養臨地実習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・臨床栄養学（日本女子大学）.
- ・臨床栄養学実践演習（日本女子大学）.
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野：新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員（新潟大学大学院）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・曾根博仁，谷内洋子他：月刊糖尿病-糖尿病一次予防のエビデンスと実践（執筆箇所；妊娠糖尿病の予防エビデンス pp58-64），2025，医学出版，東京.
- ・石田裕美，由田克士，谷内洋子他：食事摂取基準による栄養管理・給食管理（執筆箇所；個別対応を基本とする場合における栄養管理），2025，建帛社，東京。（印刷中）
- ・曾根博仁，谷内洋子ほか：第 4 版 妊婦の糖代謝異常 診療・管理マニュアル（執筆箇所；18. 食事療法 pp94-96，40.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- Maki Yokoyama, Kei Miyakoshi, Noriyuki Iwama, ; DREAMBee Study Gestational Diabetes Mellitus Group (Yoko Yachi), et al. Gestational diabetes in early pregnancy is associated with postpartum glucose intolerance: A perspective from the diabetes and pregnancy outcome for mother and baby study in Japan, J Diabetes Investig, 16: 535-542, 2025.
- 谷内洋子 : 食事療法と妊娠中の至適体重管理, 糖尿病と妊娠, 第25巻2号, 印刷中 (2025. 3.14. 採択).
- 山田貴穂, 柳生田紀子, 西島浩二, 小川洋平, 谷内洋子, 吉原弘祐, 曾根博仁 : 妊娠糖尿病合併妊婦における産後糖代謝異常リスクの検討, 糖尿病と妊娠, 第24巻2号, S103-S106, 2024.
- Noriyuki Iwama, Maki Yokoyama, Hiroshi Yamashita, ; DREAMBee Study Gestational Diabetes Mellitus Group (Yoko Yachi), et al. Impact of maternal overweight/obesity and high fasting plasma glucose on adverse perinatal outcomes in early gestational diabetes mellitus, J Diabetes Investig, (DOI:10.1111/jdi.14411) 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- 谷内洋子, 山田貴穂, 柳生田紀子, 児玉暁, 龍野一郎, 曾根博仁 : 健常妊婦における妊娠初期の栄養摂取状況と体重増加量および母児の転帰の検討, 第78回日本栄養・食糧学会大会, 2024年5月25日, 中村学園大学.
- 谷内洋子, 生魚薫, 堀川千嘉, 森川咲子, 治田麻里子, 曾根博仁 : 日本人健常妊婦における妊娠初期の栄養摂取量と妊娠中の体重増加量および妊娠転帰への影響の検討, 第46回日本臨床栄養学会総会・第45回日本臨床栄養協会総会 第22回大連合大会, 2024年10月5日, KFC Hall&Rooms.
- 柳生田紀子, 山田貴穂, 菅井駿也, 谷内洋子, 児玉暁, 吉原弘祐, 西島浩二, 曾根博仁 : 糖代謝異常合併妊娠の種類別の周産期予後, 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024年11月22日, ソニックシティ.
- 柳生田紀子, 山田貴穂, 菅井駿也, 谷内洋子, 児玉暁, 吉原弘祐, 西島浩二, 曾根博仁 : 妊娠糖尿病 (GDM) の周産期予後に与えるBMIの影響, 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024年11月22日, ソニックシティ.
- 山田貴穂, 柳生田紀子, 菅井駿也, 宗田聡, 倉林工, 谷内洋子, 児玉暁, 吉原弘祐, 西島浩二, 曾根博仁 : 妊娠糖尿病合併妊婦における産後早期糖代謝異常を予測する因子の検討, 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024年11月22日, ソニックシティ.
- 山田貴穂, 柳生田紀子, 菅井駿也, 宗田聡, 倉林工, 谷内洋子, 児玉暁, 吉原弘祐, 西島浩二, 曾根博仁 : 産後75g経口ブドウ糖負荷試験1時間値のみ高値例の検討, 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024年11月22日, ソニックシティ.
- 柳生田紀子, 山田貴穂, 菅井駿也, 谷内洋子, 児玉暁, 吉原弘祐, 西島浩二, 曾根博仁 : 妊娠糖尿病 (GDM) の周産期予後に与えるBMIの影響, 第51回新潟糖尿病病談話会, 2025年3月8日, 新潟ユニゾンプラザ.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 第78回 日本栄養・食糧学会大会 医学系学会との合同シンポジウム：妊娠糖尿病の食事療法とプレコンセプションケア（シンポジスト）, 2024年5月25日, 中村学園大学.
- 第71回 日本栄養改善学会学術総会（シンポジウム4：若年女性のやせ・低出生体重児）：リプロダクティブエイジ女性における体格と栄養摂取状況の現状と課題（シンポジスト）, 2024年9月7日, 大阪公立大学.
- 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（シンポジウム1：日本糖尿病・妊娠学会の成果の社会実装）：エビジェネティック・DOHaD 理論に基づく精密医療の実現をめざして～先進的周産期・小児期リンケージデータベース研究事業について～, 2024年11月22日, ソニックシティ.
- 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（シンポジウム3：糖代謝異常妊婦の最善の予後を目指した体重管理）：食事療法と妊娠中・分娩後の至適体重管理（シンポジスト）, 2024年11月23日, ソニックシティ.
- 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（シンポジウム4：1型糖尿病女性が安心して妊娠を迎えるための先進医療の活用）：糖代謝異常妊婦に対する先進医療の現状と展望, 2024年11月23日, ソニックシティ.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立, 研究代表者.
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(B), 地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成, 研究分担者.
- ・国立研究開発法人日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業, 母児における妊娠中・胎児期を起点としたリンケージデータベース構築とそれを活用した精密医療実現のためのエビデンス創出, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

2) 千葉県外

- ・食事・栄養相談, 令和6年4月～令和7年3月, 東京都大田区.

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本栄養・食糧学会 倫理審査委員会 委員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士/管理栄養士）試験問題作成委員, 令和6年4月～令和7年3月.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業部 役員, 令和6年4月～令和7年3月.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本臨床栄養学会, 日本臨床栄養協会, 日本疫学会, 日本病態栄養学会, 日本栄養・食糧学会, 日本糖尿病・妊娠学会, DOHaD 研究会, 日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本疫学会, 代議員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本病態栄養学会, 評議員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 評議員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本糖尿病・妊娠学会, 妊娠糖尿病・糖尿病, 合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 DREAMBee Study, 検討委員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本栄養改善学会, 評議員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本臨床栄養学会, 評議員, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・日本栄養・食糧学会, 参与, 令和6年4月～令和7年3月.
- ・栄養士会雑誌, 査読委員.
- ・第71回日本栄養改善学会学術総会, シンポジウム（「若年女性のやせ・低出生体重児」）座長, 2024年9月7日, 大阪公立大学.
- ・第46回日本臨床栄養学会総会・第45回日本臨床栄養協会総会・第22回大連合大会, 一般演題02（女性と栄養）座長, 2024年10月5日, KFC Hall & Rooms.
- ・第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 一般演題13（「妊娠糖尿病(5)」）座長, 2024年11月23日, ソニックシティ.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・習志野保健所管内行政栄養士業務連絡会、妊産婦を含む日本人若年女性の健康課題とその対策について、行政栄養士、2024年5月15日、web開催
- ・令和6年度千葉県立保健医療大学公開講座、若い世代からのヘルスケア―次世代につながる健康とプレコンセプションケアについて―、一般住民、2024年10月13日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国際交流委員会、教務委員会、広報委員会。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・若年女性の痩身願望とプレコンセプションケア 研究に関するインタビュー（web マガジン）：母子の健康の鍵を握る、妊娠期の食事習慣―谷内教授の研究から学ぶ、2024年7月29日、<https://exidea.co.jp/so-gud/medical/pref-chiba/>
- ・研究に関するメディア掲載のご紹介 若年女性の痩身願望とプレコンセプションケア、広報誌「ほいだい」vol12。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度は、日々進歩が著しい臨床栄養分野の情報を随時取り入れた授業を展開することができた。具体的には、令和6年6月の診療報酬改定に伴い、臨床栄養領域では低栄養診断にGLIM基準を用いることが厚生労働省より通達されたことから、GLIM基準を使用するにあたっての注意点、栄養アセスメントのポイントについて説明を行うことで、3年次の臨床栄養臨地実習では実臨床での活用について学ぶことができたと考える。また近年、患者個々の遺伝子や環境、ライフスタイルなどの特性を考慮した医療・プレジジョン医療の実践が求められていることから、栄養学の領域においてもプレジジョン栄養学の概念を取り入れ、一人ひとりに適した食を提案・提供する「個別化・層別化栄養」の実現により、人々がより食で健康効果を得る可能性について、プレジジョン医療・プレジジョン栄養の観点から説くことができた。

来年度も本学学生へのより良い教育、指導の在り方を模索、検討し実践するとともに、学会役員の立場から、県内専門職への啓蒙活動に加え、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会のシンポジスト活動を通して、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行う。さらに自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

VII 次年度の目標

エビデンスに基づいた確かな知識の蓄積と、常に対象は心を持った人間であることを忘れず、エビデンスのみを重視するのではなく、相手に心を寄せ、最終的に患者とともに最適な治療方針を決める姿勢や共感性についても培えるような授業展開を目指したい。また研究活動については、現在取り組んでいる研究課題の成果を学会発表および論文執筆を通して、社会に還元・貢献したい。特に若年女性のやせや妊産婦の妊娠中の適切な体重増加量の在り方など、自身の研究分野をテーマとした講演依頼が増えていることから、専門家への啓蒙活動に加えて、一般の方への情報提供や啓蒙活動に取り組むことで、管理栄養士のプレゼンス向上にも努めたい。また現職の管理栄養士向けの研修会講師の依頼も増えてきたことから、専門職としての責任の下、今後も研修会や市民シンポジウムなどを通じて啓蒙活動を行い、望ましく実践可能な食生活の在り方の発信、健康寿命の延伸を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

教授 橋本 和幸 博士（教育学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、特に次の 3 点を実施することを活動の目標とした。

1. 担当する授業の資料を、保健医療にかかわる専門職育成に相応しい内容になるように、本学用に独自作成する。
2. 臨床心理学に関する新しい研究を立ち上げて実施する。
3. 社会貢献活動として、臨床心理学に関する知見を学校や地域の求めに応じて提供する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）。
 - ・体験ゼミナール。
 - ・生徒指導論。
 - ・臨地実習。
 - ・総合演習。
 - ・実践統計学。
 - ・教育心理。
 - ・統計学。
 - ・栄養統計学。
 - ・教育相談。
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）。
 - ・現代教育論（東京大学）。
 - ・心理学実験 3（放送大学）。
 - ・こころの科学 2（東京外国語大学）。
 - ・教育相談（東京外国語大学）。
 - ・進路指導・キャリア教育論（東京外国語大学）。
 - ・生徒・進路指導論（東京工芸大学）。
 - ・教育相談（東京工芸大学）。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・桂瑠以，橋本和幸，鶴沼秀行：高齢者互助型ネットシステム及びネット支援プログラムの開発と実践，老年社会科学，46(4)，349-356，2025

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・桂瑠以，橋本和幸，鶴沼秀行：高齢者向けネットシステム及び支援プログラムの開発と実践(1)ーインターネットでの互助がネットリテラシーに及ぼす影響ー，日本心理学会第 88 回大会，2024 年 9 月 6 日，熊本城ホール
- ・橋本和幸，桂瑠以，田辺達磨，上岡尚代：高齢者向けネットシステム及び支援プログラムの開発と実践(2)ーネットシステムの評価と参加の関連ー，日本心理学会第 88 回大会，2024 年 9 月 6 日，熊本城ホール

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)、高齢者の地域社会参加を促す互助型ネットシステム及び支援プログラムの開発と評価、研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・川崎市、いじめ問題専門調査委員会委員長、2025 年 1 月～現在に至る。

- 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・神奈川県臨床心理士会、代議員、2019 年 6 月～現在に至る。

- 5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理臨床学会、日本カウンセリング学会、日本認知療法・認知行動療法学会、日本青年心理学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本学校心理学会、日本学生相談学会、日本パーソナリティ心理学会、日本教育工学会、日本柔道整復接骨医学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本学生相談学会、代議員、2023 年 5 月～現在に至る。
- ・日本学生相談学会、倫理委員会委員、2023 年 5 月～現在に至る。
- ・日本認知療法・認知行動療法学会、心理職部会コアメンバー、2024 年 4 月～現在に至る。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、入試改革検討委員会、広報委員会、危機管理委員会、共通教育運営会議、教員資格審査委員会、入試実施委員会作業部会、紀要論文査読者、教務委員会第 4 次カリキュラム作成部会（参考人）。

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教職課程担当者。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学校や企業の研修会講師やいじめ被害に対する第三者委員会委員などの要望を受けたが、兼職時間の制限のために断らざるを得なかった。

予定していた新しい研究は、研究倫理審査委員会委員長より、「ヒト対象の研究は承認しない」「研究をやりたければ他の大学に行けばよい」と、正式な審査結果が発表前に非公式に通告されたため、実施できなかった。上長との定期面談で相談したが、委員長と同意見とのことだった。

上記の結果、研究と社会貢献活動は予定していたことが実施できなかった。

改善すべき事項としては、研究倫理審査委員長らの主張を受け入れて、研究倫理審査を引き受けてくれる他の大学を探すことであり、年度内に実行した。

担当する授業や委員会については、大学より割り振られた通りに実行した。しかし、複数の教員たちから「前任者と比べて仕事をしていない」という批判があった、と学科会議で指摘された。例えば担当科目については、前任者が「教育の方法と技術」は今年度担当していないが、前任者が担当していなかった「教育相談」「教育心理」「生徒指導論」を担当している。こうした実例を他の教職員たちにどのように理解させるかが課題だったかもしれない。

准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面では既存の研究データの解析を予定するとともに、共同研究、外部受託業務を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論 2024/2025（エスカベージック），2024 年 4 月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介，阿部絹子，今井具子他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 公衆栄養学 2025 年版，2025 年 2 月，医歯薬出版，東京.
- ・由田克士，荒井裕介 編著：カレント改訂 公衆栄養学 第 4 版，2025 年 3 月，建帛社，東京.
- ・吉池信男，林宏一，木村安美，荒井裕介他：健康・科学シリーズ公衆栄養学改訂第 9 版，2025 年 3 月，医歯薬出版，東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・厚生労働省，管理栄養士国家試験委員会，2024 年 4 月～2025 年 3 月.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会，日本高血圧学会，日本疫学会，日本栄養士会，神奈川県栄養士会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，評議員，2006 年 11 月～現在に至る.

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会. 理事. 2019 年 11 月～現在に至る.
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会. 第 72 回学術総会総務委員. 2024 年 10 月～現在に至る.
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会. 代議員. 2019 年 7 月～現在に至る.
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会. 公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員. 2018 年 2 月～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会. 自己点検・評価実施推進部会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では対面授業の復帰にあわせて授業資料の見直し等を行い、学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう、講義ではスライドのわかりやすい記述や解説説明に努めた。外部からの業務委託はなかったが、千葉県庁が進める業務について求めに応じて助言を行った。研究面では参加する共同研究にて専門的立場から考察を行い、論文および学術発表を行った。

VII 次年度の目標

教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面では他機関との共同研究に取り組む。

准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、研究については引き続き研究を推進し、その成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、学内共同研究費などの研究資金の申請も積極的に行い、資金獲得を目指す。教育では、講義や実験・実習の内容に関して工夫し、アクティブラーニングなどの導入による授業の更なる充実を図る。大学の管理・運営においては、委員及び部会長として責任を持って委員会や部会の運営に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・栄養学Ⅰ（基礎）.
- ・栄養学Ⅱ（応用）.
- ・食品学各論.
- ・食品学実験.
- ・基礎栄養学.
- ・基礎栄養学実習.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：カテキン摂取による肥満 2 型糖尿病モデルラットの酸化ストレスと腎臓組織への影響，日本補完代替医療学会誌，第 21 巻，第 1 号，p. 1-5，2024 年 8 月
- ・金澤匠，細山田康恵：卵巣摘出ラットにおける肝オートファジー活性と血中オートファジー調節因子濃度との関連性，千葉県立保健医療大学紀要，第 16 巻，第 1 号，p. 1-11，2025 年 3 月

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・金澤匠，細山田康恵：性周期に伴う血中プロゲステロン濃度の変動が雌ラットの肝オートファジーに及ぼす影響，日本栄養・食糧学会，2024 年 5 月 24～26 日，福岡.
- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：カテキン摂取による肥満 2 型糖尿病モデルラットの腎臓組織への影響，日本栄養改善学会，2024 年 9 月 6～8 日，大阪.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，糖尿病モデルラットにカカオポリフェノールを摂取した際の脂肪蓄積量とホルモンへの影響，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・「ほい大健康プログラム、栄養学科プログラム講師「食事について考えてみましょう-知っておきたい栄養素の働き-」。
2024年10月12日、UR さつしが丘団地。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本栄養改善学会、評議員、2022年11月1日～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会、情報システム委員会、教育研究年報作成部会、動物実験部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、学会発表2件、学術雑誌（大学紀要も含む）への論文掲載2報についてそれぞれ一つが筆頭発表者及び筆頭著者としてのものであった。目標通りに研究成果の公表が出来たと考える。また、競争的資金は得られなかったが自身の個人研究費を用いてマウスの発情周期とオートファジーとの関連性についての研究を進めることが出来た。一方で研究資金の獲得には課題が残った。この点については次年度分の学内共同研究費等への申請を行い、獲得に向けて努力した。科研費のような継続的な研究資金の確保が必要である。

教育に関しては、授業へのアクティブラーニングの導入として、講義や実習でグループワークを取り入れることが出来た。

大学運営に関しては、入試や学内情報システムの円滑な運営に寄与出来たと考える。教育研究年報作成部会長として年報をスケジュール通り発行出来た。さらに、年報内の学科・専攻の業績のデータ化にも着手でき、概ね部会長として役割を果たすことが出来たと思われる。

令和6年度は、大学がURと連携して行っている「ほい大健康プログラム」にも講師として参加する機会があり、学外での活動においても成果があった。

VII 次年度の目標

令和7年度は、研究については研究費を獲得し研究を推進する。そしてその成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、科研費への申請も引き続き積極的に行い、継続的な資金の確保を目指す。教育では、講義や実験・実習の内容に関して工夫しつつ、引き続きアクティブラーニングによる授業の充実を図る。大学の管理・運営においては、委員として責任を持って委員会の運営に取り組む。

准教授 工藤 美奈子 博士（学術）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、学生の興味関心が高まる授業となるよう、最新の話題やワークショップを交えて双方向の授業を心がける。特に臨地実習においては、対話を重視し信頼関係を構築した上で、学生が滞りなく実習を遂行できるように実習施設との調整や学生指導に尽力する。研究活動では、学内での共同研究を推進するとともに、成果を論文等の形にまとめあげる。大学の管理運営においては、担当の職務を全うするとともに、学生が活発に活動できるようなサポートに努めていく。社会貢献では、千葉県内外において、多世代の食や健康につながるような地域活動を推進していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・給食経営管理論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・食事設計と調理実習.
- ・在宅栄養支援論.
- ・フードマネジメント論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士国家試験対策講座.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・工藤美奈子：保育所における絵本を題材とした給食の実態把握と食育効果について，千葉県立保健医療大学紀要，16-1，39-45，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Mieko Shimada, Hiroyo Suto, Yutaka Yoshitake, Makoto Ayabe, Mamoru Nishimuta, Yasuo Kimura, Takuro Tobina, Taro Okamura, Yuya Narita, Masahiro Edo, Makoto Arakawa1, Mizuho Sasaki, Minako Kudo, Michiyo Asai, Jun Kaneko, Mai Kono, Kaname Nohno, Nobuko Hongu : The relationship between height changes over 10 years and life prognosis, 2024ACSM, 2024/5/29, Boston.
- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，工藤美奈子，荒川真，佐々木みづほ，松木千紗，浅井美千代，金子潤，河野舞：健康体操教室に通う高齢者における日常生活での微少活動時間の変化，日本体力医学会，2024/9/2-4，佐賀.
- ・工藤美奈子，島田美恵子：地域健康体操教室参加の高齢者における簡易栄養状態評価のスクリーニング結果と体重変化について，日本栄養改善学会，2024/9/6-8，大阪.

- ・島田美恵子，工藤美奈子：地域健康体操教室参加の後期高齢者における低栄養を予防する栄養指導効果について，日本栄養改善学会，2024/9/6-8，大阪。
- ・田村友峰子，工藤美奈子，菊池裕：配食弁当の保存方法・時間の違いによる一般細菌数からみる安全性 -第2報-，日本給食経営管理学会，2024/11/30-12/1，京都。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，微生物からみる配食弁当の保存方法・時間の違いによる衛生管理手法の確立，研究分担者。
- ・学内共同研究，HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究3，研究分担者。
- ・学内共同研究，高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係，研究分担者。
- ・学内共同研究，大学における研究・教育・事務業務での生成 AI 利用法に関する調査研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉市，子ども食堂支援，令和6年4月～令和6年9月。
- ・千葉県船橋市，小学2年生，スポーツ実施時における間食と水分の取り方支援，令和6年5月～令和6年9月。
- ・千葉市，食育おむすびプロジェクト，令和6年12月～令和7年3月。

2) 千葉県外

- ・東京都小平市，二小青少年対策地区委員会広報，令和6年4月～令和7年3月。
- ・東京都小平市，だれでも食堂「わらい」副代表，他子ども食堂3ヶ所支援，令和6年4月～令和7年3月。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・千葉県木更津市地域包括支援センター，地域高齢者向け低栄養予防講話，令和6年10月7日。
- ・千葉県旭市中央地域包括支援センター，地域高齢者向け低栄養予防講話，令和7年1月28日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本給食経営管理学会，日本家政学会，日本調理科学会，日本栄養士会，東京都栄養士会，日本フードサービス学会，日本伝統食品研究会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会評議員，令和6年4月～令和7年3月。
- ・日本伝統食品研究会，幹事（庶務），令和6年4月～令和7年3月。
- ・第72回日本栄養改善学会学術大会，栄養教育・食育分野査読委員，令和6年4月～令和7年3月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会，学生委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度は，地域をフィールドとした研究活動や社会貢献に努めた。教育活動では，フィールドワークや ICT の活用を行い，学生の興味，探求心をかきたてられる工夫を実施した。給食経営管理実習において4年生への食事提供を実施し，学生の満足度を高めるとともに喫食者に対する提供意欲の向上を実現することができた。また，学生サークル活動と地域団体との連携調整や活動支援を実施した。

研究活動では、4 件の学内共同研究に取り組み、学会発表 5 報、紀要論文 1 報を成果とした。

特色科目「専門職間の連携活動論」では 2 年目の科目責任者を務め、部会員やチーム担当教員を率いつつ滞りなく運営した。社会貢献では、学内共同研究による県内在住の地域高齢者を対象に栄養講話を 2 回実施し、県民の低栄養予防の推進に寄与できた。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、産官学連携の「千葉市おむすびプロジェクト」を通じ、学生が活動しやすい基盤づくりと調整を行うとともに、本学の PR にも努めていく。

研究活動では、咀嚼に関する学内共同研究に取り組み、研究と県民の健康づくりに励んでいきたい。また第 72 回日本栄養改善学会学術大会の一担当として学会運営に努める。

大学運営においては、紀要編集部会長を滞りなく遂行できるように、担当教職員との連携を取り尽力していく。

准教授 広川 由子 博士（教育学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度においては、本学学生への教育をより充実させるため、担当する授業においてアクティブ・ラーニングによる授業改善に努め、学生の興味・関心をこれまで以上に引き出し、広い視野で学生理解に努める。教職課程においては、教職を取り巻く現状を十分踏まえたうえで、栄養教諭養成制度の諸問題を考察しつつ、講義計画を立案し、適切な講義・指導を行えるよう努力し、質の高い栄養教諭を輩出できるよう工夫する。また共通教育の体験ゼミナールの改善にも尽くす。次年度、体験ゼミナールの作業部会長としての役割を果たせるよう授業を刷新し、他の先生方と協力しながら学生の学修ニーズに合った授業とするよう努力する。研究活動においては、科研課題遂行のため、二つの所属学会において研究成果を発表する計画である。また学内共同研究の成果を本学紀要に投稿することも取りこぼすことなく実行する。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら尽力する。大学設置基準の改正により新しい大学教育のあり方が問われていることから、本学のカリキュラム改革に最善を尽くす。社会貢献では、引き続き、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県の教育行政や学校に積極的にアクセスする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・教育学.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・総合演習.
 - ・教職論.
 - ・教育学概論.
 - ・教育制度論.
 - ・カリキュラム論.
 - ・道徳・総合的な学習・特別活動論.
 - ・教職実践演習（栄養教諭）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・広川由子：占領期沖縄における小学校英語教育施策—沖縄群島政府文教審議委員会を中心に—，教育史研究室年報，30，45-57，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題—千葉県を事例として—，千葉県立保健医療大学紀要，16，47-55，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題—学校給食の調理方式に着目して—，千葉県立保健医療大学紀要，16，57-65，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭養成制度の現状と課題，千葉県立保健医療大学紀要，16，125-132，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・広川由子：占領期沖縄における英語教育政策：初等学校への英語科の導入と廃止，日本英語教育史学会 第 40 回全国大会，2024 年 5 月 19 日，県立広島大学サテライトキャンパスひろしま.
- ・広川由子：栄養教諭等の配置の現状と課題—千葉県を事例として—，日本教育学会 第 83 回大会，2024 年 8 月 29 日，

名古屋大学（オンライン）。

- ・海老原泰代, 広川由子, 井上裕光, 鈴木亜夕帆, 渡辺優奈, 岡田亜紀子: 栄養教諭および学校栄養職員の今後 (将来) に関する一考察～「千葉県における栄養教諭等配置の現状と特質」アンケート自由回答より～, 第 11 回 日本栄養改善学会 関東・甲信越支部会学術総会, 2025 年 2 月 8 日, 茨城キリスト教大学 (ポスター発表)。

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 占領期沖縄における英語教育政策過程—小学校への「英語科」の導入と廃止—, 研究代表者。
- ・千葉県立保健医療大学 2024 年度学内共同研究 (一般), 新制中学校発足期における外国語 (英語) 科の実施状況—千葉県山武郡源村立源中学校を中心に—, 研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本教育学会, 教育史学会, 日本教育政策学会, 日本教育法学会, 日本英語教育史学会, 中部教育学会。

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・千葉県作業療法士会, 学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会 (基礎編), 日本の教育の制度と内容, 2024 年 10 月 5 日, オンライン (ZOOM) 開催。
- ・千葉県学校給食センター研究会第一地区研究会, 所長・栄養士合同研究会, 学校給食と子どもの権利, 2025 年 1 月 17 日, 酒々井町中央公民館研修室。

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・共通教育運営会議, 教務委員会, 学術推進企画委員会, 学内共同研究審査部会, 紀要編集部会, 体験ゼミナール作業部会。

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 教職課程運営会議。

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

昨年度同様, 教育活動に重きを置き, 学生の立場に立ちアクティブラーニングの視点から授業を改善しつつ, わかりやすい講義を心掛けた。また, 学生理解と指導に丁寧に取り組み, 無事任務を全うできたと感じている。研究活動においては, 科学研究費補助金基盤研究 (C) に積極的に取り組み, 沖縄県を三度訪問し未見の一次史料を収集することができた。さらに所属する日本英語教育史学会において研究成果を発表し, それをもとに論文化することができた。学内共同研究の成果は日本教育学会で発表し, 本学紀要に 3 本投稿し 3 本とも無事掲載が決定した。大学運営においては, 多くの学内の先生方に学びつつ, 関係を構築することができたと実感している。とりわけ体験ゼミナール作業部会においては, 他学科専攻の先生方と連携しつつ, 無事授業を終えることができた。社会貢献では, 2 つの講演会の講師として現行の学校教育や教育制度について話す機会があり, 学校教育の内実を伝えられたと感じている。

VII 次年度の目標

次年度は、教育活動においては、継続して学生の教職への興味・関心を引き出すため、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善・充実に努める。現行の教員不足という現状を十分、踏まえたうえで、栄養教諭養成制度の諸問題を考察しつつ、講義計画を立案し、適切な講義・指導を行えるよう努力する。また共通教育の体験ゼミナールの部会長として授業改善にも尽くす。研究活動においては、二つの所属学会において科研課題の成果を発表する計画である。さらに科研費最終年度につき、継続して占領期沖縄の英語教育に関する研究に着手できるよう科研費を申請する予定である。教職課程においては、再課程認定等に備え、不足する研究業績がないか点検を行う。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら尽力する。大学設置基準の改正により新しい大学教育のあり方が問われていることから、本学のカリキュラム改革に最善を尽くす。社会貢献では、千葉県の教育行政や学校に積極的にアクセスしたいと考えている。

講師 鈴木 亜夕帆 博士（学術）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和6年度は、授業を主体的で対話的な深い学びとなるような工夫を継続して行う。「例年通り」ではなく、学生の状況等に応じて色々な方法を検討する。共同研究も含め、調理科学研究の分野での研究を深めることを中心に、調理・食育に関する知識を深める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・食事設計と調理.
- ・調理科学実験.
- ・調理実習.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.
- ・栄養統計学.
- ・食育論Ⅰ.
- ・食育論Ⅱ.
- ・食生活教育論.
- ・学校栄養教育論.
- ・教職実践演習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・食育論（東京歯科大学短期大学）.
- ・食育実践論（東京栄養食糧専門学校）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題―千葉県を事例として―，千葉県立保健医療大学紀要，16，47-55，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題―学校給食の調理方式に着目して―，千葉県立保健医療大学紀要，16，57-65，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭養成制度の現状と課題，千葉県立保健医療大学紀要，16，125-132，2025.
- ・鈴木亜夕帆，福島昌子，大井和彦，千葉美奈子：「総合的な学習の時間」の学習目標をサポートする食育の実践，千葉県学校保健研究，2025
- ・福島昌子，鈴木亜夕帆，千葉美奈子：特別支援学校、肢体不自由の生徒における「総合的な学習の時間」の海洋教育，協働探究学習の実践，千葉県学校保健研究，2025

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木亜夕帆，福島昌子，加藤悟，内村佐保莉，堀井優，竹村結香，前川尚代：総合的な学習の時間の学習目標をサポートする食育の実践，千葉県学校保健学会，12月14日，聖徳大学
- ・福島昌子，鈴木亜夕帆，加藤悟，大井和彦，千葉美奈子，竹田昌司，平沢安正：病弱・健康課題の児童における海洋教育協働探究の個別最適な学びの実践－「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発－Ⅱ，千葉県学校保健学会，12月14日，聖徳大学
- ・海老原泰代，広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭および学校栄養職員の今後（将来）に関する一考察～「千葉県における栄養教諭等配置の現状と特質」アンケート自由回答より～，第11回日本栄養改善学会 関東・甲信越支部会学術総会，2025年2月8日，茨城キリスト教大学。
- ・加藤悟，鈴木亜夕帆，千葉美奈子，大井和彦，平沢安正，堀井優，内村佐保莉，細川大瑛，福島昌子：特別な支援を必要とする生徒の海洋教育協働探究の個別的な学びの実践－「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発－，福井ラウンドテーブル2025 Spring Sessions，2月25日，福井大学附属義務教育学校。

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・実践報告「生徒の学びをサポートする食育の実践」，福井ラウンドテーブル2025 Spring Sessions，2月25日，福井県。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，煎茶の浸出液及び粉末茶溶液の成分含有量の比較，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・健康課題児童・生徒における海洋教育協働探究カリキュラム開発プロジェクト「海・空・子どもプロジェクト」実行委員コアメンバー

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省科学技術・学術審議会，食品成分委員会及び作業部会専門委員。
- ・木更津市食育推進協議会，委員。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会，調理科学会，千葉学校保健学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県学校保健学会，監事，2021年4月～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会，評議員，2021年5月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・千葉県教育委員会 令和6年度栄養教諭初任者研修第9回校外研修 講師，「食育の進め方」について講義及び演習，栄養教諭初任者，2024年10月。
- ・株式会社 LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC 大学院」における栄養学部講師，社内管理栄養士対象，2024年7月20日（食品成分表について），11月9日（食育について），オンライン。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
・教務委員会 図書委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
・栄養学科運営会議 卒業研究担当

VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業を，学生に合わせて工夫することができた．共同研究を進めることができたが，学会発表や論文作成の時間を調整することができなかった．

VII 次年度の目標

令和 7 年度は，授業は，学生の状況等に応じて色々な方法を検討し，主体的で対話的な深い学びとなるような工夫を継続して行う．研究について，学会発表及び論文作成の時間を調整し，調理・食育に関する知識を深める．

講師 渡辺 優奈 博士（栄養学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動では、担当授業において学生が基本的な知識を習得し思考を深められるような内容の工夫をし、働きかけを改善していきたい。研究活動では調査で得られたデータを解析し、学会発表や論文化するとともに、学会活動等を通して地域や専門職へ貢献することを目指す。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・栄養教育論Ⅰ.
 - ・栄養教育論Ⅱ.
 - ・栄養教育手法論.
 - ・栄養教育論実習.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・栄養教諭教育実習事前・事後指導.
 - ・管理栄養士導入教育.
 - ・栄養統計学.
 - ・総合演習.
 - ・管理栄養士特別演習.
 - ・卒業研究.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・社会実習.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・小林麻貴，渡辺優奈，川野因，多田由紀，横山友里：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 栄養教育論 第9 版，2025，第一出版株式会社，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題—千葉県を事例として—，千葉県立保健医療大学紀要，16，47-55，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭等の配置の現状と課題—学校給食の調理方式に着目して—，千葉県立保健医療大学紀要，16，57-65，2025.
- ・広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，海老原泰代，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭養成制度の現状と課題，千葉県立保健医療大学紀要，16，125-132，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・渡辺優奈，上原萌美，善方裕美：妊婦の鉄代謝と鉄栄養状態 —ヘプシジン値の実態—，第 71 回日本栄養改善学会学術総会，2024 年 9 月 6～8 日，大阪市.
- ・鈴木一恵，渡辺優奈，斎藤トシ子，石上和男：自立高齢者を対象にした低栄養と食行動・食意識に関するインタビューの質的分析，第 71 回日本栄養改善学会学術総会，2024 年 9 月 6～8 日，大阪市.

- ・小島美世，鈴木美咲，小沼真理，渡辺優奈，竹内瑞希，鈴木一恵：長岡地域高齢者等の「食」をサポートする体制整備事業食形態等対応及び情報共有実態調査結果について，第71回日本栄養改善学会学術総会，2024年9月6～8日，大阪市。
- ・海老原泰代，広川由子，井上裕光，鈴木亜夕帆，渡辺優奈，岡田亜紀子：栄養教諭および学校栄養職員の今後（将来）に関する一考察～「千葉県における栄養教諭等配置の現状と特質」アンケート自由回答より～，第11回日本栄養改善学会 関東・甲信越支部会学術総会，2025年2月8日，茨城キリスト教大学。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，妊婦の鉄栄養状態と鉄摂取量の関係解明～鉄代謝調節因子「ヘプシジン」に着目して～，研究代表者。
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C），地域在住の自立高齢者の低栄養の実態と関連要因～食意識・食行動に着目して～，研究分担者。
- ・厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究，統括的役割が期待される行政管理栄養士の自己評価尺度の開発のための研究，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・UR ぽい大健康プログラム，2024年10月12日，さつきが丘団地。
- ・いすみ市 ぽい大健康プログラム，2024年11月23日，いすみ市役所。
- ・幕張キャンパス ぽい大健康プログラム，2025年2月15日，千葉県立保健医療大学。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県栄養士会，研究教育事業部役員，2024年4月1日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本女性医学学会，日本栄養学教育学会，日本健康教育学会，日本栄養士会，千葉県栄養士会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養学教育学会，編集委員，2022年8月1日～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会，評議員，2022年11月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・第4回現場で活動する管理栄養士・栄養士のための『実践栄養学研究セミナー』—自分の活動をまとめる実践編— チューター，日本栄養改善学会関東・甲信越支部，2024年5月～3月，女子栄養大学駒込校舎他。
- ・習志野市教育研究会栄養士部会 研修会 講師，習志野市教育研究会，習志野市栄養教諭及び学校栄養職員，2024年8月20日，習志野市学校給食センター。
- ・令和6年度中堅教諭等資質向上研修Ⅰ（栄養教諭・学校栄養職員） 講師，千葉県教育庁，今後の栄養教諭・学校栄養職員の役割及び『食に関する指導の手引』を有効に活用した指導の在り方について，千葉県栄養教諭及び学校栄養職員，2024年9月13日，千葉県総合教育センター。
- ・調理員・用務員・技能員・栄養士研修 講師，千葉市こども未来局，食育について，千葉市公立保育所・認定こども園に勤務する技能員・栄養士，2024年10月22日，千葉市役所。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・広報委員会 社会貢献委員会 社会実習作業部会 IR 部会 キャンパスハラスメント相談員

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、実習でのグループワーク手順や働きかけを学生に合わせて修正することにより、活発な質疑応答が行われ、専門的な知識を応用しようとする姿がみられた。研究活動では、学会発表をすることはできたが、特に研究代表者となっている研究の結果を論文化できなかった。次年度は成果を形にすることに力を入れたい。社会貢献活動を通し、教育・研究活動で培った知識や技術を、還元していくことはできたと考える。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は、特に研究活動において研究の成果をまとめることや、共同研究を円滑に推進できるよう取り組みたい。教育活動ではこれまでの教育方法を随時見直しながら、アクティブラーニングを意識した授業づくりを行って学生間での意見交換が活発に行われる場を提供したい。

助教 生魚 薫 修士（家政学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動は、学生により良い学習環境を提供できるように実習において随時見直しする。
研究活動は、論文を 2 報以上投稿する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・臨床栄養学実習.
 - ・給食経営管理実習
 - ・栄養ケアマネジメント論実習.
 - ・事前・事後指導.
 - ・臨床栄養臨地実習.
 - ・専門職連携活動論（作業部会）.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・東京情報大学看護学部非常勤講師（臨床栄養学）.
 - ・和洋女子大学家政学部健康栄養学科非常勤講師（臨床栄養学Ⅰ）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・生魚薫，鈴木葉子，柳澤幸江，杉原茂孝．保育所の体格評価実施状況および栄養管理における食育活動の実態調査について．保育と保健．30-2：26-29．2024 年．

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・谷内洋子，生魚薫，堀川千嘉，森川咲子，治田麻理子，曾根博仁，日本人健常妊婦における妊娠初期の栄養摂取量と妊娠中の体重増加量および妊娠転帰への影響の検討，10 月 5 日～6 日，東京（KFC Hall&Rooms）.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究 3，菊池裕，工藤美奈子，生魚薫，一條知昭，石岡憲昭，山崎丘.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大プログラム，11 月 23 日，いすみ市役所.
- 2) 千葉県外
 - ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導（2019 年 11 月～月 1 回継続中）.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導（2019年11月～月1回継続中）。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床栄養代謝学会、日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本病態栄養学会、日本成長学会、日本肥満学会、日本小児保健協会、日本小児科学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本栄養士会、千葉県栄養士会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・専門職連携活動論作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・4年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、教育教材の見直しやマニュアル修正などに努めることができた。また、非常勤講師を務めることで科目責任者としての責務をもった行動や授業実施をすることができた。社会貢献活動では、月1回以上の保健医療活動として糖尿病患者への栄養指導のボランティアを継続することができている。研究活動では、論文1編を公表することができたが、2本目が投稿中となった。

VII 次年度の目標

教育活動では、上席教員と相談しながら学生の学修環境整備に努める。

研究活動では、論文を1本以上公表する。

助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

担当補助科目については、担当教員とコミュニケーションをとり、体調管理に努める。研究は、引き続きデータを蓄積、論文執筆等に移行できるよう時間を有効的に活用する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・調理科学実験.
 - ・食事設計と調理実習.
 - ・応用栄養学実習.
 - ・食品化学実験（11 月から）.
 - ・食品学実験.
 - ・食品加工学実習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・食品衛生学Ⅱ（目白大学短期大学部）.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・田村友峰子，工藤美奈子，菊池裕．配食弁当の保存方法・時間の違いによる一般細菌数からみる安全性―第 2 報―，第 19 回日本給食経営管理学会学術総会，2024 年 11 月 30 日，京都．

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費．微生物からみる配食弁当の保存方法・時間の違いによる衛生管理手法の確立，研究代表者．

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム．2 月 16 日（土）．千葉県立保健医療大学幕張キャンパス．

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本給食経営管理学会．

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議（学科運営委員）．2 年生副担任．1 年生副担任（11 月から）．

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和 6 年度は、学外の非常勤講師として講義を持たせていただいたり、ほい大健康プログラムで講演をさせていただくなど新たな挑戦をした一年であった。事前準備を入念にしたつもりではあったが、見やすい資料の作成や講義の方法については反省点が多くあったが、具体的に改善策を見いだせたため、今後に生かしていきたい。特に、非常勤講師は来年度は 1 年間通していくことが決まったため、より一層、余裕をもって事前準備に取り組み、本務での教育研究に支障が出ないように、周りとのコミュニケーションを大切に、実験実習補助を円滑に進める。特に研究では、次年度以降も少しでも論文執筆にとりかかれるようにデータ蓄積を進めていきたい。

VII 次年度の目標

教育研究の業務バランスを意識し、計画的に取り組んでいく。特に研究活動では、前年度から継続している研究を発展させるとともに、これまでの研究成果の公表に取り組む。

助教 田中 佑季 博士（食品栄養学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度より青葉看護専門学校にて栄養学の授業を受け持つことになったため、授業資料の作成に力を入れた。本件は本学の仕事と直接はかかわらない内容ではあるが、本学の授業は今年度までですでに経験した内容のものが多くあるためほかに手を出す余裕ができていた。このため新たな挑戦を行うことと、栄養学という広い範囲で授業を行うことで改めて知識を見直すことを目標とした。また、前年同様成田市生涯大学院を引き受けている。前年の授業内容が評価されての再度の依頼であるため、引き続き次年度も依頼してもらえようような授業づくりを心掛ける。

次に研究について、前年度から引き続き千葉県産の野菜、特にカブを中心に抗酸化能の検討を行っている。本件の成果は栄養改善学会と学内共同研究の発表をそれぞれ 1 件ずつ控えており、さらに山形県立米沢栄養大学に 1 件紀要を出す予定になっている。現在取引している農場とコミュニケーションを取りつつ、引き続きデータの蓄積を行う。また今年度分の新規の学内共同研究は加瀬先生を筆頭に大学における研究・教育・事務業務での生成 AI 利用法に関する調査研究を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・生化学実験.
 - ・生理学実験.
 - ・基礎栄養学実習.
 - ・解剖学実験.
 - ・食品衛生学実験.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・栄養学（青葉看護専門学校）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・田中佑季, 佐塚正樹：千葉県産のカブの抗酸化能, 山形県立米沢栄養大学紀要, 11 号, 11-16, 2024 年.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・田中佑季, 佐塚正樹：Biological Antioxidant Potential Test を用いた千葉県産のカブ品種‘ゆきわらし’の抗酸化能, 第 71 回日本栄養改善学会学術総会, 2024 年 9 月 7 日, 大阪公立大学.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費, 大学における研究・教育・事務業務での生成 AI 利用法に関する調査研究, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本化成学会. 日本栄養改善学会. 日本酸化ストレス学会.

- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）
- ・成田市生涯大学院（講師 1/29, 2/10 成田市 生涯大学校）。

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・栄養学科3年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

まず教育について、本学の授業補助は例年通り滞りなくこなしている。さらに目標として取り組んだ青葉看護専門学校の授業と成田市の生涯大学院の両講義とも十分に準備をしたうえで臨み、こちらも問題なく全うしている。いずれとも、次年度も引き続きの依頼が来ているため及第点は取れていると自負している。また、前年より特にA棟101教室の試薬管理を行っておりこれが一段落している。具体的には古い試薬の処分とリスト化、現在保有している試薬の補充及びリスト化及び安全データシートの取得、廃液の処理などである。今後とも実験室の安全な運用のために整備を行う。

次に研究について、目標とした栄養改善学会及び本学の学内共同研究発表をいずれもこなしている。また米沢栄養大学の紀要を1件提出した。現在次年度に向けて農場と打ち合わせを行っており、今後も良好な関係を維持できるよう心掛ける。

VII 次年度の目標

教育について、引き続き本学の授業と非常勤講師を請け負う。本学と他施設の教育を両立させることを目標とする。特に実験室は古い機材が多いため、廃棄を含む片づけや貸与しているボンベの返却などを進める。授業内容に変更はないものの、退職に伴う授業の主担当の変更などで若干の対応の相違が予想される科目もあるため、早めの対応を心掛ける。

次年度は新1年生の副担任になるため、履修登録を中心に学生の不利益が起こらないよう留意する。

研究について、引き続き千葉県産野菜の抗酸化能を検討する。近いうちに直接農場に出向いて打ち合わせを行う予定になっているため、より良い関係を築きながら既存のデータの蓄積と、新規のデータの取得を検討する。

助教 樋口 誉誌子 修士（家政学）

対象期間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

学生の特徴を把握し学生指導に活かすため、コミュニケーションを活発にする。また博士課程の研究を進め、学位取得に向けて尽力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・給食経営管理臨地実習（事後指導）.
 - ・調理学実習.
 - ・栄養教諭教育実習（事後指導）.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・岩本直樹, 河合彩夏, 丹生小百合, 村上奈穂, 樋口誉誌子, 多賀昌樹: 桑の葉摂取が鉄欠乏性貧血マウスに及ぼす改善効果の検討, 第 22 回日本機能性食品医学会 総会 2024 年 12 月 18 日, 東洋大学 赤羽台キャンパス.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・千葉県栄養士会，日本給食経営管理学会，日本栄養改善学会，日本調理科学会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和 6 年度は，着任したばかりで，授業補助で手一杯になってしまい学生とコミュニケーションがとれなかった。令和 7 年度は副担任になっているので，積極的にコミュニケーションをとっていきたい。またファーストオーサーでの学会発表ができなかったため来年度は博士課程の研究をまとめ学会発表をしたい。

VII 次年度の目標

補助についている実習では，令和 6 年の反省を生かし，学びのサポートができるように学生の様子もうかゆい，授業がスムーズに行えるように補助をする。研究ではファーストオーサーで学会発表または論文投稿を行う。

助教 大津 佑太 修士（理学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2024 年 10 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育では、科目責任教員の運営方針を理解し、科目責任教員と学生とのコミュニケーションが円滑に行われるようサポートする。研究では、学術論文の投稿を 1 報以上、学会発表を 1 件以上行う。社会貢献・国際交流では、千葉県栄養士会への移籍手続きを行う。管理・運営では、大学説明会を 1 回以上担当する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・事前指導.
 - ・給食経営管理実習.
 - ・給食経営管理臨地実習.
 - ・栄養教諭教育実習.
 - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
 - ・公衆栄養学実習.
 - ・公衆栄養臨地実習.
 - ・食品化学実験.
 - ・体験ゼミナール.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大津佑太，鈴木莉望，柏原花織，井上広子：青年期女性の食事パターンと食嗜好との関連，第 78 回日本栄養・食糧学会大会，2024 年 5 月 24～26 日，福岡.
- ・竹内美稀，堀口みち瑠，溝口真優，古河美咲，伊藤優希，大津佑太，桑野稔子，辻ひろみ，井上広子：学童期の子どもにおける咀嚼回数と食・生活習慣および食への興味関心との関連，第 71 回日本栄養改善学会学術総会，2024 年 9 月 6～8 日，大阪.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)，食塩・野菜摂取の意識改革アプローチとヘルスリテラシー獲得のための栄養教育介入，研究分担者.
- ・学内共同研究，減塩かまぼこの介入研究のための予備的研究：食品分析実験および食習慣調査，研究代表者.
- ・学長裁量研究，災害時の避難生活で活用できる食品としての高機能豆乳の開発に向けた成分分析，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養・食糧学会，日本栄養改善学会，日本栄養士会，千葉県栄養士会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・1年生副担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育、研究、社会貢献・国際交流について、達成度は半分程度であり、在職期間からして妥当であったと思われる。大学説明会を担当する機会がなく、管理・運営分野においてあまり貢献できなかったことが心残りである。

齒科衛生學科

教授（兼）学科長 酒巻 裕之 博士（歯学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、学生の様子から解説の工夫をして講義を進める。各授業では継続して、Forms を活用し、自己省察できる振り返り課題に解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行い、評価する。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者に対する口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、広報委員会委員長として委員会の運営を行い、本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会、大学案内や広報誌の発行を行い、高校説明会に参加について、検討する。教務委員会、人事委員会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会の委員として委員会所掌を遂行する。学科長として学科の運営に、歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わる。

研究面では、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第 6 回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、引き続き感染症対策に留意して歯科診療を行う。大学の方針に則り、ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・口腔病理学.
- ・歯科医療安全論.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅰ.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・顎口腔機能リハビリテーション演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ.
- ・継続・個別支援実習Ⅰ（3 年次）.
- ・継続・個別支援実習Ⅱ（4 年次）.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ（3 年次）.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ（4 年次）.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②、口腔外科学（診療の基本-②）、日本大学松戸歯学部 兼任講師.
- ・顎口腔外科学、北原学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師.

Ⅲ 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・樺沢勇司，澁井武夫，高田訓，原田浩之，津島文彦，宮坂孝弘，鎌谷宇明，柳本惣市，藤澤健司，戸谷収二，志茂剛，吉岡泉，野間 昇，江口貴子，前田 茂，樋口 仁，山口秀紀，野村明美，讃岐拓郎，酒巻裕之，菅野亜紀，大屋朋子，池上由美子：歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・ 歯科麻酔学 第2版，2024，医歯薬出版株式会社，東京。
- ・麻賀多美代，足立了平，渥美信子，阿部佳子，天野理江，荒木美穂，有井真弓，池上由美子，市川智恵，伊藤 奏，上原弘美，大塚紘未，小倉千幸，鍵福祐子，片岡あい子，加藤真莉，木戸田直美，久世恵理子，後藤君江，酒巻裕之，白鳥たかみ，筋野真紀，鈴鹿祐子，鈴木香保利，鈴木奈津子，多田美穂子，土田智子，鶴田 潤，中村まゆみ，仁井谷善恵，長谷川稔洋，畑山千賀子，深山治久，前田豊美，升井一朗，松田悠平，宮坂孝弘，宮崎晶子，山田小枝子：歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版，2024，医歯薬出版株式会社，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・秋葉雄登，浅野一磨，須藤亜紀子，中田康一，酒巻裕之，秋葉正一：癒着した下顎埋伏智歯の抜歯に起因する下顎骨折の1例，Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery, 36, 1, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，佐々木みづほ，山中紗都，栗原涼子：ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管デモンストレーションの有用性に関する検討，第43回日本歯科医学教育学会学術大会，2024年9月7日，名古屋。
- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，松木千紗，栗原涼子，石川裕子，鈴木英明：口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施報告，第15回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会，2024年12月1日，大阪。

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療 2009年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・日本口腔外科学会専門医（第770号） 1996年10月1日～現在に至る。
- ・日本口腔外科学会指導医（第664号） 2001年10月1日～現在に至る。
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日～現在に至る 糖尿病患者の歯科診療に当たる。
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日～現在に至る 2015年2月16日全国に名簿が公表される。
- ・日本口腔科学会指導医 2017年12月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会専門医（第65号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・日本口腔内科学会指導医（第44号） 2019年10月1日～現在に至る。
- ・ICD協議会インфекションコントロールドクター（ICD）（第MC 0202号） 2020年1月1日～現在に至る。
- ・千葉市口腔がん検診 検診医 2024年7月1日～2025年1月15日 検診数72件 千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医（第2018-262号） 2018年3月18日～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔内科学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔診断学会, 日本臨床口腔病理学会, 日本臨床細胞診学会, 日本有病者歯科医学会, 日本老年歯科医学会, 日本小児歯科学会, 日本大学口腔科学会, 日本看護技術学会, 日本医療安全学会, 日本口腔ケア学会, 日本公衆衛生学会, 日本顎顔面インプラント学会, 日本医学教育学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本大学口腔科学会, 評議員, 2007年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本口腔科学会, 評議員, 2009年4月1日～現在に至る。

- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日～現在に至る. 理事. 2018年3月21日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 財務委員会. 2022年4月1日～2024年3月31日.
- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科医学教育学会. 評議員. 2019年4月1日～現在に至る.

7 その他

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会. 監事. 2022年4月1日～2024年3月31日
- ・ほい大健康プログラム. 講師. 2024年11月2日. いすみ市.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 将来構想検討委員会. 大学運営会議. 自己点検評価委員会. 教務委員会. 広報委員会（委員長）. 入試改革検討委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 教務委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和6年度は、学生の様子から自身の臨床経験を含めて解説の工夫をして講義を進めた。各授業では継続して、授業の振り返りにはFormsを活用し、授業内容から問題を作成して解説するとともに、自己省察できる振り返り課題に解答するよう進めた。また個人担当科目の「顎口腔外科学」「顎口腔機能論」「口腔病理学」では、学生はポートフォリオ作成を行った。ポートフォリオの評価は、定期試験実施直後に行った。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者に対する口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続した。「歯科診療室総合実習」では、千葉市口腔がん検診事業の検診医として、歯科診療室で口腔がん個別検診を行った。検針期間中に「歯科診療室総合実習Ⅰ」の臨床実習があり、学生が口腔がん検診を見学することができた。歯科衛生士が口腔全体の観察をすることに参考になり有意義な実習になったと考えられた。「病院実習」では、実習施設指導者と綿密な打ち合わせを行い、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、学生は全員が6施設に分かれて予定通り3週間の実習スケジュールで学ぶことができた。

大学の管理・運営について、令和5年度から広報委員会委員長として委員会の運営を行った。本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会のオーガナイズを行った。高校説明会に参加可否について検討し、参加の場合、学科専攻に参加の依頼を行った。令和6年度は、大学パンフレットを大幅に変更して、自宅通学や下宿している学生の生活やサークル活動紹介のページを設け、高校生に本学の学生生活が想像できるよう配慮した編集を行った。広報誌「ほいだい」第2巻を編集し発行した。大学運営会議、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、教務委員会、人事委員会の委員として委員会所掌を遂行した。学科長として学科の運営、歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わった。

研究面では、令和4年度採択学内共同研究費「ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管デモンストレーションの有用性に関する検討」、令和5年度採択学長裁量研究費「口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施」の研究成果をそれぞれ学会報告した。

社会貢献について、歯科診療室において感染対策に留意して歯科診療を継続するとともに、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）事業の検診医として72件の検診を行い、地域住民に貢献した。大学の方針に則り、令和6年11月2日いすみ市で開催されたほい大健康プログラムにおいて講師を務めた。歯科衛生士のリカレント教育として、同窓会歯科衛生学科分会で、「研究のあり方」「医療経済」に関する講演が行われた。

VII 次年度の目標

令和7年度は、学生の様子から、教員自身の経験をふまえて歯科衛生士として参考となることを伝え、臨床の場が想像できるよう解説の工夫をして講義を進める。各授業では継続して、Formsを活用し、自己省察できる振り返り課題に解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行い、評価する。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、図書館長ならびに図書委員会委員長として、図書館ならびに委員会の運営を行い、図書館利用の促進を図る。また、本学の機関リポジトリ運用規定を作成し、運用を開始する。大学運営会議、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、教務委員会、の委員として委員会所掌を遂行する。歯科診療室長として歯科診療室の運営に携わる。

研究面では、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第6回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、引き続き感染症対策に留意して歯科診療を行う。大学の方針に則り、ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する。

教授（兼）副学長 大川 由一 博士（歯学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では演習および実習科目を中心に学生の自己主導型学習を支援する。研究活動では引き続き学内外の研究者と共同研究に取組み、その成果を公表する。社会貢献では地域住民を対象とした歯科診療とほい大健康プログラム等の社会活動に取り組む。学内の管理運営では、学長、学部長、学科専攻長、学内委員長、事務局と連携しながら学内の諸課題に適切に対応する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・口腔衛生学.
- ・地域歯科衛生学.
- ・衛生行政.
- ・地域歯科衛生演習.
- ・歯科衛生統計演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・地域歯科衛生実習.
- ・歯科診療室総合実習 I.
- ・歯科診療室総合実習 II.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・歯科医療管理学（東京歯科大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・村上秀明，天野 修，大川由一，西村 康，吉田 篤 監修：イラストでわかる歯科医学の基礎 第 5 版，2026，永末書店，京都.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・木下睦実，鈴鹿祐子，大川由一，石川裕子：某大学歯科衛生学生におけるお薬手帳の認識と活用に関する調査，日本歯科衛生学会雑誌，19 号，23-31，2025 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井大貴，平田創一郎，田代宗嗣，大澤航介，大川 由一：地理情報システムによる歯科訪問診療高齢者人口カバー率 二次医療圏別全国調査，第 83 回日本公衆衛生学会総会，2024 年 10 月 30 日，札幌市.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2009年4月～2025年3月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会、理事、2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会、教育委員会理事、2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会、教育問題検討委員会委員、2014年4月1日～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会、認定委員会委員、2014年4月1日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会、日本公衆衛生学会、日本歯科医療管理学会、日本歯科医学教育学会、社会歯科学会、日本歯科衛生教育学会、東京歯科大学学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会、監事、2022年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、評議員、2022年4月1日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、編集委員会査読委員、2013年4月1日～現在に至る。
- ・日本口腔衛生学会、歯科衛生士委員会委員、2017年5月31日～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会、倫理審査委員会委員、2021年6月13日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・2024年度東京歯科大学大学院講義、臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について、東京歯科大学大学院生、2024年12月12-13日、東京歯科大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、将来構想検討委員会、総務・企画委員会、教員再任審査委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、教員資格審査委員会（理学・講師）2024.6.17～、教員資格審査委員会（歯科・准教授）2025.3.12～、教員資格審査委員会（歯科・共通教育・教授）2025.3.17～、教員資格審査委員会（歯科・教授）2025.3.17～。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科 第2学年担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では Teams の活用を図りながら対面授業で学生の自己主導型学習を支援した。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取組み、その成果を学会および論文として公表した。社会貢献では通年にわたり地域住民を対象とした歯科診療を担当した。学内の管理運営では副学長として、学長、学部長、学科専攻長、学内委員長、事務局と連携しながら学内の諸課題に適切に対応した。

教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

定年を迎える年度にあたり，学内共同研究費をいただいで開拓した研究フィールドを，共同研究者が継続してくださるのであれば，にスムーズに引き継ぎできるように努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名).

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・前・後期 健康スポーツ科学.
- ・前・後期 生涯身体運動科学.
- ・運動生理学総論.
- ・健康と運動.
- ・生理学実験.
- ・卒業研究

2) 他大学，大学院等の非常勤講師 (科目名，大学名).

- ・国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 (国立健康・栄養研究所 身体活動研究部 客員研究員).

III 研究記録

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等. 本人下線)

- ・Mieko Shimada, Hiroyo Suto, Yutaka Yoshitake, Makoto Ayabe, Mamoru Nishimuta, Yasuo Kimura, Takuro Tobina, Taro Okamura, Yuya Narita, Masahiro Edo, Makoto Arakawa, Mizuho Sasaki, Minako Kudo, Michiyo Asai, Jun Kaneko, Mai Kono, Kaname Nohno, Nobuko Hongu: The relationship between height changes over 10 years and life prognosis, 71th American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2024, Boston.
- ・Yasuo Kimura, Mamoru Hisatomi, Toshinobu Ikegami, Kazuko Ohki, Emi Mori, Mieko Shimada, Nobuko K. Hongu, Fitness Benefits Of Nordic Walking In Community-dwelling Older Japanese Women. 71th American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2024, Boston.
- ・島田美恵子 工藤美奈子. 地域健康体操教室参加の後期高齢者における低栄養を予防する栄養指導効果について, 2024 年 9 月, 第 71 回日本栄養改善学会, 大阪
- ・工藤美奈子, 島田美恵子. 地域健康体操教室参加の高齢者における簡易栄養状態評価のスクリーニング結果と体重変化について, 2024 年 9 月, 第 71 回日本栄養改善学会, 大阪
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 成田悠哉, 江戸優裕, 工藤美奈子, 荒川真, 佐々木みづほ, 松木千紗, 浅井美千代, 金子潤, 河野舞. 健康体操教室に通う高齢者における日常生活の微少活動時間の変化, 2024 年 9 月, 第 78 回日本体力医学会, 佐賀.
- ・江戸 優裕, 菊池 咲葵, 松尾 真輔, 島田 美恵子, 大学生における関節弛緩性とスポーツ傷害の関係—部位と損傷組織を踏まえた検討—, 第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第 30 回千葉県理学療法学会, 2024 年 10 月, 幕張メッセ国際会議場. 千葉
- ・山本直史, 濃野 要, 島田美恵子, 東恩納 怜代, 永山 寛, 吉武裕, 高齢者における 1 日 1,000 歩の増加と総死亡リスク: Target Trial Emulation を用いた検討, 日本体育測定評価学会第 24 回, 2024 年 3 月, 日本医科大学 武蔵境キャン

ンパス, 東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究 高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係, 研究代表者.
- ・学長裁量研究 演習, 実験・実習科目における教員指導の自己評価について, 研究代表者から研究分担者へ変更.
- ・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2022－2024 超高齢期における口腔機能低下を栄養摂取と身体的フレイルから考える, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2024－2027 1日の総歩数と総死亡の関連-70歳から100歳までの30年間にわたる長期縦断的研究- 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称, 活動期間, 場所等）

1) 千葉県内

- ・松戸市東部地区社会福祉協議会ふれあい広場 2025年11月24日 松戸第5中学校.

2) 千葉県外

- ・横須賀市浦上台北町内会 清掃活動.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・流山市南部地域包括支援センター 健康体操教室指導, 2024年4月～2025年3月（計12回）流山ケアセンター.
- ・幕張ファミールハイツ体操教室 2024年4月～2025年3月第2・第4月曜日午後（計19回）, ファミールハイツ集会所.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本体力医学会, 日本体育・健康スポーツ学会, 日本測定評価学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本口腔衛生学会, 日本公衆衛生学会, 大学体育連合, 日本疫学会, American College of Sports Medicine.

2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）

- ・Healthcare 1 編.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）

- ・柏シルバー大学院38期, 健康づくりのための座位時間, 2024年9月19日, アミュゼ柏.
- ・松戸市健康推進員研修会, 正しいウォーキングの方法について, 2024年10月16日, 松戸市中央保健福祉センター.
- ・歯科衛生学科分会ホームカミングデイ, 歯科衛生士の未来に向けて～保医大生につなぐ 歩んだ道と想い～, 2025年2月16日, 千葉県立保健医療大学.
- ・柏シルバー大学院生涯課程B組, 今日の1歩が明日につながる 生活のなかの体力づくり, 2025年3月4日, 野村証券 柏支店3階ホール.
- ・教職員のための特別企画, 社会貢献への理解を深める:さまざまな社会貢献の方法（地域連携）, 2025年3月18日, 千葉県立保健医療大学.

7 その他

- ・バスケットサークル OB/OG会支援 2025年11月23日 千葉県立保健医療大学体育館.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・特色科目運営会（委員長）、共通教育運営会議、研究倫理審査委員会、動物部会、図書委員会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・2年生チューター。
- 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞
 - ・松戸市健康推進員だより第7号 原稿「正しいウォーキングの方法について」。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学内共同研究採択課題につい、共同研究者とともに地域に出向き、データの取得に努めた。引き続き論文投稿に励む。特色科目「社会実習」開講を補佐し、その内容や運営について検討した。

VII 次年度の目標

非常勤講師として、充実した講義の実施に励む。学内共同研究課題、学長裁量研究課題を論文にする。

教授 石川 裕子 博士（歯学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2024 年 9 月 30 日まで

I 年度当初の目標

授業および実習については、今後作成される歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラムの内容や新々カリキュラム内容を勘案しながら内容改善を行う。昨年度でできなかった歯科衛生学教育をテーマとする研究を計画・実施する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・歯科衛生学概論.
- ・歯科保健指導・健康教育論.
- ・歯科保健指導演習 II.
- ・永続個別支援実習 II.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之，鈴鹿祐子，松木千紗，栗原涼子，石川裕子，鈴木英明：口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施報告，第 15 回日本歯科衛生教育学会学術大会，2024 年 11 月 30 日-12 月 1 日，大阪.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2018 年 9 月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，理事，2021 年 6 月～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員長，2021 年 6 月～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会委員，2021 年 6 月～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム検討会 4 大部会委員，2024 年 1 月～現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科基礎医学会，日本歯科医学教育学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，理事長，2022 年～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会，常任理事・理事，2016 年～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2013 年～現在に至る.

7 その他

- ・医歯薬出版株式会社、「歯科衛生学シリーズ 生化学・口腔生化学」編集委員、2023 年 5 月～2024 年 6 月。
- ・医歯薬出版株式会社、「歯科衛生学シリーズ 栄養学」編集委員、2023 年 7 月～2024 年 6 月。
- ・医歯薬出版株式会社、「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置保健指導論」第 2 版校正 2024 年 5 月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、総務・企画委員会、入試実施委員会、入試改革検討委員会、研究倫理審査委員会、認証評価部会、教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科教員欠員が 2 名があり、私自身も療養休暇を 8 月に取得、退職のため 4～9 月までの勤務となったが、学科内の教員と協力し前期の予定していた授業・実習等を全て行うことができた。また、後期に行うことになっていた授業に関しては、前倒しで準備を行い、他の教員に引き継ぐことができた。歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム（全国歯科衛生教育協議会主催）は 9 月の時点でまだ作成途中であったが、新々カリキュラム内容を決める際にこれまでの授業経験等を合わせて勘案することができた。

教授 鈴鹿 祐子 博士（口腔保健福祉学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、特に教育については、新たに担当する科目を中心に準備を十分行い学生が理解しやすい授業をするよう工夫を心掛ける。研究については、昨年に学会発表したものを論文投稿し、さらにブラッシュアップした研究に着手する。また、積極的に職能団体などとの連携・交流を行い、地域社会に貢献していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科医療安全論.
- ・歯科衛生学概論
- ・発達歯科衛生学 I（小児）.
- ・リスクマネジメント論.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・歯科衛生体験演習 II.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習 I・II.
- ・継続・個別支援実習 I・II.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・地域歯科衛生演習
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・麻賀多美代，足立了平，渥美信子，阿部佳子，天野理江，荒木美穂，有井真弓，池上由美子，市川智恵，伊藤奏，上原弘美，大塚紘未，小倉千幸，鍵福祐子，片岡あい子，加藤真莉，木戸田直美，久世恵里子，後藤君江，酒巻 裕之，白鳥たかみ，筋野真紀，鈴鹿祐子，鈴木香保利，鈴木奈津子，多田 美穂子，土田智子，鶴田潤，中村まゆみ，仁井谷善恵，長谷川稔洋，畑山千賀子，深山治久，前田豊美，升井 一朗，松田悠平，宮坂孝弘，宮崎 晶子，山田 小枝子：歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論第 2 版，2025，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・木下 睦実，鈴鹿 祐子，大川 由一，石川 裕子：某大学歯科衛生学生におけるお薬手帳の認識と活用に関する調査，日本歯科衛生学会雑誌，19（2）：23～31，2025.
- ・鈴鹿 祐子，成田 悠哉，渡辺 陵介，西村 克枝，須藤 崇行，麻賀多美代，大川 由一，岡村 太郎：「歯磨き行為による認知評価」の試み，千葉県立保健医療大学紀要，16（1），111～116，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻 裕之，鈴鹿 祐子，佐々木 みづほ，山中 紗都，桑原 涼子：ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管のデモンストラーションの有用性に関する検討，第43回日本歯科医学教育学会学術大会，2024年9月6日～7日，名古屋。
- ・鈴鹿 祐子，櫻井 真人，仙波 久美，馬場 静香，榎本 亜弥子，金久 弥生，門脇 明美，鱒淵 芳江：千葉県歯科衛生士育成協議会の活動報告，第18回千葉県歯科医学大会，2024年11月10日，千葉市。
- ・酒巻 裕之，鈴鹿 祐子，松木 千紗，桑原 涼子，石川 裕子，鈴木 英明：口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施報告，第15回日本歯科衛生教育学会学術大会，2024年11月30日～12月1日，大阪。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・第1回いすみ市新・ほい大健康プログラム，2024年11月2日，いすみ市役所。
- ・第2回UR新・ほい大健康プログラム，2024年11月9日，URさつきが丘団地。
- ・第1回健康教室，2025年1月25日，千葉県立保健医療大学。
- ・いい歯のイベント2024・千葉県口腔保健大会，「スマイルアップ・ちば体操」，2024年11月10日，ホテルミラマーレ。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2024年4月～2023年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員，2019年4月1日～現在に至る。
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員長，2024年6月5日～現在に至る。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会，理事，2023年4月1日～現在に至る。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士会，理事（学術），2024年6月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯周病学会，日本歯科衛生学会，日本咀嚼学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2021年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，理事，2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会委員，2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会抄録査読委員，2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，規程検討委員会副委員長，2022年4月～2025年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・令和6年度 日歯認定歯科助手講習会，千葉県歯科医師会，バキュームテクニック，2024年9月8日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学生委員会、教務委員会、社会貢献委員会、研究倫理審査委員騎亜、第4時カリキュラム作成作業部会、相談員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義科目は教材の見直しを行い、国家試験の例題などを更新して復習しやすいような資料を配布するなど工夫をした。学内外の実習は安全に配慮し充実した実習を無事に終えた。研究は短報であるが前年度、学会発砲したものを論文掲載でき、美ラッシュアップした研究に着手できた。社会貢献は新・ほい大プログラムを通じ、また千葉県歯科衛生士会を通して積極的に行った。

VII 次年度の目標

教育については、新たに担当する科目を充実させるための資料作り、担当する実習の見直しを行い効率的で効果的な授業を行う。また、学科の先生方と授業充実のための方法や分担を検討する。

研究については、昨年に実施したものを学会発表し、新たな研究に着手する。学内の管理運営に積極的に関わり、また、職能団体、学会などとの連携・交流を行い、地域社会に貢献していく。

准教授 荒川 真 博士（歯学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 7 年度は、教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・歯周治療学.
- ・歯科保存学.
- ・国際歯科衛生学.
- ・歯科材料学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県の健康づくり.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）、大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討、研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費。（一般）高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療. 2016 年 4 月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・口腔機能向上プログラム. 2020 年 8 月～現在に至る. 流山市南部地域包括支援センター.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会. 教育・研究委員. 2024 年 4 月～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会. 日本歯周病学会. 日本歯科色彩学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本歯科医学教育学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会. 研究倫理審査委員. 2019 年 4 月～現在に至る.

- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）
- ・ほい大プログラム 講話「定期的な歯科受診で得られるメリット」2024年11月9日、UR さつきが丘団地。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・千葉県健康づくり作業部会（部会長）、紀要編集部会（部会長）、衛生委員会（衛生管理者）、自己点検・評価実施推進部会、学術推進企画委員会、共通教育運営会議、教育研究年報作成部会、大学院検討ワーキンググループ、研究関連規則整備ワーキンググループ。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

《歯科診療室》

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間にも、木曜日以外の毎日9:30から16:00の間、診療を継続してきた。

《千葉県健康づくり作業部会》

「部会長」として、本学における特色科目たる「千葉県健康づくり」の円滑な運営・進行に貢献した。

《紀要編集部会》

「部会長」として、千葉県立保健医療大学紀要の発行に貢献した。

《衛生委員会》

「衛生管理者」として、毎週学内の定期的巡視を行った。

VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

准教授 佐々木 みづほ（歯科衛生学科）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

- ・高齢社会で継続的に活躍する衛生士を育てるための教育を実施する。
- ・県民への最大奉仕となる優れた医療人の輩出を継続するため、大学運営に直結する委員会において積極的に活動する。
- ・歯科衛生教育分野の発展に寄与できるような研究を実施する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・歯科診断学。
- ・歯科補綴学。
- ・チーム歯科医療論。
- ・発達歯科衛生学Ⅱ。
- ・発達歯科衛生実習Ⅱ。
- ・歯科衛生基礎演習。
- ・歯科診療補助演習。
- ・歯科診療室基礎実習。
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ。
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ。
- ・病院実習。
- ・卒業研究。
- ・専門職間の連携活動論。

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・佐々木みづほ，山形摩紗：生涯を通じて活躍するしか衛生士の教育を目指した基礎的研究，歯科医学教育学会，2024 年 9 月 6-7 日，愛知学院大学名城公園キャンパス，名古屋。
- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，工藤美奈子，荒川真，佐々木みづほ，松木千紗，浅井美千代，金子潤，河野舞：健康体操教室に通う高齢者における日常生活上の微小活動時間の変化，日本体力医学会，2024 年 9 月 2-4 日，佐賀大学本庄キャンパス，佐賀。
- ・Mieko Shimada, Hiroyo Suto, Yutaka Yoshitake, Makoto Ayabe, Mamoru Nshimuta, Yasuo Kimura, Takuro Tobina, Taro Okamura, Yuya Narita, Masahiro Edo, Makoto Arakawa, Mizuho Sasaki, Minako Kudo, Michiyo Asai, Jyun Kaneko, Mai Kono, Kaname Nohno, Nobuko Hongu: The Relationship Between Changes In Height over 10 Years And Life Expectancy, ACSM, 2024 May 28-31, Boston.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・高校生進学説明会, 2024 年 9 月 19 日, 千葉ペリエホール（参加者少数で中止）.
- ・高校生対象大学見学会（県立流山おおたかの森高校）, 2024 年 11 月 8 日, 千葉県立保健医療大学.
- ・ほい大健プログラム, 2025 年 1 月 25 日, 千葉県立保健医療大学.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療, 2024 年 4 月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・千葉市口腔ケア事業口腔機能評価, 2023 年 4 月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年歯科医学会, 日本咀嚼学会, 日本補綴歯科学会, 日本総合歯科学会, 日本歯科医学教育学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌編集委員会 査読委員 2024 年 4 月～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・公開講座, お口の衰えは「寝たきり」への第一歩!?!お口の全身の関係, 一般市民, 2024 年 10 月 13 日, 千葉県立保健医療大学.

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学紀要査読担当.
- ・「ぽ～れば～れ」推薦図書コーナー執筆

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進委員会, 学内共同研究審査部会, 危機管理委員会, 広報委員会, 認証評価部会, 専門職間の連携活動論作業部会, 学長候補者選挙に係る意向調査委員会委員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科 4 年生チューター.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・高齢社会で継続的に活躍する衛生士を育てるための教育を実施する。
授業, 演習, 診療室実習を通して高齢社会における歯科衛生士の重要性を説き教育するように努力した。国家試験の合格率は 100%, 県内就職率も 60% となり, 今後も千葉県にて活躍する衛生士を育てる教育を続けたい。
- ・県民への最大奉仕となる優れた医療人の輩出を継続するため, 大学運営に直結する委員会において積極的に活動する。
委員会では大学案内や SNS 広報にも力を入れ活動し入学者の確保に努めた一方, 学内の運営に関わる業務も他学科教員・事務局職員と協力し遂行できた。
- ・歯科衛生教育分野の発展に寄与できるような研究を実施する。
前年度から実施していた研究を学会発表という形で社会へ公表した。引き続き論文という形で公表できるように努力する。

VII 次年度の目標

- ・ 歯科衛生教育分野の発展に寄与できるような研究を引き続き実施していく.
- ・ よりよい教育を実施するため, 基盤となる大学運営を委員会の活動から支える.
- ・ 卒後生涯活躍できる歯科衛生士を育てるための教育を実施する.

准教授 山村 有希子 博士（歯学）

対象期間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度 10 月 1 日に入職したため、本学の教育活動、大学運営のための委員会等に 1 日も早く慣れるよう努力する。教育活動では演習および実習科目を中心に学生の自主性を重んじた教育を支援する。研究活動では所属する学会への論文投稿を目指す。社会貢献では 3 つの学会の理事、幹事、委員会委員を担当しており、それぞれの役職を通して社会に貢献できるように学会活動に従事する。学内の管理運営では、入試実施委員として、他学科、事務局と協同して活動に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・歯科衛生体験演習 I.
- ・歯科保健指導演習 I.
- ・歯科診療所実習.
- ・歯科診療室総合実習 I.
- ・継続・個別支援実習 I.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・山村有希子, 松岡紘史, 三浦宏子: 歯科衛生士養成機関における禁煙支援教育の状況」日衛教育誌. 15 (2), 71-83, 2024.
- ・Aiko Hoshiai, Yukiko Yamamura, Hiromi Otsuka, Yujeong Shin, Itsuki Takazawa, Seiko Toraya, Yumi Ishikawa, Ken-ichi Tonami: Pilot Survey for Developing A Perioperative Oral Health Management Educational Program. On J Dent & Oral Health. 8(1): 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・Yumi Ishikawa, Aiko Hoshiai, Yukiko Yamamura, Yujeong Shin, Itsuki Takazawa, Seiko Toraya, Yasuyuki Tanahashi, Ken-ichi Tonami: Survey on Oral Frailty of Hospitalised Older Patients in Acute Medical Hospitals. International Symposium on Dental Hygiene 2024, Korea(Seoul), 2024, 7.
- ・Aiko Hoshiai, Yukiko Yamamura, Hiromi Otsuka, Yujeong Shin, Itsuki Takazawa, Yumi Ishikawa, Ken-ichi Tonami: Pilot survey for developing a perioperative oral health management educational program. International Symposium on Dental Hygiene 2024, Korea(Seoul), 2024, 7.
- ・石川由美, 星合愛子, 山村有希子, 虎谷斉子, シンユジョン, 高澤維月, 伊藤佳七子, 礪波健一, 金子 潤: コロナ禍に学んだ新人歯科衛生士への教育支援状況に関する実態調査. 第 15 回日本歯科衛生教育学会学術大会, 枚方, 2024 年 12 月.
- ・高澤維月, 星合愛子, 山村有希子, シンユジョン, 石川由美: 全国の歯科衛生士養成機関におけるシミュレーション教育の導入状況に関する調査. 日本歯科衛生学会第 19 回学術大会, 新潟, 2024 年 9 月.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・宮田奨励研究助成金, QLF を利用した DX 口腔健康管理方略の開発, 礪波健一／石川由美, 星合愛子, 山村有希子, 虎谷斉子, シンユジョン, 高澤維月
- ・宮田奨励研究助成金, オーラルフレイルと味覚感受性関与の解明—サルコペニア肥満予防対策に向けた実態調査, 石川

- 由美／礪波健一，星合愛子，山村有希子，虎谷齊子，シンユジョン，高澤維月，伊藤佳七子
- ・宮田奨励研究助成金，周術期等口腔機能管理における専門的口腔衛生処置のシュミレータの製作，星合愛子／礪波健一，石川由美，山村有希子，シンユジョン，高澤維月，虎谷齊子

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2024 年 10 月～2025 年 3 月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本老年歯科医学会，日本口腔衛生学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本禁煙学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県学校保健学会理事 2022 年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会幹事 兼任 企画第一委員会委員長 2023 年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会 教育活動委員会委員 2022 年～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

すべて新規に担当する科目が多かったため，準備を十分行い，学生が理解しやすい授業資料の作成および授業の実施を心掛けた。演習・実習については学生および患者への安全に配慮し，効率的な授業展開と丁寧な対応を心がけた。所属学会の役職に関する業務についても責任をもって取り組み，学会に貢献することができた。

VII 次年度の目標

教育については，新たに担当する科目を中心に準備を十分行い学生が理解しやすい授業資料の作成及び授業の実施を心掛ける。研究については，年度内に 2 編の論文投稿ができるよう努力する。また，昨年度できなかったボランティア活動に積極的に取り組み，地域社会に貢献していく。

講師 佐久間 貴士 修士（工学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

次年度は着任 5 年目となるが、毎年ではあるがなかなか難しい本学の独特な環境への順応と理解に務めることを目標とする。また、昨年から立ち上がっている次期情報システムワーキンググループ会議が準備委員へと形態を変化させ、それが情報システム委員会となり正式に立ち上がった。このような委員会活動を通して、本学の環境整備と運営に引き続き、尽力し貢献できるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・情報リテラシーⅠ.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・情報リテラシーⅡ.
 - ・情報倫理.
 - ・卒業研究.
 - ・社会実習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・線形代数学演習（立正大学）.
 - ・コンピュータ・リテラシー（日本大学）.
 - ・情報科学（日本赤十字看護大学）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・中嶋克成, 寺田篤史, 佐久間貴士：留学生への情報教育における反転授業の意義 - 日本人学生と留学生へのアンケート調査分析から -, 関西教職教育研究 第 17 号, pp.15-28, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・Takashi Sakuma, Akinori Kawachi, Shun Okuhara：Secure Computation for Multi-Issue Negotiation, 9th IEEE/ACIS International Conference on Big Data, Cloud Computing, and Data Science (BCD 2024-Summer), The 1st Workshop on ICT for Decision-Making (WICT-DM 2024), July 16-18, 2024, Kitakyushu International Conference Center Kitakyushu, Japan.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・令和 6 年度 公開講座. 10/13 13:00-15:45. 千葉県立保健医療大学.
 - ・2024 年度 UR 団地 ぽい大健康プログラム. 11/19 10:00-12:00. さつきが丘団地 第 1 集会所.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・国際 ICT 利用研究学会、情報文化学会、教育システム情報学会、コンピュータ利用教育学会、情報システム学会、日本環境教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・国際 ICT 利用研究学会、理事、2016 年 4 月～現在に至る。
- ・国際 ICT 利用研究学会、全国大会審査委員会、2025 年 12 月 1 日。
- ・BCD2024-Summer .Registration Chair、July 16-18, 2024.
- ・BCD2024-Summer .Chairperson、July 17, 2024.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会、危機管理委員会、共通教育運営会議、社会貢献委員会、IR 部会、体験ゼミナール作業部会、相談員、社会実習作業部会、情報システム委員会、新カリキュラム作成作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学部内外の授業を複数担当するとともに、他大学での非常勤講師や公開講座の運営を通じて教育面での貢献を果たした。また、学会発表や論文執筆など研究活動にも継続して取り組み、一定の成果が得られた。加えて、情報システム委員会の立ち上げや全学的な委員会活動への参加を通じて、本学の運営や環境整備にも貢献した。一方で、本学特有の文化や制度、組織的な意思決定プロセスに対する理解が不十分な場面も見られ、業務の効率性や連携の円滑化に課題が残った。今後は、より主体的に情報を収集し、他部門との連携強化を図る必要がある。

VII 次年度の目標

次年度も教育・研究・社会貢献をバランスよく推進するとともに、本学の環境整備や運営に主体的に関与する。正式に設置された情報システム委員会の活動を軸に、必要に応じて DX 推進や情報インフラ整備にも貢献する。令和 4 年度に続き今年度も入学者選抜試験の作成に携ることになった経験や、情報システム管理者としての任命を踏まえ、教育・運営両面での責任を果たす努力をする。学生の主体性を促す授業設計と、多様な分野との連携による研究発信を重視し、組織内の円滑な協働と意思疎通を目指す。

講師 山中 紗都 修士（障害科学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

育児休業からの復帰となるため、基本となる教育活動に専念する。研究活動についてはこれまでの研究をまとめるとともに、今後の研究活動の計画を立てていきたいと考える。ワークライフバランスを考え、無理のない活動が続けていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・千葉県の健康づくり.
 - ・歯科診療補助演習.
 - ・歯科衛生アセスメント論.
 - ・顎口腔機能リハビリテーション演習.
 - ・歯科保健指導演習 I.
 - ・歯科衛生体験演習 I.
 - ・発達歯科衛生学 II（成人・高齢者）.
 - ・歯科診療補助演習.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療所実習.
 - ・継続・個別支援実習 I・II.
 - ・発達歯科衛生実習 II（成人・高齢者）.
 - ・歯科診療室総合実習 I・II.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・山中紗都，河野 舞：視覚障害者における歯科保健行動についての実態調査，第 41 回日本障害者歯科学会，2024 年 12 月 14 日，沖縄.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，演習，実験・実習科目における教員指導の自己評価について，共同研究者.
- ・学長裁量研究，唾液の分泌を促進しうる着香マスクの開発，共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・第 2 回 UR ほい大プログラム，2024 年 11 月 9 日，さつきが丘団地.
 - ・第 31 回歯みがき&でんたるカップミニサッカー大会（千葉市歯科医師会主催），2024 年 12 月 8 日，千葉ポートアリーナ.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続・個別支援実習、歯科診療補助の実施、2024年4月～2025年3月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会、日本歯周病学会、日本有病者歯科医療学会、日本歯科審美学会、日本口腔ケア学会、日本障害者歯科学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生学会、総務委員、2021年6月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、評議委員、編集委員、利益相反委員、2022年～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和6年度 日歯認定歯科助手講習会、千葉県歯科医師会、吸引操作の実習、歯科助手対象、2024年9月8日、千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員会、学内共同研究審査部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科3年次チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

年度当初目標としていた教育活動においては、新規担当科目も複数あり、授業・実習準備に時間がかかってしまったものも多かったが、学生の理解を深められるよう随時検討しながら取り組むことができた。

研究活動は、育児休業前に調査したデータをまとめ、学会発表を行うことができたため、次年度以降論文掲載へと繋げていきたい。加えて、新規研究にも着手しデータ収集まで進めることができた。

学内委員会活動では進路支援委員として国家試験対策および学生の進路指導にも注力した。

育児休業から復帰の年となったが、1年間を通して、職場・家族ともに周囲のサポートを得ながら教育・研究活動・社会貢献に努めることができたと感じる。

VII 次年度の目標

昨年度より新たに担当した科目の内容のアップデートおよび充実を図る。研究活動においては、新規研究に着手し、学会発表を行うと共に、これまでの研究の論文投稿を進めていく。

その他、学内委員会、4年次チューターとして、学生支援にも引き続き責任を持って取り組んでいく。

講師 松木 千紗 博士（歯学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 5 年度は新しく担当する科目もあり，昨年度の学びをブラッシュアップし，学習効果の向上を目指し引き続き責任をもって対応していきたい。

研究活動については，自身および共同研究における研究課題について計画的に推進し，成果を着実に示す。

大学の管理運営では，引き続き各種委員会において役割を全うするとともに，4 年生チューターとしての役割を理解し，就職・卒業・国家試験合格に向けて支援する。

社会貢献においては，引き続き千葉県内の保健医療に貢献できるよう積極的に参加していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・歯科衛生基礎演習.
- ・歯科衛生概論.
- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科衛生体験演習Ⅰ.
- ・歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・歯科保健指導演習Ⅰ.
- ・歯科保健指導演習Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・病院実習.
- ・継続・個別支援実習Ⅰ.
- ・継続・個別支援実習Ⅱ.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・卒業研究.
- ・専門職の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・高阪利美，大川由一，水上美樹，犬飼順子，田副真美，吉田直美，秋山恭子，宮崎晶子，眞木吉信，荒木美穂，永井由美子，石川裕子，麻賀多美代，石黒梓，大山静江，船奥律子，白鳥たかみ，高橋信博，両角祐子，増田裕次，福田昌代，有井真弓，鈴木厚子，松木千紗，古川絵理華，池田亜紀子，松本厚枝，小原由紀，菅野亜紀，田村清美，平澤玲子，江川広子，石井里加子，久保山裕子，合場千佳子，國井知余，升井一朗：歯科衛生学シリーズ歯科予防処置論・歯科保健指導論第 2 版，2025 年，医歯薬出版，東京.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・島田 美恵子，岡村 太郎，成田 悠哉，江戸 優裕，工藤 美奈子，荒川 真，佐々木 みづほ，松木 千紗，浅井 美千代，金子 潤，河野 舞：健康体操教室に通う高齢者における日常生活での微小活動時間の変化，第78回日本体力医学会，2024年9月2-4，佐賀大学本庄キャンパス，佐賀。
- ・酒巻 裕之，鈴鹿 祐子，松木 千紗，桑原 涼子，石川 裕子，鈴木 英明：口腔機能低下症に関する歯科衛生士リカレント教育の実施報告，第15回日本歯科衛生教育学会学術大会，2024年11月30日～12月1日，大阪歯科大学，大阪。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費，高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係，研究分担者。
- ・学長裁量研究，演習，実験・実習科目における教員指導の自己評価について，研究分担者から研究代表者へ変更。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・高校生進学説明会
県立船橋啓明高等学校，2024年4月25日。
県立市川東高等学校，2024年5月13日。
県立津田沼高等学校，2024年6月3日。
- ・高校生対象大学見学会
県立千城台高等学校，2024年10月22日。
- ・ほい大健康プログラム第1回幕張キャンパス，2025年1月25日，千葉県立保健医療大学。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2023年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会，教育・研究委員会委員，2023年4月～2025年3月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・歯科衛生士の仕事と学校についての説明会（千葉県歯科衛生士育成協議会），2024年7月6日，千葉県立保健医療大学。
- ・ほい大健康プログラム第1回幕張キャンパス講師，2025年1月25日，千葉県立保健医療大学。

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学紀要査読担当。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会，学生委員会，学術推進企画委員会紀要編集部会，学長候補者学内意向調査委員，学部長予備選挙管理委員会委員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議 歯科診療室会議 歯科衛生学科4年生チューター.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

着任2年目となり昨年度の経験を踏まえ、大学の考えを理解し正確な業務遂行をおこなった。

教育活動においては、教職員や学生の信頼を得ることを考え、より理解しやすい指導内容や評価を円滑に実行できるよう対応した。学生指導では、個々の特性を理解し一人一人に向き合い対応し、特に4年生チューターとして、実習・卒業研究・進路・国家試験などの相談をきめ細やかに対応することを心掛けた。

研究活動においては、学長裁量研究を中心に取り組んだ。

大学の管理運営においては、一年間の流れを理解したことで、より積極的に教職員と協働することができた。また年度途中に決定した委員会業務に関しても積極的に志願し取り組んだ。

社会貢献においては、引き続き地域住民に貢献できたとともに、複数の高校生進学説明会に出向き、ほい大プログラムへ講師として参加するなど貴重な機会を得たことで、様々な視点を学ぶことができた。

VII 次年度の目標

担当する科目に関し、今年度の経験をブラッシュアップし、学習効果の向上につながるよう引き続き責任をもち遂行する。研究活動では、学長裁量研究を中心に計画的に推進し、成果を着実に示す。

大学の管理運営では、各種委員会において引き続き役割を全うするとともに、1年生チューターとして学生を支援する。社会貢献においては、引き続き千葉県内の保健医療に貢献できるよう、積極的に参加する。

助教 栗原 涼子 博士（理工学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、教育活動・研究活動・管理運営・社会貢献の各分野、さらに、歯科治療の提供においても貢献をする。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
 - ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
 - ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
 - ・歯科診療補助演習.
 - ・歯科衛生体験演習Ⅱ.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療補助の実施、2024 年 4 月～2025 年 3 月、千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本スポーツ歯科医学会、日本口腔ケア学会、東京歯科大学学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本歯科医学教育学会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・2024 年度 安全・ルール伝達講習会、千葉県ラグビーフットボール協会主催、「スポーツ選手の口腔衛生管理」、2024 年 7 月、千葉県スポーツ科学センター.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国際交流委員会、図書委員会、自己点検・評価実施推進部会、歯科衛生学科会議、歯科診療室会議.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・高校説明会（11 月：千葉県、3 月：千葉県）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、新型コロナの感染症法上の分類が 5 類に変更後も引き続き新型コロナウイルス感染症予防策を講じての実習指導等を行った。研究においては、日本スポーツ歯科医学会歯科医師（認定医・専門医・指導医）における活動状況調査、同時に日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト（SDH）と連携した活動状況調査（本学研究倫理審査委員会の承認「申請番号：2024-17」）を開始した。

社会貢献では、教育活動と同様に引き続き歯科診療室において新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じることにより、地域住民の方々に対して歯科治療の提供を行った。高校説明会に参画をした。外部からの講演依頼をひきうけ、講師として講演を行った。

大学運営（管理運営）に関わる業務について、国際交流委員会・図書委員会・自己点検評価実施推進部会の業務を滞りなく遂行した。

VII 次年度の目標

教育・研究・管理運営・社会貢献の各業務を滞りなく進める。

研究においては、日本スポーツ歯科医学会歯科医師（認定医・専門医・指導医）における活動状況調査、同時に日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト（SDH）と連携した活動状況調査（本学研究倫理審査委員会の承認「申請番号：2024-17」）研究の学会発表等を行う。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授（兼）専攻長 堀本 佳誉 博士（理学療法学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

教育活動において、専攻長および教務委員長として新カリキュラムの作成およびアセスメントポリシーの作成を行う。また、新カリキュラム作成時に理学療法専門科目において、「lまい大健康プログラム」のと教育内容の連動性を高めるために専門科目の部分にどのような内容を組み入れるべきかに関しては検討を実施する。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度を 60%以上となるように工夫する。

研究活動において、学内共同研究費および学長裁量研究費を受けた 2 つの研究を実施し結果を出す。「lまい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化の検討する。

管理運営に関して、理学療法士の講師 1 名を補充する。また、助教 1 名の欠員を補充する。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進する。専攻会議を、週 1 回、学科会議を 2 カ月に 1 回開催し、円滑な学科・専攻運営を行う。

社会貢献に関しては、「lまい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行う。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・理学療法概論.
- ・運動療法学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法研究方法論.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・発達障害理学療法学特論.
- ・地域理学療法学.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・理学療法応用評価学.
- ・発展領域論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・高木秀明，福元浩二，大矢祥平，堀本佳誉，倉形裕史，久松のり子，宮澤菜央子，冬部拓海，外口徳章：短報（一社）千葉県理学療法士会障がい児・者支援部による県内の障がい児リハビリテーション資源調査に関する報告，理学療法の

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・大須田祐亮，堀本佳誉，橋本竜作，長谷川純子，佐藤一成，多田菊代，辻村礼央奈，小林健史，若松千裕：小学生における足部形態評価指標の参考値範囲の検討および学年差と性差に関する分析，第 11 回日本小児理学療法学会学術大会，2024 年 11 月 2 日～3 日，福島。
- ・大須田祐亮，堀本佳誉，長谷川純子，佐藤一成，大谷拓哉：健常成人における足部形態評価指標の参考値および足部機能との関連，第 29 回日本基礎理学療法学会学術大会，2024 年 10 月 12～13 日，東京。
- ・大谷拓哉，堀本佳誉：3 次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作における関節運動の分析，第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第 30 回千葉県理学療法学会学術大会 合同大会，2024 年 10 月 5～6 日，千葉市。
- ・村田萌珠，堀本佳誉：カーフレイズ動作の上肢支持方法の違いが下腿三頭筋活動量および重心動揺に与える影響，第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第 30 回千葉県理学療法学会学術大会 合同大会，2024 年 10 月 5～6 日，千葉市。
- ・畑野未稀，堀本佳誉：若年健常者における下腿最大腓脛部の同定，第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第 30 回千葉県理学療法学会学術大会 合同大会，2024 年 10 月 5～6 日，千葉市。
- ・十枝柚衣，堀本佳誉：呼吸法の違いと骨盤傾斜角度の変化による側腹筋群の筋厚変化，第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第 30 回千葉県理学療法学会学術大会 合同大会，2024 年 10 月 5～6 日，千葉市。
- ・久池井星香，堀本佳誉：スタティックストレッチング実施時間が大腿二頭筋の筋腱移行部移動量に与える影響，第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 第 30 回千葉県理学療法学会学術大会 合同大会，2024 年 10 月 5～6 日，千葉市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，超音波画像診断装置を用いた後脛骨筋の筋活動の定量的測定方法の確立，研究分担者。
- ・学長裁量研究，脳卒中のリハビリテーションにおける介入に対する考え方と目標設定に関するアンケート調査，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・ちばプラン市民健康づくり大会，2025 年 1 月 19 日，アリオ蘇我。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，障がい児・者支援部部員，2019 年 10 月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会，日本小児理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本理学療法教育学会，日本基礎理学療法学会，日本重症心身障害学会，重症心身障害療育学会，日本リハビリテーション臨床教育研究会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県立保健医療大学紀要，論文査読（1 件）。
- ・第 13 回日本理学療法教育学会学術大会，抄録査読（1 件）。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，臨床実習制度の理念と概要，理学療法士，2024 年 9 月 31 日，Web。
- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，教育原論・人間関係論，理学療法士，2024 年 9 月 31 日，Web。
- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，ハラスメント防止意識の向上，理学療法士，2024 年 9 月 31 日，Web。
- ・臨床実習指導者講習会，千葉県立保健医療大学，臨床実習の到達目標と修了基準，2024 年 9 月 31 日，Web。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・大学運営会議、教授会、共通教育運営会議、特色科目運営会、社会実習作業部会、教務委員会、FD・SD委員会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会、総務・企画委員会、人事委員会、教員再任審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、専攻長および教務委員長として新カリキュラムの作成およびアセスメントポリシーの作成を行うことが出来た。新カリキュラム作成時に理学療法専門科目において、「ほい大健康プログラム」との連動を意識した内容にすることが出来た。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達するように工夫した。

研究活動において、学内共同研究費および学長裁量研究費を受けた2つの研究を実施し結果を出すことができた。「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行うことが出来た。

管理運営に関して、理学療法士の講師1名を補充することはできなかった。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進している。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行うことが出来た。

社会貢献に関しては、「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行うことができた。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与することが出来た。

VII 次年度の目標

教育活動において、教育内容を見直し、アクティブラーニングを取り入れた講義となるように工夫する。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度を60%以上となるように工夫する。

研究活動において、学内共同研究費および学長裁量研究費を受けた2つの研究を実施し結果を出す。また、筆頭著者の論文を2本作製する。

管理運営に関して、理学療法士の講師1名を補充する。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進する。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行う。

社会貢献に関しては、ちばプラン市民健康づくり大会への参加し、呼吸と健康に関する啓蒙活動を継続する。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与する。

教授 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

担任を担っている専攻 14 期生が円滑に臨床実習に臨めるように、専攻内ならびに関係各所と調整を行い、遺漏なく必要な情報を学生に伝えるべく適切なオリエンテーションを実施する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・人体の機能実習.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法応用評価学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・大谷 拓哉，堀本 佳誉：3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作における関節運動の分析，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会，2024年10月5-6日，千葉
- ・大須田祐亮，大谷拓哉，他：健康成人における足部形態評価指標の参考値および足部機能との関連，第29回日本基礎理学療法学会学術大会，2024年10月12-13日，東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・2024年度臨床実習指導者講習会講師，2024年9月1日，千葉県立保健医療大学.

2 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県理学療法士会、学術誌編集委員会副委員長、2024年4月1日～2025年3月31日、
- ・千葉県理学療法士会、研究倫理委員会委員、2024年4月1日～2025年3月31日、

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法学会連合、日本基礎理学療法学会、理学療法科学学会、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、バイオメカニズム学会、

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会、演題査読者(3題)、2024年7月2日、
- ・第29回日本基礎理学療法学会学術大会、演題査読者(3題)、2024年7月2日、
- ・第30回千葉県理学療法学術大会 座長(ポスター、養成校交流企画)、2024年10月6日、
- ・第29回日本基礎理学療法学会学術大会 座長(口述13 身体運動学4)、2024年10月13日、

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所)

- ・臨床実習指導者講習会、千葉県立保健医療大学、理学療法士、2024年9月31日、Web、

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・国際交流委員会(副委員長)、学術推進企画委員会、認証評価部会(部会長)、入試実施委員会(副委員長)、学内共同研究審査部会(部会長)、教員資格審査委員会、

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・臨床実習調整者、大学説明会(磯辺高校、京葉高校、長狭高校)、オープンキャンパス業務(模擬授業、個別相談)、リハビリテーション学科キャンパスツアー統括責任者、専攻14期生担任、

VI 評価(成果および改善すべき事項)

担任を担っている専攻14期生が円滑に臨床実習に臨めるように、専攻内ならびに関係各所と調整を行い、遺漏なく必要な情報を学生に伝えるべく適切なオリエンテーションが実施できた。

VII 次年度の目標

担任を担っている専攻14期生が最終学年となるため、臨床実習、就職活動、卒業研究、国家試験に円滑に、かつ安心して臨めるよう、適切なオリエンテーションとアドバイスを行う。

教授 金子 徹 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会における一般演題での発表並びに依頼されていた必修講習会での講演を含む会全体の円滑な開催、それに加えて、特に本学での担当科目の講義の円滑な実施と、執筆中の論文の完成を目標とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・専門職間の連携活動論.
- ・リハビリテーション概論.
- ・画像診断学.
- ・人体の構造 I.
- ・人体の構造実習.
- ・医学総論.
- ・整形外科学総論.
- ・整形外科学各論.
- ・リハビリテーション医学.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Takekawa T, Obuchi K, Watanabe S, Yamada N, Abo M: A 10-Year Study of the Trend of Accidental Falls in the Elderly in a Japanese Hospital, Z Orthop Unfall, 163(1), 71-78, 2024.
- ・Takekawa T, Watanabe S, Yamada N, Abo M: Survey on diagnosis of post-brain injury "higher brain dysfunction" in patients with cognitive impairment. Family/caregiver response, Appl Neuropsychol Adult, 1-12, 2024.
- ・Hara T, Takekawa T, Abo M: Gait Reconstruction Strategy Using Botulinum Toxin Therapy Combined with Rehabilitation, Toxins (Basel), 16 (7), 323, 2024.
- ・竹川 徹, 鈴木 翔太, 田口 健介: 【痙縮治療最前線】(第 2 章)併用療法 上肢痙縮に対する作業療法, Journal of Clinical Rehabilitation, 33 巻 13 号, 1313-1319, 2024 年.
- ・Takekawa T, Katagi M, Kobayashi K, Toyoda S, Nakamura T, Yoshida H, et al: Factors influencing home discharge of hospitalized oldest-old patients (>=90 years): A retrospective quantitative case-control study, Geriatr Nurs, 60, 99-106, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・竹川 徹, 黒田 慶子, 吉田 健太郎, 又吉 由紀子, 安保 雅博, 樋口 謙次: 円回内筋のモーターポイント（第 2 報）, 第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024 年 6 月 16 日, 東京.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 必修講習会「両立支援」治療と就労の両立支援, 2024 年 6 月 16 日, 東京.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・柔道整復師試験委員、2020年6月1日～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会、日本急性期リハビリテーション学会、日本体力医学会、日本臨床神経生理学学会、日本整形外科学会、日本脳卒中学会、日本リウマチ学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本ボツリヌス治療学会、日本スティミュレーションセラピー学会、日本運動器科学会、日本保健科学学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本リハビリテーション医学会、代議員、2012年4月1日～現在に至る。
- ・日本ボツリヌス治療学会、代議員、2015年9月15日～現在に至る。
- ・日本スティミュレーションセラピー学会、評議員、2019年8月3日～現在に至る。
- ・日本急性期リハビリテーション学会、評議員。
- ・日本運動器科学会、評議員、2022年8月1日～現在に至る。
- ・成医学会、評議員、2022年10月7日～現在に至る。
- ・日本保健科学学会、評議員、2023年4月1日～現在に至る。
- ・千葉県リハビリテーション医学懇話会、世話人、2024年12月12日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・第40回千葉県リハビリテーション医学懇話会、痙縮に対するリハビリテーション療法の工夫と、鉤状趾のお話など、医師、コメディカル、2024年12月12日、千葉。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・情報システム委員会、衛生委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

特に上半期は、前職場が主催して実施した第61回日本リハビリテーション医学会学術集会の円滑の開催に向けて活動した。一般演題での発表、依頼されていた教育講演における座長と必修講習会での講演は滞りなく遂行でき、会自体を盛会に終わることができた。担当科目の講義は初年度であったが無事に終了できた。執筆途中であった英文論文3編は受理され掲載された。

VII 次年度の目標

アクティブ・ラーニングという視点を踏まえた担当科目の講義の円滑な実施と、新たな論文の執筆を目標とする。

准教授 室井 大佑 博士（健康科学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

講義に関して、新たに義肢装具学・義肢装具学演習を担当するため、非常勤講師と相談しながら実技を多く交えて学生に理解しやすいように工夫しながら講義を進めていく。学術面において、現在進めている視覚行動研究を中心に、筆頭著者で国際誌 1 本、共著を含めて合計 3 本のアクセプトを目指す。また、いすみ市の健康診断データ研究を引き続き実施する。学会や社会貢献として、新たに日本理学療法士協会の代議員となったため、その会議の出席に出席し、協会の問題などを確認する。千葉県理学療法士会では引き続き更新研修会の実施、日本支援工学学会では 2024 年 12 月開催の学術大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、教務委員会としてカリキュラムの改定やカリキュラムポリシーの作成部会に参加するため、教務関連の法規などを確認し、カリキュラム改訂・カリキュラムポリシーの作成を行っていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・千葉県健康づくり.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・日常生活活動学演習.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
- ・理学療法応用評価学.
- ・義肢装具学.
- ・義肢装具学演習.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅰ.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・理学療法管理学.
- ・発展領域論.
- ・理学療法技術論
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・リハビリテーション論（淑徳大学）.
- ・疾患別理学療法実習（中核）（東京メディカルスポーツ専門学校）.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Muroi D, Saito Y, Koyake A, Hiroi Y, Higuchi T. Training for walking through an opening improves collision avoidance behavior in subacute patients with stroke: a randomized controlled trial, *Disability and Rehabilitation*, 46(5), 887-895, 2024.
- ・Muroi D, Kodama K, Tomono T, Saito Y, Koyake A, Higuchi T. Approaching process in walking through an aperture for individuals with stroke, *J Mot Behav*, 56, 139-149, 2024.
- ・Kondo Y, Muroi D. Variations in Visual Search Behavior Before Freezing of Gait Episodes: A Case Series, *Cureus*, 17(3), e80892, 2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・近藤夕騎，室井大佑，鈴木一平，加藤太郎，板東杏太，岩佐和哉，原貴敏：すくみ足を有する1症例における歩行中の視線行動特性-試行間のすくみ足有無による比較-，第18回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス，2024年7月12日，栃木県宇都宮市。
- ・室井大佑，坂崎純太郎，小宅綾希，苗井祐士，田中幸輝，樋口貴広：回復期脳卒中者における障害物回避時の視線行動，第22回日本神経理学療法学会学術大会，2024年9月28日，福岡県福岡市。
- ・小宅綾希，苗井祐士，田中幸輝，國枝福朗，栢川琴美，湯澤優美，松田徹，坂崎純太郎，室井大佑：脳卒中者によるTimed Up & Go test時の視線行動，第22回日本神経理学療法学会学術大会，2024年9月29日，福岡県福岡市。
- ・佐藤海王，室井大佑：足関節不安定性に対する末梢神経電気刺激の効果，第43回関東甲信越ブロック理学療法学会・第30回千葉県理学療法学会学術大会，2024年10月6日，千葉県千葉市。
- ・成田悠哉，室井大佑，松浦めぐみ，坂崎純太郎：健康診査からみた新型コロナウイルス感染症流行による高齢者の健康状態の変化，第63回千葉県公衆衛生学会，2025年3月7日，千葉県千葉市。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，脳卒中片麻痺者における障害物回避時の視覚と注意の影響，研究代表者。
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)，脳卒中患者の退院後の転倒における歩行の適応的運動学習能力の関与，研究分担者。
- ・千葉県立保健医療大学学長裁量研究，新型コロナウイルス感染症流行前後における健康診査結果からみた健康状態の変化，研究分担者。
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究，熟練療法士と療法士学生の歩行介助スキルの違い-視線行動と身体位置関係の分析-，研究分担者。

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

1 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・日本ACLS協会主催/BLSインストラクター，2024年10月12日，2025年2月8日，亀田総合病院。
- ・ほい大プログラム「健康状態を知ろう-運動から始める健康づくり-」2024年11月9日，さつきが丘団地。
- ・ほい大プログラム「ストップ！生活習慣病-自宅でもできる運動-」2024年11月23日，いすみ市役所。

2 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士協会，生涯学習局企画研修部部長，2021年度～現在に至る。

3 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会，千葉県理学療法士協会，日本神経理学療法学会，日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会，International Society of Posture and Gait Research，日本老年療法学会，日本咀嚼学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会 世話人 令和2年8月～現在に至る。
- ・日本理学療法士協会 代議員 令和6年4月～現在に至る。
- ・第13回日本支援工学学会学術大会 準備委員（演題部門）。
- ・American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation 査読担当。
- ・理学療法の科学と研究 査読担当。
- ・BMC Geriatrics 査読担当。
- ・Experimental Brain Research 査読担当。

7 その他

- ・医歯薬出版，理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員，2017年度～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，社会貢献委員会，進路支援委員会，学内共同研究審査部会，IR部会，第3次カリキュラム評価検討部会，新カリキュラム作成作業部会，千葉県健康づくり作業部会，教室予約簿作成相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習担当。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度から義肢装具学・義肢装具学演習の講義を担当した。非常勤講師と綿密な打ち合わせをして，当事者評価や義肢・装具の調整などを踏まえた講義が実施できた。教務委員として，これまでのカリキュラムの問題点を整理し，改善するために新カリキュラムを作成した。また，アセスメントポリシーを新たに作成した。進路支援委員として，計画的に国家試験対策を実施し，初めて各教員が対応する国家試験対策講義を実施した。そのほか，これまで学年を跨いだ交流が少なかったことを問題視し，学生間交流のためにアドバイザーグループを新規作成しイベントを行った。研究活動として，千葉県内の病院や役所と連携をして，データ解析や研究指導を行った。論文は国際誌1本がアクセプト，2本が公開され，そのほか筆頭で2本国際誌投稿中である。

VII 次年度の目標

講義に関して，2年目となる義肢装具学・義肢装具学演習は昨年の改善点を修正していく。また新たに千葉県の健康づくり，理学療法評価学Ⅲと理学療法応用評価学の科目責任者となる。千葉県の健康づくりでは他学科の教員と連携を取りながら実施し，評価学関連は実習前後評価のOSCEの内容について見直し，より実習に近い形で演習や実技評価ができるようにしていく。学術面において，現在投稿中の国際誌2本のアクセプトを目指し，新たに1-2本国際誌を投稿する。千葉県のシンクタンク機能の推進として引き続き，いすみ市・富津市・君津市・八千代市と連携を取り，体力測定会等を実施する。学会や社会貢献として，新たに千葉県理学療法士協会の理事となる予定のため，その会議の出席に出席し，千葉県理学療法士全体の問題解決に努める。大学内の委員会では，教務委員会として新カリキュラムを進めていく。そのほか新たに担当する自己点検・評価実施推進部会や研究倫理審査委員会等を滞りなく実施する。

准教授 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

専門である運動器障害系の担当コマ数が増加するため、理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムの該当分野を踏まえつつ教育内容を再編し、引き続き教育の質の向上を図る。また、他の教員と連携して専攻や大学の各種業務の効率性・円滑性の向上に努める。さらに、職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・人体の構造実習.
- ・機能解剖学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・運動学実習.
- ・理学療法応用評価学.
- ・理学療法評価学IV（画像評価）.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学演習.
- ・理学療法学特論 I（運動器・老年期）.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター学院）.
- ・スポーツ医学（整形外科）（尚美学園大学）.
- ・機能解剖学（尚美学園大学）.
- ・慢性期看護演習 1（基本看護技術）（武蔵野大学）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・江戸優裕：観察による歩行分析における理学療法学生の着眼点の検討—異常歩行の原因分析に着目して—，千葉県立保健医療大学紀要，16(1)，13-20，2025.
- ・江戸優裕，菊池咲葵，松尾真輔，島田美恵子：大学生における関節弛緩性とスポーツ傷害の関係—部位および損傷組織

を踏まえた検討一，千葉県立保健医療大学紀要，16(1)，152，2025.

- ・島田美恵子，工藤美奈子，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，荒川真，佐々木みづほ，浅井美千代，金子潤，河野舞，濃野要：身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援，千葉県立保健医療大学紀要，16(1)，153，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・江戸優裕，菊池咲葵，松尾真輔，島田美恵子：大学生における関節弛緩性とスポーツ傷害の関係一部位および損傷組織を踏まえた検討一，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ.
- ・江戸優裕：臨床実習は観察による歩行分析における異常歩行の原因分析能力を向上する，第13回日本理学療法教育学会学術大会，2024年12月14日～15日，北九州国際会議場.
- ・江戸優裕：歩行中の膝関節運動に関与する足部運動の探索的分析一足部と下腿の運動連鎖を踏まえて一，第45回臨床歩行分析研究会定例会，2025年3月15日～16日，東洋大学赤羽台キャンパス.
- ・Shimada M, Yoshitake Y, Ayabe M, Nishimuta M, Kimura Y, Tobina T, Okamura T, Narita Y, Edo M, Arakawa M, Sasaki M, Kudo M, Asai M, Kaneko J, Kono M, Nohno N, Hongu N: The relationship between height changes over 10 years and life prognosis, American College of Sports Medicine 2024 Annual Meeting, 2024年5月28日～31日, Hynes Convention Center.
- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，工藤美奈子，荒川真，佐々木みづほ，松木千紗，浅井美千代，金子潤，河野舞：健康体操教室に通う高齢者における日常生活での微少活動時間の変化，第78回日本体力医学会大会，2024年9月2日～4日，佐賀大学.
- ・大内俊弥，江戸優裕：機能靴下を想定した中足部の締め付けによる足趾把持力・圧迫力の変化一各趾における検討一，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ.
- ・小塚芽生，江戸優裕：骨盤ベルトが片脚立位の静的・動的バランスに与える影響，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ.
- ・石橋夏実，江戸優裕：股関節屈曲可動域制限が立ち上がり動作に及ぼす影響，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ.
- ・押久保美帆，江戸優裕：テーピングによる前足部の内がえし・外がえし誘導が片脚立位の重心動揺に与える影響，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費（若手研究），前足部および後足部の回内外による運動連鎖を用いた歩行コントロール法，研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），高齢者における座位行動と居住地・健康状態との関係，研究分担者.

6 受賞・特許

- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会 一般演題座長賞.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，代議員，2019年度～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，学術企画研修部員，2019年11月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，千葉ブロック介護予防推進リーダーWGメンバー，2021年6月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，千葉ブロック副ブロック長，2023年2月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，臨床実習指導者講習会（東都大学）世話人，2024年7月27日～28日.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本基礎理学療法学会、日本運動器理学療法学会、日本理学療法教育学会、臨床歩行分析研究会、バイオメカニズム学会、理学療法科学学会、日本臨床バイオメカニクス学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本理学療法教育学会学術誌「理学療法教育」、論文査読、2024 年度。
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」、論文査読、2024 年度。
- ・埼玉県理学療法士会学術誌「理学療法 臨床・研究・教育」、論文査読、2024 年度。
- ・第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会、一般演題セッション座長、2024 年 9 月 15 日。
- ・第 29 回日本基礎理学療法学会学術大会、一般演題セッション座長、2024 年 10 月 13 日。
- ・第 12 回日本運動器理学療法学会学術大会、演題査読、2024 年度。
- ・第 43 回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第 30 回千葉県理学療法学会学術大会合同大会、演題査読、2024 年度。
- ・第 7 回日本産業理学療法研究会学術大会、演題査読、2024 年度。
- ・第 13 回日本理学療法教育学会学術大会、演題査読、2024 年度。
- ・第 10 回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会、演題査読、2024 年度。
- ・第 31 回千葉県理学療法学会学術大会、学術局長、2025 年 3 月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・Encounter 講習会、運動連鎖からみた膝関節障害の理学療法、医療・スポーツ関係者、2024 年 6 月 19 日、オンライン。
- ・千葉県理学療法士会 千葉ブロック主催検討会、管理者の集いー他の施設ってどうしてるんだろう？ー、理学療法士、2024 年 10 月 2 日、千葉県立保健医療大学仁戸名キャンパス。
- ・千葉市社会福祉研修センター フレイル予防研修会、理学療法士が教えるフレイル予防～身体と心を元気に保ち、社会参加を活発に～、地域住民、2024 年 12 月 11 日、千葉市社会福祉研修センター。
- ・YMCA 米子医療福祉専門学校 実習指導者対象セミナー、下肢の運動連鎖ー関節構造と筋の作用からみた多関節の連動ー、2025 年 1 月 20 日、オンライン。
- ・千葉県理学療法士会 千葉ブロック主催検討会、管理者の集いー生涯学習制度ー、理学療法士、2025 年 3 月 5 日、オンライン。

7 その他

- ・理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員、医歯薬出版、2017 年度～現在に至る。
- ・産業保健人間工学会 作業管理士 取得、2025 年 1 月 17 日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・体験ゼミナール作業部会、学術推進企画委員会、自己点検・評価実施推進部会、危機管理委員会、紀要編集部会、教育研究年報作成部会、学長候補者学内意向調査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・テレビ番組「カズレーザーと学ぶ。」出演、2024 年 11 月 19 日、日本テレビ。
- ・テレビ番組「健査官～サインを見逃すな」出演、2025 年 1 月 29 日、テレビ朝日。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

実技や演習を積極的に取り入れた授業や対面にオンライン技術を併用した授業は学生にも好評であり、教育の質の担保に寄与できたと考える。在校生や卒業生からの学習・研究・キャリアアップなどに関する相談にも対応できた。職能団体での活動やいくつかの社会貢献活動にも携わることができた。その一方で、自身の研究遂行は不十分であった。

VII 次年度の目標

カリキュラム改訂に伴い専門である運動器障害系の担当コマ数が増加するため、理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムの該当分野を踏まえつつ教育内容を再編し、引き続き教育の質の向上を図る。また、他の教員と連携して学科・専攻や大学の各種業務の効率性・円滑性の向上に努める。さらに、新たに1年生の担任となるため学生の大学生活の充実に向けた支援を一層心掛けることや、臨床実習担当となるため実習施設との連携や業務の円滑化・効率化を図る。そして、職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

講師 稲垣 武 博士（医学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和6年度は入職2年目になるため、学生がより理解しやすいように講義資料や実技等の内容のブラッシュアップを行う。
また、新たに日常生活活動学を担当することになるため、必要な知識・技術が習得できるよう内容を検討する。加えて、共同研究費を取得したため、肺年齢測定を通じた県民への貢献と、そこから得られたデータをもとに研究活動も進める。その他、引き続き2年生の担任業務や大学運営に関わる委員会業務にも注力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・専門職間の連携活動論.
- ・日常生活活動学.
- ・人体の機能実習.
- ・機能解剖学.
- ・運動療法学.
- ・評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法評価学Ⅳ.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・内部障害理学療法学.
- ・内部障害理学療法学演習.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・発展領域論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・運動療法Ⅴ（呼吸器疾患）（藤リハビリテーション学院）.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・稲垣武：肺高血圧症の治療における呼吸リハビリテーションの位置づけ—理学療法士の立場から，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌，32巻，2号，185-190，2024年.
- ・Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T, Nara T, Nemoto M, Doi Y, Yasuda M, Uzawa A, Shiko Y, Murata A, Yamanaka Y, Kuwabara S.: Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis. Neuromuscular disorder, 24, 29-34, 2024.
- ・Takeda K, Shigeta A, Inagaki T, Hayama N, Kawame C, Naraki Y, Naito A, Sekine A, Suda R, Sugiura T, Tanabe N, Suzuki T.: The Utility and Safety of One-Minute Sit-to-Stand Test in Pulmonary Hypertension: A Prospective Study, Respir Investig, 63, 61-66, 2025.
- ・奈良猛, 稲垣武, 安部光洋, 斎藤幹人, 鈴木拓児, 村田淳：在宅ハイフローセラピーを導入して自宅退院を目指した終末期特発性肺線維症の一症例，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌，34巻，1号，76-81，2025年.
- ・稲垣武：間質性肺炎に対する呼吸リハビリテーションの効果，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌，34巻，1号，7-12，2025年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・稲垣武，今村創，巽浩一郎，安部光洋，伊狩潤，川崎剛，桂秀樹，鈴木拓児：慢性呼吸不全患者に対するL-menthol嗅覚刺激の労作時呼吸困難改善効果と疾患重症度との関連，第9回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会，2024年6月22日，埼玉県.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第10回日本呼吸理学療法学会学術集会，研究ことはじめ～大学教員・研究支援委員の立場から～，2024年9月7日，新潟県.
- ・第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，肺高血圧症患者に対するリハビリテーションの実践，2024年11月15日，愛知県.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費 若手研究，肺高血圧症に対する呼吸リハビリテーションの確立：運動時肺高血圧に着目して，研究代表者.
- ・学長裁量研究，千葉県民におけるCOPD認知度と肺年齢測定の効果に関する予備的研究，研究代表者.

6 受賞・特許

- ・第9回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会，優秀演題賞.

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・千葉県いすみ市ほい大プログラム，2024年11月23日，いすみ市役所.
- ・健康づくりイベントにおける肺年齢測定，2025年1月18日，アリオ蘇我.

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本理学療法士協会，認定理学療法士内部障害分野作問部会員，2025年1月1日～2026年7月31日.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，代議員，2016年～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，研究支援委員会，副委員長，2019年～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本呼吸器学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本肺高血圧・肺循環学会、日本呼吸理学療法学会、日本臨床生理学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本呼吸理学療法学会、理事、2024年～現在に至る。
- ・日本呼吸理学療法学会、国際委員会委員、2022年～現在に至る。
- ・日本呼吸理学療法学会、総務委員会委員、2024年～現在に至る。
- ・日本呼吸理学療法学会、学術事業推進委員会委員長、2024年～現在に至る。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、代議員、2016年～現在に至る。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、シュミレーション教育推進委員会委員、2024年～現在に至る。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、将来計画委員会委員、2024年～現在に至る。
- ・日本肺高血圧・肺循環学会、メディカルスタッフWG委員、2024年～現在に至る。
- ・呼吸理学療法学、論文査読。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会雑誌、論文査読。
- ・理学療法の科学と研究、論文査読。
- ・BMC Cardiovascular Disorder、論文査読。
- ・第10回日本呼吸理学療法学会学術大会、一般演題座長、2024年9月7日。
- ・第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会/第30回千葉県理学療法学会学術大会合同大会、一般演題座長、2024年10月6日。
- ・第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、一般演題座長、2024年11月15日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・大阪府理学療法士会、理学療法士講習会（応用編）、肺高血圧症と呼吸理学療法、理学療法士、2024年9月14日、オンライン。
- ・第17回呼吸リハビリテーション研修会、急性期の呼吸リハビリテーション、医療従事者全般、2024年9月28日、順天堂大学。
- ・愛知県理学療法士会主催若手理学療法士による疾患別呼吸理学療法オンラインセミナー、間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション、理学療法士、2024年10月20日、オンライン。
- ・大阪府理学療法士会主催オンライン研修会、間質性肺疾患患者に対する呼吸リハビリテーション ～COPDとどう違う？？～、理学療法士、2024年10月24日、オンライン。
- ・大阪府理学療法士会主催呼吸器疾患患者に対する理学療法の知識と実技の融合セミナー、間質性肺疾患患者に対する呼吸理学療法、理学療法士、2024年12月21日、森ノ宮医療大学。
- ・長崎夢塾勉強会、肺高血圧症患者に対するリハビリテーション、理学療法士、2024年11月27日、オンライン。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、広報委員会、入試実施委員会、図書委員会、専門職の連携活動論作業部会、紀要編集部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教員 2 年目を終え、自身が担当する科目に必要な物品の把握や補充、講義資料の作成を行い、今後の授業展開の土台を作ることができた。一方で、学生が理解を深めるための工夫を行う余地は十分にあり、引き続きの課題である。また、学術活動として学会発表や講演、共著論文の掲載や総説の執筆、地域貢献として肺年齢測定と市民公開講座も実施できた。特に肺年齢測定については、研究も視野に入れて継続していきたい。

VII 次年度の目標

令和 7 年度は入職 3 年目になるため、学生がより理解しやすいように講義資料や実技等の内容のブラッシュアップを行う。また、新たに共通科目や他学科の科目も担当することになるため、様々な学科の学生に対しても必要な知識を提供できるよう内容を検討する。加えて、令和 7 年度も共同研究費を取得したため、肺年齢測定を通じた県民への貢献と、そこから得られたデータをもとに研究活動も進める。その他、3 年生の担任業務は長期実習に向けて学生を十分に支援し、加えて大学運営に関わる委員会業務にも注力する。

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度の目標として、教育面ではアクティブラーニングを取り入れた講義の推進に加え、自身の研究活動を学生と共有することで、研究分野への関心を高めることを目指す。研究活動では、高齢者の行動分析に関する論文の執筆及び研究成果を国内の学会にて報告することを目指す。大学管理では、業務全般のオンライン化を推進し、業務の効率化を図る。地域貢献においては、地方自治体の健診データを分析し、地域の健康課題に対する改善案を提案することで活動の幅を広げ、大学と自治体との連携を一層深めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・地域理学療法学.
- ・地域理学療法学実習.
- ・社会実習.
- ・運動学実習.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・人体の機能実習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法応用評価学.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・理学療法学技術論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Eisuke Okane, Tomokazu Furuya, Juntaro Sakazaki, Ken Kikuchi, Takahiro Higuchi : Relationship between gaze behavior and whole-body movement during car ingress, Advances in Human Factors of Transportation, 148, 344-353, 2024.
- ・Hakamata T, Sakazaki J, Higuchi T : Placing the leading limb closer to an obstacle reduces collision of the trailing limb: an investigation in a virtual environment. Frontiers in sports and active living, 14(6), 1411037, 2024.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・立石貴樹, 坂崎純太郎, 南航大, 井上靖悟, 藤井廉, 近藤国嗣 : 眼球運動障害が視覚垂直軸を左右異なる方向に偏位させ、歩行やバランス機能に影響していた回復期脳卒中患者 : 症例報告, 第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024 年 6 月 4 日～7 日, 福岡国際会議場.
- ・岡根永将, 古屋友和, 坂崎純太郎, 菊地謙, 樋口貴広 : 視覚情報の変化が自動車の乗車動作に及ぼす影響, 日本人間工

学会第65回大会, 2024年6月22日～23日, 公立千歳科学技術大学.

- ・新井慶, 古屋友和, 坂崎純太郎, 日吉尚輝, 広崎蒼大, 樋口貴広: 触覚刺激を用いた自己運動感覚による自動車運転時の速度感制御の検討, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2024, 2024年9月18日～20日, 公立千歳科学技術大学.
- ・室井大佑, 坂崎純太郎, 小宅綾希, 苗井祐土, 田中幸輝, 國枝福朗, 柊川琴美, 湯澤優美, 樋口貴広: 回復期脳卒中者における障害物回避時の視線行動, 第22回日本神経理学療法学会大会, 2024年9月28日～29日, 福岡国際会議場.
- ・小宅綾希, 苗井祐土, 田中幸輝, 國枝福朗, 柊川琴美, 湯澤優美, 室井大佑, 坂崎純太郎: 脳卒中者による Timed Up & Go test 時の視線行動, 第22回日本神経理学療法学会大会, 2024年9月28日～29日, 福岡国際会議場.
- ・坂崎純太郎, 室井大佑, 樋口貴広: 歩行中の方向転換動作における高齢者の視線特性, 第29回基礎理学療法学会学会大会, 2024年10月12日～13日, 東京都立大学 南大沢キャンパス.
- ・成田悠哉, 室井大佑, 松浦めぐみ, 坂崎純太郎, 尾形和宏: 健康診査からみた新型コロナウイルス感染症流行による高齢者の健康状態の変化, 2024年度(第63回)千葉県公衆衛生学会, 2025年3月7日, 千葉県文化会館.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2024年度学内共同研究費, 熟練療法士と療法士学生の歩行介助スキルの違い-視線行動と身体位置関係の分析-, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ほい大健康プログラム, 2024年11月9日, UR さつしが丘団地.
- ・いすみ市健康診査に関するデータ分析の活動報告, 2024年7月17日, いすみ市役所, 2024年11月7日, 千葉県庁.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本神経理学療法学会千葉県分会, 事務局, 2023年12月～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会, 千葉県理学療法士協会, 日本地域理学療法学会, 日本神経理学療法学会, 日本神経理学療法学会千葉県分会, International Society of Posture and Gait Research.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県理学療法士協会, 更新研修会(オンライン), 運営事務局, 2024年8月9・23日.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・「大学・高専連携事業基金」事業(共同研究), 視覚・動作誘導による自動車の乗降支援の研究, 東京都立産業技術高等専門学校学生, 2023年4月～2025年3月, 東京都立大学.
- ・「大学・高専連携事業基金」事業(共同研究), 触覚刺激を用いた自己運動感覚による自動車運転時の速度感の制御, 東京都立産業技術高等専門学校学生, 2024年4月～現在に至る, 東京都立大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・社会実習作業部会

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 理学療法学専攻会議, 臨床指導者講習会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面においては、Teams を活用したオンラインでのグループ学習を実施し、学生主体による調査活動を通じて、他の学生と交流できる学習環境を構築することができた。また、研究活動に関心のある学生との共同研究も進行中である。研究活動については、国際誌への掲載や学会での報告を複数行い、令和 6 年度の学内共同研究費を活用して、療法士を対象とした研究も着実に進めている。大学運営に関しては、実習業務全般の効率化を図ることができた。地域貢献においては、自治体の健診データの分析結果をいすみ市、千葉県庁、および千葉県公衆衛生学会にて報告し、現在は他の地方自治体へと活動の幅を拡大している。

VII 次年度の目標

次年度の目標として、教育面では、学生によるオンラインツールの活用を継続しつつ、アクティブラーニングの推進に努める。また、学生の学習意欲をより高めるために、1～2 年次の早期段階から研究活動や地域活動への参画を促進する。大学運営においては、引き続き業務の効率化を図るべく、オンライン化の普及およびデータ活用の推進に取り組む。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

教授（兼）学科長（兼）専攻長 岡村 太郎 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、対面授業を中心に学生の教育や卒業研究など指導を行う。対面授業においては学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指し、課題活動である学会・講習会、ボランティア活動の参加を、可能な限り実施を目標とした。さらに学生同士のコミュニケーションが促進されるよう授業を通して準備し、国家資格の全員取得をめざしたい。研究活動は、他学科と協同による活性化を試みたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・作業療法概論.
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法基礎理論. 分担
- ・作業療法研究法.
- ・基礎作業学実習. 分担
- ・作業療法ゼミナール A①. A②.
- ・精神作業療法評価学.
- ・精神作業療法評価学実習.
- ・精神作業療法学. 分担
- ・精神作業療法学演習. 分担
- ・地域社会参加支援学. 分担
- ・作業療法総合演習. 分担
- ・臨床体験実習. 分担
- ・評価実習 I・II. 分担
- ・総合実習 I・II. 分担
- ・地域作業療法学実習. 分担
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・谷口敬道，矢谷令子，福田恵美子，大熊明，岡村 太郎，徳永千尋来，宮口英樹，宮本直也：保健医療系大学(作業療法学専攻)の学士課程における教養の教育実践を目指すカリキュラム構造試案：大学教育学会誌，46 巻，1 号，p183-191，2024 年.
- ・鈴鹿祐子，成田悠哉，渡辺陵介，西村克枝，須藤崇行，麻賀多美代，大川由一，岡村太郎：「歯磨き行為による認知評価」の試み，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p111-116，2025 年.
- ・島田美恵子，工藤美奈子，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，荒川真，佐々木みづほ，浅井美千代，金子潤，河野舞，濃野要：地身長を活用した慢性疾患を有する地域在住高齢者に対する健康支援，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p153，2025 年.
- ・河部房子，大川由一，平岡真実，木内千晶，酒巻裕之，成田悠哉，室井大佑，岡村太郎，佐藤紀子，龍野一郎：令和 6 年度保健医療大学取組報告会—保健・医療・福祉の連携拠点として，千葉県立保健医療大学紀要，16 巻，1 号，p163，2025 年.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・（公社）認知症の人と家族の会千葉県支部との共催により、認知症普及啓発物資を駅前にて配布。2024年9月23日、千葉駅前。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県立保健医療大学紀要、査読、2025年。
- ・一般社団法人作業療法士会、演題査読委員、2025年。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、共通教育運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会、教員資格審査委員会、教授会、将来構想検討委員会、学内共同研究審査部会、国際交流委員会、FD・SD委員会（委員長）、安全運転管理者（講習修了にて担当）、甲種防火管理者（講習修了にて担当）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議（学科長）、作業療法学専攻会議（作業療法学専攻長）。
- ・安全運転管理者の業務。
- ・オープンキャンパス時、高校生保護者に模擬講義を実施（2024年7月13、14日）。
- ・仁戸名オープンキャンパス実施、高校生保護者に模擬講義を実施（2024年11月30日）。
- ・卒業生ホームカミングディの実施と講演（2024年10月19日）。

VI 評価

本年度卒業学生に関して、国家試験に関して1名不合格となった。4年生は作業療法総合演習として、年間を通じて国家試験対策を実施できた。今後、対面授業やグループ学習を通して、臨床・演習・実習を通じた臨床力、特に対人・コミュニケーションの臨床での活用状況と点検等課題である。歯科衛生学科と地域活動あるいは認知の評価方法など共同研究の取り組みの継続をすすめたい。

VII 次年度の目標

教育活動の一環として、作業療法の学生の対人・コミュニケーションを含む「作業療法士としてのアンプロ行動について」を課題とし、まずは全体の専門教育の教育課題の検討進め論文として発表したい。研究活動としては歯科衛生学科と地域活動あるいは認知の評価方法など共同研究を進めたい。社会活動の一環として、卒後教育について検討実施したい。

教授 山本 達也 博士（医学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、円滑な大学の管理運営、医学系科目の教育の充実、研究活動（基礎研究・臨床研究）のさらなる充実を目的とした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・人体の構造 I.
- ・人体の構造 II.
- ・人体の構造実習.
- ・内科学総論.
- ・内科学各論.
- ・神経内科学総論.
- ・神経内科学各論.
- ・老年科学.
- ・臨床医学概論.
- ・臨床薬理学.
- ・画像診断学.
- ・リスクマネジメント論.
- ・病態学 III.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・脳神経内科学・自律神経学（千葉大学大学院医学研究院）.
- ・脳神経内科学（福島県立医科大学保健医療学部）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. The examination of detrusor underactivity in multiple system atrophy. Front Neurol. 2024 Sep 17;15:1460379. doi: 10.3389/fneur.2024.1460379. PMID: 39355089; PMCID: PMC11442385.
- ・Nakano Y, Hirano S, Tamura M, Koizumi Y, Kitayama Y, Izumi M, Suzuki M, Yamagishi K, Suzuki Y, Ikeda S, Arase A, Yamamoto T, Yamanaka Y, Sugiyama A, Shibuya K, Horikoshi T, Uno T, Eidelberg D, Kuwabara S. Clinical and brain functional correlates of instrumental rigidity measurement in Parkinson's disease. Sci Rep. 2025 Mar 7;15(1):8056. doi: 10.1038/s41598-025-91567-y. PMID: 40055432; PMCID: PMC11889231.
- ・山本達也 パーキンソン病における便秘症 自律神経(0288-9250)61 巻 2 号 Page148-150(2024. 06) .
- ・山本達也 【それ本当に特発性 OAB/UAB ですか？OAB と UAB に隠れた神経疾患を見逃すな】 脳疾患 日本排尿機能学会誌(1347-6513)34 巻 2 号 Page363-369(2024. 07) .
- ・内山智之, 山本達也, 榊原隆次, 村井弘之 【他領域と脳神経内科疾患】泌尿器科領域と脳神経内科疾患 神経泌尿器学脳神経内科(2434-3285)101 巻 4 号 Page406-413(2024. 10) .
- ・山本達也, 榊原隆次 Neurologist's Perspective 神経因性膀胱をみたら次に依頼する検査 神経伝導検査 排尿障害

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S Nigral dopamine metabolites and alpha-synuclein are correlated during nigral electrical stimulation. 第65回日本神経学会総会，2024年5月29日～6月1日，東京
- ・Yamamoto T, Hirano S, Yamanaka Y, Araki N, Sugiyama A, Higuchi Y, Kuwabara S Longitudinal Changes in Quality of Life After Subthalamic Nucleus Deep Brain Stimulation in Parkinson's Disease. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, September 27-October 1, 2024, Philadelphia, USA
- ・Yamamoto T, Hirano S, Yamanaka Y, Araki N, Sugiyama A, Higuchi Y, Kuwabara S Urinary symptoms related quality of life is associated with health-related quality of life in patients with Parkinson's disease who underwent deep brain stimulation, October 23-25 2024, Madrid, Spain
- ・山本達也，山中義崇，平野成樹，荒木信之，杉山淳比古，桑原聡 パーキンソン病視床下核脳深部刺激療法後における生活の質の経時的変化 第18回日本パーキンソン病・運動障害疾患学会，2024年7月11日～13日，宇都宮，栃木
- ・山本達也，山中義崇，平野成樹，荒木信之，杉山淳比古，桑原聡 パーキンソン病視床下核脳深部刺激療法後における生活の質の経時的変化 第42回日本神経治療学会学術集会，2024年11月7日～9日，幕張，千葉

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・山本達也 ワークショップ2 排便管理と排尿管理 神経疾患における排尿排便障害 第31回日本排尿機能学会，2024年9月5日～9月7日，郡山，福島。
- ・山本達也，榊原隆次 教育講演 パーキンソン病の膀胱直腸障害～高齢者を含めて 第77回日本自律神経学会総会 2024年10月25日～26日，京都。
- ・山本達也 メディカルスタッフレクチャー3 パーキンソン病脳深部刺激療法における多職種連携 第42回日本神経治療学会学術集会，2024年11月7日～9日，幕張，千葉。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費．パーキンソン病モデルラットを用いたDOPAL抑制を介した神経変性抑制メカニズムの解明．研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会．日本神経学会．日本自律神経学会．日本排尿機能学会．日本パーキンソン病・運動障害疾患学会．日本脊髄障害医学会，日本神経治療学会
- ・Movement Disorder Society. International Continence Society.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名．役職．活動期間）

- ・日本神経学会．代議員．2019年4月1日～現在に至る。
- ・日本排尿機能学会．代議員．2018年5月1日～現在に至る．ダイバーシティ推進委員会，総務委員会委員を務める。
- ・日本自律神経学会．評議員．2017年4月1日～現在に至る．編集委員会委員を務める。
- ・日本パーキンソン病・運動障害疾患学会 評議員 2024年～現在に至る。
- ・日本脊髄障害医学会．評議員．2024年～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称．活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議 共通教育運営会議（議長）．学術推進委員会．自己点検・評価委員会．将来構想検討委員会．総務・企画委員会（委員長）．衛生委員会．人事委員会．キャンパスハラスメント防止対策委員会（委員長）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・作業療法学専攻会議（毎週火曜日）

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・目標としていた本学における医学系科目の教育，大学の管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えられる。
- ・研究活動についても論文発表・学会発表，国際誌の査読など概ね達成されたと考えられる。
- ・全学の多くの委員会や部会に参加し，共通教育運営会議では議長，キャンパスハラスメント防止対策委員会では委員長を務め，10月から総務企画委員会委員長も務めた。共通教育運営会議では一般教養科目専任教員の後任人事，キャンパスハラスメント防止対策委員会ではフローチャートの見直し・調査委員会委員長としての聞き取り調査，総務企画委員会では主に予算関係の審議を行った。

VII 次年度の目標

医師教員として，他学科の医師教員と協力し全学の医系科目の教育に寄与するとともに，教務委員長として全学での教育が円滑に行われるように努める。

千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学講座の協力のもとで研究を進める。

教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動に関しては、担当科目について見直しを行い教員間でのローテーションや科目変更に備える、また適切な教材備品を導入し、より教育効果が高まる内容への変換を図る。研究活動については、科研費によるテーマの推進と並行して、共同研究や、研究成果の社会実装のための活動等を通して研究成果の還元を行う。社会貢献活動については、引き続き高齢者・障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また、専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・社会実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学Ⅰ.
- ・作業運動学実習.
- ・高次神経機能作業療法学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・福祉機器論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・作業療法ゼミナール①②.
- ・地域作業療法学実習.
- ・作業療法特論B.
- ・作業療法総合演習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・藤田 佳男：医学の知識：東京都医師会「実地医家における高齢ドライバーへの指導ガイド」について，日本交通医学工学研究会会報，64，10-11，2024.
- ・藤田佳男：教習所業務と作業的公正，自動車学校，12-15，2024.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・藤田 佳男，竹内 弥彦，澤田 辰徳：都市部に在住する高齢自転車利用者の認知機能と運動機能，第58回日本作業療学会，Page ON-2-2，2024.
- ・鍵野 将平，蓮花 一己，藤田 佳男ほか：地域在住高齢者のフレイルと運転行動について，日本老年医学会雑誌，61巻Suppl. Page157，2024.
- ・小菅 律，藤田 佳男，岡村 和子ほか：運転の自己モニタリングを促す高齢者夫妻対象の教育的介入，日本交通心理学会大会発表論文集，Vol. 89，Page. 13-16，2024.

- ・M.Yamada, Y.Fujita: Impressions on the Use of Handle-type Electric Wheelchairs by Elderly Individuals. The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress. 2024/11/6, Sapporo.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第8回アジア太平洋作業療法学会, JAOT Seminar, Japanese Driver's License System and the Activities of the Japanese Occupational Therapists Association Driving and Community Mobility Support Team, 2024/11/7, 札幌コンベンションセンター.
- ・第26回千葉県作業療法士学会教育講演，高齢者の移動支援における作業療法士の役割, 2025年3月9日, 千葉県立保健医療大学.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高齢自転車利用者が自身の利用適性を適切に把握するための介入プログラムの開発，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），ランダム化比較試験による運転中断高齢者への予防的作業療法の効果，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・ふなばし健康まつり，千葉県作業療法士会運転支援検討委員会出席，2024年11月3日，船橋市運動公園.

3 審議会，委員会，国家試験委員などの実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高齢運転者支援士」試験作問委員，2022年4月～現在に至る.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）日本作業療法士協会，運転と地域移動推進委員会委員長，2018年～現在に至る.
- ・（一社）全日本指定自動車教習所協会連合会，理事，2021年～現在に至る.
- ・（公社）東京都医師会，高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員，2023年9月～現在に至る.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本作業療法士協会，日本老年医学会，日本老年精神医学会，日本高次脳機能学会，自動車技術会，日本リハビリテーション工学協会，運転と作業療法学会，日本安全運転医療学会，日本交通心理学会，日本遠隔医療学会.
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本作業療法士協会，地域社会振興部運転と地域移動推進班班長，2023年度～現在に至る.
 - ・日本高次脳機能学会，代議員，2021年度～現在に至る.
 - ・日本安全運転医療学会，理事，2021年度～現在に至る.
 - ・運転と作業療法学会，監事，2024年～現在に至る.
 - ・日本作業療法士協会，学会演題査読委員，2014年～現在に至る.
 - ・日本交通心理学会創立50周年・第90回記念千葉大会準備WG委員，2024年～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・地域リハビリテーション活動支援事業等に関する啓発活動，青森県作業療法士会，運転と地域移動支援～日本作業療法士協会の動向と様々な取り組み～，作業療法士，2024年6月23日，ウェブ開催.
- ・全国指定自動車教習所第13回労使懇談会，交通労連，高齢者・障害者の機能を踏まえた運転者教育と支援，労働組合

員, 2024 年 7 月 30 日, 東京.

- ・障害者教習指導員研修, 全日本指定教習所協会連合会, 高次脳機能障害者の特性と指導法, 教習指導員, 2024 年 10 月 11 日, アルカディア市ヶ谷.
- ・高齢運転者支援士研修, 全日本指定教習所協会連合会, 高次脳機能障害者の特性と指導法, 教習指導員, 2024 年 10 月 31 日, アルカディア市ヶ谷.
- ・運転補助装置の配備による障害者等の運転再開等に向けた支援事業研修会. 全日本指定教習所協会連合会, 教習指導員, 2024 年 9 月 20 日および 10 月 18 日, サン九段ビル.
- ・安全運転相談専科教養, 警察庁運転免許課, 高次脳機能障害と自動車等の運転-作業療法士の立場から-, 各都道府県警察官および職員, 2024 年 11 月 18 日, 関東管区警察学校.
- ・彰栄リハ 2024 年度第 5 回卒業後研修, 彰栄リハビリテーション専門学校, 同校卒業生, 高齢者の運転支援 - 最近のトピック・地域移動支援について -, 2025/2/1. 彰栄リハビリテーション専門学校.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・特色科目運営会. 入試改革検討委員会. 広報委員会. 社会実習運営会.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・リハビリテーション学科会議. リハビリテーション学科教授会. 作業療法学専攻会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育関連では, 次年度以降担当する科目の準備を行った. 実習については担当である地域作業療法学実習において, 制度改定による, 訪問・通所リハへの実習を確保しつつ, 本来の実習目的である作業療法士の配置が必須とされていない施設での作業療法の臨床体験ができるよう, 多くの労力を費やした. 社会貢献活動については, ふなばし健康まつりに, 千葉県作業療法士会からブースを出展し, 作業療法の啓発と高齢運転者への安全運転の啓発に努めた. 研究については教育関連業務にほとんどの時間を費やした結果, 原著論文執筆は困難であったが, 自身のテーマで 1 件, 卒業研究で指導したテーマで 1 件, 科学警察研究所との共同発表で 1 件の学会発表を行うことが出来た. 次年度は, 専攻内マネジメントに注力しつつ, データを基にした適切な新入生獲得のための方策などの検討, 学術論文投稿, 研究成果の社会実装を目指した活動のため, 業務の効率化を一層図り, 研究に時間を費やせるようにすることが課題である.

VII 次年度の目標

教育関連では, 科目のローテーションに伴う適切な講義・演習の実施に努める. 研究活動ではさらなる広い情報収集や研究成果の報告, 社会実装に向けての活動に努める. 社会貢献では, 研究成果の一般へ向けての還元を図る. 管理運営面では, 専攻内の業務が適切に行われるよう改善を行う.

准教授 有川 真弓 博士（保健科学）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 6 年度は、管理運営業務や社会貢献活動に力を注いでいきたい

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・作業分析学.
- ・人間発達学.
- ・作業療法基礎理論
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法ゼミナール
- ・作業療法評価学総論
- ・発達期作業療法学
- ・発達期作業療法学演習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・地域社会参加支援学演習
- ・作業療法総合演習.
- ・作業療法学特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・松尾 真輔, 有川 真弓, 村松 裕須圭, 田中 望, 関 美行：【地域移行・地域定着に貢献できる司法作業療法の未来】市原青年矯正センターにおける作業療法士のかかわり，作業療法ジャーナル, 58 巻 12 号, p1157-1161, 2024 年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・有川真弓, 酒井康年, 塩津裕康, 本間嗣崇：特別支援教育における学校との協働に向けた作業療法士の人材育成，日本特殊教育学会第 62 回大会，2024 年 9 月 6-8 日，福岡国際会議場.
- ・Masanori Yoshida, Mayumi Arikawa, Kazuya Yoshioka, Sei Sennari, Hidetaka Honma, Hiroyasu Shiozu, Yusuke Nakayama, Chifuyu Endo, Yasutoshi Sakai：Educational practice to train school-based occupational therapists by the Japanese Association of Occupational Therapists. 第 8 回アジア太平洋作業療法学会，2022 年 11 月 6-9 日，札幌コンベンションセンター.
- ・畔蒜美里, 有川真弓：教育委員会に所属する作業療法士の役割と課題，第 26 回千葉県作業療法士学会，2025 年 3 月 9

日，千葉県立保健医療大学幕張キャンパス。

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）
- ・第26回千葉県作業療法士学会，オンデマンド講演，小児発達領域における人間作業モデルの活用（その理論と評価），2025年3月9日，（オンデマンド配信期間：2025年3月2日～3月23日）。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉発達障害児・者 親の会「コスモ」感覚あそびの会，2024年9月1日～2025年3月31日，市川市こども発達センター。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談，2024年12月1日～2025年3月31日。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師，2024年5月1日～2025年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・市原青年矯正センター，認知機能向上作業及び一般改善指導の助言・指導，2024年4月1日～2025年3月31日。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員，2024年4月1日～2025年3月31日。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会，制度対策部保健福祉課障害児支援班長，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，障害福祉サービス等報酬改定対策委員会委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，学会演題査読委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本作業療法士協会，代議員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，事務局長，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，代議員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，理事，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部発達障害委員会委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，学術部査読委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，地域連携部こども連携委員会委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，臨床実習指導者講習会委員会委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会，司法作業療法特設委員会委員，2024年4月1日～2025年3月31日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，日本感覚統合学会，日本作業行動学会，日本LD学会，日本発達系作業療法学会，日本リハビリテーション連携科学学会，日本発達障害学会，日本特殊教育学会，日本司法作業療法学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本感覚統合学会，効果研究委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会，理事，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会，査読委員，2024年4月1日～2025年3月31日。
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会，2024年4月1日～2025年3月31日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・臨床実習指導者講習会（運営スタッフ）、千葉県作業療法士会、作業療法士、2024年6月8日～9日、WEB開催。
- ・「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、荒川区第2瑞光小学校教員、2024年8月29日、荒川区第2瑞光小学校。
- ・学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）（講師）、千葉県作業療法士会、作業療法士が関与可能なモデル、作業療法士、2024年10月5日、オンライン開催。
- ・令和6年度千葉県立保健医療公開講座「健康な未来へ」（講師）、子どもの健康な未来につながるあそびのススメ、県民、2024年10月13日、ハイブリッド開催。
- ・2024年度JDDnet第20回記念年次大会、「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、年次大会参加者、2024年12月21日、東京商工会議所 渋谷ホール。
- ・JDDnet 発達障害支援人材育成研修会2023 オンラインセミナー（ファシリテーター）、JDDnet、多職種・当事者等、2025年2月20日、オンライン開催。
- ・「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、NTT「フクチッチ」番組取材として撮影、2025年2月18日、NTT ExC パートナー株式会社 会議室。
- ・「JDDnet 発達障害を理解し合理的配慮を学ぶVR体験型プログラム」体験会（講師）、JDDnet、中学2年生および教員、2025年2月28日、台東区立駒形中学校。
- ・日本発達系作業療法学会第13回学術大会（座長）、一般演題Ⅳ、作業療法士、学校教諭、保育士、医師、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士、公認心理師、社会福祉士、保護者等、2025年3月16日、東京保健医療専門職大学 講堂。

7 その他

- ・埼玉県立小児医療センター保健発達部門作業療法科職員研究指導、2024年4月1日～2025年3月31日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、新カリキュラム作成部会、研究等倫理委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員、社会貢献委員会、自己点検・評価委員会認証評価部会、学術推進企画委員会、紀要編集部会、教員再任審査専門部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習ワーキンググループ、高校説明会、評価実習前OSCE、総合実習前OSCE、臨床実習指導者会議、リハビリテーション学科キャンパスツアー、リハビリテーション学科ホームカミングデー。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

管理運営業務に力を注いだ。社会貢献活動にも積極的に取り組むことができた。

VII 次年度の目標

2025年度は学生の実習等の教育指導や社会貢献活動に力を注いでいきたい。

准教授 松尾 真輔 修士（学術）

対象期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

次年度は引き続き、臨床実習の運営責任者として臨床 WG をまとめ、臨床体験実習から地域作業療法学実習を専攻として管理できるよう従事したい。また専攻内での自身の役割を調整しながら、円滑な専攻業務が担えるように取り組んでいきたい。また学生への効果的な学習効果に繋がるよう、必要に応じて個別指導を行っていきたいと考えている。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学
- ・身体作業療法評価学実習
- ・身体作業療法学演習
- ・身体作業療法学Ⅰ・Ⅱ
- ・義肢装具学
- ・老年期作業療法学
- ・老年期作業療法学演習
- ・地域作業療法学.
- ・作業療法ゼミナールD①、D②.
- ・作業療法特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習
- ・作業療法総合演習
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・作業療法管理学（八千代リハビリテーション学院）.

Ⅲ 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・松尾真輔，有川真弓，村松裕須圭，田中望，関美行：市原市青年矯正センターにおける作業療法士のかかわり，作業療法ジャーナル，58巻，12号，p1157 - 1161，2024年．

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・江戸優裕，菊池咲葵，松尾真輔，島田美恵子：大学生における関節弛緩性とスポーツ傷害の関係一部位および損傷組織を踏まえた検討一，第43回関東甲信越ブロック理学療法士学会・第30回千葉県理学療法学会合同大会，2024年10月5日～6日，幕張メッセ．

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・松尾真輔，有川真弓，関美行，他：司法領域における作業療法の実践，第26回千葉県作業療法学会，2025年3月9日，千葉県立保健医療大学．

Ⅳ 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・市原青年矯正センター 認知機能向上作業及び一般改善指導の助言・指導，2024年4月1日～2025年3月31日．

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県脳損傷者運転支援連携会議，外部委員，2023年12月～現在に至る．
- ・千葉県地域リハビリテーション協議会，委員，2024年6月～現在に至る．

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会，千葉中央ブロック代議員，2014年4月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，千葉県生活行為向上マネジメント委員会，委員，2013年8月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，千葉県作業療法誌，査読者，2014年4月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，災害対策委員会，委員，2015年4月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，ブロック部，部長，2018年6月～2024年6月．
- ・千葉県作業療法士会，ブロック部，2024年6月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，地域連携システム委員会，委員長，2022年6月～2024年6月．
- ・千葉県POS連盟，千葉POS災害対策委員会，委員，2016年1月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，副会長，2018年6月～2024年6月．
- ・千葉県作業療法士会，運転特設委員会・担当理事，2018年6月～現在に至る．
- ・千葉県POS協議会，理事，2018年6月～2024年6月．
- ・日本作業療法士協会，代議員，2020年6月～現在に至る．
- ・千葉市リハビリテーション連絡協議会，委員，2020年2月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，司法作業療法，担当理事，2023年4月～2024年6月．
- ・全国リハビリテーション学校協会，学術誌査読者，2023年10月～現在に至る．
- ・千葉県作業療法士会，会長，2024年6月～現在に至る．
- ・千葉県リハビリテーション専門職協会，副会長，2024年6月～現在に至る．

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会，千葉県リハビリテーション専門職協会，千葉県医療推進協議会，日本司法作業療法学会，千葉県脳損傷者運転支援連携会議，千葉県地域リハビリテーション協議会，千葉市リハビリテーション連絡協議会．

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県 POS 協議会、理事会、（年 4 回）。
- ・千葉県作業療法士会、理事会、（年 12 回）。
- ・千葉県作業療法士会、三役会、（年 5 回）。
- ・千葉県作業療法士会、定時・予算総会、2024 年 6 月、2025 年 3 月。
- ・第 26 回千葉県作業療法士学会 運営スタッフ、2025 年 3 月 9 日。
- ・日本作業療法士協会、48 会議、各都道府県代表者、監事、2024 年 7 月～2025 年 3 月（年 4 回）。
- ・日本理学療法士協会、関東甲信越ブロック学会、2024 年 10 月 5 日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会、第 1 回臨床実習指導者講習会、2024 年 6 月 8 日～9 日。
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2024 年 7 月 20 日。
- ・千葉県作業療法士会、第 2 回臨床実習指導者講習会、2024 年 9 月 7 日～8 日。
- ・千葉県立保健医療大学、ほい大プログラム、生活行為を見直そう！～健康な心身で人生に彩りを～、2025 年 1 月 25 日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、総務企画委員会、危機管理委員会、IR 部会、自己点検・評価委員会報告書作成等部会、教育研究年報編集部会部会、体験ゼミナール部会員、紀要編集部会員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議、実習 WG、学内実習 WG、評価・総合実習前 OSCE、高校説明会。
- ・卒業生ホームカミングディ、運営スタッフ、2024 年 10 月 19 日、幕張キャンパス。
- ・仁戸名オープンキャンパス、専攻責任者、2024 年 11 月 30 日、仁戸名キャンパス。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

専攻全体に関わる卒業論文指導、臨床実習と国家試験対策については、滞りなく努められた。臨床実習の対外的な対応（OSCE や実習施設訪問など）も臨機応変に対応でき、学生の臨床場面の経験にうまくつなげることができた。非常勤講師や特別講師の対応含め、学内での教育も講義の工夫も含めて順調に携わることが出来た。

VII 次年度の目標

次年度は円滑な臨床実習の運営が出来るよう、専攻内での業務の在り方を調整していきたい。また部会・委員会などの大学業務を含め部長や副委員長などのポストも不備なく務めながら、積極的な学外活動（主に司法作業療法領域での活動）を実施し、研究に繋げ、学会発表や論文作成ができるようにしたい。

講師 成田 悠哉 修士（リハビリテーション）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、県内の自治体との連携や他大学との共同研究に携わり、成果を報告する。大学管理運営では、入試実施委員会や専門職間の連携活動論作業部会における業務を円滑に進める。社会貢献では、職能団体や地域団体における活動を継続して参画する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績

- ・体験ゼミナール.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・地域社会参加支援学.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・作業療法学特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・作業療法総合演習.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・萩野 浩，山田 実，久米 裕 編，成田 悠哉 等 分担執筆：最新リハビリテーション基礎講座 予防医学，令和6年12月，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・Kitamura S, Otaka Y, Uehara S, Murayama Y, Ushizawa K, Narita Y, Nakatsukasa N, Matsuura D, Osu R, Kondo K, Sakata S. Time-course for acquiring transfer independence in patients with subacute stroke: a prospective cohort study. J Rehabil Med. 2024.
- ・鈴鹿 祐子，成田 悠哉，渡辺 陵介，西村 克枝，須藤 崇行，麻賀 多美代，大川 由一，岡村 太郎：歯磨き行為による認知評価の試み，千葉県立保健医療大学紀要，16，2025.
- ・河部 房子，大川 由一，平岡 真実，木内 千晶，酒巻 裕之，成田 悠哉，室井 大佑，岡村 太郎，佐藤 紀子，龍野 一郎：令和6年度保健医療大学取組報告会ー保健・医療・福祉の連携拠点としてー，千葉県立保健医療大学取組報告会資料，千葉県立保健医療大学紀要，16，2025.
- ・成田 悠哉，室井 大佑，松浦 めぐみ，坂崎 純太郎：健康診査からみた新型コロナウイルス感染症流行による高齢者の健康状態の変化，千葉県立保健医療大学紀要（学長裁量研究報告書），千葉県立保健医療大学紀要，16，2025.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・成田 悠哉，河川 謙二郎，井手 一茂，中込 敦士，辻 大士，金森 悟，近藤 克則：「高齢者のスポーツ・運動のボランティア活動の参加と健康・well-being -アウトカムワイド分析-」，第83回日本公衆衛生学会総会，令和6年10月，札幌コンベンションセンター。
- ・成田 悠哉，室井 大佑，松浦 めぐみ，坂崎 純太郎，尾形 和宏：「健康診査からみた新型コロナウイルス感染症流行による高齢者の健康状態の変化」，第63回千葉県公衆衛生学会，令和7年3月，千葉市文化センター。
- ・辻 大士，河川 謙二郎，井手 一茂，中込 敦士，成田 悠哉，金森 悟，近藤 克則：「高齢者の『みる』スポーツと健康・well-being アウトカムワイド縦断分析」，第83回日本公衆衛生学会総会，令和6年10月，札幌コンベンションセンター。
- ・斎藤 梨菜，井上 薫，成田 悠哉：「当院脳卒中患者の院内車椅子駆動自立に影響を与える要因の検討」，第58回日本作業療法学会，令和6年11月，札幌コンベンションセンター。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・令和6年度共同研究（学長裁量）研究，新型コロナウイルス感染症流行前後における健康診査結果からみた健康状態の変化，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・「e スポーツ体験会」の補助，2024年9月，鷹の台自治会。
- ・千葉県立保健医療大学「ほい大プログラム」講師，2024年11月，いすみ市役所。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会，災害対策委員会，委員，2015年4月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会，教育部，委員，2021年4月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会，事務局Web研修班，班員，2020年7月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，日本公衆衛生学会，千葉県作業療法士会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会，学術誌編集委員会，委員，2020年4月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・令和6年度 保健医療大学取組報告会，主催：千葉県保健医療担当部及び千葉県立保健医療大学，講演テーマ：Covid-19前後の特定健康診査・後期高齢者健康診査のデータ解析から導出された健康指標の現状と課題—自治体との協働から，対象：千葉県保健医療担当者，令和6年11月，千葉県庁本庁舎。
- ・スポーツを活用した健康まちづくりワークショップ，主催：千葉大学 RISTEX「スポーツ参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究 ～国・自治体・個人レベルの重層的アプローチ～」プロジェクトチーム，講演テーマ：スポーツを活用した健康まちづくり，対象：自治体スポーツ振興課等，令和6年12月，Web 会議。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・紀要編集部会員，入試実施委員会，自己点検・評価実施推進部会，専門職間の連携活動論部会員，情報システム委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議 作業療法学専攻会議 臨床実習ワーキンググループ 臨床実習指導者会議 新型コロナと認知症プロジェクトチーム

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、専門職間の連携活動論や臨床実習の運営に携わり、一連の進行の補助を行った。また、身体作業療法学実習では、実技指導や臨床推論指導に関わり、学生教育に努めた。研究活動では、新型コロナウイルス感染症流行前後における高齢者の健康状態の追跡に加え、スポーツ・運動を通じた健康まちづくりに資する研究発表を実施した。委員会業務として、入試実施委員会における専攻の入試運営に携わった。社会貢献では、千葉県の職能団体の委員として県内作業療法士の基礎研修の運営協力や災害対策委員会での活動を実施した。

VII 次年度の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、千葉大学との共同研究や本学の新型コロナプロジェクトチームにおける活動の成果を報告する。大学管理運営では、情報システム委員会の業務を円滑に行う。社会貢献では、各自治体や職能団体における活動を継続する。

講師 須藤 崇行 修士（リハビリテーション医療学）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで

I 年度当初の目標

2025年度は着任3年目のため、委員会活動など本学の業務へ積極的に関わっていく。また4年生の担任として学生が学業に集中できる環境を整えていく。特に国家試験勉強の環境を整え、模擬試験やグループ学習の準備・支援など学生が集中して学習に取り組めるように支援していく。また学外で行う総合実習の科目責任者であるため、実習オリエンテーションやOSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）などの事前準備を含め学生の支援を行っていく。社会貢献としては引き続き、千葉県作業療法士会の活動に積極的に携わっていく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体表解剖学.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・身体作業療法学Ⅰ.
- ・身体作業療法学演習.
- ・老年期作業療法学演習.
- ・地域社会参加支援学演習.
- ・作業療法総合演習.
- ・臨床体験実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・評価実習Ⅰ.
- ・評価実習Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康作り
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Suzuki Y, Sudo T, Mochizuki H, Shimoda N: Relationship between anxiety concerning dementia onset and subjective memory impairment in frail older individuals. Dement Geriatr Cogn Disord Extra. 15:1-7, 2025.
- ・鈴鹿 祐子, 成田 悠哉, 渡辺 陵介, 西村 克枝, 須藤 崇行, 麻賀 多美代, 大川 由一, 岡村 太郎: 歯磨き行為による認知評価の試み, 千葉県立保健医療大学紀要, 16, 2025.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県作業療法士会、千葉県生活行為向上マネジメント委員会、委員、2013 年 8 月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会、学会委員会、委員長、2017 年 4 月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会、代議員、2018 年 4 月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会、理事、2018 年 4 月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会、副会長、2020 年 6 月～2024 年 6 月
- ・千葉県作業療法士会、臨床実習指導者講習会委員会、2023 年 4 月～現在に至る。
- ・千葉県作業療法士会、学術誌編集委員会、2023 年 4 月～現在に至る。
- ・千葉県 POS 連盟、理事、2022 年 12 月～2024 年 6 月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、千葉 POS 連盟。

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県作業療法士会、理事会出席(毎月開催 年 12 回)。
- ・千葉県作業療法士会、定時総会出席、2024 年 6 月。
- ・千葉県作業療法士会、臨時総会出席、2025 年 3 月。

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2024 年 7 月 20 日。
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント事例検討会、2024 年 10 月 26 日。
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2024 年 12 月 7 日。
- ・千葉県作業療法士会、第 1 回臨床実習指導者講習会、2024 年 6 月 8 日。
- ・千葉県作業療法士会、第 26 回千葉県作業療法士学会、2025 年 3 月 9 日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会、図書委員会、入試実施委員会、キャンパス・ハラスメント相談委員会。

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議、臨床実習 WG、学内実習 WG。

VI 評価(成果および改善すべき事項)

着任 3 年目のため、昨年の経験をもとに担任業務や総合実習の科目責任者としての業務見直しを行った。概ね計画通り進められ、大きな問題が無く終えることが出来た。次年度は総合実習の科目責任者変更に伴う引継ぎ作業を行う予定のため、次の担当者と情報共有に努め、滞りなく作業が進められるように準備を行っていく。

担当する教務委員会、図書委員会、入試実施委員会、キャンパス・ハラスメント相談委員会は 2 年目ということもあり、大きな問題も無く終えることが出来た。今後も他学科・専攻との情報共有に努め、円滑な業務遂行が行えるように対応をしていく。

担当授業については、臨床場面を意識した構成で行い、昨年度の経験を活かし内容を修正しながら行った。来年度も適宜見直しを行い、より良い内容で授業を行えるように取り組んでいきたい。社会貢献については、今年度も千葉県作業療法士会を中心に活動に携わり、研修会や学会の運営、講習会の講師などを担った。来年度も引き続き、千葉県作業療法士会を中

心に活動を行っていきたい。

VII 次年度の目標

今年度は、第4回（2024年度）理学療法士作業療法士専任教員養成講習会（令和6年12月2日～令和7年2月19日）を受講し教員としてのスキルアップに努めたため、次年度は講習会の中で学んだ内容を学生支援のために活用していく。特に、担当授業の内容を見直し、教育効果の高い内容になるよう改善していく。学内の委員会については、今後も継続して他学科・専攻との情報共有に努め、円滑な業務遂行が行えるように努めていく。社会貢献としては引き続き、千葉県作業療法士会の活動に積極的に携わっていきたい。

助教 清水 大輝 修士（リハビリテーション）

対象期間：2024 年 10 月 1 日～2025 年 3 月 30 日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、精神作業療法関連科目を中心に授業補助を担当し、円滑な講義運営に携わる。研究活動では、介護老人保健施設における転倒調査研究を進め、データ収集を行う。大学管理運営では、学科・専攻会議の議事録作成や、専攻の実習関連業務の補助を行う。社会貢献では、県外の介護老人保健施設でのボランティア活動を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・基礎作業学実習.
 - ・精神作業療法評価学実習.
 - ・精神作業療法学.
 - ・評価実習 I・II.
 - ・総合実習 I・II.
 - ・地域作業療法学実習.
 - ・作業療法総合演習.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究、介護老人保健施設における認知症高齢者の Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia と転倒・転落の関連に関する研究、研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県外
 - ・介護老人保健施設における転倒防止に向けた教育・指導支援、および回想法を用いた認知症高齢者との交流支援. 2025 年 1 月～現在. 東京都世田谷区.

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本作業療法士協会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議. 臨床実習ワーキンググループ. 臨床実習指導者会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、精神作業療法関連科目において授業補助を行い、講義資料の準備や学生対応を通じて授業運営に貢献した。研究活動では、介護老人保健施設における転倒調査研究のための予備調査などの研究準備とデータ収集を進めた。大学管理運営では、学科・専攻会議の議事録作成や実習関連資料の整備など、基礎的業務および運営に携わる機会を得た。社会貢献として、県外の介護老人保健施設における回想法や転倒防止に関する支援活動を実施し、現場でのニーズに応じた実践的な関わりを行った。

VII 次年度の目標

教育活動では、精神作業療法領域の講義を担当し、円滑な講義運営に努める。また、実習関連業務の理解を深め、主体的な運営および補助を行う。研究活動では、介護老人保健施設における転倒と BPSD に関する前向きコホート研究の中間報告、および論文化を目指す。大学管理運営では、引き続き学科・専攻の会議記録や資料作成に携わり、学内運営への貢献の幅を広げる。また、入試実施委員、広報委員、相談員としての業務にも取り組む。社会貢献では、県外の介護老人保健施設におけるボランティア活動を継続するほか、学生と共に認知症カフェに参加し、地域の認知症高齢者との交流を通じて専門職としての地域貢献を積み重ねる。

資料 1 履修規程別表

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2		○			選択 4単位 (※1)
		哲学	1・2・3・4 前	2		○			
		文学	1・2・3・4 前	2		○			
		歴史と文化	1・2・3・4 前	2		○			
		生命倫理	1・2・3・4 後	2		○			
		宗教学	1・2・3・4 後	2		○			
		教育学	1・2・3・4 後	2		○			
		人間関係論	1・2・3・4 前	2		○			
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前	2		○			
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1			○		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後	1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後	2		○			選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4 前	2		○			
		社会学	1・2・3・4 後	2		○			
		文化人類学	1・2・3・4 前	2		○			
		経済学	1・2・3・4 前	2		○			
		国際関係論	1・2・3・4 後	2		○			
		社会福祉学	1・2・3・4 前	1		○			
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後	1		○			
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後	2		○			
		科学論	1・2・3・4 前	2		○			
		環境変化と生態	1・2・3・4 後	2		○			
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後	2		○			
		生物学	1・2・3・4 前後	2		○			
		物理学	1・2・3・4 前	2		○			
		化学	1・2・3・4 前	2		○			
	情報理解群	統計学	1 後	1			○		必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	1 前	1			○		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後	1			○		
		情報倫理	1・2・3・4 後	1		○			
		実践統計学	2・3・4 前	1		○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前	1			○		必修 2単位 ＋ 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前	1			○		
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 後	2		○			
		英語Ⅵ（応用英語）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅶ（上級英語）A	2・3・4 後	1		○			
		英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4 後	1		○			

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間の心と身体	運動生理学総論		1		○			必修16単位 ＋ 選択3単位
		生化学総論	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）		1		○			
		心の健康			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	1			○			
		発達心理学		1		○			
		臨床心理学		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1			○			
		リハビリテーション概論		1		○			
		救命・救急の理論と実際	1			○			
		画像診断学		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）		1		○			
		健康と運動		1		○			
		家族社会学		1		○			
		医療経営管理論		1		○			
		リスクマネジメント論	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	1			○			【専門科目】 必修77単位 ＋ 選択3単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	1			○			
		臨床検査論	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	1			○			
		看護学原論	1				○		
		看護倫理	1			○		○	
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	1				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	1				○		

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	2 前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修 7.7 単位 ＋ 選択 3 単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	2 後	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	2 後	1			○		
		日常生活調整方法論	2 前		1	○			
		看護学入門実習	1 前	2				○	
		基礎看護学実習	2 前	2				○	
	実践看護科目	医療生活支援	臨床看護学概論	2 後	1		○		
			臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	3 前	2		○		
			臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	3 前	2		○		
			臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	3 後・4 前	1			○	
			ターミナルケア論	3 前	1	○			
			急性期看護学実習	3 後・4 前	2			○	
			慢性期看護学実習	3 後・4 前	3			○	
		療養生活支援	精神看護学概論	1 後	1		○		
			高齢者・在宅看護学概論	1 後	1		○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	2 後	1			○	
			高齢者看護学方法論Ⅱ	3 前	1			○	
			在宅看護学方法論Ⅱ	3 前	1			○	
			精神看護学方法論Ⅰ	2 後	1			○	
			精神看護学方法論Ⅱ	3 前	1			○	
			退院支援論	3 前	1	○			
			高齢者看護学実習	3 後・4 前	3			○	
			在宅看護学実習	3 後・4 前	1			○	
			精神看護学実習	3 後・4 前	2			○	
		健康生活支援	地域看護学概論	2 前	2		○		
			地域看護学方法論Ⅰ	2 後	1		○		
			地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2		○		
			地域看護学方法論Ⅲ	3 前	1			○	
			地域看護学実習	3 後・4 前	3			○	
			看護政策論	4 前	1		○		
		育成支援	育成期看護概論	2 前	1		○		
			小児看護学方法論Ⅰ	2 後	1			○	
			小児看護学方法論Ⅱ	3 前	1			○	
			小児地域ケア論	3 前		1	○		
			母性看護学方法論Ⅰ	2 後	1			○	
			母性看護学方法論Ⅱ	3 前	1			○	
			母性看護学実習	3 後・4 前	2			○	
			小児看護学実習	3 後・4 前	2			○	
			助産学概論	3 前		1	○		
			助産診断・技術学Ⅰ	3 前		1	○		
			助産診断・技術学Ⅱ	4 前		2		○	
			助産診断・技術学Ⅲ	4 通		3		○	

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	4 後		2			○		
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	3 後		1				○	
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	4 通		2				○	
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	4 通		3				○	
	発展看護科目		看護管理論	4 前	1			○			【専門科目】 （再掲） 必修 7.7 単位 ＋ 選択 3 単位
			災害看護学	3 前	1			○			
			看護キャリア発達論	2 後	1			○			
			看護管理実習	4 前	1						
			総合実習	4 通	3					○	
			看護研究	4 通	2				○		
			看護学統合	4 後	1				○		
			リーダーシップ論	2 前	1			○			
			国際看護論	2 前		1		○			
			家族看護論	2 後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目								演習科目										実習科目																
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習	
1前	看護学入門実習	○																																		
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○												
3後～4前	急性期看護学実習			○					○	○			○									○		○	○											
	慢性期看護学実習			○					○	○			○										○	○												
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○												
	精神看護学実習		○										○		○								○	○												
	在宅看護学実習							○					○				○		○				○	○												
	高齢者看護学実習							○					○				○	○					○	○												
	母性看護学実習				○								○							○				○	○											
4前	看護管理実習									○																○	○									
	助産学実習Ⅱ																					○												○		
4通	助産学実習Ⅲ																					○												○		
	総合実習																							○:選択する領域の実習												
4後	看護学統合																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021 年度以降 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	3 単位	1 9 単位
専門科目	7 7 単位	3 単位	8 0 単位
合 計	1 0 0 単位	2 6 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計 2 単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計 13 単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学		2		○			選択 4単位 (※1)
		哲学		2		○			
		文学		2		○			
		歴史と文化		2		○			
		生命倫理		2		○			
		宗教学		2		○			
		教育学		2		○			
		人間関係論		2		○			
		コミュニケーション理論と実際		2		○			
		健康スポーツ科学		1			○		
		生涯身体運動科学		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン		2		○			選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)		2		○			
		社会学		2		○			
		文化人類学		2		○			
		経済学		2		○			
		国際関係論		2		○			
		社会福祉学		1		○			
		国際的な健康課題		1		○			
		人権・ジェンダー		2		○			
		科学論		2		○			
		環境変化と生態		2		○			
		観察生物学入門		2		○			
		生物学		2		○			
		物理学		2		○			
		化学		2		○			
	情報理解群	統計学		1			○		必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	1 前	1			○		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後	1			○		
		情報倫理	1・2・3・4 後	1		○			
		実践統計学	2・3・4 前	1		○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前	1			○		必修 2単位 ＋ 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前	1			○		
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 後	2		○			
		英語Ⅵ（応用英語）	1・2・3・4 後	1			○		
		英語Ⅶ（上級英語）A	2・3・4 後	1		○			
		英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4 後	1		○			

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			必修 16 単位 ＋ 選択 4 単位
		生化学総論	2 前	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	1 後	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	1 後		1		○			
		心の健康	1・2・3・4 後			1	○			
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	1 前	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	1 前	1			○			
		発達心理学	2 前		1		○			
		臨床心理学	1 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1 前	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	2 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			
		画像診断学	2 後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	3 前		1		○			
		健康と運動	1 後		1		○			
		家族社会学	1 前		1		○			
		医療経営管理論	3 前		1		○			
		リスクマネジメント論	2 後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	1 前	1			○			【専門科目】 必修 76 単位 ＋ 選択 3 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	1 前	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	1 後	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	2 前	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	2 前	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	2 前	1			○			
		臨床検査論	2 前	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	1 前	1			○			
		看護学原論	1 前	1				○		
		看護倫理	2 後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	1 後	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	1 後	1				○		

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	2 前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修 76 単位 ＋ 選択 3 単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	2 後	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	2 後	1			○		
		日常生活調整方法論	2 前		1		○		
		看護学入門実習	1 前	2				○	
		基礎看護学実習	2 前	2				○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	2 後	1			○		
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	3 前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	3 前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	3 後・4 前	1				○	
		ターミナルケア論	3 前		1		○		
		急性期看護学実習	3 後・4 前	2				○	
		慢性期看護学実習	3 後・4 前	3				○	
	療養生活支援	精神看護学概論	1 後	1			○		
		高齢者・在宅看護学概論	1 後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○	
		高齢者看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○	
		在宅看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○	
		精神看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○	
		精神看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○	
		退院支援論	3 前		1		○		
		高齢者看護学実習	3 後・4 前	3				○	
		在宅看護学実習	3 後・4 前	1				○	
		精神看護学実習	3 後・4 前	2				○	
	健康生活支援	地域看護学概論	2 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	2 後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	1				○	
		地域看護学実習	3 後・4 前	3				○	
		看護政策論	4 前		1		○		
	育成支援	育成期看護概論	2 前	1			○		
		小児看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○	
		小児看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○	
		小児地域ケア論	3 前		1		○		
		母性看護学方法論Ⅰ	2 後	1				○	
		母性看護学方法論Ⅱ	3 前	1				○	
		母性看護学実習	3 後・4 前	2				○	
		小児看護学実習	3 後・4 前	2				○	
		助産学概論	3 前		1		○		
		助産診断・技術学Ⅰ	3 前		1		○		
		助産診断・技術学Ⅱ	4 前		2			○	
		助産診断・技術学Ⅲ	4 通		2			○	
		助産診断・技術学Ⅳ	4 後		2			○	
		助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	3 後		1			○	
		助産学実習Ⅱ（継続支援）	4 通		2			○	
		助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	4 通		3			○	

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

発展看護科目	看護管理論	4前	1			○			
	災害看護学	3前	1			○			
	看護キャリア発達論	2後	1			○			
	看護管理実習	4前	1						
	総合実習	4通	3					○	
	看護研究	4通	2				○		
	看護学統合	4後	1				○		
	リーダーシップ論	2前	1			○			
	国際看護論	2前		1		○			
	家族看護論	2後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019・2020 年度 入学生用）

先修条件

【専門科目】

- 1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																		
		講義科目								演習科目								実習科目																		
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習	
1前	看護学入門実習	○																																		
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○												
3後～4前	急性期看護学実習			○					○	○			○								○		○	○												
	慢性期看護学実習			○					○	○			○										○	○												
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○												
	精神看護学実習		○										○		○								○	○												
	在宅看護学実習							○					○			○		○	○				○	○												
	高齢者看護学実習							○					○			○	○						○	○												
	母性看護学実習				○								○							○			○	○												
	小児看護学実習				○								○								○			○	○											
4前	看護管理実習								○																	○	○									
4通	助産学実習Ⅱ																					○												○		
	助産学実習Ⅲ																					○												○		
4後	総合実習																							○:選択する領域の実習												
	看護学統合																									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	2 0 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 6 単位	4 単位	2 0 単位
専門科目	7 6 単位	3 単位	7 9 単位
合 計	9 9 単位	2 7 単位	1 2 6 単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	3 前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	3 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学		2		○			選択 4単位 (※1)
		哲学		2		○			
		文学		2		○			
		歴史と文化		2		○			
		生命倫理		2		○			
		宗教学		2		○			
		教育学		2		○			
		人間関係論		2		○			
		コミュニケーション理論と実際		2		○			
		健康スポーツ科学		1			○		
		生涯身体運動科学		1			○		
	生活と環境群	生活とデザイン		2		○			選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)		2		○			
		社会学		2		○			
		文化人類学		2		○			
		経済学		2		○			
		国際関係論		2		○			
		社会福祉学		1		○			
		国際的な健康課題		1		○			
		人権・ジェンダー		2		○			
		科学論		2		○			
		環境変化と生態		2		○			
		観察生物学入門		2		○			
		生物学		2		○			
		物理学		2		○			
		化学		2		○			
	情報理解群	統計学		1			○		必修 2単位
		情報リテラシーⅠ		1			○		
		情報リテラシーⅡ		1			○		
		情報倫理		1		○			
		実践統計学		1		○			
	外国語群	英語Ⅰ（講読）		1			○		必修 2単位 ＋ 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）		1			○		
		英語Ⅲ（講読・記述）		1			○		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）		1			○		
		英語Ⅴ（保健医療英語）				○			
		英語Ⅵ（応用英語）		1			○		
		英語Ⅶ（上級英語）A		1		○			
		英語Ⅶ（上級英語）B		1		○			

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間の心と身体	運動生理学総論	3 前		1		○			必修 16 単位 ＋ 選択 3 単位
		生化学総論	—	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	—	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）	3 後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	—	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	—	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	—	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	—	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	—	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	—	1			○			
		発達心理学	4 前		1		○			
		臨床心理学	3 後		1			○		
	健康と保健医療システム	健康論	3 前		1		○			
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	—	1			○			
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	—	1			○			
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1			○			
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	3 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	3 前	1			○			
		画像診断学	3 後		1		○			
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	3 後	1			○			
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	3 後	1			○			
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前		1		○			
		食育論Ⅱ（応用）	3 前		1		○			
		健康と運動	3 後		1		○			
		家族社会学	3 前		1		○			
		医療経営管理論	3 前		1		○			
		リスクマネジメント論	3 後	1			○			
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	—	1			○			【専門科目】 必修 77 単位 ＋ 選択 3 単位
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	—	1			○			
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	—	1			○			
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	—	2			○			
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	—	2			○			
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	—	1			○			
		臨床検査論	—	1			○			
	基礎看護科目	看護学入門	—	1			○			
		看護学原論	—	1				○		
		看護倫理	3 後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	—	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	—	1				○		

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	2			○		【専門科目】 (再掲) 必修 77 単位 + 選択 3 単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	1			○		
		日常生活調整方法論	3・4 前		1	○			
		看護学入門実習	—	2				○	
		基礎看護学実習	—	2				○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	3 後	1		○			
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	2		○			
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	2		○			
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	1			○		
		ターミナルケア論	3・4 前		1	○			
		急性期看護学実習	—	2				○	
		慢性期看護学実習	—	3				○	
	療養生活支援	精神看護学概論	3 後	1		○			
		高齢者・在宅看護学概論	3 後	1		○			
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	1			○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	—	1			○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	—	1			○		
		精神看護学方法論Ⅰ	—	1			○		
		精神看護学方法論Ⅱ	—	1			○		
		退院支援論	3・4 前		1	○			
		高齢者看護学実習	—	3				○	
		在宅看護学実習	—	1				○	
		精神看護学実習	—	2				○	
	健康生活支援	地域看護学概論	3 前	2		○			
		地域看護学方法論Ⅰ	3 後	1		○			
		地域看護学方法論Ⅱ	3 前	2		○			
		地域看護学方法論Ⅲ	3 前	1			○		
		地域看護学実習	3 後	3				○	
		看護政策論	3・4 前	1		○			
	育成支援	育成期看護概論	3 前	1		○			
		小児看護学方法論Ⅰ	—	1			○		
		小児看護学方法論Ⅱ	—	1			○		
		小児地域ケア論	3・4 前		1	○			
		母性看護学方法論Ⅰ	—	1			○		
		母性看護学方法論Ⅱ	—	1			○		
		母性看護学実習	—	2				○	
		小児看護学実習	—	2				○	
		助産学概論	3 前		1	○			
		助産診断・技術学Ⅰ	3 前		1	○			

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	看護管理論	4 前	1			○			【専門科目】 (再掲) 必修 77 単位 + 選択 3 単位
	災害看護学	3 前	1			○			
	看護キャリア発達論	3 後	1			○			
	看護管理実習	4 前	1					○	
	総合実習	4 通	3					○	
	看護研究	4 通	2				○		
	看護学統合	4 後	1				○		
	リーダーシップ論	3・4 前	1			○			
	国際看護論	3 前		1		○			
	家族看護論	3 後		1		○			

(看護学科 2023 年度以降 編入学生用)

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の関係活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。
- 3 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																					
		講義科目								演習科目										実習科目																			
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護学概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習Ⅰ	総合実習					
1前	看護学入門実習	○																																					
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○															
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○			○									○		○	○															
	慢性期看護学実習			○					○				○										○	○															
	地域看護学実習					○	○						○	○									○	○															
	精神看護学実習		○										○		○								○	○															
	在宅看護学実習						○						○			○		○					○	○															
	高齢者看護学実習							○					○			○	○						○	○															
	母性看護学実習				○								○							○				○	○														
	小児看護学実習				○								○							○				○	○														
4前	看護管理実習								○																	○	○												
4通	助産学実習Ⅱ																					○												○					
	助産学実習Ⅲ																					○												○					
4後	総合実習看護学統合																								○:選択する領域の実習														○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2023 年度以降 編入学生用）

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	4 単位	20 単位	24 単位
保健医療基礎科目	16 単位	3 単位	19 単位
専門科目	77 単位	3 単位	80 単位
合 計	100 単位	26 単位	126 単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計 8 単位が必要である。

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目		体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修 3 単位
		千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	
		専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30	
		社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2		○			30	必修 2 単位 + 選択 4 単位 このうち b から 1 科目以上選択
		哲学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○			30	
		生命倫理	1・2・3・4 後	2		○			30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○		30		
		教育学	1・2・3・4 前		2		○		30		
		人間関係論 b	1・2・3・4 前		2		○		30		
		コミュニケーション理論と実際 b	1・2・3・4 前		2		○		30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○			30	選択 6 単位 このうち ※から 1 科目以上選択 # から 1 科目以上選択
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○			30	
		社会学※	1・2・3・4 後		2		○			30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○			30	
		国際関係論※	1・2・3・4 後		2		○			30	
		社会福祉学※	1・2・3・4 前		1		○			15	
		国際的な健康課題※	1・2・3・4 後		1		○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○			30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○			30	
		生物学 #	1・2・3・4 前後		2		○			30	
		物理学 #	1・2・3・4 前		2		○			30	
		化学 #	1・2・3・4 前		2		○			30	
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1				○		30	必修 2 単位
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1				○		30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1			○		30	
		情報倫理	1・2・3・4 後		1		○			15	
		実践統計学	2・3・4 前		1		○			15	
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1			○		30	必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前		1			○		30	
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後		1			○		30	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後		1			○		30	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 前	2		○			30		
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4 後		1			○		30		
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4 後		1		○			15		
英語Ⅶ（上級英語）B		2・3・4 後		1		○			15		

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論		1		○			15	必修 10 単位 ＋ 選択 4 単位
		生化学総論			1	○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）			1	○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）			1	○			15	
		心の健康		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1 前			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1 前			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		発達心理学		1		○			15	
		臨床心理学		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1			○			15	
		リハビリテーション概論		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際		1		○			15	
		画像診断学		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）		1		○			15	
		健康と運動		1		○			15	
		家族社会学		1		○			15	
		医療経営管理論		1		○			15	
		リスクマネジメント論		1		○			15	
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1 前	1		○			15	【専門科目】 必修 78 単位 ＋ 選択 7 単位
		解剖生理学Ⅰ	1 前	2		○			30	
		解剖学実験	1 後	1				○	45	
		解剖生理学Ⅱ	1 後	2		○			30	
		生理学実験	2 前	1				○	45	
		生化学	1 前	2		○			30	
		栄養生化学	1 後	2		○			30	
		生化学実験	2 前	1				○	45	
		疾病論	2 前	2		○			30	
		高齢者医療論	3・4 後		1	○			15	
		食品学各論	1 前	2		○			30	
		食品学実験	1 後	1				○	45	
		食品学総論	1 前	2		○			30	
		食品化学実験	1 後	1				○	45	
		理化学概論	1 前		1	○			15	

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	1 後	2		○			30	【専門科目】 (再掲) 必修 7 8 単位 + 選択 7 単位
		食品衛生学実験	2 前	1				○	45	
		食品加工学	2 前	1		○			15	
		食品加工学実習	2 後	1				○	45	
		食品微生物学	3・4 後		1	○			15	
		食事設計と調理	1 前	2		○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1				○	45	
		調理実習	1 後	1				○	45	
		調理科学実験	1 前	1				○	45	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	1 後	2		○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1				○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 前	2		○			30	
		応用栄養学Ⅱ	2 後	2		○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 前	2		○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1				○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1	○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2		○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2		○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1				○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2		○			30	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2		○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2		○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1				○	45	
		栄養ケアマネジメント論	3 前	2		○			30	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1				○	45	
		臨床検査学	2 前	2		○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1	○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1	○			15	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 後	2		○			30	
		公衆栄養学Ⅱ	3 前	2		○			30	
		公衆栄養学実習	3 前	1				○	45	
		国際栄養学	3・4 後		1	○			15	
	管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2		○			30	
		給食経営管理論Ⅱ	2 後	2		○			30	
		給食経営管理実習	3 前	2				○	90	
		フードマネジメント論	3・4 後		1	○			15	
	演 総合 習 合	総合演習	4 前	1			○		30	
		栄養統計学	3 後	1		○			15	
		管理栄養士特別演習	4 通		2		○		60	
	研究	卒業研究	4 通	2			○		60	
	臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2				○	90	
		給食経営管理臨地実習	3 通	2				○	90	
		公衆栄養臨地実習	3 通		1			○	45	

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	4 通		1				○	45	【専門科目】 （再掲） 必修 7 8 単位 ＋ 選択 7 単位
		事前指導	3 通	1				○		30	
		事後指導	3 通	1				○		30	

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」、「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3 年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3 年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	6 単位	1 8 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	1 0 単位	4 単位	1 4 単位
専門科目	7 8 単位	7 単位	8 5 単位
合 計	9 7 単位	2 9 単位	1 2 6 単位

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の 126 単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は 149 単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学（再掲）	1・2・3 前後	1	30	
		生涯身体運動科学（再掲）	1・2・3 前後	1	30	
	環生 境活 と	法学（日本国憲法）（再掲）	1・2・3 前	2	30	
	理情 解群 報	情報リテラシーⅠ（再掲）	1・2・3 前	1	30	
		情報リテラシーⅡ（再掲）	1・2・3 後	1	30	
	外国 語群	英語Ⅱ（英会話）（再掲）	1・2・3 前	1	30	3 科目のうち 2 単位を 選択必修とする
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） （再掲）	1・2・3 後	1	30	
		英語Ⅵ（応用英語）（再掲）	1・2・3 後	1	30	
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育 に関する科目	食生活教育論	3 前	2	30	
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教育の基礎的理解に関する 科目	教職論	1 後	2	30	
		教育学概論	2 後	1	15	
		教育心理	2 前	2	30	
		教育制度論	2 後	1	15	
		カリキュラム論	2 前	1	15	
		特別支援教育論	3 前	1	15	
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳・総合的な学習・特別活動論	2 前	1	15	
		生徒指導論	3 前	1	15	
		教育相談	3 後	2	30	
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	4 後	2	30	
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45	
		栄養教諭教育実習	4 通	2	90	

食品衛生監視員及び食品衛生管理者

2019 年度入学生から、栄養学科の課程を修了することで食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格を取得することができる。

なお、法令に定める科目に対応する、本学の授業科目は下表のとおり。

食品衛生法施行規則別表第 14 及び第 15 に定める学科、科目名

区分	規定科目	規定科目に対応する 本学授業科目名	配当 年次	選択別		単位数
				必修	選択	
A 群 化学関係	有機化学 無機化学	化学	1・2・3・4 前		2	2
	分析化学	食品化学実験	1 後	1		1
		理化学概論	1 前		1	1
		小計		1	3	4
B 群 生物化学関係	生物化学	生化学	1 前	2		2
		栄養生化学	1 後	2		2
		生化学実験	2 前	1		1
	食品化学	食品学総論	1 前	2		2
		食品学各論	1 前	2		2
		食品学実験	1 後	1		1
	生理学	解剖生理学Ⅱ	1 後	2		2
		生理学実験	2 前	1		1
		小計		13	0	13
C 群 微生物学関係	食品微生物学	食品微生物学	3・4 後		1	1
	食品保存学	食品加工学	2 前	1		1
	食品製造学	食品加工学実習	2 後	1		1
		小計		2	1	3
D 群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2 前	1		1
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後	1		1
	食品衛生学	食品衛生学	1 後	2		2
		食品衛生学実験	2 後	1		1
	疫学	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1		1
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1		1
		小計		7	0	7
A 群から D 群の合計で 22 単位以上を履修		合計（A+B+C+D）		23	4	27

別表（栄養学科 2019 年度以降入学生用）

E群その他の関連科目	病理学	病理学Ⅰ（総論）	1 前	1		1
		病理学Ⅱ（各論）	1 前	1		1
	医学概論	疾病論	2 前	2		2
	解剖学	解剖生理学Ⅰ	1 前	2		2
		解剖学実験	1 後	1		1
	栄養化学	基礎栄養学	1 後	2		2
		基礎栄養学実習	2 前	1		1
	栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 前	2		2
		応用栄養学Ⅱ	2 後	2		2
		応用栄養学Ⅲ	3 前	2		2
	その他これらに 類する食品衛生 に関する科目	食事設計と調理	1 前	2		2
			2 前	1		1
			1 後	1		1
			1 前	1		1
		小計			21	0
A群からE群を含め40単位以上を履修		総計（A+B+C+D+E）		44	4	48

（注）

○ 上表のうち、必修科目のみで法定の必要単位数を上回るため、栄養学科の課程を修了した全ての者は、当該資格を取得することができる。（2019 年度以降の入学者に限る。）

○ 「任用資格」とは、特定の職務に従事するために必要な資格である。申請により免許を取得する栄養士及び管理栄養士と異なり、養成施設の課程を修了し、当該職務に任用されることで効力が発生する。

○ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者養成施設である他大学から本学栄養学科に転入学した者は、転入元と本学での修得単位を合算し、必要な単位を修得することで資格を取得することができる。

なお、未登録施設から転入学した場合は、食品衛生法及び同法施行規則の規定により、既修得単位を認定することはできないので、上表の資格取得に必要な授業科目は、本学で履修する必要がある。

別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は 演習	実験又は 実習			講義・ 演習	実験・ 実習
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8		解剖生理学Ⅰ	1	2	
			解剖生理学Ⅱ	1	2	
			生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	1		1
			食品学総論	1	2	
			食品化学実験	1		1
			食品衛生学	1	2	
			食品加工学	2	1	
栄養と健康	8		基礎栄養学	1	2	
			基礎栄養学実習	2		1
			応用栄養学Ⅰ	2	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	2	
			応用栄養学実習	3		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	2	
			臨床栄養学実習	2		1
栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	2	2	
			栄養教育論実習	3		1
			栄養教育手法論	3	2	
			公衆栄養学Ⅰ	2	2	
			公衆栄養学実習	3		1
給食の運営	4		食事設計と調理	1	2	
			調理実習	1		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	2	
			給食経営管理実習	3		2
			給食経営管理臨地実習	3		2
小計	36	14			37	15
合計	50				52	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容		指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数	
		講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	1 1 1
	食べ物と健康	8		食品学各論 食品学実験 食品学総論 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 2 1 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	計	28		計	29	10
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学 基礎栄養学実習	2 1	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2 2 1	
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2		事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習			臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
	計	32		計	32	12
	合計	60	22	合計	61	22

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修 3 単位	
	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30		
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2		○			30	必修 9 単位 【一般教養科目】 選択科目から選択 1 単位	
		哲学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		文学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前	2		○			30		
		生命倫理	1・2・3・4 後	2		○			30		
		宗教学	1・2・3・4 後	2		○			30		
		教育学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		人間関係論	1・2・3・4 前	2		○			30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前	2		○			30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1			○		30		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後	1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後	2		○			30		
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2		○			30		
		社会学	1・2・3・4 後	2		○			30		
		文化人類学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		経済学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		国際関係論	1・2・3・4 後	2		○			30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前	1		○			15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後	1		○			15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後	2		○			30		
		科学論	1・2・3・4 前	2		○			30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後	2		○			30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後	2		○			30		
		生物学	1・2・3・4 前後	2		○			30		
		物理学	1・2・3・4 前	2		○			30		
		化学	1・2・3・4 前	2		○			30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1			○		30		
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1			○		30		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後	1			○		30		
		情報倫理	1・2・3・4 後	1		○			15		
		実践統計学	2・3・4 前	1		○			15		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前	1			○		30		
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前	1			○		30		
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後	1			○		30		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後	1			○		30		
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 前	2		○			30		
		英語Ⅵ（応用英語）	1・2・3・4 後	1			○		30		
		英語Ⅶ（上級英語）A	2・3・4 後	1		○			15		
		英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4 後	1		○			15		

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論		1		○			15	必修 13 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1			○			15	
		心の健康		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1			○			15	
		発達心理学		1		○			15	
		臨床心理学		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	1			○			15	
		画像診断学	2・3・4 後	1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）		1		○			15	
		健康と運動		1		○			15	
		家族社会学		1		○			15	
		医療経営管理論		1		○			15	
		リスクマネジメント論		1		○			15	
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学		2		○			30	必修 27 単位
		生理学		2		○			30	
		内科学概論		1		○			15	
		高齢者医療論		1		○			15	
		口腔解剖学		2		○			30	
		口腔生理学		1		○			15	
		口腔病理学		1		○			15	
		口腔微生物学		1		○			15	
		歯科薬理学		1		○			15	
		歯科生化学・臨床検査法		1		○			15	
		口腔衛生学		2		○			30	
		歯科診断学		1		○			15	
		歯科矯正学		1		○			15	
		歯科材料学		1		○			15	
		歯科保存学		2		○			15	

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	2 前	1			○		15		
		歯科補綴学	2 前	2			○		30		
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30		
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15		
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30		
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30	必修 1 9 単位	
		歯科医療安全管理論	2 前	1			○		15		
		チーム歯科医療論	2 前	1			○		15		
		歯科疾患予防学	2 後	1			○		15		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○		30		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45		
		歯科衛生体験演習Ⅰ	1 後	1				○	30		
		歯科衛生体験演習Ⅱ	2 後	1				○	30		
		歯科診療補助演習	3 前	2				○	60		
		歯科予防処置演習	3 前	2				○	60		
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15		
		顎口腔機能リハビリテーション演習	3 前	1				○	30		
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15		
		在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15	必修 1 1 単位	
		保健行動科学論	1 後	1			○		15		
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15		
		歯科保健指導演習Ⅰ	2 後	2				○	60		
		歯科保健指導演習Ⅱ	3 前	1				○	30		
		歯科衛生統計演習	3 前	1				○	30		
		地域歯科衛生学	2 前	1			○		15		
		地域歯科衛生演習	3 前	1				○	30		
		衛生行政	2 後	1			○		15		
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15		
		歯科医療管理論	4 前		1		○		15		
		社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15		
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90	必修 2 2 単位	
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180		
		病院実習	4 後	3				○	135		
		継続・個別支援実習Ⅰ	3 後	2				○	90		
		継続・個別支援実習Ⅱ	4 前	2				○	90		
		発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）	4 前	2				○	90		
		発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）	4 前	2				○	90		
		地域歯科衛生実習	4 前	1				○	45		
		歯科診療室総合実習Ⅰ	3 後	2				○	90		
		歯科診療室総合実習Ⅱ	4 前	2				○	90		
	研究	卒業研究	3 後～4 通	2				○	60	必修 2 単位	

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	11 単位	13 単位	24 単位
保健医療基礎科目	13 単位	3 単位	16 単位
専門科目	81 単位	2 単位	83 単位
合 計	108 単位	18 単位	126 単位

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目		体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修 3 単位	
		千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30		
		専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
		社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2		○			30	必修 4 単位	一般教養科目から選択 12 単位
		哲学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		文学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○			30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○			30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		教育学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		人間関係論	1・2・3・4 前	2			○			30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前	2			○			30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○			30	必修 2 単位	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○			30		
		社会学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		経済学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○			30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○			15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○			15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○			30		
		科学論	1・2・3・4 前		2		○			30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○			30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		物理学	1・2・3・4 前	2			○			30		
	化学	1・2・3・4 前		2		○			30			
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1			○		30	必修 2 単位	
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1				○		30		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1			○		30		
		情報倫理	1・2・3・4 後	1			○			15		
		実践統計学	1・2・3・4 後		1		○			15		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1			○		30	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位	
英語Ⅱ（英会話）		1・2・3・4 前		1			○		30			
英語Ⅲ（講読・記述）		1・2・3・4 後		1			○		30			
英語Ⅳ（英語コミュニケーション）		1・2・3・4 後		1			○		30			
英語Ⅴ（保健医療英語）		1・2・3・4 前	2			○			30			
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4 後		1			○		30			
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4 後		1		○			15			
英語Ⅶ（上級英語）B		2・3・4 後		1		○			15			

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論		1		○			15	必修 10 単位 ＋ 選択 2 単位
		生化学総論		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）		1		○			15	
		心の健康		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）		1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		発達心理学		1		○			15	
		臨床心理学	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	1			○			15	
		画像診断学	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）		1		○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）		1		○			15	
		健康と運動		1		○			15	
		家族社会学		1		○			15	
		医療経営管理論		1		○			15	
		リスクマネジメント論	1			○			15	
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1				○		30	必修 25 単位 ＋ 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1				○		30	
		人体の構造実習	1					○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	1				○		30	
		人体の機能実習	2					○	45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1				○		30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2				○		30	
		運動学実習	2					○	45	
		臨床運動学	2				○		30	
		機能解剖学	1				○		30	
		人間工学		1			○		30	
		人間発達学	2				○		30	
		医学総論	1			○			15	
		内科学総論	2				○		30	
		内科学各論	2				○		30	
		神経内科学総論	2				○		30	
		神経内科学各論	2				○		30	
		整形外科総論	2				○		30	
			1							

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
		整形外科学各論	2 後	1	1		○	○		30			
		精神神経科学総論	2 前	1						○		30	
		精神神経科学各論	2 後							○		30	
		臨床薬理学	2 後	1								15	
		老年科学	3 前	1						○		30	
		小児科学	3 前	1						○		30	
		臨床医学概論	3 前	1						○		30	
		リハビリテーション医学	3 前	1						○		30	
	理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1 前	1			○	○		30	必修 2 0 単位		
		理学療法管理学	4 後	2						○		30	
		運動療法学	2 前	2						○		30	
		理学療法評価学Ⅰ	2 前	2						○		30	
		理学療法評価学演習	2 前	1								○	30
		理学療法評価学Ⅱ(神経系)	2 後	1						○		15	
		理学療法評価学Ⅲ(統合・解釈)	2 後	1								○	30
		理学療法評価学Ⅳ(画像評価)	3 後	1						○		15	
		日常生活活動学	2 前	2						○		30	
		日常生活活動学演習	2 後	1								○	30
		物理療法学	2 後	1						○		15	
		物理療法学演習	2 後	1								○	30
		義肢装具学	3 前	2						○		30	
		義肢装具学演習	3 前	1								○	30
		理学療法研究方法論	3 前	1								○	30
			専門科目	運動器障害理学療法学						運動器障害理学療法学		3 前	2
運動器障害理学療法学演習	3 後				1	○	30						
神経系障害理学療法学	3 前				2	○	30						
神経系障害理学療法学演習	3 後				1		○	30					
内部障害理学療法学	3 前				2	○	30						
内部障害理学療法学演習	3 後				1		○	30					
老年期障害理学療法学	3 前				2	○	30						
老年期障害理学療法学演習	3 後				1		○	30					
発達障害理学療法学	3 前				2	○	30						
理学療法専門科目	発達障害理学療法学演習			3 後	1	1	○	○		30			
	発達障害理学療法学特論			3 後						○	15		
	地域理学療法学			3 前	2					○	30		
	地域理学療法学演習			3 後	1						○	30	
	理学療法技術論			4 後	1						○	30	
	生体機能計測学			3 前						1	○	30	
	理学療法応用評価学			3 後	1						○	30	
	理学療法学特論Ⅰ(運動器・老年期)			3 後						1	○	30	
	理学療法学特論Ⅱ(神経系・内部・地域)			3 後						1	○	30	
発展領域論(がん・予防・臨床研究解析法)	4 後	2		○	30								

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	臨床実習	臨床体験実習	1 後	1				○	45	必修 20 単位
		評価実習	3 後	4				○	180	
		総合実習Ⅰ	4 前	7				○	315	
		総合実習Ⅱ	4 前	7				○	315	
		地域理学療法学実習	4 後	1				○	45	
	研究	卒業研究	4 通	2				○	60	必修 2 単位

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択 2 単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 2 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1 年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3 学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」、「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3 学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3 年次に進級できない。

- 1 1・2 年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2 年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	10 単位	14 単位	24 単位
保健医療基礎科目	10 単位	2 単位	12 単位
専門科目	89 単位	2 単位	91 単位
合 計	112 単位	18 単位	130 単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目		体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修 3 単位	
		千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30		
		専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30		
		社会実習（ボランティア活動）	2・3・4		1			○		45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2			○			30	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位 (※4)	【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位
		哲学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		文学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○			30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○			30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		教育学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○			30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○			30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○			30	必修 2 単位	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○			30		
		社会学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		経済学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○			30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○			15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○			15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○			30		
		科学論	1・2・3・4 前		2		○			30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○			30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		物理学	1・2・3・4 前	2			○			30		
		化学	1・2・3・4 前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	1 後	1				○		30	必修 2 単位	
		情報リテラシーⅠ	1 前	1				○		30		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1			○		30		
		情報倫理	1・2・3・4 後		1		○			15		
		実践統計学	2・3・4 後		1		○			15		
	外国語群	英語Ⅰ(講読)	1・2・3・4 前		1			○		30	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位	
		英語Ⅱ(英会話)	1・2・3・4 前		1			○		30		
		英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○		30		
		英語Ⅳ(英語コミュニケーション)	1・2・3・4 後		1			○		30		
		英語Ⅴ(保健医療英語)	2 前	2			○			30		
		英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4 後		1			○		30		
		英語Ⅶ(上級英語)A	2・3・4 後		1		○			15		
		英語Ⅶ(上級英語)B	2・3・4 後		1		○			15		

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論		1		○			15	必修 9 単位 + 選択 1 単位
		生化学総論		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）		1		○			15	
		心の健康		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）		1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）		1		○			15	
		発達心理学		1		○			15	
		臨床心理学	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	1			○			15	
		画像診断学	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）		1		○			15	
		健康と運動		1		○			15	
		家族社会学		1		○			15	
		医療経営管理論		1		○			15	
		リスクマネジメント論		1		○			15	
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1				○		30	必修 26 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1				○		30	
		人体の構造実習	1					○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性機能）	1				○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性機能）	1				○		30	
		人体の機能実習	2					○	45	
		体表解剖学	1			○			15	
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1				○		30	
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2				○		30	
		作業運動学演習	2				○		30	
		作業運動学実習	2					○	45	
		作業分析学	2		1	○			15	
		人間工学	2		1		○		30	
		人間発達学	2		1		○		30	
		医学総論	1			○			15	
		内科学総論	2				○		30	
		内科学各論	2				○		30	
		神経内科学総論	2				○		30	
		神経内科学各論	2				○		30	

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学総論	2 前	1				○		30	
	整形外科学各論	2 後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2 前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2 後	1				○		30	
	臨床薬理学	2 後	1			○			15	
	老年科学	3 前	1				○		30	
	小児科学	3 前	1				○		30	
	臨床医学概論	3 前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3 前	1				○		30	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1 前	1			○		30	必修 6 単位 + 選択 2 単位
	基礎作業療法学	作業療法管理学	3 後	2		○			30	
	基礎作業療法学	作業療法基礎理論	2 前	1			○		30	
	基礎作業療法学	作業療法研究法	3 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	基礎作業学・演習	1 前	1			○		30	
	基礎作業療法学	基礎作業学実習	1 後	1				○	45	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール A	2 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール B	2 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール C	2 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール D	2 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール E	2 前	1		○			15	
	基礎作業療法学	作業療法ゼミナール F	2 前	1		○			15	
	実践作業療法学	作業療法評価学総論	1 後	1		○			15	必修 29 単位
	実践作業療法学	身体作業療法評価学	2 前	1		○			15	
	実践作業療法学	身体作業療法評価学実習	2 通	1				○	45	
	実践作業療法学	身体作業療法学Ⅰ	2 後	2		○			30	
	実践作業療法学	身体作業療法学Ⅱ	2 後	2		○			30	
	実践作業療法学	身体作業療法学演習	3 前	1			○		30	
	実践作業療法学	精神作業療法評価学	2 前	1		○			15	
	実践作業療法学	精神作業療法評価学実習	2 通	1				○	45	
	実践作業療法学	精神作業療法学	2 後	2		○			30	
	実践作業療法学	精神作業療法学演習	3 前	1			○		30	
	実践作業療法学	発達期作業療法学	2 後	1		○			15	
	実践作業療法学	発達期作業療法学演習	3 前	1			○		30	
	実践作業療法学	老年期作業療法学	2 後	1		○			15	
	実践作業療法学	老年期作業療法学演習	3 前	1			○		30	
	実践作業療法学	高次神経機能作業療法学	2 後	2		○			30	
	実践作業療法学	日常生活活動学	2 後	1		○			15	
	実践作業療法学	日常生活活動学演習	3 前	1			○		30	
	実践作業療法学	義肢装具学	3 前	2		○			30	
	実践作業療法学	福祉機器論	3 後	2		○			30	
	実践作業療法学	地域社会参加支援学	3 前	1		○			15	
	実践作業療法学	地域社会参加支援学演習	3 後	1			○		30	
	実践作業療法学	地域作業療法学	3 前	2		○			30	
	実践作業療法学	作業療法総合演習	4 通	1			○		30	
	実践作業療法学	作業療法学特論 A	4 通	1		○			15	

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019 年度以降入学生用）

		作業療法学特論 B	4 通		1		○			15	
		作業療法学特論 C	4 通		1		○			15	
		作業療法学特論 D	4 通		1		○			15	
		作業療法学特論 E	4 通		1		○			15	
		作業療法学特論 F	4 通		1		○			15	
	臨床実習	臨床体験実習	1 通	1					○	45	必修 28 単位
		評価実習 I	3 通	4					○	180	
		評価実習 II	3 通	4					○	180	
		総合実習 I	3 後	8					○	360	
		総合実習 II	4 前	8					○	360	
		地域作業療法学実習	4 後	3					○	135	
	研究	卒業研究	4 通	1				○		30	必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか 1 つは必ず選択して履修する。

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3 単位	0 単位	3 単位
一般教養科目	8 単位	1 6 単位	2 4 単位
保健医療基礎科目	9 単位	1 単位	1 0 単位
専門科目	9 0 単位	3 単位	9 3 単位
合 計	1 1 0 単位	2 0 単位	1 3 0 単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目		千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修 3 単位	
		体験ゼミナール	1 前	1				○	45			
		専門職間の連携活動論	4 後	1				○	30			
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2			○			30	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位 (※4)	
		哲学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		文学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○			30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○			30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		教育学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○			30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○			30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
		生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○		30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○			30	必修 2 単位	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2		○			30		
		社会学	1・2・3・4 後		2		○			30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		経済学	1・2・3・4 前		2		○			30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○			30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○			15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○			15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○			30		
		科学論	1・2・3・4 前		2		○			30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○			30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○			30		
		物理学	1・2・3・4 前	2			○			30		
		化学	1・2・3・4 前		2		○			30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1				○		30	必修 2 単位	
		情報リテラシーⅠ	1 前	1				○		30		
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1			○		30		
		情報倫理	1・2・3・4 後		1		○			15		
	外国語群	英語Ⅰ（基礎講読）	1・2・3・4 前		1			○		30	必修 2 単位 ＋ 選択 2 単位	
		英語Ⅱ（基礎英会話）	1・2・3・4 前		1			○		30		
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後		1			○		30		
		英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4 後		1			○		30		
		英語Ⅴ(保健医療英語)	2 前	2			○			30		
		英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4 後		1			○		30		

【一般教養科目】選択科目から選択
1 2 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前	1		○			15	必修 6 単位 + 選択 1 単位
		生化学総論	1 前	1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1 後	1		○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1 後	1		○			15	
		心の健康	1 後	1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1 後	1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1 後	1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1 前	1		○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1 前	1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1 前	1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1 前	1		○			15	
		発達心理学	1 前	1		○			15	
		臨床心理学	1 後	1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前	1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2 前	1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2 後	1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3 前	1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3 前	1		○			15	
		リハビリテーション概論	1 後	1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2 後	1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2 後	1		○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3 前	1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3 前	1		○			15	
		健康と運動	1 後	1		○			15	
		家族社会学	1 前	1		○			15	
		医療経営管理論	4 後	1		○			15	
		リスクマネジメント論	2 後	1		○			15	
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1 前	1			○		30	必修 2 4 単位 + 選択 1 単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1 後	1			○		30	
		人体の構造実習	1 後	1				○	45	
		機能解剖学	1 後	1			○		30	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1 前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1 後	1			○		30	
		人体の機能実習	2 前	1				○	45	
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1 後	1			○		30	
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2 前	1			○		30	
		作業運動学実習	2 後	1				○	45	
		作業運動分析学	2 前	1		○			15	
		臨床運動学	2 前	1			○		30	
		人間工学	2 後	1			○		30	
		人間発達学	2 前	1			○		30	
		医学総論	1 後	1		○			15	
		内科学総論	2 前	1			○		30	
		内科学各論	2 後	1			○		30	
		神経内科学総論	2 前	1			○		30	
		神経内科学各論	2 後	1			○		30	

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	専門基礎科目	整形外科学総論	2 前	1			○		30	
		整形外科学各論	2 後	1			○		30	
		精神神経科学総論	2 前	1			○		30	
		精神神経科学各論	2 後	1			○		30	
		老年科学	3 前	1			○		30	
		小児科学	3 前	1			○		30	
		臨床医学概論	3 前	1			○		30	
		リハビリテーション医学	3 前	1			○		30	
	基礎作業療法学	作業療法概論	1 前	2		○			30	必修 7 単位 + 選択 1 単位
		作業療法管理学	3 後	1		○			15	
		作業療法基礎理論	2 前	1			○		30	
		作業療法研究法	3 後	1		○			15	
		基礎作業学・演習	1 前	1			○		30	
		基礎作業学実習	1 後	1				○	45	
		作業療法評価学概論	1 後	1		○			15	
		地域作業療法学概論	3 前	1		○			15	
	実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ（神経・心肺機能系）	2 前	2		○			30	必修 3 2 単位
		作業療法治療学Ⅰ（神経・心肺機能系）	2 後	2		○			30	
		作業療法学Ⅰ演習（神経・心肺機能系）	3 前	1			○		30	
		作業療法評価学Ⅱ（廃用・運動機能系）	2 前	2		○			30	
		作業療法治療学Ⅱ（廃用・運動機能系）	2 後	2		○			30	
		作業療法学Ⅱ演習（廃用・運動機能系）	3 前	1			○		30	
		作業療法評価学Ⅲ（精神・心理機能系）	2 前	2		○			30	
		作業療法治療学Ⅲ（精神・心理機能系）	2 後	2		○			30	
		作業療法学Ⅲ演習（精神・心理機能系）	3 前	1			○		30	
		作業療法評価学Ⅳ（認知・知能機能系）	2 前	2		○			30	
		作業療法治療学Ⅳ（認知・知能機能系）	2 後	2		○			30	
		作業療法学Ⅳ演習（認知・知能機能系）	3 前	1			○		30	
		日常生活活動技術学	3 前	2		○			30	
		日常生活活動技術学演習	3 後	1			○		30	
		日常生活活動援助学	3 前	2		○			30	
		日常生活活動援助学演習	3 後	1			○		30	
		社会的適応支援評価学	2 後	2		○			30	
		社会的適応支援学	3 前	2		○			30	
		社会的適応支援学演習	3 後	1			○		30	
		作業療法セミナー	3 前～4 前	1			○		30	
	臨床実習	臨床体験実習	1 通	1				○	45	必修 2 7 単位
		評価実習Ⅰ	3 通	3				○	135	
		評価実習Ⅱ	3 通	3				○	135	
		総合実習Ⅰ	4 通	8				○	360	
		総合実習Ⅱ	4 通	8				○	360	
		地域作業療法学実習	4 通	3				○	135	
	研究	卒業研究	4 通	1			○		30	

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合 計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

資料 2 非常勤講師一覧

令和6年度非常勤講師一覧

氏名	科目
高橋 良博	心理学
大澤 真生	哲学
柴 佳世乃	文学
小関 悠一郎	歴史と文化
小館 貴幸	生命倫理①
小館 貴幸	生命倫理②
藤井 修平	宗教学
常山 吾朗	人間関係論
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
上野 義雪	生活とデザイン
古屋 等	法学（日本国憲法）
島村 賢一	社会学
島村 賢一	人権・ジェンダー
中畑 充弘	文化人類学
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
佐藤 真生子	社会福祉学
小倉 常明	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）
牧 純	国際的な健康課題
大西 仁	科学論
大嵐 竜午	物理学①
大嵐 竜午	物理学②
満田 深雪	化学
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ（基礎英会話）①
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ（基礎英会話）②
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ（基礎英会話）③
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ（基礎英会話）④
クラーク ジェイソン	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）③
クラーク ジェイソン	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）④
クラーク ジェイソン	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）⑤
稲垣 三恵子	英語Ⅰ（講読）
稲垣 三恵子	英語Ⅲ（講読・記述）①
稲垣 三恵子	英語Ⅲ（講読・記述）②
稲垣 三恵子	英語Ⅲ（講読・記述）③
稲垣 三恵子	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）①
稲垣 三恵子	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）②
稲垣 三恵子	英語Ⅴ（保健医療英語）
橋本 弘史	薬理学Ⅰ（総論）
橋本 弘史	薬理学Ⅱ（各論）
安西 尚彦	薬理学Ⅰ（総論）
安西 尚彦	薬理学Ⅱ（各論）
平山 友里	薬理学Ⅰ（総論）
平山 友里	薬理学Ⅱ（各論）
入鹿山 容子	薬理学Ⅰ（総論）
並木 香奈	薬理学Ⅰ（総論）
並木 香奈	薬理学Ⅱ（各論）
北村 里衣	薬理学Ⅱ（各論）
高屋 明子	薬理学Ⅱ（各論）
石毛 久美子	薬理学Ⅱ（各論）

令和6年度非常勤講師一覧

氏名	科目
石毛 久美子	歯科薬理学
福井 謙二	病理学Ⅰ（総論）
福井 謙二	病理学Ⅱ（各論）
清水 健	微生物学Ⅰ（総論）
清水 健	微生物学Ⅱ（各論）
高梨 一彦	発達心理学
谷口 清	臨床心理学
渡辺 満利子	健康論
中込 敦士	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
中込 敦士	公衆衛生学Ⅱ（応用）
田村 元樹	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
田村 元樹	公衆衛生学Ⅱ（応用）
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅱ（応用）
近藤 克則	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
井手 一茂	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
井手 一茂	公衆衛生学Ⅱ（応用）
小林 周平	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
飯塚 玄明	公衆衛生学Ⅱ（応用）
竹内 寛貴	公衆衛生学Ⅱ（応用）
中込 灯	公衆衛生学Ⅰ（基礎）
武藤 剛	公衆衛生学Ⅱ（応用）
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅱ（応用）
田口 円裕	保健医療福祉論Ⅱ（応用）
高尾 公矢	家族社会学
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
高橋 静子	リスクマネジメント論
三島 敬	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
成田 都	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
田中 教久	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
羽生 裕二	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
渡邊 倫子	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
小林 正芳	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
佐塚 智和	病態学Ⅱ（外科系疾病論）
高橋 由美子	病態学Ⅲ（高齢者・精神疾患論）
小黒 道子	国際看護論
田中 由美子	国際看護論
五十嵐 ゆかり	国際看護論
畠山 とも子	家族看護論
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
藤谷 朝実	国際栄養学
斎藤 遼太郎	特別支援教育論
井上 裕光	教育の方法と技術
寺田 佳孝	道徳・総合的な時間・特別活動論
田崎 雅和	生理学
田崎 雅和	口腔生理学

令和6年度非常勤講師一覧

氏名	科目
阿部 伸一	口腔解剖学
廣内 英智	口腔解剖学
石原 和幸	口腔微生物学
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
国分 栄仁	口腔微生物学
菊池 有一郎	口腔微生物学
米澤 英雄	口腔微生物学
三枝 禎	歯科薬理学
平塚 浩一	歯科生化学・臨床検査法
根岸 慎一	歯科矯正学
塚田 美智子	歯科矯正学
山口 秀紀	顎口腔外科学
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション演習
地主 知世	顎口腔機能リハビリテーション論
麻賀 多美代	発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）
山口 朱見	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
望月 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
星野 伸明	保健行動科学論
相川 敬子	歯科医療管理論
木暮 麻優	歯科医療管理論
上條 英之	社会保障・社会保険論
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ（動物性機能）
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ（植物性機能）
遠藤 隆志	人体の機能実習
下村 義弘	人間工学
高原 良	人間工学
竹内 弥彦	人間工学
竹内 弥彦	作業運動学演習
三浦 伸義	精神神経科学総論
杉澤 淳子	精神神経科学各論
鐘井 有希	精神神経科学各論
高柳 正樹	小児科学
村永 信吾	理学療法管理学
松田 徹	理学療法管理学
高橋 慎也	義肢装具学
土屋 淳	義肢装具学演習
石川 修平	神経系障害理学療法学
磯田 一将	理学療法学特論Ⅰ
松田 智行	老年期障害理学療法学演習
田舎中 真由美	発達障害理学療法学特論
加藤 太郎	地域理学療法学
瀬宮 卓	地域理学療法学演習
宮本 礼子	作業療法基礎理論
佐藤 大介	作業療法評価学総論
佐藤 大介	精神作業療法学
佐藤 大介	精神作業療法博演習
佐藤 大介	日常生活活動学演習
高浜 功丞	身体作業療法学Ⅱ
保田 由美子	身体作業療法学Ⅱ

令和6年度非常勤講師一覧

氏名	科目
保田 由美子	身体作業療法学演習
大瀬 律子	身体作業療法学Ⅱ
奥山 絵美	身体作業療法学Ⅱ
熊谷 将志	身体作業療法学演習
植田 修二郎	身体作業療法学演習
米持 喬	発達期作業療法学演習
坂田 祥子	日常生活活動学演習
吉野 智佳子	義肢装具学
吉野 智佳子	人間工学
酒井 ひとみ	地域社会参加支援学
関 美行	地域社会参加支援学
松本 直之	地域社会参加支援学
斎藤 梨菜	地域社会参加支援学演習
大熊 明	地域作業療法学

自己点検・評価委員会	教育研究年報作成部会
部 会 長	稲垣 武 (リハビリテーション学科・理学療法学専攻)
部 会 員	富樫 恵美子 (看護学科)
	坂本 明子 (看護学科)
	鈴木 亜夕帆 (栄養学科)
	松木 千紗 (歯科衛生学科)
	松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)
事 務 局	土屋 智和



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel : 043-296-2000 / Fax : 043-272-1716